横濱市區劃整理關係職員

土木局長　正五勳六　藤宮惟一　整地課長　從六位　梧葛
庶務係長　事從六勳六　岡田九之助　移轉係長　技師從七勳六　早水旭
用地係長主　志賀眞一　囑託
術係長技師　青木一郎　第三班主任技　正五勳八　吉野勝技
第一班主任技　手　第十地區主任技　手勳七功七　北川次郎
第六地區主任技　手勳　七白石貫一　第七地區主任技　手　宮代源作
第三班主任技　手　絳須留三郎　第九地區主任技　手　豐泉正藏
第八地區主任技　手　本村利生　第三地區主任技　手　川久保清助
第二地區主任技

第一地區　東京市施行

大正十三年六月七日東京土地區劃整理委員並ニ同補闕員ノ選擧ヲ行ヒタリ

土地區劃整理委員

十二番　議長　垣見八郎右衛門(地)　七番　副議長　中山利平(權)
一番　田中武兵衛(地)　二番　江間留吉(權)
三番　竹村重兵衛(地)　四番　六崎賢明(權)
五番　横田藤三郎(權)　六番　前田德次郎(地)
八番　仁木正之助(地)　九番　三善小兵衛(地)
十番　野口新兵衛(地)　十一番　高羽惣兵衛(地)
十三番　若松太吉(地)　十四番　荻巢慶次郎(權)
十五番　牧野泉(地)　十六番　星野郁太郎(權)
十七番　廣橋嘉七郎(權)　十八番　永井玄暢(權)
十九番　岡本嗣治(權)　二十番　田中竹次郎(權)

委員ノ移動シタルモノ

八番　仁木傳吉　死亡シタルニヨリ仁木正之助補充ス

土地區劃整理委員補闕委員

土地所有者
鶴田勝五郎　吉川慶市　植村悛平　岡田雄吉　中條利吉
磯部太郎兵衛　左右田喜一郎　磯部龜吉
借地權者
三好鑄藏　北島力藏　仁科富太郎　岡田爲吉　橋本龍吉
石川巳之助　吉田彦四郎　辻本佐兵衛　松本政次郎　太田音吉

地區々域

麹町區　富士見町一丁目ノ一部　三番町ノ一部　上六番町　上二番町ノ一部　下二番町ノ一部　一番町ノ一部　五番町ノ一部　元園町一丁目　元園町二丁目ノ一部　麹町一丁目　二丁目　三丁目　四丁目
麹町五丁目ノ一部　山元町一丁目　同二丁目　平河町一丁目　二丁目　三丁目　四丁目　平河町五丁目ノ一部　隼町ノ一部　元平河町

整理前後宅地道路面積比較表

總面積	整理前 宅地	整理前 公共用地	整理後 宅地	整理後 公共用地	減歩率
一七五、八七六	一五〇、二六〇	二五、六一六	一二、九七二	三六、一六二	〇、〇七〇

委員會經過ノ概要

一大正十三年七月二十四日　第一回委員會開會、議長副議長ノ選擧ヲ行ヒ、委員ノ席次ヲ抽籤ニヨリテ定メ、議事規則議定ノ件ハ審議ノ結果原案通リ可決ス

一同年十二月十五日　第一號整理前土地面積決定期日ニ關スル件、第二號換地位置並ニ區劃整理街路ニ關スル件、第三號整理前路線價指數ニ關スル件ノ諮問案提出アリ何レモ審議ノ結果、第一號案ハ原案通リ可決ス（豪幾面積ハ二月二十日出願期日二月十日迄）

一同年十二月十八日　第二號案ニ付キ審議シタリ

一大正十四年一月二十七日　第二號案ニ付キ開會直チニ委員協議會ト爲シ之レヲ協議ス

一同年二月二日　第二號案ニ付キ開會直チニ審議ニ入リ、麹町以南元園町一丁目、二丁目、麹町五丁目ノ線路ニ就キ一部修正ノ上決定可決シタリ

一同年二月三日　第二號案ニ付キ審議シ、富士見町一丁目ノ路線ヲ一部修正決定シ、平河町五丁目路線ハ原案通リ決定何レモ可決シ、三番町上六番町トノ中間ヲ通ス路線ハ調査委員ヲ設ケ調査スルコトニ決定ス

一同年二月七日　第二號案ヲ審議シタルノミニテ閉會

一同年二月二十三日　第二號案ニ付キ開會直チニ協議會トス、第二號案ノ內換地位置ハ調査委員ヲ設置シ三部ニ分チ委員ヲ任命ス、更ニ本建築出願ノ件提出アリ承認可決ス

一同年三月六日　第二號案ヲ審議シ、換地豫定地內本建築申請者ニ對スル承認ノ件ノ諮問案提出アリ、之ヲ審議シテ承認可決ス

一同年三月十一日　第二號案ノ內路線修正見決定ニ關スル件、本建築承認ニ關スル件ノ提出アリ、審議ノ結果二七不動通路線ハ整理豫定原案ニ對シ上六番町一番地五號南ヘ三尺ノ地ヲ起點トシ、同町三十六番地二號、三七、三八、四〇番地ヲ終點トスル直線ヲ基礎トスルコトニ修正ス、修正ニ伴フ換地位置ハ整理施行者ニ一任スルコト、之レニテ路面問題全部完了ス、換地豫定地內本建築出願ノ件ハ之レヲ承認可決ス

一同年三月十六日　第二號案ヲ審議シ、換地豫定地內本建築出願ノ件ハ承認可決ス

一同年三月三十日　第二號案ヲ審議シ、換地豫定地內本建築出願ノ件ハ承認可決ス

一同年四月十日　第二號案ヲ審議シ、本建築出願ノ件ハ承認可決シ、上六尋常小學校位置ニ關スル諮問案ニ對シテハ次回ニ於テ之レヲ決定スルコトニ決議ス

一同年四月二十一日　第三號案ヲ審議シ、本建築承認ニ關スル件、上六小學校換地位置ニ關スル件ノ諮問ニ對シ本建築出願ノ件ヲ承認シ、上六小學校位置ハ次回局長ノ出席ノ上決定スルコトニ決定ス

一同年五月一日　第二號案ヲ審議シ富士見町一丁目ノ換地位置ヲ除キ他ノ部分ハ多少修正ヲ加ヘ大體原案承認ニ

決ス、上六小學校換地位置モ原案通リ決定可決何レモス

一同年五月五日　第三號整理前路線價指數ニ關スル件ノ諮問案提出アリ之レヲ審議ス

一同年五月十八日　第三號案ニ付キ審議シ、富士見町二二番地ヨリ三番町五〇番地迄ヲ九七五、麹町通リ三丁目二番地ヨリ同五丁目十一番地迄ヲ一、〇〇〇ト決定ス、上六小學校南側街路中三メートルヲ四メートルニ修正可決ス

一同年五月二十五日　第二號案ノ中保留シアリタル富士見町一丁目ノ換地位置ヲ可決ス、第三號案ヲ委員ニ附託シ調査ノコトニ決定ス

一同年六月五日　第三號案ヲ審議シ、先ヅ坪當リ指數ヲ定メ、次デ路線價指數ヲ定ムルコトニ決定ス

一同年七月七日　第四號換地面積決定ニ關スル件ノ諮問案提出アリ之レヲ審議ス

一同年九月二十八日　第四號案ヲ審議ス、外ニ第五號整理後路線價指數ニ關スル件、第六號整理前各筆坪當リ平均指數ニ關スル件、第七號整理後各筆坪當リ平均指數ニ關スル件ノ諮問案提出アリ之レヲ審議シ、同日第四號案ヲ可決ス

一同年十月五日　第五號案、第六號案、第七號案何レモ審議シタル上委員附託トス

一大正十五年二月四日　換地面積修正ノ件ニ付面積中誤謬發見ニ付キ訂正ノ決議ヲ爲ス

一同年五月五日　路線變更ニ關スル件ニ付テ富士見町一丁目路線ヲ測量ノ結果擴張ニ變更スルコトヲ可決ス

一同年六月二十五日　換地位置並ニ路線變更ニ關スル件ニ付キ、全地區全體ニワタリ變更個所ヲ審議シ、一ケ所ヲ殘シ他ハ決定可決ス

第一地區委員（議長）

垣見八郎右衛門君

出生地　滋賀縣
生年月　明治十八年八月十四日
現住所　麹町區麹町六丁目七番地
職業會社重役

聰明の天資に實地體驗の歸結を加へ、中正公明なる見解を持して立論堂々、客觀の權威に屈せず斷々乎として所信を遂行し、硬直不屈の鬪士として令名東都逐鹿界に噴々たるを我が垣見八郎右衛門君とす。

垣見本家は鎌倉の勇士、鎌倉權五郎の末流にして遠祖實に六百年を算する名門たり。歷代傑士多く、殊に八代目垣見久右衛門重氏及びその實弟垣見和泉守は關ヶ原合戰の際、手兵を率ゐ豐臣氏に從ひて奮戰し遂に大坂城に討死したる勇武の人として名聲高く、その子孫は現に江州長濱在に居して權勢宇内たるものあり。東京に於ける垣見家の始祖は前場本家八代目の曾孫にして幼名を貞次郎と呼び、後、江戸に出でゝ垣見八郎右衛門と改名したるにその源を發す。開來代々八郎右衛門を襲名、現地に居して既に三百年の久しきに及ぶ。君は垣見家の親族たる江州横山家に生を享け明治四十四年上京、同時八郎右衛門を襲名相續して以て今日に至る。

資性英邁にして經綸の才に富み、意を時流に致して識見卓拔、明確なる頭腦と精悍不屈なる氣魄の致す所、志して極めざるはなく理論自ら透徹、颯爽たる英姿の中勁烈なる意氣を被し、所信の貫徹に邁進する熱情の人として夙にその驍名を稱さる。

入りては老舗の面目を高揚せんとして酒類卸小賣業者會社和泉屋商店代表社員として家業の隆昌に努め、麹町銀行相談役としては社業の進展に遇し、出でゝは大小無數の公務を秩序して東奔西走寧日なき無聞を續く。殊望四隣を壓するものあり蓋し偶然に非るなり。試みにその間與する公、名譽職名を摘記せんか、曾ては東京市會議員たること八ケ年、麹町區會議員十二ケ年、所得調査委員八ケ年、東京市教育院常設委員長二ケ年、東京都市計畫地方委員六ケ年、東京市都市計畫常務委員二ケ年の久しきに及び、又東京市決算委員長、東京市復興委員、中央卸賣市場調査委員たりき。

尙、信地信家調停委員、內務省內地方道路改良會評議員、財團法人麹町公民會副會長、麹町區青年團長、麹町區教育會監事、麹町區組合長、東京酒類小賣仲買商組合取締役、東京酒類仲買商信用組合理事に推擧せられて一意專心同業者の福利增進の爲めに竭して深くその功績を稱へらる。

今次帝都復興に際し區劃整理事業遂行の擧あるや衆望を負ひて委員となり、更に第一地區委員會議長に推擧されて極務を司掌し、至平至公、よく官民の間を斡旋して治績顯著なり。赤誠鄭ふべく官民の等しく感激する所たり。

賢貞の譽高き令閨ふみ子との間に三男一女あり。長男貴一郎君、次男向二郎君は共に學習院中等科に、三男泰三郎君は同院初等科に、長女百合子嬢は見業高等女學校に學ぶ。

第一地區委員（副議長）

中山利平君

出生地　三重縣
生年月　明治八年十月三十日
現住所　麹町區上六番町四十二番地
職業會社重役

三重縣志摩郡鳥羽の町は、志摩半島の南端に位する良港にして、風光の美を以て其名最も顯著なり。萬里の波濤を凌いで來航する水夫の眼に、其明媚なる風光は朝に生涯の甲斐あるを知らしむべく、遠洋に漁つて歸れる漁夫の、最も大なる慰安なるべし。また、自然の力に感化せらるゝ人の心に、優雅純美の性を植うべく、這は風光の美しき地が古來幾多の偉人を生めるに見ても實證せらるゝものなり。

我が中山利平君は明治八年十月三十日、此地中山宗兵衛氏三男を以て呱々の聲を揚ぐ。若くして大志を抱き、決然久戀の郷を去つて東京に出で、明治大學法科に學ぶ。螢雪の功空しからず優績を以て同校を卒ふるや直ちに渡臺して臺灣製糖株式會社に入る。後、拔擢されて庶務及用度掛長となり、敏腕を揮ひて大いにその將來を囑望せられしも、思ふ所あり、大正二年驍を辭して單獨紡織機附帶品製造業ヌビス商會を興し更に之を株式會社とし其專務取締役として活躍せり。

人にして社會恩を忘れ之に倒ゆるを知らざるものは權勢を得、金力を得るとも常も尊敬に値せず、寧ろ社會に依つて己あるを知らざるを度なきなり。往々にして、自主自立、以て自らを開拓し來れるもの、其力を俟ち能りに社會の恩を輕視するの傾きあり。君は自ら今日の位地を爲せるにも拘らず、克く公共の爲に傾倒して名望極めて厚し。故に擁立せられて麹町區會議員となり、區自治の爲に傾倒する事極めて多大にして、また上六町會幹部たり、銳意町の和親の爲に盡して信望頗る厚きものあり。

今次、帝都復興の大業興るや、第一地區より選ばれて土地區劃整理委員となり、更に副議長の重任に推されて帝都百年の計を爲す。施設する所公平妥當、推服せらるゝ事深甚なり。

性、直言直行にして、高邁、不過の霸氣をその眉間に漂はし風格極めて堂々たり。趣味として謠曲を選び皆生涯に卷じてその堂奥を極む。時に詞玄古雅の曲を奏してその心懷を盡む、高風欽仰すべし。

家庭には夫人榮子との間に一男二女を擧げ、嗣子は早稻田大學に學び、二令嬢は女子學院在學中の才媛なり。家庭和氣に滿ち羨望すべき良家庭を營む。

第一地區委員

田中武兵衛君

出生地　東　京　市
生年月　明治十年一月十一日
現住所　麹町區平河町五丁目十番地
職業　會社重役

『富貴の中に生れて唯慾火の如く、權威烈焔に似る。若し此かも清冷の氣を帶ぶるたくんば人を燒く前に却つて失づ自らを燥くべし』とは榮根譚に說く處である。また曰く『貴きに居て驕らざれば恒久なるを得る』と。

我が田中武兵衛君は、名家千金の子に生れ乍ら、身を待する事共だ謙虛、而も家郎をして安々肚んならしめた手腕の人である。

家祖は伊勢松坂の人、君に至つて六代の久しきを現地に居住し、墨代武兵衛を襲名する積德の名門、君は先考の長子、幼名を正之助と呼び、大庫氷成君の經營に係る商業素修學校に入る。學を卒ふるや直ちに祖君の創立經營する處の田中興業銀行に入り、大正七年、祖君の逝去に伏つて家督を相續し、同時に銀行事務に專念して快腕を揮ひ、大正十年住友銀行と合併するに及んで同行を閉づ。現、東京金網株式會社創立以來の取締役社長にして、また帝國練瓦株式會社監査役たり。質實克明の努力を傾倒して卓腕を稱され傳面嘉言篤行、俊敏英邁の典型的紳士として實業界に鋒々たる盛名を謳はる。

君は其業務多端の爲め、公職に携はる迚を有しない。加之其性格、宗名を擯するを好まざるが故に、表面に立たされ共その擁する巨大なる富と、定評ある業拔の手腕とは深く世人の信賴を宣ひ、帷幄の中に應術して重望頗る厚きものあり、幾多の公名職は常に之を後進に譲りて曾如たる君が今次の區劃整理委員にのみ多忙の中を拙して立ちたるは、帝都百年の計とまた同地區に於ける最も重大な地位に在るが爲め、自他に影響する處大なるものあるに因由するものにして多大の犧牲を拂ひつゝ首都再建の爲め至乎至心官民の間を奔旋されつゝあるは官民の等しく感激する所たり。

趣味として最も讀書を好みて、常にその心懷を練る。また謠曲を好みて親世流に參じ、興あれば幽玄の曲に因日月を遊ぶの風懷を有す。

家庭は愛子夫人不幸にして夭逝し、遺子なく、實弟治之助君（東大經濟科出身）を養嗣子として友愛の情頗る藹かなるものがある。

第一地區委員

江間留吉君

出生地　東　京　府
生年月　明治十六年二月十五日
現住所　麹町區平河町一丁目二番地
職業　西洋洗濯業

君は府下荏原郡玉川村の舊家菅田家に生る。幼にして頴悟、俊敏鬼才を以て一郷に謳はれ、深くその將來を嘱目せらる。その二十一歳の時、陸軍工兵中佐、横須賀砲臺建築監督官として陸軍部内に令名を謳はれし江間經壽氏に望まれて江間家に入りその姓を名乘る。二十二歳の時、大志を抱いて上京——（その郷關を辭せんとするや郷黨深くこを惜しみ音樂隊を奏して見送りたりと、以てその才幹を察すべし）——明治四十年現業を獨立開業し て斯業努力、怠ちにして繁盛を致し、大擴張して以て今日に及ぶ。着實低廉なる營業振りを以て終始し、各宮家鐵道省その他大會社の御用を命ぜられ、その屋號㊇の名は斯界の權威者として重きをなす。資性俊敏、不屈精悍の氣宇眉間に溢れ、風貌の樸ある言辭は秋霜烈日の感あり。神道の研究十ヶ年の久しきに及びてその奥義を極め、皇室中心を主義として道義に厚く、而も國を憂ふるの點に至りては烈々として熱情燃ゆるが如きものあり。又仁俠の氣象に富み、常に公共方面に努力して功績あり。由來君は徹底主義の人にして深く一人一職を標榜して幾多の公職に出馬を乞はれども固辭して受けざれ共密に貢獻する所頗る大にして洞察宜因たるものあるが如きは挙直熱誠なる君が資性を卜する好箇の事例と云ふべし。

今次區劃整理委員として推選られたるも、借地人側よりの懇望によれるものと聞く。凡ての事業多くが資本家の爲めの盤ある現代に於て君の如き卓拔無比の手腕家を借地人側より出だせる事は、一面頗る深遠なる意義を有するものにして、若人が君の日常ましき活躍振りを見つゝ密に欣懐の微笑を唇邊に浮べる所以なり。乞ふ自愛自重あれ。

令室なか子は内助の功高き賢夫人として定評あり、一女寛亀子又淑徳の譽高き才媛和氣復郁たる好家庭を營む。

第一地區委員

竹村重兵衛君

出生地　神奈川縣
生年月　文久二年十二月二十日
現住所　麹町區麹町五丁目九番地
職業　履物卸小賣商（森田屋）

君は文久二年十二月二十日、神奈川縣橘樹郡稲田村大字宿河原に於て生る。

竹村家の祖は長野縣の人、當主は東京に於ける三代目に當り、初代より現地に在りて現業に從ふ。

君は神奈川縣の名望家關山楽藏氏の次男なるが、幼にして頴悟、夙にその俊才を謂せられたり、推薦せられて同郡尚丘村なる鈴木久彌氏の成始學校に入學し、漢學その他を攻究す。鈴木氏深くその俊才を愛し、自ら養子として明治十二年十二月、君か十七歳の時竹村家に嗣子として入家せしむ。先代吉兵衛氏が明治十五年三月、年僅かに二十歳なる君に家督の一切を讓渡相續せしめたるに發するも、君の超見を知るを得べし。爾來君は我々として家業に精勵しその隆昌は東都履物界に於いて五指を屈せらるゝの中にありといふ。各種博覽會共進會毎に榮譽ある金銀牌を受け、就中平和博覽會にはその審査員に擧げられたる帝都界の重鎮として聲望高きものは蓋し偶然に非ざるなり。

君は社會的精神に富み身を挺して各種の公共事業に盡瘁す。麹町區會議員たること大正七年以來三期相續ぎて今日に及び、十五年三月には震災當時の功により市長より置時計を贈らる。麹町區學務委員としては大正十四年十二月以來その任に在り、また麹町區教育會評議員たり。更に法令發布以來の借地借家調停委員にしてその最初委員任命の報あるや君の人爲を知る町民は之を祝して贈るに金杯を以てせりといふ。他大正十一年以來營業稅調査委員たり又所得稅調査委員たること四ヶ年、また麹町同志會には現に副會長たり、麹町五丁目自衛組合長としては三十年の久しきに亙りて善隣の交誼の爲めに謀せり。明治三十六年東京履物商組合の設立を東京府より依囑され幹旋奔走して遂に之を成立せしめ同時副頭取に擧げられ、三十八年には頭取に推擧せらる。四十一年該組合が重要物産同業組合に變更せらるゝやその組長に推され、在職二年の後職を後進に讓り現在はその顧問たり。また東京實業組合聯合會成立の事あるや委員に選ばれ現にその贊助員たり。その他官幣大社日枝神社の氏子大總代、赤坂豐川稲荷の爲めには三十五ヶ年間一貫して信徒總代の任を果せり。人心の頽廢を悪ひ匆忙の身を以て神國の精華を普及せんとするその崇高なる至情は深く銘記すべき美事と稱すべし。

今次の復興事業に區劃整理委員として推擧されたるは眞にその人を得たりと云ふべく官都再建の爲め故郷の各々の赤誠は官民の齊しく感謝する所たり。

家庭にはくめど子夫人あり。寡々たる團欒裡に至幸の生活を營む。

六藤賢明君

出生地　東京市
生年月　慶應元年七月六日
現住所　麹町區麹町二丁目九番地
職業　煙草小賣雜貨商

世に實なくして名あるものあり、名甚だ高から寧してその實伯る大なるものあり。血河の濁汙して萬里の郊野を貫くは人の能く知る所なるも、渓水の消々乎として清冽透徹たるに意を致すものは少し。骨に喧闘の巷に喘々するものを名士と呼び人傑と爲す勿れ。夕陽に美しく照り映ゆる上層の化粧石と、地中深く埋沒する土臺石とその價値果して何れが大なるべき。自ら表面に立たざるも常に卓拔なる識見を把持し、帷握の間將として企名嘖々たるを我が六崎賢明君と爲す。

君は東京の人、六崎賢業氏の長男にして慶應元年七月六日赤坂區一ツ木町に生る。始祖は武門の出、祖父に至りて業を醫に轉じ君は七代目の當主たり。幼にして頴悟、慧俊儕輩を拔き東宮殿下として深くその後來を至囑さる不幸、幼にして父君と死別し專ら母の膝下に成人す。始め祖父の跡を繼ぐべく試練を實地に積み嘱く醫書を浸獵して技大いに進みたるも、越幼にして覇氣に富む君は密に書して專ら法律學を研究す。既にしてその精髓に通徹し仲權雪寛の爲め健闘久しく大正六年現地に轉じ、閻餘の徒然を慰むべく傍ら煙草小賣店を開きて今日に至る。

君、容姿端麗にして君子然たり。その日常は悠々然として靜淡に道產する水禽の如く、たるも、常に冥思凝精して意を時流に致し、時到れば即ち奮然奮起、愕々閃切、理路井然たる熱辯を揮ひて群論を制封す。而も常親の權威に屈せず斷々乎として所信を斷行する勁烈なる意氣は例へば奔流の岩を噛むにも似たり。爲に當代の異彩にして吾人の深く快哉を呼ぶ所以なり。

性、奔放不羈にして廉潔無私、見解の中正公明を失せざらんとして一切の公職を退け、後進を要位に認りて後見諮問の衝に當る自ら立ちて現麹町二丁目町會を創立せしめたるにも不拘一幕事たるに甘んじ專朱幹旋するが如きはその好例たり。

今次の區劃整理は生活の實際に直接する所甚大大なるを以て利害關係者は速決して君を說き、委員として出馬を請ひたるなりと聞く。以てその人爲を卜すべく、君又首都再建の爲め率先奔走して好評嘖々たり。

命閒もと子は讃州高松市の人、賢眞の譽高く、愛息賢亮君を拉して陽々騎鶴の良家庭を營む。

横田藤三郎君

出生地　滋賀縣

生年月　明治九年六月二十八日

現住所　麹町區三番町二十番地

職業　織物卸小賣商（横田兄弟商會）

君は滋賀縣犬根郡下の産、十三歳の時上京、牛込區神楽坂横村屋物店に入り十八歳まで勤續、親しく商業の機微を修得し、明治三十六年實弟常次郎氏と協力し、現地に開業して今日に至る。横田兄弟商會なる店舗名は兄弟の親睦比類なきを見て裏族本の命名したるものなりと聞く、兎もすれば骨肉相食むの醜爭多き現時の世相に於て眞に佳話と稱すべきなり。

性、慧俊精敏、着眼自ら色を異にし、捌取の氣象に富み、屋物の改良を念とする久しく途にフェルト草履に防水裝置を施すの法を工夫發見して專賣特許を得、大正五年東京エビス防水フェルト工業所を設立して現にその所長たり。今や需要日を追ひて增加し好評比なく擴張を餘儀なくされて三番町及び在厚郡大井町に工場を增設し大量生産の準備全く成り、斯界に一新機を劃して同業者間に覇を爲すに至る。

守成固より安から手と雖も未だ創業の秋きに及ばず、結果の如何なるにもせよ追懐は感慨深きを常と爲すに、今や功成り名遂げたる君が、除慘なりし昔時を追懐するの時、その胸中を往來する感慨は果して如何なるべきそ實に君の半生は血涙的苦闘の連續にして甘つて商店界誌上にその生立を記載されたりと聞く、又以て君の人と爲りをトすべし。

君はかく家業の繁榮を計る傍ら常に公共方面に意を注ぎ、明治三十六年準則組合當時より同業者の福利增進に盡瘁し明治四十一年現東京履物商同業組合の設立さるゝや支部長湖組合長の要職を經、大正十五年二月組合長に推舉されて治績編著なるものあり。又三番町警理事長として町民の親睦向上に努力し、更に在郷軍人會理事、麹町公民會理事等の公職に在りて日も慊れ足らざるの奔走を爲す。

今次の區割整理に際し首都再建の樞軸に參劃する委員の重職に君を推擧したる區民の明や稍ふべく、利害請託の歸趨に應じ懇切至到の斡旋を爲し斯業達成の爲め健闘寧日なきは官民の等しく感銘措かざる所たり。

令閨スヱ子は内助の譽高き人、四男三女あり、長男藤太郎君は卸部主任として活躍し、夙に偉材の評あり、次男藤次、三男藤四郎、四男正次、長女せい子、次女綾子、三女藤子、何れも秀才にして近隣羨望の的たり。家庭和氣靄々、外にありて百方の增氣を受けつゝある君は又内に在りても清福多き家庭の人たり。

前田德次郎君

出生地　東京市

生年月　萬延元年十月二十五日

現住所　麹町區三番町二番地

職業　貸席業（松月）

紀元二千五百二十年、閏三月改元して萬延と號す。宇内は開國進取の氣運に乘じて喧囂の議論も此大勢を如何ともする能はざりき。

我が前田德次郎君は此年十月二十五日、興國の新機運と共生誕を同じくせり。生家は德川家の旗本にして君は先考忠藏氏の三男、麹町區上二番町三十三番地に於て呱々の聲を擧げたる生粋の江戸ッ兒なり。幼にして溫恭、長ずるに及び、明治十三年より大正二年に亙る長期を上二番町十五番地に居住せられし前外務大臣青木子爵邸に執事として勤め、國事に鞅掌して繁忙寸暇なかりし子爵をして聊かの後顧なく青木子の事跡が、我が外交史上の精華たりしを得たる反面に於て、能く其一事に專念せしめたる君が功績も亦決して淺却すべからざるに非ずや。

君は又、多方面の人にして、執務の傍ら明治二十五年貸席業を富士見町に開きて土地の開發に渤し、その漸次發展するや職を避して現業に專念し以て今日に至る。由來、紅燈の搖ぐ所には人家稠密して土地發展の先驅を爲す。將來の富士見町が紅燈柳斜の巷として必ず繁昌すべきの地なるを洞察したるは君が先見の鋭す所、蘭來、よく努めて或は組合を設け、或は町會を組織して土地の發展に絶大の貢獻を爲せり。今日の君が同地の元老として信望牢固たるは一に叙上の實績に由る。現に丸段富士見町三業組合理事にして又東京待合茶屋組合本部理事たり。その居住地たる三番町東會衛生部長としては自治の爲めに竭し、其他上六小學校兒童保護者會理事、在郷軍人會麹町分會評議員、麹町青年團評議員等の名譽職に在り、意を專らにして何れもよく赤公の赤誠を披瀝す。

今次、帝都復興の事業興るや推されて第一地區々割整理委員となり、又頗傳統の地の爲めに相倒深甚なるものあり。

性、謙述にして清爽、江戸ッ兒的率直と純朴味を漂へ、時に酒肴の言辭を放ちてよく對者を感ず。趣味として騎乘の術を好み、穏川公辯の馬術指南たりし、故師岡新子郎師に師事して大坪流の極意を極め、其德の胸前なりと云ふ。又演劇に造詣深く、劇界の恩人、田村義成氏及び現歌舞伎座社長大谷竹次郎氏と提携してその劇新向上に盡瘁する久しく疎れたる功勞者として牢固たる勢力を有す。

家庭にはひさ子夫人との間に一男三女を擧げ一家和氣藹々たり。

第一地區委員

仁木正之助君

出生地　東　京　市
生年月　明治十八年十一月廿三日
現住所　麹町區麹町一丁目十番地
職業會社重役

塚水充つれば奔流となり成熟せる甘果は呼ばざるに人を招じて樹下に小蹊を作らしむ。内に宗しき者は外選を戴めしく裝はんとして宗名の獲得に狂奔するも、實力あるものは從容乎として靜に機の熟するを待つ。

君は麹町區の重鎮として聲名高かりし故仁木傳吉氏の長男にして明治十八年十一月二十三日麹町一丁目に呱々の聲を揚ぐ。資性英邁にして頭腦明晰、度量宏大にして京狐に惠み後進に資を興へてよく扶導す。夙に學業を志して識廣く、温學の權威、慶應義塾大學理財科に入り經濟學の蘊奥を極めて明治四十三年同校を卒業し、爾來公務に執拳して多忙なる父君を扶けて校務の受たからしめ大正十四年九月父君の長逝さるゝやその後を享けて今日に至る。

性潤逞にして淡々、人に接するに胸襟を設けず天眞の赤誠を流露してよく對者を魅す。稀に見る雅情の持主として氣宇自ら晴澄、奇を弄する事なく落々手として無垢無染、父君を屢りて雖代せる久しかりしを以て絢爛の職名を帶びざるも識見卓拔、時折放つ寸鐵心肝を抉る眞言には明敏卓見のの閃きあり、その悠々手たる日常を一見せば大河を道流する水禽の如くなれ共、透徹明快愛常中正なる見解は、胸奥に燃ゆる靈物たる精氣と相俟ち、例へば重着なる水色の手にすれば即ち逢明なるにも似て、迫らざる床しさの中に能鉅深く潜むの觀あり。政治に經濟に思想に悠々鐵切の斷論を下す邊り、蓋か張目瞠視して將來の活躍を思はざるものなからんや。太陽に美々しく照り映ゆる上層の化粧石として隆名を謳はるゝ日の近かるべき吾人は深く信ず。

今次の區劃整理に君の出馬は聊か牛刀の感なきに非れ共、區民の切望もだし難く父君の跡を繼ぎて之が委員たるを諾し首都再建の爲め利害の請託に應衝して治績顯著なり。

深く美術を愛好しその蒐集する古美術品、繪畫等は汗牛充棟も黄ならず、その卓拔なる鑑識眼に至りては專門家をして舌を捲かしむるものあり、既に一家言ありて隱然權威を爲す。又音樂に造詣深く、旅行を好みて見聞頗る豐なり。君に見る高邁典雅なる風懷はこによりて養はるゝ所ならんか。

温良貞淑なる夫人愛子との間に三男三女あり、周到なる教養下に成長し何れもその英才を稱へらる家庭和氣に充ち北面にも亦惠まれたる君の姿を見る。

第一地區委員

三善小兵衛君

出生地　愛　知　縣
生年月　元治元年十二月十三日
現住所　麹町區上二番町四番地
職業　酒類卸小賣商（三河屋）

君は治元年十二月十三日伊善次郎氏の次男として、愛知縣渥美郡高豊村に生る。

三善屋は屋號を三河屋と稱し初代より酒類商を業とし傍ら質屋を兼營、當主を以て四代を享する老舗なり。

君、幼よりして頴悟、父を扶けて久しく業務に從ひ居たるも大志を抱きて十八歳の時上京、實務習得の爲め店員として三善酒店に入る。資性敏行にして熱直、寡言實行を本旨として精勤を怠らず樂措自ら餘裕を授けり。店主深く君が人と爲りを信愛して店務を總攬せしめ愛護やすを配して三善家に嗣子たらしめたり、明治三十年先考の長逝せらるるやその跡を享けて家督を相續し、家運を愈々隆大ならしめて以て今日に至る。

君は又博愛仁恕の人にしてよく公共の爲めに竭せり。而も實質主義に終始し虚栄表裏なき一貫の誠意は業の擧りて稱する所實なくして名のみを得んとし譎詐險譎時に德義を無視する徒輩多々なるの時、重厚君の如きを見るは吾人の以て欣懐とする所なり、現二五町會は町民相互の向上發展を圖らんとして君等の主唱奔走により組織成立したるものにして或は幹事として或は町會長として裴徘し又、麹町公民會の評議員として健闘十五年の久しきに及び何れも編著なる功績を擧げたり。

また同業者間に於ても重視せられ東京酒類仲買小賣商同業組合の幹事に撰されて遺せるところ極めて多大なり。その他日枝神社氏子大總代、專編寺增宗總代の公職に推され一身を各種の公共的方面に捧げて答まさる篤行の士なり。

今次帝都復興に際し、區劃整理事業の擧あるや地主側より選ばれて委員となり首都再建の爲め官民の間を斡旋して晴々たる好評裡に圓著なる事跡を擧ぐ。

令室やす子夫人との間に四女あり、極めて團欒、陽々治湯健美すべき家庭を營む。

天凡の才を抱き、卓拔せる手腕を有し、而も何は寸傲らず、淡白にして穩健、嘉落の一面を具備し、その談寸るや胸壁を設けず、談論の中自ら振々たる滋味ありて、不知不識の中に人をして服せしむ。これ君に對する衆評なり。以て君が人格識見を窺ふに足るべし。

君は三重縣多氣郡齋宮の人中林庄三郎氏の四男に生る。中林家は連綿十代を算する有數の舊家なり。大志を抱き十歳の頃上京、叔父たる野口家に入り店務に從事す。その精勤と俊敏の才は忽ち叔父の認む所となり頗る信用を博す。明治三十二年懇望されて野口家の嗣子となり同時に家督を相續す。爾來、苦心努力以て守成の實を擧し、家運をして今日の隆昌あらしむ。今や府下西大久保その他數ヶ所に支店を設置していよ〳〵盛大を極むる一方、麹町銀行監査役として盡瘁久しきものあり。又夙く同業者の發展向上を念とし、有志と協力して東京呉服商同業組合を成立せしめ、成立と同時に理事として健闘し、更に同麹町副部長として盡力す。功を翰ふ感謝狀多々あり て、同業者間に於ける人望は絶大なるものあり。尚公共方面に於ける功績又大なるものあり。現に麹町區會議員として、區政の爲め東奔西走日も惟れ足らざる努力を致し一異彩として多大の尊敬を受く。麹町四丁目町會たるものは實に君が發起にかゝるものにして久しき間之が會長として町治に盡す。營業稅調査員として詳細の資料を蒐集し、又麹町公民會理事たり。麹町小學校建築に當りては建築委員として育英の業に努力す。今回帝都復興の大業に際し區劃整理委員として此の難事に參畫すべく君の出馬を見たるは、帝都百年のため欣幸に堪えざる所にして、快刀亂麻の手腕を以てよく繁務を裁司し、首都再建の爲め健闘來日なく業績綱落なり。

君は趣味として謡曲を好み、今や堂奥に入れりと聞く、令室かね子は内助の功高き人、令息幸吉君は慶應商工學校を出て目下父を扶けて家業に從ひ、逸材の評あり。

第一地區委員

野口新兵衛君

出生地　三　重　縣
生年月　明治七年十二月十一日
現住所　麹町區麹町四丁目六番地
職　業　呉服卸小賣商（伊勢屋）

現代實業界に名を成すの人、その多くは惡條を以て博せられ、冷血漢と呼ばれ、頑迷と誇らる。此の渾れる業界に於て、君の如く高節、君の如く樸直潤大、更に君の如く圓滑玲瓏なる人格を有するの士は稀なり。

高羽家は始祖を尾州熱田に發し、先代惣兵衛氏を東京に於ける初代とし、君はその長男として慶應元年七月十二日現地に呱々の聲を擧ぐ、性俊敏、特に計數に長じ克明の精勤家として畏敬さるゝ久し。若くして父の經營に係はる高羽羅紗店の實務に服し、明治三十年父君長逝の跡を襲ぎて店務を總攬し、健闘多年、家業をして益々繁榮ならしめ、大正二年には從來個人經營たりし高羽羅紗店を株式會社高羽商會に變更し、推擧されて社長となり縱横なる才腕を揮ひて以て今日の盛大を來たらしむ。大正二年には帝國煉瓦株式會社を創立し、監査役として健闘、大正六年以來社長に推擧されて現にその要職に在り、又、大正十年以來株式會社麹町銀行監査役として今日に及び、又曾つて大井銀行監査役たり、商業會議所議員たり。穩健中正嘉實敢行の典型的紳士として常にその高義大節を謳はる。

君は斯く業界に雄飛して非凡の手腕を揮ふ一方、公共方面に活躍し、同地の重鎮として聞え、麹町區會議員たること、明治三十一年より大正十一年まで、勤續實に二十五ヶ年の久しきに亙り、常に區政並上の一異彩として命名を博し、その間、大正四年より二期連續、區會副議長として卓見を披瀝し功績顯著たるものあり、又大正四年當時、麹町區學務委員長として育英の方面に盡し、更に青少年の訓練扶掖に留意し現に麹區青年團顧問長として盡力す。此他大小極々の公務にして君の手腕を要するもの頗る多く、出馬を請はるゝ一再たらざるも謙讓なる君は常に後進を推薦し自らは厩柱たるに甘んずると聞く。近隣讃して德と賞するもの又所以ありと稱すべく、浮薄なる世相を諷する頂門の一針として感慨なき能はず、以て君が人爲を窺ふべく、吾人の至囑する所以なり。

今次區劃整理事業遂行の擧あるや推擧されて委員となり更に第二ブロック長として至乎至公寧日なき奮闘を續く、首都再建の爲め嘉すべく官民の等しく感激する所たり。

令室さく子は芝の人、三男二女あり、長男建太郎君は慶應理財科出の俊材にして現高羽商會重役、次男義治君は帝大英法科在學中、三男信男君は水戸高等學校在學中にして何れも秀才の譽高し。長女登志子は侯爵西園寺公望氏の令弟豐二君に嫁し、次女佐喜子は神戸の實業家、篠野乙次郎氏の令息義雄君に嫁ぐ、一家一門いよ〳〵榮え駘蕩團欒常春氷ハに至るの良家庭を營む。

第一地區委員

高羽惣兵衛君

出生地　東　京　市
生年月　慶應三年七月十二日
現住所　麹町區麹町五丁目二番地
職　業　會　社　重　役

第一地區委員

若松太吉君

出生地　新潟縣
生年月　明治十八年一月十七日
現住所　麹町區三番町二十二番地
職業　米穀卸小賣商

君は越後の人、由岸魂吉氏の次男にして明治十八年一月十七日刈村郡上小國村に生る。

幼にして頴悟、長ずるに及ぶや志を實業方面に向けて十九歳にして上京、麹町區三番町なる若松米穀店に入り勤務を始むるの第一歩を印す。爾來、孜々として店務に服し、又業務の習得を怠らず、その忠實恪勤は共に店主を感動せしめ、信望最も厚く、君を看過する能も愛兒に於ける如かりしと云ふ。加之、經綸の才に富み、緩後人に特有なる隠忍不撓の氣魂を蔵し、克苦精勤、遂に店務の一切を擔當せしめらるゝに至り店主文三郎氏の懇望もだし難く、明治四十一年入りて若松家を同ぎ爾來旭勉益々力め、貸財を共殖して守成の實を挙げ、今や牛込區市ヶ谷町に支店を設置して隆々疑々の發展を遂ぐ。從應熟切はその標榜する所、江湖の信用益々厚く、大正十四年よりは東京市指定商を命ぜられ、市ヶ谷市設市場に出張開店して益々その誠實を誠はるゝに至る。

君、資性温雅にして情誼に厚く、摯直の人として信望あり。文化の所産たる保險事業が人類愛の均霑に裨益する神ならざるを思惟し、大正十年以來太陽生命保險株式會社代理店を引受けて優秀の成績を擧ぐ。大正十四年より同町諮會理事に推されて治績多く、大正十三年より二ヶ年間、厚義會々計に任ぜられてよく重責を果す。又同業者の進歩向上を念とする久しく、大正十二年度には東京米穀商組合麹町第三部長に推擧され、整當なる實績試練の體驗に即して業界に寄與貢獻多からず今尚その德を稱へらる。

這度の大震災の惨苦を再嘗せざらんとして企劃されたる曠古の區劃整理事業遂行に際し、信德高く、公平無私ならざればよくその責務を果し難き委員の重責に君を推擧したる區民の心情や爽知するに難からず、旨を體して整切應衝、嗤々たる好評裡に至到の發揮を縦けて首都再建に貢献す。熱誠愉ふべく市民の深く銘記する所たり。

命望千代子、賢良の譽高く、五男一女あり、陽々臨邁、羨望すべき良家を營む。

荻巣慶次郎君

出生地　愛知縣
生年月　明治七年九月十日
現住所　麹町區麹町四丁目二番地
職業　浴場業

今次の區劃整理事業は揺り復興事業の中心たるのみならず、列國還視の中に於いて行はれ、その成否は國力の標準、民心の統不統を問はるゝ曠古の國家的壮業たるが故に、之が建成の根軸に參劃する委員の人選が業中第一の緊要事たるや言を俟たず。

我が荻巣慶次郎君は愛知縣の人、荻巣慶國氏の長男として明治七年九月十日同縣海邊郡佐屋村に生る。幼にして父君と死別し專ら母に撫育さる。母堂まつ子は淑德高く、孝貞並びたき賢夫人として令名縣下に謳く、その業績は悠として、愛知縣孝婦錄の冒頭を飾る。君、家郷に在りて母を扶けつゝ鋤鍬を迎へ、明治二十七年徴兵檢査に合格して近衛一聯隊に入營す。偶々日清戰爭の起るあり即ち出征して臺灣征討軍に加はり赤公の至誠を披瀝して勳八等に叙せられ、更に征露の役起るや再び應召し、鎮南浦及び滿洲各地に轉戰、砲彈彈雨死山血河の間を馳驅して殊勳を樹て戰爭終結と同時勳七等に叙さる。

性、豪放にして闊大、不屈の精氣と勃々たる雄心をその眉間に漂はし、不羈不拔の經綸として知らる。

入營を期として東京を第二の故郷と定め、爾來苦節奮鬪、弊根錯節の間に人と爲り世相の機微を究め、體を練り以て今日の素地を造る。加之、天資聰明、特に整理に非凡の手腕を有し、破産に瀕せる會社工場の紛糾を同滿解決して利害關係人より歡稱さる、一再ならず。古く居を現地に定めて浴場を經營し風紀に同業の改善向上に腐心し、自家經營の浴場の如き率先して種々改良を加へて範を垂れ、現に東京浴場組合麹町支部長として勤續三十數年に及び、斯界一方の重鎮として尊敬を受く。又在郷軍人の訓練修養に奔走し在郷軍人會麹町分會第四班正副班長に擧げられて功績多大たり。麹町四丁目町會幹事として町政に努力し、佛神崇敬の念に篤く現に日枝神社氏子總代たり、深く眞宗に歸依して道に厚く、淺草清島町所在林光寺檀徒總代として勤續二十年に及び同寺の興隆と信徒の統御に竭して治績顯著なり。棋道に堪能にして初段たり、閑暇を利用して悠々楽しむ。

今次の區劃整理事業遂行に際し、委員に推擧されたるに徴しても平素の信望を爽知すべく、整切至切、之が目的達成の爲めに發奮されつゝあるは帝都復興の爲め官民の等しく感激する所たり。

みづの夫人との間に八男二女の子寶あり。長男千代一氏は中央大學商學部出の逸材にして目下三菱燃料部に勤務、外子も何れも秀才の評あり。清編多き良家庭を營む。

牧野泉君

出生地　東京市
生年月　明治二十四年六月十四日
現住所　豊島區上千早三番町七番地
職業會社重役

君は明治二十四年六月十四日を以て市外世田ヶ谷の資家にして鼎代農を營める三上鐵藏氏の長男に生る。八歳の時、縁家牧野家を相續し、早稲田中學を經て早稲田大學商科に學び、大正三年學業を卒へて直ちに君の業務を繼當整理し、大正八年靜岡縣下富士白糸株式會社危機に陥るや、社長に就任して整理に從事し、美事なる手腕を揮ひたるを始めとし、富士見製紙株式會社に專務取締役として入社し、卓抜を揮つて之が整理を爲し越えて大正十年富士水電株式會社に經理部長として入社し深甚の識見を傾倒して社運の興隆に力め、鞏務を處理宰斷して余名厚かりき。在任二ヶ年東京電燈株式會社との合併を機として同社を辭するや會社は君の功績を稿ひ、贈るに最高の功勞金を以てせりと聞く。大正十三年十月には殿互鐵道株式會社の二ヶ年に亙る爭議の調停に奔走し、勞資兩派の委託に依り專務取締役として同社の重務を管掌し、現に取締役として猶ほ施設經營に最善を盡す。

以上述べ來りし如く、君の鑒識は遠く所快刀亂麻を絶つの概あり、年齢未だ少壯にして克く錯綜の難業を果すは君の人爲を卜するを得べし。

君は體軀堂々、放膽豪毅の人、眉目の間自ら溢々たる精氣の溢るゝを見る。その性は磊々高朗、其說く所宛く大綱を提へて而も細緻、室に一世の快男たるを失はず。宜なる哉、君は在學中に於ては稻門の健兒を代表して國技術に角力を爭いて覇を唱へ、野球に容儀に美術に其多方面なる其趣味は君が今日の樂餌と爲り、萬般の事務に處して、理解あり氣骨あるもの、蓋し偶然にあらざるなり。深く青年の調育指導に意を致し自ら資を投じて、練武場を建設し、國家有用の材を出さんと力めつゝあり。高風實に欽仰すべきなり。

今次、區劃整理委員として起てるは君が唯一の公職なりとす。片々たる虚名よりは一の實を取らんとする君が本事業に起てるは其事業の性質が帝都百年の計を期するに在ればなるべし。

家庭には美彌子夫人あり、府下高田町の名望家にして町の開拓者たる新倉徳三郎氏の三女にして、君との間一男三女を擧ぐ。鐵郎、恒子、歌子、貞子の諸子なり。春風習々和氣愉揚の良家庭を營む。

星野郁太郎君

出生地　栃木縣
生年月　慶應元年七月十五日
現住所　麹町區五番町六番地
職業　煙草小賣商

星野家は徳川の直臣、日光廟守護役日光同心組の内、四ヶ所を勤めし由緒ある家柄にして寶暦三年以來の舊家なり。君は星野盛常氏の長男に生る。日光は風光明眉の地として古くより外人の往來頻繁なりしより、早くも時勢を察し、將來英語の必要なるを思ひて十九歳の時上京、現明治學院が未だ英和一致學校と稱せし頃同校に學に學びて卒業し、明治學院と改稱して高等科設置さるゝや直ちに入學し研鑽多年の後遂に異數の優績を以て之を卒業す。後、郷里に歸りてホテル業を經營し、傍ら骨董業を營む。性、至直、熱誠無私の人として信望厚く、自治公共に盡瘁せし所尠からず明治二十六年日光町々會議員に當選、爾後八年の久しきに亙り町治に奔走し功績多大なり。明治二十九年皇太子殿下日光山へ行啓請願委員に撰されて東京に出張努力す。又明治三十一年には栃木縣令に依り日光町衛生組合創立委員を命ぜられて竭す所あり。更に明治三十三年日光小學校建築委員に擧げられ、奔走奏功して縣知事より木杯を下附せらるゝ等日光町に盡せし所頗る甚大なり。明治三十五年日光町民擧つて君の離郷を惜しみしが、思ふ所ありて上京し、懇望されて帝國ホテルに入り、明治三十六年より四十三年迄、勤續實に十ヶ年に及ぶ。語學に堪能なると、獨得の才腕と、着實熱誠にして經驗なる人格とは、獨逸人エミネル・フレータ・カール・フレータ氏の信望を得、會計主任、支配人、代理人等の重職を果す。明治四十五年職を辭して現地に西洋洗濯業を創め、翌大正元年より鐵道省御用を命ぜられて勤續大正十二年に及び、震後閑餘の徒然を慰すべく煙草及日光特産木彫盃類商を開きて今日に至る。常に自治を念とし町政に資す。現に二五會副會長にして、相互の親睦向上に盡瘁し、當時微々たりし同會をして今日の隆盛に趣かしむ。今次の區劃整理に際會し、借地人側の懇望黙し難く、その整理委員として復興の大業に參劃す。正に理想的の好人材といふべし。夙に乃木將軍を崇拜し、將軍の德義高節を慕ひて日夕景仰す。又讀書を好み、書畫骨董を愛す。一つは君の雅情を語るものといふべし。一男一女あり百男君は東洋音樂學校出身、藝術的天分豊かなる音樂家として將來を囑目され、長女喜美子嬢は東京女學館卒業の才媛、家庭は常に和氣に滿ち、春風滿揚なる良家庭を營む。

第一地區委員

廣橋嘉七郎君

出生地　福島縣
生年月　萬延元年三月十一日
現住所　麹町區三番町五十七番地
職業　會社重役、質屋業

我が廣橋嘉七郎君は興國の智機溢物然たる萬延元年三月十一日の生れ、遠祖貞に三百年の歴史ある奥州白河在の舊家に人と爲つて氣宇自ら廣大、清節高義の傑士として財、政の兩界にその錚々の令名を謳はるゝ既に久し。

明治二十一年、青雲の志止み難くして上京、故夫人の祿家たる某會社重役の經營に係はる北海道厚野開拓の事を囑されて北遷し、縱橫の手腕を揮ひて獨著なる業績を擧げ、事の緒に就くに及び歸京して現地を卜居し、明治二十九年貸業を開きて今日に至る。その間兼に福島縣選出多額納稅貴族院議員吉野周太郎君と武藏野銀行を興し其頭取として好成績を擧げ今尚重役たり。又、夙に電氣事業に着眼し、深川電燈會社の經營に當り常務取締役として悲況を挽回し、好成績の中に東京電燈會社と合併し、後、王子電氣軌道會社を創立、爾來重役として終又專務取締役として執掌、當時財界不況にして經營頗る困難なりしも識澤子爵の後援せらるゝあり、よく支持して難關を切抜け、後、森村、鈴木氏等財界巨頭の加力を見るに至りて社業愈々隆昌なるに至りて社業愈々隆昌、郊外電車の嚆矢として資本金の如きも創立當初の十五倍に達せしめたるはその功績一に君に負すべきものにして、又本邦に於ける城友共濟保險の端矢、戰友共濟保險株式會社の創設者なり。以てその經濟事業經營に有する特技を窺ふべし。

君は、又機敏自治建設運動の殊勳者にして區會に二十五年、府會に八年、市會に四年、各々其重任を全うしつゝあるの他、東京都市計畫地方委員、東京市復興委員、息揚公園常設委員、營業稅調査委員たり、又、東京市の特別市制促進に關する委員としては健闘十年に及び現に同各區聯合會委員長たり。この他區內關係事業に就いては財團法人麹町公民會理事、在郷軍人會麹町區分會第六班後援會理事、麹町區教育會評議員、麹町區青年團評議員、三番町東會々長、等の要職に在り、苦節一貫只々府、市、區、町自治政の改善發達に努め、高邁力行の士として市區民の信望を一身に蒐む。又、敬神思想に厚く、官幣大社日枝神社氏子總代にして同常設委員を發揮、更に同業者間に於ても重視され、東京質屋組合常議員にして又麹町質屋組合取締に推擧され、多忙の中よくその和親向上の爲め竭して信望愈々厚し。

その市政に對して有する卓拔切なる高說に至りては嘗て時流に高擧するものあるも紙面の都合にて之を所載する能はざるは筆者の最も遺憾とする所なり。

今次の區劃整理事業に第一地區より委員として推擧されたるは君が手腕に信賴する區民衷情の發露にして、更に第三ブロック長に擧げられ、首都再建の爲め老來益々頑健に繁忙なる時を送られつゝあるは敬仰に堪えざる所なり。

資性寡言厚、深慮剛策し一度立てば敢然として燃火の如く邪擁す。曹洞宗に歸依して篤信、また書畫骨董を嗜味とし「松濤」と號言を爲す。以て君が半面の雅趣を卜すべし。

第一地區委員

永井玄暢君

出生地　三重縣
生年月　明治九年十一月八日
現住所　麹町區三番町四番地
職業　會社員

君は三重縣伊勢國の人、永井玄明氏の長男として眞宗高田派の末寺、本淨寺に生る。祖父を權少教正泰玄と稱し、學德兼備の高僧として降名一山を風靡し、現高田派の僧侶にしてその薫陶を受けざるものなく、後菊間寮を開設し、氏の德識を欽慕する衆徒はその數、常に數百人を下らざりしと聞く。

君、不幸、幼にして父君と死別し專ら祖父の膝下に人と爲るその跡を偏ぎ本淨寺の住職たるべく、郷里の小學校を卒ふるや直ちに同地一身田所在の眞宗勤學院に入り、專ら儒佛の學を修めて同院を卒業し、得度して權少僧都となる。後、郷里の高等小學校に教鞭を執り育英に從事し居たるも、冲々たる研學心は制せんに由なく、一族の止むるをきかず意を決して單身上京、苦節を嘗めて現東洋大學前身「哲學館」に入り、風起雲寒、其さに螢雪の苦を嘗めて遂に深邃なる佛典佛理の蘊奥を極むるに至る。偶々本山の命ずるあり、即ち下谷區練塀町所在の高田派本山出張所の事務擔當として同寺の教務に從事することゝなり爾來卓拔の手腕を揮ひて同寺再興の爲めに竭す實に九ヶ年、布教の妙と和待ち信徒仰いで同寺中興の主と尊崇するに至る。光耀たる故その前途、今や學成り名遂げて他を布き、天晴名僧達識として令名四海を蔽ふの日の來るべきは萬人の深く期待したる所たるに、うつしよの事定むべからずして、遂に君をして再び廢土に復歸せしむべく立至らしめぬ。扨に聞く、養父母に一子あり、君が强いて宗寺相續の權を主張せば、好ましからぬ誹謗呪咀の聲と共に、平和なる家庭に重疊たる波瀾の湧起するや明にしてこれ君が本旨に非ず、即ち養父母への恩と義と、家政の圓滿を計らんが爲め沈痛多年、遂に意を決して家督の一切を義弟眞玄氏に讓り、還俗して郷を歸し、猶を東京麹町に移して今日に至れるなりと。以て君が人爲を窺知すべく、暮夜靜に倒往を追懷するの時、その胸地を往來する感懷は果して何ぞ歡欣か、哄笑か、否人その心事を探ねて亦感慨なき能はず。君、性慧敏にして義氣に富み仁俠を尊び諸して是さざるなく直言直行徹底主義をその本旨と爲す。而も學殖深くして理義に透徹し、胸中無限の雅情を蔵して隔意なく、溫情の人として信望あり。公共方面に意を致して治績尠からず、現地に移轉したるは大正八年九月なるに翌々年の十月には早くも推擧されて區會議員となり今次の改選にも再選されて健闘す。常に凱節の見解を持して區政壇上に異彩を放ちて一方を牛耳る。現三番町東會は町民和互の融和共益の爲め自ら發起奔走して成立せしめたるものにして大正十四年創立以來副會長に擧られとよく重責を果す。又、東京特合茶屋組合本部理事、九段宮士見町三業組合理事として貢献久しく、麹町區教育會評議員、上六小學校兒童保護者會幹事、在郷軍人會麹町分會評議員、麹町青年團評議員等の要職に在りて亦公の至誠を披瀝す。今次の區劃整理に際し委員として推擧されたるは平素の信望を裏書するものにして至平至公、首都再建の爲め官民の間を斡旋す。帝都復興の爲め深く銘記すべきなり。

眞淑溫良なる令閨たみ子との間に一男二女あり、家庭和氣に滿ち陽々愉悦、近隣羨望の良家庭を營む。

第一地區委員

岡本嗣治君

出生地　愛知縣
生年月　明治三年九月八日
現住所　一町目二十二番地
職業　日本料理（魚久）

殉國の忠魂、千載の下芳潔の名を止むる靖國神社の創設に近く、酒酒高雅の青樓あり。其名を『魚久』と云ふ。之れ實に我が岡本嗣治君の經營に係る料理店にして庶子の称を以て廣く人に知らる。

魚久の始祖は越後の人、先代久藏氏を東京に於ける始めと爲し、牛込納戸町に魚商を營む。明治二年、靖國神社建立の事あるや宮司の依囑に依り、祓供の任を果すべく現地に移轉したるをその興業の契緣と爲す。

爾來、專心家業に精勵し、奉仕を怠らざるを以て、明治四十四年一月一日には宮司賀茂璋穂氏より感謝狀及び木盃を贈られたり。

當主嗣治君は愛知縣愛海郡矢笹村の人、神原常五郎氏の次男にして若冠東京に出で、魚久料理店に入りて精勵多年、其さに始業の機微を悟得す。明治三十五年その學資熱誠なる性情を至囑され望まれて先代久藏氏の嗣子となり、明治四十年養父の逝去に依り、其後を承けて今日に至る。

君は公共の事業に殉ずる事極めて厚く、同業の間に於ては東京魚商組合に父子共に多大の功績あり、今も尚人の傳へて德と爲す所にして推されて麹町支部長に任じ、また富士見町三業組合の設立に奔走して成立するや組合長に挙され、其和親發展向上に盡心して功勞多く、組合より金銀牌を贈つて其功を稱はる。また東京飲食業組合理事にして、曾ては嗣組合長の重責を果たし、現に組合役員會の會計主任にして勤續十年の久しきに亙り尠長多大なるものあり。

また、善隣の誼に厚くして富士見町々會幹事に推され、遺く所悉く信望の鍾る處となる。大正十一年より營業稅調査委員を囑せられ、また法華宗に歸依して信仰厚く、市外夜橋宗仙寺壇家總代として奉仕厚し。今次、帝都復興の事業興るに及んで第一地區より推されて土地區劃整理委員の任に就き、貢獻多大なるものあり。その敎行と手腕を以て大いに重望を負ふ。

家庭は令閨ふさ子との間二男六女の子福者なる氏、家運の前途益々多幸なるを賀ひ得べし。

第一地區委員

田中竹次郎君

出生地　福井縣
生年月　明治三年六月三日
現住所　麹町區麹町三丁目十三番地
職業　染呉服商（京星社）

君は福井縣福井市の人、田中利八氏の長男にして明治三年六月三日の生れ、家は代々敦賀郡敦賀町なる官幣大社氣比神社（神功皇后を祭る）の神官なり。

夙に學業を志し、明治二十四年縣立福井中學校を卒業、二十八年より三十年迄福井縣廳に勤務、三十年出向を命ぜられて京都府廳に轉勤、三十年八月辭し、同時、日之出新聞社に入社して調査部に入りその經濟方面を擔當し明察と卓見を以て稱さる。會社在勤中、當時の京都市長たりし故内貴清兵衛氏の委囑に依り店員奬勵會を設け勤續二十ケ年以上に渉る店員の表彰を敢行し、後、京都ホテル經營者西村氏及び京都織物株式會社の委囑を受け商工視察の爲め渡米せんとして會社を辭す。在米二年、更に渡佛せんとしてその準備全く成れるの時、不幸病に冒され且つ巷港の大震災に逢い雄圖を遂する能はずして歸國の止むなきに至れり。此間染物業に就き深く研究を積み、茲に、工場、組合組織に就き親しくその實地を修得し、歸朝するや現場を古居して獨立染呉服商を營み、清新練磨の精技を發揮して嘖々の聲名を贏ち得、遂に今日の盛運を招致せり。

君は公共的精神に篤く、現東京染物同業組合の如きは、同業者の團結はその繁利增進の骨幹なりと云ふ見解の下に、自ら陣頭に立ち十五區、五郡を歷訪し、千八百餘名の同業者を勸說してその全部の同意書を纒め、交渉數度、遂に明治三十三年の法律第三十五號に依り、大正五年五月組合の設置を認可されしものにして、その成るや組合長に推擧されて健闘大いに力め後、職を後進に讓り現在は顧問たり。大正六年四月十六日組合は君の勞を稱はんとして感謝狀並に金杯を贈れりと聞く。その他、麹町區會議員、麹町區衛生組合評議員及同建築委員、在郷軍人會、青年團評議員、麹町區公民會常務理事及び評議員、麹町三丁目町會副會長、三峯神社氏子總代等に推擧され、常に公明中正なる見解を持して社會公共の爲め尽瘁するや、火保問題の紛糾するや、火保問題各區聯合會理事に選ばれて同問題解決の爲めに盡して金メタル一個を贈られ、大正十五年三月一日には中村市長より震災當時の功に對して當時計一個を、大正十五年五月四日には區會議長大橋誠一氏より在職中の功勞を多として金盃一個を贈らるゝ等、その活躍の跡を語る家寶は鄭として山を成す。將國光生命保險相互會社の代理店を引き受けて相互扶助の美果を結ばしむるに努めつゝあり。

今次の罹災整理事業に委員として推擧されたるは實に所以ありと稱すべく、首都再建の爲めによく官民の間を斡旋して好評嘖々たり。

性、豪快にして不羈、他面雅趣に富みてよく後進を扶掖す。家庭には松枝夫人あり、三男二女を擁す。三男求君は日本大學中學に、次女孝子嬢は中央女學校在學中にして何れも英才の譽高く、家庭和氣に充ち溢壁健美すべき良家庭を築む。

第一地區委員

故 仁木傳吉君

出生地 新潟縣

生年月 萬延元年二月二日

現住所 麹町區麹町一丁目十番地

職業 會社重役

仁木家は越後の在長岡市の名門にして有數の資家たり。君は先代庄三郎氏の男にして萬延元年二月二日呱々の聲を揭ぐ。

幼にして穎悟、衆嚮見として深くその後來を至囑さる。雄物の覊心抑へ難く父君と共に上京したるは明治の初年、頗來幾多の苦楚を嘗め盤根錯節を開拓して大いにその心身を練り雄飛の素地を造る。常に意を時流に致して畫策を怠らず、久しく喧伝を極めし居風劍戟の矢叫びも王政の復古と共に漸く靜まり治世の曙光仄見ゆると共に西歐文化浸潤の風盛ならんとするを見るや、猛然として立ち現地を古居し獨立して毛織物、革具、洋服類の販賣を開始したるも擾亂の風未だ去らざりし當時の事として創業當初の困難は實に名狀し難く、來固たる今日の基礎を築く迄の血淚的苦鬪の跡には寒然襟を正さしむるものあり。後、時潮の推移と共に家業漸く隆昌に赴き、爾來義に倚り禮を行ひ、誠實倍勤勞業に終始して今日の盛況を見るに至れるなりと聞く。

世の不遇を悲しみ徒らに拱手して機好を待つの人、よろしくその先見の明と苦心奮鬪の跡を學ぶべし。一個の林檎の落下てふ世人周知の平凡なる事象を誘因としてニュートンは「引力」を發見せしに非ずや、機會は常に均等に吾人の周圍を圍繞し往來す。嗚、之を捉ふると逸するの如何のみ人の境遇を分つ。即ち明敏なる洞察力と決斷と努力と卓絶せる天稟こそ導かれつゝ導く機會を獲得する指針には非るが、當時世人の愈惧逡巡して容易に手を染め得ざりしの時、敢然として立ち蹶に成功を收めて今日の大を招じたる實蹟に徴し、吾人の學ぶべき多くのものを君に見る。

君は又才腕家として聞へ麹町銀行取締役の要職に推されて靈瘁久しくその他數種の事業、會社の樞軸に參畫して實業界に巨大なる足跡を殘す一方、よく公共の爲めに活躍し、麹町區會議員たること實に前後三十年の久しきに及び、中正なる見解を持し區民本位の人格的行動に終始して常にその人と爲りを稱さる。又麹町區學務委員も榮任、赤誠を披瀝して有英の爲めに竭し、又町民相互の親睦向上福利增進を念とし町政の樞軸を預りて聲望四隣を壓するものありたり。

査性温厚篤實にして國士の風格あり、胸奥に無限の滋味を湛えてよく後進を誘掖扶導し、時潮を明察して寄附の範を垂るゝ等その篤行は衆の一致して稱ふる所たり。

今次帝都の復興に際し、各自の生活の本據たる住居を云爲する區劃整理事業遂行に當り一致して君を委員に推戴したる區民の心事も奠知するに難からず、君又旨を體して懇切周到、利害關係人の請託に斡旋して首都再建の爲め官民の間を奔走し治績顯著なるものありたるに何事の不幸ぞ！大正十四年九月、天は無情にも忽然君を奪ひて黄泉の客たらしめたり。衆人深くその死を惜み深く哀悼の意を表せり。古諺に曰く「槍を盗ふて論定まる」と、據だる生前の實蹟は之によりて一入の光彩を添へたりと云ふべく、吾人の深く敬慕して止まざる所以なり。

夫人きよ子との間に五男二女あり、何れも最高の學府に學びて逸材の譽高く、長子正之助君其後を襲ふて區劃整理委員たり。君以て冥すべし。

第二地區　東京市施行

大正十三年十一月二十八日東京土地區劃整理委員並ニ同補闕委員ノ選擧ヲ行ヒタリ

土地區劃整理委員

十八番　議長　阿久津喜兵衛(權)
一番　大坪藤朝(地)
三番　塚原佐吉(地)
五番　國友幡(地)
七番　杉崎六吉(地)
九番　本吉正雄(權)
十一番　石山靜輔(地)
十三番　笹田政治(地)
十五番　前田幸造(地)
十七番　副議長　山本初雄(地)
二番　岸他丑(地)
四番　安西久次郎(權)
六番　中村德次郎(地)
八番　石濱寅吉(權)
十番　小林幸太郎(權)
十二番　齋藤三郎(權)
十四番　關野廣巷(權)
十六番　工藤角三郎(地)

委員ノ移動シタルモノ

三番　遠藤亮太郎　辭任シタルニヨリ塚原佐吉補充ス

土地區劃整理委員補闕委員

土地所有者
森井啓之助　小堀鍊之助　見田文治郎　宮本史　大橋正雄

借地權者
堀川彌太郎　細田壽二　山中顯三　伊藤新四郎

吉井宗親　關川重雄　鈴川鳴平　青井深

諸井勝太郎　内田友藏　中山孝吉

地區々域

麹町區　飯田町一丁目ノ一部、飯田町二丁目ノ一部、飯田町三丁目ノ一部、飯田町四丁目、飯田町五丁目、飯田町六丁目ノ一部、飯田河岸ノ一部、富士見町五丁目ノ一部、富士見町六丁目ノ一部、

整理前後面積比較表

總面積	整理前 宅地	整理前 公共用地	整理後 宅地	整理後 公共用地	減歩率
七九、三六七	五五、〇三六	二四、三三一	四五、七〇九	三三、六五八	〇・一六九

委員會經過ノ概要

一大正十三年十一月二十日　第一回委員會開催、議長副議長ノ選擧ヲ行ヒ、委員ノ席次ヲ抽籤ヲ以テ定メ、議事規則議定ノ件ヲ審議シコレヲ可決ス、此ノ日副議長ニ當選シタル大森角三郎ヨリ辭任ノ申出アリ

一大正十四年三月二十八日　第一號整理前土區面積決定期日ニ關スル件ノ諮問案提出アリ、飯田河岸砂利置場及地域外ノ成一部ヲ地區ニ編入ノ陳情ヲ當局カ實現スルマデ第一號案、第二號案ノ保留ト決ス

一同年四月十一日　諮問案ノ前提希望トシテ飯田河岸砂利置場計畫中止及焼失區域全部ヲ第二地區內ニ編入ノ建議案ヲ決議シ、之レヲ當局ニ提出スルコトニ決定ス

一同年十一月十三日　第一號案、第二號案ヲ審議シ、更ニ第三號追加編入地域ノ換地位置決定ノ件、第一號ノ二追加編入地域整理前土地面積決定期日ニ關スル件ノ諮問アリ、第一號案第一號ノ二案ヲ一括シテ委棄面積ヲ一月二十日、出願期日ヲ一月十日限リト決定可決ス

一大正十五年一月二十九日　第二號案ヲ審議シ、飯田町一丁目、二丁目、三丁目陳情中ノ路線ヲ除キ他ノ路線ヲ決定可決シ、更ニ第四號整理前路線價指數並ニ各筆坪當リ平均指數ニ關スル件ノ諮問アリ乙レヲ審議スレモ可決ス

一同年二月十八日　第二號案ニ付キ審議シ、飯田町二丁目、三丁目ノ路線ヲ決定可決シ、飯田町ノ換地位置ハ之レヲ委員ニ附託ス、更ニ第五號一部換地面積決定ノ件諮問アリ、審議ノ結果、飯田町四丁目ノ一部河岸地ヲ決定可決ス

一同年三月二十六日　第二號案ニ付テ審議シ、飯田町二丁目及四丁目ノ換地位置ヲ決定可決ス

一同年五月三日　第二號案、第四號案ヲ審議シ、第二號案ノ中飯田町一丁目ノ一部(一筆)ヲ保留ノ上原案通リ決定シ、飯田町三丁目ノ內陳情書分ヲ保留ノ上原案通リ決定シ、飯田町五丁目ノ內織造省地ヲ除キ原案通リ決定、飯田町六丁目ノ內陳情書ヲ除キ原案通リ決定シ、何レモ可決ス、第四號案ハ保留ス

一同年六月七日　第二號案ニ付キ審議、宮士見町五丁目ヲ修正ノ上決定可決ス

一同年七月十日　第二號案ニ付テ審議シ、飯田町三丁目ノ殘部位置ヲ決定シ、並ニ同町二丁目ノ一部、同町四丁目ノ一部ヲ變更ニ決定ス、同町六丁目二十一番地路線變更ヲ決定シ、何レモ可決ス

一同年七月二十日　第二號案ニ付キ審議シタルモ決定シタルモノナシ

一同年八月十三日　第二號案ノ審議シ、砂利置場撤廢出願ニ付キ撤廢ト決定可決ス

第二地區委員（議長）

阿久津喜兵衛君

出生地　茨城縣

生年月　慶應元年五月三日

現住所　麹町區飯田町四丁目三十一番地

職業　物品販賣業（阿久津商店）

我が阿久津喜兵衛君は茨城縣橋島郡新郷村大字島崎の人にして、慶應元年五月三日を以て生れた。時恰も征夷大將軍德川家茂征長の師を發し自ら之を率ゐて江戸を出でて大阪に向ひつゝあつた頃で、上下騷然たる時勢である。

君は義務教育を終へて後も、郷里茨城縣に在りて農を業とし、孜々として勤勞してゐたが、既に世は君の生誕後數年ならずして泰西文明の惠澤は、日本の全土に行渡らんとしてゐたのである。君の郷土に於いても、折柄日本鐵道株式會社が奥羽の鐵路を開くべく豫測を開始しつゝあつたので、新氣運に乘ずべき機會を待つてゐた君は、直ちに鋤鍬を投じて新文明の事業に走き、測量技師の手傳に雇はれた。しかし、由來、向上の念切なる君は、其位地に甘んずるを潔しとせず、就業中は苦心して數學及測量術を學び、大いに得る所があり、折木鏡の工手と成り、更に技手となつた。曾ては全然斯る事業に經驗のなかつた一農夫が、苦學してこゝに至つた努力は我等の大いに範とせねばならぬものである。

其後、東京府技手に就任し、多摩川治岸の工事監督中、砂利取囊の將來有望なるを見込み、職を辭して直ちに其當時の砂利採掘業紅林德五郎君の許に在つて明治四十年から五ヶ年の間、紅林君の事業に從つてゐたが、大正元年獨立して現在の地に開業した。斯て君の手腕は次第に家業を隆昌ならしめ、今や東京市役所、鐵道省、逓信省、宮內省等の諸官衙及び、各土木建築請負業者に廣く供給せられ、大いに產を成したのである。

君はまた公共事業に盡す事も厚く、推されて區會議員に選ばれ、學務委員の重任に在り、其他飯田町會々長の職に在るは、以て君の業績の如何なるものかを知り得る。今や帝都復興の大業に參畫し、第二地區整理委員會に議長の重責に在り、奔走善捌、以て委員間に重きを成し、地區民に尊敬せられてゐる。佐喜子夫人との間に六兒を儲け長男厚君を始め二男正雄君、三男久雄君、四男忠男君、長女喜代子孃、次女佐代子孃あり、家庭は常に和樂謙和の美しさを保つてゐる。

第二地區委員（副議長）

山本初雄君

出生地　石川縣
生年月　文久元年四月二十一日
現住所　牛込區富久町百二十八番地
職業　歸護士、歸理士

石川縣江沼郡大聖寺町は北陸線の要驛にして大聖寺川に沿ひ、前田氏支封十萬石の舊城地、加賀絹、九谷燒を産し、溫泉郷山中町山代町片山津に至る鐵路の發着點たり。

君は此地大字法華坊の舊家山本直一氏の次男に生れ、後家督を繼ぐ。

幾君山本直一氏は勤王の志厚く、挺身王事に遇し、維新後宮内省に出仕す。最も寄年を受し、其庇護に依りて世に出でたる俊材甚だ多く、海軍大將小原孝三郎の諸君は其最も著れたる人にして其外郷閭の人にして中央に飛躍するの士にして其誘掖を享けたるもの甚だ多し。

紀元二千五百二十一年辛酉二月改元して文久と號す。宇内轉た騷然、水戸浪士常野の間に兵を起し、長藩士京師を襲ふ等、幕府の威令地に墮ち、世は當に新機運を生ぜずんば止まざるの勢ひに在り、君は此年四月二十一日興國の新兆と共生誕を同じくす。

幼にして強智、向學の志に厚く、氣く司法省法律學校に學び、佛國法律大博士ボアソナード氏に師事し、明治十六年第二期卒業生として世に出づ。明治十八年始めて判事登庸試驗の施行せられたる際千餘人の受驗者中僅か三名の合格者中に加はるを得、明治十九年奏任官たる判事試補に任ぜられ、各裁判所大阪控訴院及び東京控訴院に歷任、致仕して辯護士となつて野に下る。

君の法律事務を開始するや、深甚なる佛蘭西法學の蘊蓄と、明敏の頭腦と、天嘉の快腕とは、積年の實際的經驗と相俟つて多大の信頼を博し、竟に今日の如き法曹界の雄となる。

今次、帝都復興の大業興るに及んでは推されて第二地區土地區劃整理委員に任じ副議長の重職に就く。帝都百年の爲に寄與して功績多大、其名望は至公至平の措置と、秀拔の人格學識に依りて益々高きを加ふ。

君長岡市松村氏の女を娶りて夫人と爲す。内助の功厚き賢婦人にして、夫君をして後顧の憂あらしめず、淑德甚だ高し。

家庭を牛込區富久町百二十八番地に營む。

第二地區委員

正七位　大坪藤朔君

出生地　富山縣
生年月　明治十七年六月十五日
現住所　麹町區飯田町五丁目十二番地
職業　會社重役

承安二年、宋我が白河法皇に書を贈つて日本國王に賜ふと云ふ。明法博士清原頼業、明經の道を兼ね、博學にして事理に通ず、其文の禮を失へるを以て返璧せざるべきを奏した。頼業また中庸を表出して禮記を讀む。宋に朱子出でゝ其所見暗合す。高倉天皇の侍讀となる。實に日本の爲に氣を吐きたる快男子である。

我が大坪藤朔君は清原姓にして其祖を頼業に出す。後裔足利時代、島山常領家に遺骨し、菲國能登に徙む後、上杉謙信に攻略せられて主家滅ぶるに及び、越中に隱る。現在の富山縣氷見町であつて、君は氷見町に移つてより二十代の孫である。先考名は三郎、君は其長男に生れた。累代同地の素封家にして、君は鄕里に於いては富山縣地主會員、株式會社氷見與行取締役、稻荷村尊皇會長を勤めて名望厚く、また東京に在ては、大正九年五月宮内省に出仕して神宮司主事となり、大正十三年休職となつた。

君は十年名家を繼ぎ、宮内省に入つては精勤任を重んじ、正七位に叙せられ、野に下つては公共の事に從ひ、特に尊王の志厚く、明治大帝を最も尊崇し奉り、敬神の念虔にして神宮奉齊會評議員たり、區としては乃木大將の節を尚ぶ。善隣の誼亦厚くして現に飯田町町會顧問として、町治に盡す所多大である。寔に名家後ありと謂ふべく、祖宗の靈を慰むる事、絶大なるものがあらう。

今や、帝都復興の大業興るに當つて、君は第二地區に區劃整理委員として、眷々の至誠を効し、衆公の謀情を吐露して一身を傾け爲に事業の進捗に資する所極めて多い。誠に東京市百年の爲に君の如き材幹を得たるは慶賀に耐へざる所である。

君はまた文を善くし、著はす所二三あり、「前田利家公傳」、「齋藤彌九郎傳」等それである。趣味として和歌を好み、興あれば自ら朗吟して樂しみとなす。まことに典雅尚玄の高士と謂ふべきではないか。所の如き、風格を作すものゝ所以は、先天的には傳從に依るからであるが、君が修養して今日を成す事、もとより多大である。

北陸金澤の他は、昔時百萬石の城下として、文物榮盛、物資豐饒の地であつた。今に至つてもなほ人物の氣宇藥宕なるものが多いのは、其名殘を傳統するのではないか。

我が岸他君は前田家の家臣の家に生れ、父君は永く刑事の職を奉ぜられたが、君は他日常人として國家に一身を捧ぐべく、同地の中學校に入つた。故に學校に在るや各種の運動競技に特に興味を有して技能又優秀たるものであつた。最も特筆すべきは明治三十年八月、中學三年の時當時何人も企て及ばなかつた北日本の縱貫立山に挑のまゝ登山した頑健は北陸學生界に君を最大の勇名あらしめたものである。

君が東京幼年學校體育教官として赴任せらるゝや、君の人格は長官の認むる所となり、同校御在學の北白川、東久邇、朝香各宮殿下の御教育係として滿三ヶ年間を御教導申上ぐるの光榮を有したのである。三宮殿下御卒業後恰も日露戰役の最中であつたので、君は名譽ある出征軍人として各地に轉戰し、日出度凱旋するや、直ちに露西亞研究の爲に幼年校ロシア語科及外國語學校に入り三年間專念に露語及び露西亞の研究に沒頭したが、不幸にも疾の冒す所となつて、遂に軍人を斷念し、休職の後明治四十一年早稲田鶴卷町に書籍及繪葉書店つるや書房を開いた。後明治四十三年現在の營業所を移して以て今日に至る。

君は資性豪毅沈勇、淡泊の人、風貌魁偉にして長髯を有し、常に明晰なる頭腦と堂々たる雄辯を以て侃々諤々の正論を張り、同業組合の幹部が常に營業の盛大と金櫃の力ある人々に依つて成立てるに、正義の力と輿論の力の必要を力說して算の手腕家をも加へたる事は、その業績の一例である。期の如く、古武士の風格を具へて而も溫情常に力弱きものを慕く事慈父の如き君は、同業間に尊敬せらるゝ事厚く、現に東京繪葉書組合幹事長として創立當初より其任に在る外、日本繪葉書出版業組合評議員長、東京書籍商組合評議員、東京雜誌組合幹事、東京圖書雜誌組合幹事等に推薦せられてゐる。附近住民の尊敬も亦厚く、東京麹町區在郷軍人會役員、飯田町青年團々長等の任にあり、今又帝都復興事業に眞劃整理委員として、商務多忙なる中を公共事業の爲に精勤しつゝある事は君の如き人格者にして始めて爲し得る所である。長男龜雄君は早稲田大學政治經濟科出身の秀才である。

第二地區委員

岸他丑君

出生地　石川縣
生年月　明治十一年十一月廿六日
現住所　麹町區飯田町二丁目六十二番地
職業　書籍販賣業

福島縣若松市は東に猪苗代湖の風光を望み、南、東山溫泉を控へ、西高陽山を望む、奥羽地方中央の關門にして衆ぬて景勝の地、古來天下の要衝として重視せられ、舊幕時代に於ては親藩を此地に置いて北奥に備へたり。人心亦不屈不撓の精神あり、天然の要害と不撓の士俗ありて始めて幕府を安からしめたり。

塚原佐吉君は會津の人、嚴君は塚原佐久吉氏にして、若松市七日町に生る。

君は弱冠年に及びて志を抱いて郷閭を去り、東京に出で、現在の事業を開く。

其間粒々たる辛苦を嘗め、盤根錯節を開拓して遂に今日の大を成せる立志傳中の人にして、郷土の所謂「會津强情」は不撓不屈、鐵火も燒く能はざるの大精神となり、遂に成功を得たり。既にして歲月星霜十有餘年、今や業望を荷ふて帝都復興の大業に當り、地主より推されて第二地區土地區劃整理委員に就任し帝都百年の爲に各々の努力を捧げて至公至平事業の進捗を資けて推服せらるゝ事大なり。

君は佛教に歸依し法華宗を奉ず。宗祖日蓮の勇猛心は君の人格に影響せる多大のものたりしなるべし。

趣味としては最も書畫を愛好し、鑑識に於ても一隻眼を有すとぞふ。

夫人いち子は若松市大島貞八氏長女にして君との間一女を擧ぐ。一家極めて美しき圓樂を爲し、春風滿溢の觀あり。

第二地區委員

塚原佐吉君

出生地　福島縣
生年月　明治六年九月四日
現住所　麹町區飯田町四丁目二十一番地
職業　砂利商（塚原商會）

帝都土着の士に取て最も遺憾な事は、東京市を我郷土の如く見る人の尠い事である。多くの人は帝都を自己の野心の舞臺と見、甚だしきは殖民地の如く思惟する。江戸時代に於て、果して我が東京は今日の如く雄然たるものがあつたらうか、まるで寄合世帶の如き有様で、我が帝都民必死の復興事業に於ても、動もすれば野心家に依つて不祥事が釀される狀態で、此際吾人は最も切に土着人の眞劍な活動家の一人でも多からん事を望むのである。

第二地區委員

安西久次郎君

出生地　東京市
生年月　明治十八年五月十八日
現住所　神田區一ッ橋通町三番地
職業　洋傘店（山田屋商店）

君は故長次郎氏の三男、母堂は故いち子刀自である。明治十八年五月十八日、神田區一橋通の現住所に生を享けた江戸つ兒で、此度の復興事業に於ては第二地區から土地區劃整理委員に推され、帝都百年の爲に、鋭に東京市を父母の地として公平無私の措置を講じ、事業の達成に努めてゐるんである。

君は洋傘を販賣して餘る盛大な巨舶株式會社山田屋商店重役たる外、九段坂下に大正デパートメントストアを設立し、最新鋭の榮業政策を以て著聞するの手腕家、やがて九段の大工事竣成して、區劃整理事業も完成した曉には一層地の利を得て發展多大であらうと想はれる。

君家庭には赤坂區青山北町澤木半次郎氏令嬢たるあつ子夫人あり、内助の功厚い賢婦人で、君との間に長男良治君長女英子嬢を擧げ、一家和氣藹々極めて美しい家庭を營みつゝある。

香川縣高松市は、風光綺の如き瀬戸内海に臨む大都にして、白砂青松の間常に海波不斷の樂を奏で、土俗亦皎廓清高にして自ら逢萊境を爲す。

我が國友暢君は明治七年一月十七日を以て高松藩松平侯家臣の家に呱々の聲を擧ぐ。性頴智にして頗る學を好み、夙く郷里の師範學校に學んで小學校本科正教員の免許狀を得、育英の事業に專心したるも後に讃岐觀音寺地方裁判所軍人出納書記を勤め、更に岡山縣に出でゝ土木事業の技手と爲れる事ありき。二十三歳の年、志を中央に寄せて東京に出で、自活の傍ら明治大學法科に學ぶ。法學博士岡田庄作君等君の同窓として親交ありき。明治三十五年蓬雪の功を終へて直ちに飯田橋郵便局長を拜命し、以て現在に及ぶ。其間町治に盡して功績頗る厚く、五丁目町會副會長として特長多大なり。大正十一年七月、勳八等に叙し、其功勞を賞せられ、次で大正十三年十二月十五日從七位に授けられたり。

君は儒教を學んで修養自省怠る事なく、朝起直ちに皇城を遥拜して寶祚の無窮を祈念し、安靖の感謝を捧ぐるの至誠人なりとす。從つて其崇拜するの人物は學志に於て塙保己一を、操持に於て伊藤仁齋を推し、以て君の抱懷を明にす。

今や帝都復興の大業起るに及び、君は第二地區より推されて區劃敵理委員に任じ、其至誠を傾倒して復興の一路に邁進しつゝあるは地區民の推服措かざる所なりとす。

君は松筠と號し、讀書を好み、建築に趣味を有し、書畫骨董を愛玩して鑑識堂に入る。また圍碁に於ける技倆侮るべからざるものありと云ふ。從つて至誠の高風は衆人に景仰せられ、趣味性の廣汎は人の好む處を容れ、交りを求むる人共だ多く、其交友亦當代の高客たり。東久世伯爵、岡田庄作、松田三德、野村素介の諸君即ち之れ。

家庭には子女四人を擧げ長男は早稻田高等學院に、次男は聽星中學に、長女は精華高等女學校に、次女は小學校に在學中なりと。

第二地區委員

從七位
勳八等

國友暢君

出生地　高松市
生年月　明治七年一月十七日
現住所　飯田町區飯田町六丁目番地
職業　飯田橋郵便局長

第二地區委員

中村德次郎君

出生地　東　京　市

生年月　明治二十年四月二十九日

現住所　麹町區飯田町四丁目十五番地

職業　酒　商（三河屋）

中産階級は國家の中堅である。凡そ何れの國を問はず、一國の盛衰を荷ふものは中産階級のそれである。ロマ帝國は貴族の專恣横暴と下層民の虐遇と中流の滅亡に伴つて滅びた。ロシア帝國は堅置なる中流民たくして亡びた。其國に於ての貧富の懸絶を防ぎ、活勤力の源泉となり、安當の思想を抱懐するもの、主として中流階級の力あるのみである。

幸ひにして我國に於ては此階級最も健全に、傳統三千年の歴史に光輝あらしめたるもの、就中、最近半世紀間に於ける興國の大業に携はつて功業を樹つたるもの、悉く中流階級の力である。

今次、帝都東京市の復興事業興り、其事業の偉樹たる區劃整理の業に參與する多くに我が東京市の爲に多年其發展に寄與し來つた中産階級の錚々を網羅し得た點に吾人は大たる欣びを持つのである。

我が中村德次郎君も其一、多年市の爲に自治制の發達に寄與し來り、愛市心一入濃かなるの紳士である。

君は明治二十年四月二十八日、現住地に先代德次郎氏の長男として呱々の聲を揚げた。家業は明治十八年先代の創業に係り、二代たる君に至つて益々家運昌盛である。

なほ君は公共の爲に關する事極めて厚く、在郷軍人會麹町分會副班長として平和時の奉仕に努め、飯田町四丁目町會理事として、町治に寄與し、また同町青年團團長としても幹旋傾倒多大、青年をして方途を誤らしめない。

今次、帝都復興事業興るに及んでは第二地區から推されて土地區劃整理委員となり、帝都百年の爲に寄與して功勞多大、事業の遂捗を資けて公平無私、區民の推服を受けてゐる。寔に事業の爲に、東京市の爲に多大の幸波である。

君は淨土宗を信じて篤信、また極めて多趣味の人である。

家庭には埼玉縣北足郡鳩巣町の人間口磯五郎氏令妹きく子夫人あり、二男二女を擧げてゐる。

杉崎六吉君

出生地　東　京　市

生年月　明治元年五月十五日

現住所　麹町區飯田町六丁目十四番地

職業　染物商（松葉屋）

染織の業は本文文化の中最も誇るに足るものであり、其歴史もまた久しい。傳統久しくして從つて其技も優れ國民も其鑑識に於て甚だ長ずる所があり、之を外國の風俗に比する時は染織の鑑識が外國に於ては專門家の手に委ねられて居るに過ぎないが我國に於ては國民各自が意匠家であり批評家であるかの如き觀がある。故に斯業に從事する人々の苦心もまた尋常ではないが、しかし、最も張合もあるであらう。

我が杉崎六吉君は生粋の江戸つ子である。祖先以來、代々現在の地に住して染物業を營む。江戸人は洗練せられたる趣味好尚の所有者であつた。彼等は最も野暮を輕蔑した。從つて風俗の粋に於ては全日本の先驅を勤め、「江戸好みとなるものは全日本の流行をなしたのである。代々の傳統を江戸に享けた君の家の、其技に於て最も世の好尚を博して今日の盛大を爲せるものは一朝一夕にして成就せられたものではない。

君は明治元年五月十五日を以て、維新の第一年と共生を共にした祥瑞兒である。新興の日本が、三百年の鎖國から覺めて、日清日露の大役に勝ち、世界の大戦に參加して世界の最强たる地位を得るに至つた成長と共成長を同じくし來つた人である。父祖傳來の地が、至尊親臨の帝都と變るの光榮に浴した君が、今や帝都復興の大業の爲に第二地區より推されて土地區劃整理委員として起つに至り、幹旋する所多大なるものあるは、君に取ても本懐とするものがあるからであらう。實に帝都をして世界に誇るべき更生を遂げしむる事は、君に取ては父祖以來の地の爲の奉仕である。孝養の一端であるとも云へる。

君は眞言宗に歸依し、敬虔なる信徒である。家庭には母堂なほ健在し、君の活動を親しく目にして欣んでゐられるが、不幸にして令閨は既に世を去つてない。遺された二男一女は君に對して孝養厚く、圓滿幸福なる營みを爲してゐる。

第二地區委員

石濱寅吉君

出生地　愛知縣
生年月　慶應元年五月八日
現住所　麹町區飯田町六丁目十二番地
職業　ノ

屋張國知多郡は知多半島の全部を占め、東渥美灣を距てゝ渥美半島に對し、南、中京名古屋市及熱田市の大都を控へ、東伊勢灣に臨み、南は同じく伊勢灣を距てゝ浪路島に神城二見浦、良港鳥羽の勝景に對する東海道一の地、風光の美と優勝の地勢と兩乍らを兼ね、加ふるに地味豐饒、人情純朴の郷土なりとす。

我が石濱寅吉君は此地養父村の産、慶應元年五月八日を以て先代利七氏の長男に生る。

慶應は我國封建制下に於ける最後の元號、時運は君の生誕を境として遂に王政古に復り、風雲東奔して新帝都東京市を生む。君が今日帝都に於て活躍するの緣因は既に其生誕の時に於て定まれるが如き觀あり。

今次、帝都復興の大事業に於て、君が第二地區土地區劃整理委員に推されて努力傾倒する處熱誠なるものあるは、平常公共心の發露する處なるべきも、一に宿命的なる奇緣の然らしむるものとも云はざるべからず。何故ならば、君は新興の日本と共成長を共にし來り、今帝都に縱橫の活躍を爲す。而して維新後半世紀に於て著大なる發展を來せる日本の歴史はまた君自身の歴程せる所なれば也。

君が自治界に寄與せる功勞は頗る厚くして大に、現に麹町區會議員に推されて區政に參與し、施設する處多大業堂甚だ大なり。今次區劃整理事業に携はつてまた業人の期待を裏切るなく措置する所公平にして愛當、帝都百年の爲に貢獻して業績大なるものあり、老來益々頑健に國家社會の爲に傾倒しつゝあるは欣慶に耐へざるなり。

君はまた家庭に於ても甚だ恵まれたる人にして、府下北豐多摩郡谷保村俵伯今藏氏の長女たるりゑ夫人は、君に事へて内助の功厚く、君との間三男子を擧ぐ。長男昇之助君は、東京中學を中途にして退き非凡の力量と、偉大の體軀とを以て、梅ヶ谷が日下開山横綱として、其令名を東西に馳せたる當時、同じく雷門下に入り名を石山と稱し泰國力戰二十一歳にして既に入幕し新進名士として角道界に其驍名を謳はるゝ事久しゝ。二男賢朗君、三男猪三郎君は共に家に在り父君を扶けて孝養深く既に令孫をも見て一家の前途益々多幸なるを知るべく、君既にして後顧の憂を有せざるなり。

第二地區委員

本吉正雄君

出生地　千葉縣
生年月　明治十九年十月十三日
現住所　麹町區飯田町六丁目十七番地
職業

千葉縣夷隅郡は上總國夷隅川の流域に在つて、南勝浦岬、東犬東岬に亘る海岸線を以て太平洋に臨識するほとりに在る。我が本吉正雄君は此地東村大字新田野の産、明治十九年十月十三日を以て厳君卯八氏の二男に生を享けたのである。

明治四十年の交東京に移籍して酒舗を開き、共天寶の商才を以て家運を昌んにしたが、其後廢業した。産成り、功を遂げたが故である。

而して令弟はなほ生込に在つて酒舗を開き業を營みつゝある。

大正十二年九月一日の大震火災は君の家をも灰燼と化せしめたので、其後府下下落合に移り、麹町飯田町六丁目十七番地の舊居を管理しつゝ今日に及んでゐる。

其緣故より、此度撰されて帝都復興事業の基礎的事業たる土地區劃整理の爲に起ち、委員に推されて帝都百年の爲に傾倒する事深甚である。而して施設公平、愛當の措置を講じて事業の進捗を資け、地區民の尊敬甚だ大である。

君は人格者である。君を識る者は君を賞讃するに第一に此語を以てする。其名望は其人格に生ずるのである。

家庭にはのお子夫人あり、夫人は牛込改代町三十二番地小寺榮藏氏の長女。君との間に長男正敏、二男令兄、長女靖枝、三男三郎の諸兒を擧げ、一家極めて平和、談笑不斷の團欒をいとなむ。

積善の家餘慶ありと云ふべきである。

勳八等　小林幸太郎君

出生地　山梨縣
生年月　明治十四年二月十二日
現住所　麹町區飯田町二丁目五十六番地
職業　會社重役

山梨縣の地、東は甲武信、箱根の諸峯を以て東京、神奈川と境し、南は富士の巨嶽聳ゆ、北は國境、金峯の二岳連亙し、西は駒ケ嶽信濃と境す。四面悉く、巨嶽高峯に包まれて古來風俗純美、民情頗る剛毅である。封建戰國の世、皇都武田信玄此地を治めて、人は即ち城、城は人に如かずと豪語し、群雄をして顏色なからしむるものの、一面此人情に頼る所があつたからではないか。

我が小林幸太郎君は即ち、中巨摩郡小井川村の人、素封家小林音吉氏の長男に生れた。君、此の烟霞境に生ふて人と爲り頗る敦厚にして、また純忠至誠の人である。興國の戰ひには國家の干城となつて、義勇公に奉じ、和平の間に在ては克く隣人の富を厚くし、然諾を重んじて、仁俠事に遊し、衆人に推戴せらるゝ事多大である。

大正十年には、麹町區に區會議員候補者に擁立せられ、君を推せる者は悉く、身命を切り、手繩當を以て驅動に狂奔して君の當選に力を盡した。依て君は無人の野を行く知き勢ひを以て當選し、爾來引續き區政に盡瘁して人々の期待を滿足せしめてゐる。猶ほ其他公職名譽職に推されて斡旋大いに力めてゐるが、決して自らの事業を誇る所なく、謙讓自ら下る底の好紳士である。

君はまた江東製氷株式會社に專務取締役として、社運の隆興に資す所頗る厚く、其實權を委ねられて我々として其快腕を採つてゐる。

今や帝都復興の業興るに及び、抽されて第二地區區劃整理委員の職に就いた。參畫する所公平にして委當、地區民の敬重一に君に歸るの感がある。やがて帝都面目を革めて現出する時、君の令名は永久に市民に依つて記念せらるゝであらう。

家庭には令夫人との間、二男一女を擧げ、一家和樂諧和、春風永へに吹くの觀がある。此家庭を見るもの、君を識ると識らざるとに係らず健羨之を久しうする。

石山靜輔君

出生地　埼玉縣
生年月　明治十五年七月十三日
現住所　府下北豐島郡長崎村大字百三十番地
職業　三菱倉庫株式會社員

天の未だ陰雨せざるに迨んで國戸を綢繆すと詩經に見えてゐる。帝都及び其隣接たる横濱港は、先年の大震火災に依つて、見るも云ふも無殘なる崩壞燒亡を來したのである。此爲に、巨億の富は失はれた。今次の復興事業は再び之を繰返さざらんが爲である。而して、其百年の爲には、あらゆる機關を設けねばならぬ。單に物質的豐富のみでも不可である。機械力のみでも不可である。要は人智の能ふ限りの準備を以て再來の可能なる災害に備へねばならぬ。復興の術に當るものに、人材を要する事は、最も切實な問題である。

我が石山靜輔君は、埼玉縣北葛飾郡八代村大字戸島に生れた。殷女は篠崎正三郎氏で、君は其次男である。若くして石山知親氏の養嗣子となり、東京高等商業學校に入學した。東京高等商業學校は今の東京商科大學の前身で、昔から、此校の入學試驗の難は、受驗者の最大脅威であつた。君は首尾好く、此學校に入學し、又首尾よく優秀の成績を以て榮譽の功を終へた所の秀才である。後村である。故に明治三十七年卒業するや直ちに三菱銀行に入り明治四十一年三菱倉庫株式會社に轉じ、今日に及んだのである。三菱は各學校卒業生で夠も實業界に志を寄するものゝ理想境である。直ちに之に入り得た君の成績たるや想像に難くない。

君は重望を負ふて整理事業の衝に當つてゐる、其明敏の頭腦と經快の手腕を以て事に處すれば、必ずや功績著大のものがあらう。此地區委員中の白眉たるを失はぬ人で、此地區と云はず、都市の爲の幸福である。

君は佛教を信じて、信仰厚き人である。趣味としては、謠曲及圍碁がある。以て其人と爲りの閑雅風流たるを知り得やう。古雅淑女の趣味、自然への愛の床し心遣ひ悉く君の性格の發露であると云へやう。

市外長崎村五三〇の家には良妻賢母とし才人なる夫人みよ子を間に三人の令息がある。君の繼愛を誇めて一家和氣藹々たるものがある。

第二地區委員

勳八等　齋藤三郎君

出生地　新潟縣
生年月　明治九年七月二十六日
現住所　麹町區飯田町三丁目十番地
職業　洋品店（喜久屋）

君は明治九年七月、新潟縣中蒲原郡村松町正興氏の二男として生る、幼より性質温厚にして事に當るや明敏、併も泡るゝばかりの濃情を有するが故に、一度び君の謦咳に接するものは其心情に推服せざるはないといふ人間味タツプリの性格の所有者である。

而して夙に商才に長じた君は、商業を以て皆米の家業となさんと志し、年少にして既に幾多の商事に從事したが、明治二十七年、満々日清の國交は顧絶して東亞の風雲頗る急を告げ、遂に兩國間に戰火を交ゆることとなつた、當時君は現役中に在つたが、國家の危急を双肩に擔つて逸早くも朔風吹き捲くる滿洲の曠野に雄々しくも出征した、次で明治三十七八年、日露の戰役にも選ばれて從軍するの光榮を得て東洋平和の維持の爲めに奮起限りなき北滿の野に轉戰し其功績大いに見るべきものがあつて、其戰功は當然ひらるべきものであつた、即ち、君は上等兵に昇進し勳八等に叙されたのである、得意の凱旋勇士はいよ〳〵專心に商業に從事すべく明治三十九年現在のところに袴の仕立屋を開業し、後に洋物店を併設して我々其の家業に勵精した、天賦的の奇才は縱橫無盡に揮はれて家運は隆々乎として擧がり、繁榮誠に素晴しきものあつた、之れより先、君は帝國在鄕軍人會設立に尊與し之れが創立委員として其の成るに及び麹町區分會第九班長に擧げられ、大正四年には特別會員となりて同分會の爲めに献身的の努力を捧げたので會員一同よりは非常なる尊敬と信頼とを受け、青年團長としては青年の指導に當る又麹町實業同志會幹事、飯田町三丁目町會委員、同三丁目防會計に擧げられ、それ〳〵貢獻する處多く今後と雖も尚君に期待するもの多きに至れるは特筆すべき事實である。

殊に帝都の復興に當り區劃整理委員に推選せられて之れが關置に奔走して止まざるは眞に地區民の幸福に止まらず帝都更新上感謝すべきである。

君又趣味の人にして大弓、有樂流茶法、遠州流生花等をよくし松廼雪水と上知名である。又自己の好むところに從つて大弓場を設置して同好の士に歡樂を分つなど家業に勤むる傍ら克く社會的にも活動して居る事は故郷に近ない、大震災に際しては渾身的の活躍をなして區會より感謝狀を得たるが如き、君の日常を證して餘りある。

第二地區委員

笹田政治君

出生地　東京市
生年月　明治十八年八月五日
現住所　麹町區飯田町二丁目六十三番地
職業

至尊親臨の東京市、一度び大震火に遭ふや、夙くも遷都の議を唱へたるもの出で來り、市民悲憤の思ひを以て此議論に對するの止むなきに及べるは、猶我等の胸中に新たなる記憶である。幸にして、至尊我東京を見捨て給はずして、二重橋廻線の危急ミ濃やかに、朝夕、之を仰拜し得る幸慶は、我等の恐懼し、感謝する所である。此事に鑑みても、東京市民は再び我が愛する東京をして再び彼の災禍の大を繰返へさるべく努力せねばならない。

這は實に我等市民たるものゝ責務である。我等は大いなる決心を以て、至尊の御駐蹕たる光榮を全ふし、併せて至尊の大御心に對へ奉らねばならぬ。

幸ひにして、復興の意氣市民の間に湧汗して燃ゆるが如きものあり、此機會に急なる整理委員に濟々たる多士を集め得たるは、大いなる欣びである。就中、我が笹田政治君は委員中稀に見る學識ある才腕あり理智ある人として、頗る異彩を放つてゐる。君の如き、科學的教養あつて、事務的才能を併せ有する人材は、容易に之を求むる事能はざるものである。

君は東京市に生れたる江戸つ兒で、麹町區富士見町小學校を卒へて、第四中學に學んだ。而して、中學を卒へて直ちに東京高等工業學校入學試驗に應じて美事此難關を突破し、電氣化學科に學んで榮譽の功咎しからず、明治三十九年、卒出度卒業の榮冠を得たのである。

君は嚴父靖夫氏の四男に生れた。而して、嚴父の家督を承繼し、卒業して銀行を經營し、傍ら農商務省地質調査所、工業試驗所、鑛山局に勤務した。以て君が多方面の材幹なるを知るべきである。大正三年致仕して專ら實業界に趣味し、以て今日に及んだのである。今や第二地區區劃整理委員として、明敏の頭腦と手腕とを以て事に當りつゝある、地區民の期待する所多大である。

夫人香子は沼津市の人、君との間に三男一女を擧げ、琴瑟相和せる家庭を營む。

第一地區委員

關野廣恭君

出生地　長　野　縣
生年月　明治二十五年五月十九日
現住所　麹町區飯田町三丁目七番地
職　業　乾海苔問屋（關三商店）

紫菜は東京附近に產する所謂淺草海苔を以て最上と爲す。其濫觴を遡ぬるに德川幕府初期、品川灣に於て網を養魚せんが爲に海中に廣袤を劃み植糸、日を經て之を驗するに恰も木の芽の如きもの發生す。之の稍々長ずるに及んで土人採つて喫ふに味淡泊にして佳香あり、次第に食用として行はるゝに至る。海苔は四面環海の我國に於て、天賦の產物として國民常用の食と爲り、延喜式に所謂、伊勢、三河、出雲、石見、紀伊の青海苔は藤原朝時代より常用せられしも、淺草海苔は其高貴の點に於て遙かに隱絕せる需要ある に至れり。實に我等が乾海の誇りなりとす。

我が關野廣恭君の家は乾海苔商の巨擘、關三商店として斯界に雄視す。乾海苔は最も堅歩せる榮養の處理法にして、元來品用大森の海邊にて採取せるものを淺草にて精製せるに依て其名あり、都人士の纖細なる味覺に最も適したるもの乾海苔に如くはなく、登貴の階部にも奉獻せらるゝ貴重食料品たり。

君の家の取扱品は其風味材料の精選に依つて殊に其名高く、業務甚だ盛んなり。されば推されて東京乾海苔仲買商組合顧組長の重任に在り、益々業界の發展、食糧品としての高き地位を保つに努力しつゝあり。

今次帝都復興事業興るに及んで第二地區より推されて土地區劃整理委員となり、措置する所至公至平、地區民推服の集る所となる。以て君が社會公共の爲に抱懷する一端を窺ふべし。

君は長野縣諏訪郡中洲村大字幅島の人、家は代々鄕里に於て農を營む。

君は若くして東京に出でゝ辛苦の後太正三年現在の業を開き、天賦の才腕は數年ならざるに業務の機運を放して今日に及ぶ。齡未だ而立中ばを出でたるのみ、其前途の益々多望なるべきは論を俟たざる也。

家庭には本鄕區切通坂町十番地加島榊之助氏三女英子夫人あり、君に仕へて內助の功厚く、其間三男子を擧ぐ。

第二地區委員

前田幸造君

出生地　東　京　府
生年月　明治三十七年二月二十五日
現住所　府下北豐島郡高田町高田千四百六十七番地
職　業　牛乳搾取業（北長社）

牛乳は今や世界何れの國を問はず、重要なる食糧品となつてゐる。或は母乳に代る營養料として、或は調味料として、或は日常飲料として、其需要の大なる之を半世紀前の、否二十年前の狀況と比べて我國に於ては多大の發展を來し、從つて斯業に依つて產を興した先驅者は尠少ではない。

我が北長社牛乳店も我國牛乳搾取販賣業の先驅者である。

現在の經營者は當年二十三歲の青年たる、前田幸造君で、先代以來久しく斯界に著聞する巨舖である。

前田幸造君は未だ早稻田大學に學ぶ學徒で學業の傍ら家業に從ひ、更に公共事業に迄翼を張りつゝある敬仰すべき青年である。

店舗は麹町區飯田町に在り、牧場を雜司ヶ谷に有して良種の乳牛を飼育し、商品の優良を以て聞えてゐる。

君は年こそ若けれ、其營業上の手腕に至つては遙かに多數の先輩同業者を抜き、今や其舖は從業員の一致團結して若主人を助くる事に依つて一層赫々たる大發展を示さんとしつゝあり、靜岡縣賀茂郡宇久須村松下恒、岩手縣二戸郡米村千原三太郎、德島縣美馬郡東貞谷村阿佐宮一郎、北海道夕張郡夕張町井上松次の諸君は悉く緣故の人で、悉く熱心業に從ひ、其傍ら苦學してゐる人もある。

君は斯の如く一方家業に從ひ、他方學業に勉め、更に今次帝都復興事業興るに及んでは第二地區々劃整理委員に任じて帝都百年の爲に新鋭の力を添へてゐる。

前途春秋に富める其將來は、大東京の再生と相俟つて更に汗々たるものがあらう。

安藤の噴煙蹴々として天に騰り雲に化し、悠久無限の大自然の神秘を顯し、白川の流れ昼夜を舍てず流れ去つて筑紫潟に注ぐところ、肥後の由河は人生の幾變遷を見たであらうか。

南北朝の悲史に於ける菊池一族の孤忠も、加藤氏、細川氏の生涯も、遥くは明治十年役の攻閉も、すべては過去の夢となつた。

その熊本の自然は今我が工藤角三郎君を生んで之を東京に送つたのである。

君は此地熊本市唐手反畑町の人、大正元年東京に籍を移した。嚴君は貝三氏、君其二男。

熊本の由河は、君を東京に送つて紫殼の下に共郷土の誇りを示さうとしたのである。

君は自治の爲に、殊に麹町區の自治の爲に共有終の美を成さしむべく努力した。

自らの爲に、眼前の事の爲に、人は兎もすると已れの生くる社會を忘れるものである。

しかし、君は社會の爲に先づ己れを忘れた人であつた。

多年の君の功勞は、今麹町區名譽職待遇者たらしめてゐる。區の元老の地位である。

また飯田町五丁目町會は君を推して町會長たらしめた。君は自治の爲に施設した處を以て、その手腕を以て、町の平和と發展の爲に盡してゐる。

更に此度帝都復興の大業が興るに及んで第二地區土地區劃整理委員に擧げられた。

社會の爲に身を捧げて惜まない君の熱度は此も渝る事がない。帝都百年の爲に、郷土の誇りの爲に、孜々として事に當つてゐる。

九州男兒は利己の爲に世に在るものではない。之は君に依つても世間に周知せしめられた。

家庭には麻布區北日下部町松下尚吉氏の二女雅治夫人がある。

長女春野壌は神田駿河臺北甲賀町櫻井義定君に嫁し、二女美枝嬢、四女雪枝嬢、五女靜江嬢、長男千春君は、家庭に在つて兩親のあたゝかい愛に浴してゐる。

第二地區委員

工藤角三郎君

出生地　熊本縣

生年月　明治三年二月十五日

現住所　麹町區飯田町五丁目三十八番地

職業　出版業

第三地區　東京市施行

大正十三年七月二十九日東京土地區劃整理委員並ニ同補闕委員ノ選擧ヲ行セタリ

土地區劃整理委員

一番　株式會社日本興業銀行出席者　議長　酒井田四郎（代理）

二番　日清生命保險株式會社出席者　尾崎豐（代理）　佐伯叔作（代理）

三番　株式會社三越呉服店出席者　朝倉文夫（代理）

四番　三菱倉庫株式會社出席者　新野傳吉（代理）

土地區劃整理委員補闕委員

土地所有者

三菱資合會社

借地權者

財團法人警察協會

地區々域

麹町區元衞町、大手町二丁目、大手町一丁目ノ一部、道三町ノ一部、錦町、永樂町二丁目ノ一部

整理前後宅地道路面積比較表

總面積	整理前 宅地	整理前 公共用地	整理後 宅地	整理後 公共用地	減歩率
一二五、三六〇	九四、八二六	三〇、五三四	八四、四六〇	四〇、九〇〇	〇・一〇九

委員會經過ノ概要

一大正十三年八月九日　第一回委員會開會、議長副議長ノ選擧ヲ行ヒ、委員ノ席次ヲ定メ、議事規則議定ノ件ヲ審議シ、之レヲ修正可決ス

一同十四年六月十一日　第一號整理前土地面積決定期日ノ件、第二號換地位置決定ノ件ノ諮問アリ審議ノ結果、第一號案ハ豪帳面積ヲ七月三十一日現在トシ出願期日ヲ七月二十日ニ修正可決シ　第二號案ハ保留ス

一同年九月七日　第二號案ニ付キ審議シ原案修正ノ上假決議ヲ爲ス

一同年十二月一日　第二號案ニ付キ審議シ前回假決議シタル分ヲ本決議シテ可決ス

一大正十五年三月八日　第三號整理前路線價指數並ニ各筆坪當リ平均指數ニ關スル件、第四號整理後路線價指數並ニ各筆坪當リ平均指數ニ關スル件、第五號換地面積決定ノ件、ノ諮問アリ審議ノ上三案共委員附託ト爲ス

株式會社 日本興業銀行

所在地 麹町區永樂町

興業の盛否は一國興亡の岐るゝ處にして、世界列國孜々此點に力を盡して官民一致其成功を見んと努めつゝあり。我國が僅々半世紀間に於ける大なる興隆も亦我が興業界の先覺者に負ふ所大なり。日本興業銀行は我國工業に對する金融機關として斯業の發達に寄與し、貢獻淺からざるものあり、實に我が興業界の恩人なりと謂はざるべからず。

本行は明治三十三年、日本興業銀行法に基き資本金一千萬圓を以て創立、三十九年開業せるものにして其業務漸を追ふて發達を遂げ有價證券取引に關する途を拓き、外資輸入機關となり、信託業務を兼營し、今や資本金五千萬圓（全額拂込濟）の大銀行として日本橋、大阪、神戸に三大支店を有し、本店は其營業所を、帝都の中心市街地たる麹町區永樂町に卜し、建物の宏壯雄大なる、實に復興大東京の一大偉觀たり。役員は總裁小野英二郎、副總裁松本重威、理事松本弘造、寶來市松、天宅敬吉、監査役大場多市、岩佐堤雄、八條隆正の諸君等斯界第一流の人物を網羅す。

抑々興銀の貸付業務の安全確實なる事は既に定評あり、就中之が資金吸收の爲に同行の發行する興業債券は本邦財界に於ける第一流の證券として最も優越なる地歩を占め、他の追隨するを許さざる確實絶對の基礎及信用を有す。而して之を産業方面に放資し、また公社債の募集引受事業に用ひ、社債或は第一流事業會社の社債株券に之のみ放資す。這は一面、同行の信用程度の絶大なるを物語る材料の一にして更に他の同業者と同樣一般業務に從事する外、關東地方大震災の爲損害を蒙れる商工業者に對して特に低利資金融通の道を開き、復興事業に寄與する處多大なるものあるに加へて、今次帝都復興事業さるゝに及んでは、推されて區劃整理委員の任に就き帝都百年の爲に寄與する處更に大に、措置する處公平無私なり。

今次新築せる同行の建築は復興事業中の粹にして、模範たるべく、就中其大規模の金庫は如何なる大火大震にも絶對安全を期したる苦心の跡歴然に耐へざるものあり、現金金庫は巾二十尺長さ三十五尺、高さ九尺、保護預金庫は巾二十尺長四十五尺高さ九尺、共に鐵筋コンクリート壁の内部に厚二分ノ一吋の特種鋼板を以て張廻し外壁と鋼板との間には空隙を設け過氣及火災を防がしめ入口扉は保護預の分圓形にして厚さ二十三吋、現金庫の分は長方形にして十八吋强あり其他周密堅固の裝置を有する事驚異すべし。

株式會社 三越呉服店

本店所在地 日本橋區駿河町

三越呉服店の名は、殆んど世界的である。帝都東京の誇りとして、既に東京名所の一に數へられてゐる。それは大江戸の時分、越後屋の昔からさうであつた。延寶元年、今から凡そ二百五十年前、三井高利が始めて本町一丁目に呉服屋を開き、天和二年、駿河町に移り、更に明治二十六年合名會社三井呉服店と改稱して以來今日に至る迄、店運は日に月に盛んに、殊に明治三十七年株式會社三越呉服店に改めてからは、日比專務の經營宜しきを得て水際立つた發展を來したのである。以前駿河町の店は今の三井銀行の所と現在の場所との二ヶ所に在つた。當時、駿河町と云へば越後屋の事とうなづかれたもので、當時の川柳に

駿河町他國のものにはびとられ。

駿河町一圓これを領すなり。

一町は餘の買物のないところ。

江戸の駿河にも日本一があり。

越後屋も江戸一見の道具也。

などゝあつて、今も昔も有名な店舗であつた。

現在は資本金一千五百萬圓（内拂込濟九百萬圓）の大會社で、支店を大阪京都に設け、出張所を桐生、京城、大連に置き、分店を大震災以後市内數ヶ所に設けて物資の供給に當つたが、後秩序の回復につれて新宿青山のみを存置し、以て今日に及んでゐる。現在の役員は專務取締役倉知誠夫君、常務取締役は小田久太郎君及び濱田四郎君であつて、敏腕家を網羅してゐる。

又店舗の營業品目も單に呉服にのみ限らず、

羽衣の外は因らぬ駿河町。

と云つてゐるやうに、百貨悉く備はり、東京一のデパートメントストアとして名實共に盛大である。

今や帝都復興に當つて、三越呉服店は第三地區に區劃整理委員として、濱田四郎君代理出席し、幹旋する處多大である。江戸名物の老舗として、其復興の榮譽に參するは、復興事業の爲にも大いなる力强さである。やがて帝都更生の暁には、更にます〳〵其繁昌を加へ來らん事、豫想に難くない。

日清生命保險株式會社

本社所在地　麹町區永樂町二丁目十番地

皇國の興亡を賭した日露戰役は、實に有史以來の國難であつた。夫に取殘された妻、子に立たれた父、妻に遂されたる幼兒などと到るところに哀話があつた。此國情に憺然として起つた巨人がある。世界的の政治家たる大隈重信侯であつた。

即ち此悲しむべき慘狀から、今後の忠誠なる國民をして後顧の憂なからしめん事を思ひ、侯を中心に早稻田大學を背景として、一大生命保險會社設立の運動が、壯世的に起つたのである。

然も我國のみではなく、東洋永遠の平和のため隣邦支那にも及ぼんとする、善隣博愛の意味から、早稻田學園出身の名士四十有餘名も發起人として、明治三十九年正月に、第一回主唱發起人會を開き、侯自ら出席して議を練り、遂に四十一年一月創立總會を招集し、社長に前島密男爵、專務に池田龍一君、取締役に早田口元學君外數界の敏腕家夫々就任し、諭澤子、中野武營、相馬永胤、高田早苗の諸君を相談役として同年三月京橋宗十郎町に花々しくも晴れやかに開業した。

これが日清生命の搖籃で、陳容を質實にし、業務の性質から華美な政策を度外視して着々業績を擧げ、創立後三年で契約高一千萬圓に上り、次で三年目には二千萬圓に達し、現在に於ては實に一億三千餘萬圓を突破するに至つた。これが十八年目である。

現在の社長は池田龍一君で多年獨乙に留學し、後早大講師となり、同社の創立以來その苦勞を共にして來た人だけに、社務に熱誠なる點は洵に敬服すべきだ。

重役は殆んど早大直系の有力なる實業家が網羅せられてゐる。其資產狀態は十三年度末に於て二百萬圓の巨資と二千萬圓の資產を有し、東京總町有樂町に本社を支社を全國十二大都市に設けてゐる。其順調なる伸展はやがて其勢力を支那南洋及印度にまで及ぶも近き將來と觀測されてゐる。

今回、日清生命を代表して第三地區整理委員として帝都復興の樞機に參ずる人は、同社の支配人たる佐伯叔作君である。君は池田社長と故鄕は同じく愛媛縣の人、大正元年に入社以來會計、調査兩課長を經て十年一日の如く社務に盡瘁し、全社の信敬を受けてゐられる本年不惑を出ずる五歲、前途洋々たる紳士であり、稀に見る人格者である。

三菱倉庫株式會社

麹町區八重洲町一丁目一番地

三菱倉庫株式會社は現在本店を東京市麹町區八重洲町に置き其の支店を東京を始め横濱、大阪、神戸、門司等の各重要都市に設置し普通倉庫業、私設保稅倉庫業、棧橋及び船舶繫場業、船內荷役業、貨物陸揚業、稅關貨物取扱業、運送業及び委託販賣業を營業科目の主たるものとして、斯業界に於いては正に一大權威として他の追從を許さぬ地步を獨占してゐる。

親省である同社の設立は明治二十年の事に係ると雖も其の起源に至つては更に遠く遡り彼の郵便汽船三菱會社時代である明治十三年三菱爲替店を開き金融業と共に倉庫業を經營せし時代に在つて本邦倉庫業界の魁祖である

明治十三年に開業せる三菱爲替店は其の後同十八年に至り、海運事業と共に其の業務を閉鎖する事となつた爲め、明治二十年四月川田小一郎氏、莊田平五郎氏等が相謀り舊爲替店倉庫の貸與を得て倉庫會社を經營し東京倉庫株式會社と稱して開業したものである。

開業初期に於ける資本金額は僅かに金十萬圓であつたものを翌二十一年更に之を增資して五十萬圓とし營業を盛大に驅進し、將來益々有望なるものあるを以て三十二年に至り、三菱合資會社が之を買收し斯業の經營に從ふに及び茲に倉庫事業の發展を見るに至つたのであるが、漸次事業の隆盛に赴くに伴ひ明治四十年六月百五十萬圓を增資して資本金貳百萬圓とし後ち彌々業務の擴張すると共に、設備の改善を計り更に增資の必要あるを認め大正七年名稱を三菱倉庫株式會社と改め資本金を一千萬圓に增加し、今日に至つてゐるのである。

帝都及橫濱市復興の爲め區劃整理事業の擧あるや第三、五十五、五十八地區、及橫濱第十三地區の法人委員となり、前記の地區別に左記諸氏を出席せしめ、本事業の目的達成に一役の盡力を寄せてゐるが此の兩者の盡力に負ふ處は蓋し尠からず、其の實績は大なるものがある。

第三地區　出席者　新野傳吉君
第五十五地區　出席者　小城德太郎君
第五十八地區　出席者　谷木伊太郎君
橫濱第十三地區　出席者　江川時三郎君

第四地區　東京市施行

大正十三年六月十四日東京土地區劃整理委員並ニ同補闕委員ノ選擧ヲ行ヒタリ

土地區劃整理委員

十二番　議長　光田幸次郎（權）
一番　金光甫夫（權）
三番　愛國生命保險株式會社出席者　星島二郎（地）
五番　渡邊保全株式會社出席者　齋藤利光（地）
七番　青木　亨（地）
九番　神宮奉齋會出席者　岡崎將次（權）
十一番　三井合名會社出席者　好春（地）
十四番　手島　知健（地）
十六番　副議長　櫻井小太郎（地）
二番　塚原嘉藤（權）
四番　高田貞三郎（權）
六番　小川小三郎（權）
八番　西川貢造（權）
十番　東京電燈株式會社出席者　加藤芳太郎（權）
十三番　三菱合資會社出席者　村上光彌（地）
十五番　新野傳吉（地）

委員ノ移動シタルモノ

七番　萬歲生命保險株式會社　失格シタルニヨリ渡邊保全株式會社補充ス

土地區劃整理委員補闕委員

土地所有者
白田謙四郎
借地權者
尾本安次郎　三浦覺玄　市川宗太郎　上田亀吉
山口支郎　小谷美太郎　三芳長松　小林光榮

地區々域

麹町區有樂町一丁目ノ一部、有樂町二丁目ノ一部、有樂町三丁目

整理前後面積比較表

總面積	整理前 宅地	整理前 公共用地	整理後 宅地	整理後 公共用地	減歩率
五四、三九六	三四、六九三	一九、七〇四	三〇、五九三	二三、八〇四	〇・一一八

委員會經過ノ概要

一大正十三年七月二十四日　第一回委員會開會、議長副議長ノ選擧ヲ行ヒ、委員ノ席次ヲ定メ、議事規則議定ノ件ヲ審議シ之レヲ修正可決ス

一同年十月二十五日　第一號整理前土地面積決定期日ニ關スル件、第二號整理前土地各筆坪當リ平均指數ニ關スル件ノ諮問アリ、第一號案ヲ原案通リ可決シ、臺帳面積ヲ十一月二十日トシ出願期日ヲ十一月十日ト決定シ、第二號案ハ路線調査ヲ委員ニ附託シ、更ニ第三號區劃整理後路線價指數ニ關スル件、第四號換地位置決定ノ件ノ諮問アリタルモ第三號案ヲ委員附託ト爲シ、第四號案ヲ保留ト決ス

一同年十一月十四日　第二號案、第三號案、第四號案ヲ審議シ、第二號案ノ中日比谷電車待避線通リ路線價指數ヲ修正シ之レニ伴フ各筆坪當リ指數ノ修正ヲ爲シ、他ハ原案通リ可決ス、第三號案ハ特別委員會ノ修正通リ可決シ、第四號案ハ次回迄保留トナル

一同年十二月十二日　第四號案ヲ審議ノ上全部可決ス

一大正十四年二月二十七日　第五號換地面積決定ノ件ノ諮問アリ、三月四日協議會ヲ開會シテ議ヲマトメルコトニ決定ス

一同年三月十九日　第五號案ニ付キ開會シ、直チニ協議會ト爲シ之レヲ協議ス

一同年四月十日　第五號案ニ付キ審議シ、一部修正ノ上全部ヲ決定可決ス

一同年六月二十二日　第六號換地位置並面積變更ニ關スル件ノ諮問アリ審議ノ上原案通リ可決ス

一大正十五年三月二十五日　第六號換地位置並面積變更ノ件ノ諮問アリ審議ノ上原案通リ可決ス

第四地區委員（議長）

光田幸次郎君

出生地　佐賀縣
生年月　明治十一年一月二十八日
現住所　三麹町區有樂町一丁目一番地
職業　賣藥販賣（みのる屋）

君は佐賀縣西松浦郡伊万里町の人、光田駒太郎氏の次男に生れた。明治二十七年、年十七歳にして行路遙かなる東京に出で、築地工手學校に入學し、爾雪の勞數年に亘て明治三十一年學を卒へて佐世保鎮守府に勤務した。後轉じて東京モスリン會社に入り、更に苦學多年の後、大正五年現在の地に居を卜して獨立し、みのるやと號する賣藥店を開いたが、爾來、君の非凡なる商才と、誠意ある人格とは、次第に其地位を拓き、現在に於ては斯界屈指の盛大なる營業を營みつゝある。

君は他面に於て公共の事業に盡す所頗る厚く、同區公民會理事として自治行政の改善進歩に貢獻する所多大にして、有樂町人會の設立に奔走して功績絶大、現に麹町の地位に在る。また育英の事業に盡して麹町區教育會評議員、日比谷小學校兒童保護者會常任幹事、麹町區青年團理事等の任に在り、其他機會ある毎に其懷抱せる志を伸べ業望極めて厚い。この故に今次の復興事業に於いては第四地區の區劃整理委員會に議長の責に在り、三井、三菱を始め、櫻井小太郎君、金光庸夫君、星島二郎君等の委員たる堂々たる顔觸れの中に、此責任を帶びた事は、君の人望と手腕を明白に物語るものである。また、之等の人材を網羅して本地區の整理事業は他の地區に範を示す施設行はれ、市内各地區中最も注目すべき一區劃として知られ、また其位地の性質上、帝都再建の上に及ぼす影響大なる關係を持ち來るものである。從て本地區に會議長たる君の責務たるや、頗る重大である。

君、家庭には夫人拳子あり、君が精勤の内助者として功厚く、君また之を多とし恍惚遙だ和し、其間五男一女を擧げてある。長男隆家君は法政大學に學び、三男博君は海城中學を卒へ、四男英男君は麻布中學に在る。五男幸男君は攻玉社中學に在學し、六男六郎君、長女千代子嬢は猶ほ日比谷小學校に在學中である。外に於て業望を荷ふ君は家庭に在りても惠まれたる人と云はねばならぬ。

第四地區委員（副議長）

櫻井小太郎君

正五位勲四等工學博士
出生地　東京市
生年月　明治三年九月十一日
現住所　牛込區市ヶ谷仲之町二番地
職業　建築士

君の祖父君は加賀金澤の藩士にして、殿父櫻井能監氏は維新後内務省及宮内省に出仕し、新興日本に功績少からざりし人傑にして後錦鶏間祇候を拜せる名譽の人である。

君は明治二十一年、若冠にして英國に留學し、倫敦大學に入り建築學を專攻した。明治二十三年、異數の成績を以て卒業し、明治二十五年には英國王立建築士會試驗に合格して「アソシエート・オブ・ゼ・インスチチュート・オブ・ブリチッシュ・アーキテイツタ」の稱號を得、夫が識られざりし極東日本の爲に萬丈の氣を吐きたるもの、此父にして此子ありと謂ふべきである。歸朝後、明治二十九年より四十四年に亘つて海軍技師に任ぜられ、此間明治三十七八年戰役に功を樹て、勳四等に叙せられた。明治四十四年、野に下つて三菱合資會社に入り、地所部技師長の職に在り、大正四年工學博士の學位を授與せられた。三菱に在る事大正十二年迄十餘年間、其年五月には獨立して建築事務所を開き、其經驗と達識を以て斯界の權威たるに至つた。爾來今日に及んでゐる、君は名家子孫の名を繼はし、以て一世の仰ぐ處と爲る。

今や帝都復興の大業興るに當り、推されて第四地區區劃整理委員に副議長の任に就く。專門的學識に於て、其間歴に於て、斯の如き名士を得たるは第四地區以外に比倫を見ないのである。翼り、同地區の幸福たるのみならず、東京市の爲に欣ぶべき事で、何ものにも換へ難き心強さを感ずる。而も君は逸稿を飾らず、虚心坦懐に將來の誠を効し、地區民の尊敬も從つて一層多大である。

家庭には賢婦人範子あり、夫人は子爵日野西資博君の令妹にして君との間一男六女を擧げ、長男廣一君は東大經濟學部を卒へて三菱銀行に勤務し、長女安藝子嬢は蹉見高等女學校を卒へて醫護士穂坂重威君に嫁し、二女靜子嬢は日本女子大學附屬高等學校を卒へて倉島伍郎君に嫁してゐる。

第四地區委員

議員 議院 金光庸夫君

出生地 大分縣

生年月 明治十年三月十三日

現住所 麹町區有樂町二丁目二番地

職業 會社重役

君は大分縣の人、明治十年三月を以て、呱々の聲を揚ぐ。經君は金光芳藏氏、君其次男たり。明治三十一年家督を襲ひ、戸主となる。

資性優敏にして公共心に厚く、起居常に國事を忘れざるの士にして一世の讃仰甚だ厚きものあり、推されては衆議院議員に任じて國政に參與して功績多大、實業界に在ては保險事業及鐵道事業に力を注ぎて帝國の進運に寄與し、擧げられて商業會議所議員となる。

君始めは志を官界に寄せ、三十年の久しきに亙つて專ら役務に携はる。曾ては福岡縣下の役務署長、長崎役務監督局員たりき。

明治四十一年に至つて始めて實業界に入り、其保險界に、鐵道會社に功績せるもの甚だ多大にして、現に四方面の重鎮として一方に嘱視さるゝに至りし經過及地位を擧げんか、大陽生命保險株式會社取締役兼支配人として從横無礙の卓腕を振ひ、忽ち、大正生命保險會社の創立を斷行し世人注視の中に、悠々、君獨自の才腕と經營振を發揮し、愈々名聲四隣を壓するに至れり、君、更に、日本教育生命保險株式會社專務取締役として、新日本火災保險株式會社專務取締役としても、身を挺し、業に盡瘁する事幾何なるやを知らず遂に一方の驍將として其の名望鄙々たるものありたり。

又京王電氣鐵道株式會社取締役、王子電氣鐵道株式會社取締役、南武鐵道株式會社取締役、玉川電氣鐵道株式會社監査役、外に日米信託株式會社取締役會長、東亞煙草株式會社取締役、クロート式窒素工業株式會社監査役、合同油脂グリセリン株式會社監査役等、其繁忙なるべき事必せりと謂ふべく、此傍ら國事に奔走し、帝都實業界に斡旋奔走する等、寔に憐夫を起たしむるの觀ありと云ふべし加之、今次帝都復興の大業興るに及んでは第四地區より推されて土地區劃整理委員の任に就き、帝都百年の爲に盡瘁多大、公平無私の措置を以て事業の進捗を資つゝあり、其勞苦まことに多とすべきにあらずや。

今次の復興事業は世界的壯擧にして、大日本帝國首都再建の爲にはあらゆる方面の智囊を網羅して萬全の策を樹てざるべからず。此時に於て君の如き國士を得たるは事業の爲に至大の幸慶と云はざるべからざるなり。

君、家庭には安子夫人との間三男四女を擧げ、家門の前途益々多幸なるべしと信ず。

第四地區委員

法學士 塚原嘉藤君

出生地 長野縣

生年月 明治十四年十月二十日

現住所 麹町區有樂町一丁目三番地

職業 辯護士

君は長野縣東筑摩郡日向村の人、塚原久太氏の長男たり。家は世々地方の豪農として聞え、德望高かりき。農君は村治及郡政に貢献して功績厚かりし人なり。

君は幼にして頴悟、後第二高等學校を經て東京帝國大學法科に學び、專ら獨逸法を專攻し其蘊奥に達す。明治四十二年校門を辭し、翌年一月一日の往晨を卜して辯護士事務所を開き、以て今日に至る。

而して其明敏の資性と、快適の手腕とを以て法曹界に重きを成し、業務甚だ繁忙なり。

君はまた篤く情誼に厚く、殊に其郷土に對する心情に於ては其純眞なる愛郷心誠に敬仰すべし。

尽に澤柳政太郎博士、加藤正治博士等と計りて社團法人日本アルプス會を設け、君は之が常務理事に任じて故郷日本アルプス登山者の爲に施設し、種々便宜を與へ、更に之を國立公園たらしむべく其準備に奔走中なりと謂ふ。

又、澤柳博士を會長とせる木曜會の幹事として縣下出身者の親睦及び相互の誘掖扶導に力を注ぎつゝあるに見て、君が人格の高く美しきを知るべし。斯くの如く愛郷、憂國の念に燈ゆる君は帝大在學中大正九年郷黨の推す處となり衆議院議員に當選し國政に參與貢献する所多大なるものありき。

今次帝都復興の大業興るに及んで、推されて第四地區に土地區劃整理委員となり、帝都百年の爲に多大の寄與を爲しつゝあり。地區民の推服甚だ厚し。

君、故郷の家には令妹之を管理し、東京の家にはあき子夫人との間一男一女を擧ぐ。長男嘉知君は郷里松本中學に在學し、令嬢正子嬢は松本小學校にあり。

君は資性快活にして寛容の人、而して其一面に上述の如き溢き人間味を有す。我等はすべての人の偉人たるを欲せず、最も欲するはすべての人の人間的温情を具ふる事なり。

君の如きは功成り名遂げて而も人間味津々たる純眞の紳士と云ふべく、敬愛の念更に一層なるを覺ゆるなり。

前途猶春秋に富める、人類愛郷土愛の所有者たる君の前途は益々多幸なるべしと信ず。

生長常當表中的嗜欲如猛火、權勢似烈蝎。若不帶些清冷氣味。其火焰不至焚人。必將自燦矣。（栄根譯）

我が星島二郎君は名家千金の子として生を享け乍ら、所謂庶民階級に對する最大なる理解者として、また混沌せる我が政界の一大改革者として、天下萬人の認むる新人である。君の出現する處、民衆は渇仰して共論設に共鳴する。

君は岡山縣兒島郡藤戸町の產、嚴君は貴族院議員星島謙一郎翁で、君は其次男に生れた。幼にして讀破、第六高等學校を經て東京帝國大學獨法科に學び、卒業後、辯護士として均一制度の法律相談所を開き、法曹界に於ける新機軸を開いた人である。其後犬養木堂翁の秘書となり、國政に關しての實際的な知識を得、大正九年衆議院議員に立候補して美事當選の榮冠を得た。此時には實に當選者中最年少の三十三歳であつた。以て君が如何に有用の人材であり、若くして衆望を擔めてゐたかを窺ひ知られるのである。其後の改選に於ても引續き當選し、少壯論客として、其明快なる手腕と、縝密なる言論と、公明なる進退と、明晰なる辯論に依り、前途を嘱望せらるゝ事甚だ厚い。

君はまた信用組合相互金庫理事長として、庶民金融機關の事務に當り、施設經營する處甚だ卓抜である。

此度、帝都復興の大業興るに及んでは、第四地區土地區劃整理委員の任に推され、特與する處極めて公平、平常抱懷せる處の經論を以て帝都百年の爲に寄與貢獻する處多大である。寔に本事業に君の如き明敏の達士を得た事は、事業の爲に多大なる欣びであると謂はねばならない。

君は本郷區眞砂町十五番地に家庭を營み、雛子夫人は兵庫縣武庫郡魚崎町の名家にして櫻正宗の醸造元なる山邑太左衛門氏の長女である。兒女三人を擧げ、幸福なる營みを爲してゐる。

第四地區委員

法學士
衆議員議員　星島二郎君

出生地　岡山縣
生年月　明治二十年十一月六日
現住所　本郷區眞砂町十五番地
職業　辯護士

第四地區委員

法學士　高田貞三郎君

出生地　東京市
生年月　明治十二年五月一日
現住所　赤坂區青山高樹町八番地
職業　鑛業

政治教育文化の中樞として、人間の建設した科學の力を基礎として都會生活の礎址とした東京は希望の郷に滿ち、活動の都であつた、然るに大震火災は捧花一朝の夢と化せしめ、今更當惑、混迷に陷らざるを得なかつた。天遣として人は恐怖したのである。人間の逆い風管の中には自然をも征服するの雄圖と智識を貯めてゐる、濱々として逃きさる人間の科學は既に空中を征服してゐるではないか。敢て絶望せず見よ、この焼き體驗と數十萬年の歴史を礎に、人智を傾倒し、人間の精力を集注して今や復興の大事業の緒に就けるを、高田貞三郎君は明治十二年京橋に生る、生粹の江つ兒にして、その風貌、偉大にして堂々、資性恭順にして俠骨に富む、所謂江つ兒氣質を多分に持つ、頭腦明晰にして切味隽々たるものあり、君はこの震災に直面せりと雖も、君の熱情才智は何時迄も屈服、采然たるを得べき、君は率先大衆の陣頭に起ち復興の一線に立つ、この勇敢、細心果斷は何人も敬服する所となる。

君は明治三十七年帝國大學法科を卒業し、爾來直に實社會に當面し、其經營に係る高田高德金山、高德石材採掘事業を一絲紊れず經濟界の難關裡に良く順調に突破せるは君の手腕に因る、大正鑛林業株式會社を設立し、社長としてその從横の快腕を揮ふ、稻山保金會社の取締役、隅田川汽船株式會社の監査役として實業界の一部に頭角を現はしてゐる、父君は稻山久仙氏にして、君はその三男に生る、久仙氏は稻山銀行、稻山保金株式會社の社長として令名あり、京橋區會當初の議員として、將また、東京市衛生會委員並に學務委員としてその才能稱望は區民の熟知する所である。

君の才智、德望は第四地區整理委員としてその實績顯著にして理想委員としての令名は夙に喧傳さるゝも立なる哉である。

文子夫人との間に二男一女あり、長男嘉寛君は東京帝大法科に在學し次男貞文君、百合子嬢共に家にあり、家庭平和にして洋々たる春の海の觀ある。

愛國生命保險株式會社

所在地　麹町區有樂町三丁目三番地

生命保險は近代文化の產み出せる人生に對する最も幸福なる寄與たりと稱すべく、此事業徹底せらるゝに至らば、孤寒不遇に泣く遺族は影を沒し、殖產興業の途は一層廣汎なるを得べく、社會は幸福と光明に滿つべしと思惟す。

寔に本事業が未だ世の理解する處とならざりし時代より、我々共福音を說いて幸福の音信を通ぜる先驅者には何人も滿腔の謝意を表明するを辭せざるべし。

茲に日比谷原頭の一角、神鏡の章標を載せて巍々たる大建築を愛國生命保險株式會社とす。

本社は明治三十年二月、資本金三十萬圓を以て全國醫師團を背景として、戸塚文海、鈴木萬次郎氏に依りて創立せられたるものにして、戸塚氏を社長に、鈴木氏を專務取締役と爲し、後安川繁成氏社長となり鈴木氏專務たり。後鈴木氏社長に推され、宮本仲氏、菊地忠三郎氏の社長就任を經て現在の社長原邦造氏に至る。而して業務昔だ熾勢、現在役員は專務取締役に法學博士暉道文藝氏、取締役に伯爵奥平昌恭氏、監査役に岡田昌吉、木村德兵衛二氏就任し、大正十四年末に至つては積立金二千四百五十二萬圓、契約高一億三百四十二萬圓に達し、收入保險料年額四百五十四萬圓に達せり。

而して全國支店の數十一ヶ所、代理店數全國に千六百十四ヶ所を有し、隆々たる盛運に在り。

實に我國第一流の生命保險會社として社礎全く安固、一割五分平均の配當率を算して盛名を恣にす。

今次帝都復興の大業興るに及び、本社は第四地區より推されて土地區劃整理法人委員となる。

第四地區は帝都の最重要地區にして、其事業の成否は他地區に影響する事多大なり。齋藤久光氏代表出席して多大の犧牲を拂ひつゝも一意事業の進捗に當興しつゝあるは欣快に堪へず。

勳八等　小川小三郎君

出生地　東京市

生年月　明治十七年六月十五日

現住所　麹町區有樂町三丁目一番地

職業　煙草、雜貨商

君の家は江戸に住む事既に年古く、祖父の代迄島原時代に乎野屋と號してお居茶屋を營み、其頃、遊女町であつた繁華の中に一名物として知られてゐたものであるが、後此處の遊廓が廢せらるゝに及んで業を廢し、君の最君は現在の地に出でゝ煙草及雜貨商を營んだが其頃はまだ煙草の民營時代であつた。

君は明治十七年六月十五日、京橋弓町に安太郎氏の長男として呱々の聲を揭げた。泰明小學校を經て東京商工中學（現在の赤坂中學）を卒へ、後、嚴君の業を襲ふた。

明治三十七八年戰役起るや、君は恰も中野電信隊に現役服務中であつたので、直ちに總司令部附臨時電信隊の一員として戰場に赴き、各地に轉戰して功を樹て、勳八等に叙せられた。

君は生粹の江戸つ兒である。溫順な人ではあるが頗る仁俠に富む。從つて君の人格は到る處に敬愛せられて、同業の間では、煙草小賣人同業組合麹町區丸ノ内方面委員として精旋し、また有樂町會役員としては克く町内の和親、發展に盡力して功績多大である。

帝國在鄕軍人會麹町分會役員としては克く平和時に於ける在鄕軍人の責務を盡し、社會公共の爲に盡す頗る厚い。

此度はまた、帝都復興の事業興るに及んで第四地區から區劃整理委員に推され、大東京百年の爲に傾倒する所頗る大である。抑々復興の事業たる、世界列國環視の中に行はれ、其成否は國力民力の輕重を問はるべきものである。事は單に日本の首都たる東京市民の復興事業ではなく、全日本的な仕事である。此點から見て、委員の責任も亦大である。此時に於て、君の如き熱誠の士を得たのは大いなる幸福である。

君家庭にはふく子夫人との間に一男三女を擧げ、長男泰一君は攻玉社中學在學中で、長女やゑ子嬢は家庭に在り、次女きみ子嬢は千代田高等女學校に在學中である。

渡邊保全株式會社

出席者　青木亨

所在地　日本橋區本材木町一丁目八番地

渡邊保全株式會社は三菱、安田、等と指折する大地主渡邊家の直系會社中の一にして、明治四十二年七月始めて渡邊保全合名會社として設立せられ、一門一族を株主とする資本金七百萬圓（全額拂込濟）の株式會社に組織を變更せるは大正九年二月にして、有價證券及不動産の管理取得利用を目的として渡邊同族會之を管理す。

社長には總本家たる十代目渡邊治右衛門氏、常務取締役には館榮次郎氏及森勝吾氏、取締役には渡邊勝三郎、渡邊哲夫、渡邊健兒、戸谷辰次郎、青木亨の諸氏、監査役には渡邊六郎、鈴木德太郎の二氏就任し、青木亨氏支配人を兼ぬ。

本會社が我國の興業及金融の上に直接間接に貢献しつゝある渡邊系會社の總司令部として活躍しつゝあるは天下周知の事實にして其實業界に於ける地位たる、我等の敢に謹々するを要せざるなり。

今次、帝都復興の事業興るに及んで、第四地區區劃整理に法人委員として取締役業支配人青木亨氏を代表出席せしめて、帝都百年の爲に多大の犧牲を忍びつゝ貢献多大なるものあるは吾人の敬仰措かざる所なりとす。

青木亨氏は長野縣上伊那郡飯島村の人、其頃を新田義真公に出す。末裔は黒代伊那に住して名望あり、君の殿君藤吉氏は嫁若後伊那縣廳に勤務したる人、君は其三男に生る。

長じて實業界に志を寄せ、明治三十五年上京、十代運都として二百數十年の歴史を誇する海産物商、渡邊治右衛門商店に入り、勤務多年、後四十二年に至つて同家の事業たる渡邊保全合名會社に入り、株式會社となるに及んで取締役支配人に推薦せられて今日に及ぶ。此外渡邊家の事業の一たる東京莊園株式會社にも取締役として其快腕を揮ひ、また居住地本郷根津須賀町々會副會長として善隣の誼厚く、根津小學校兒童保護者會委員としも幹家庭にはき奴子夫人との間三男二女を擧げ和氣に滿ちる美はしき團欒をなす。

西川貞造君

出生地　和歌山市

生年月　明治元年十一月二十日

現住所　一麹町區有樂町一丁目四番地

職業　煙草、雜貨商

君は明治元年十一月、新興日本の誕生の年に於て和歌山市に呱々の聲を擧げた。生家は德川家の親藩たる和歌山藩で、累代弓術指南の家柄であつた。最父は常夫氏であつた。世が世ならば、槍一筋の主として、立派な武家であり、御三家の臣は陪臣にして陪臣にあら手と誇り得たものを、封建の制破れて、明治十五年、嚴君は一家をきとめて東京に出て、嚴君は新開社に入つた。

君は幼にして秀敏、夙くも時流の工業界及經濟界に赴くべきを洞察して、第地工手學校に入り、業を卒へて後今の專修大學の前身たる專修學校に入り、法制經濟を學んだ。明治二十三年學窓を出でゝ古河鑛山に入り、後東京鑛山監督所（現鑛務局）を經て旭石油會社に移り、工學と法制經濟に通ずる博識に依つて大いに重視したもので。而して旭石油が帝國石油に合同して後も數年間を勤務し、大正十一年に及んで致仕して現在の地にタバコ及雜貨商を開いだ。

君は公共事業に盡す事も亦非常に厚い人である。有樂町一丁目町會幹事として、町の事業に盡してゐる外、麹町區公民會準議員として、自治の進展に貢献し、日比谷小學校兒童保護者會常任理事として育英の事業にも傾倒する處厚い。

今度、帝都復興の大事業が興るに及んで、君は第四地區から推されて區劃整理委員となつた。指導公平無私、克く地區民の信頼する處となつてゐる。

君は内藤鳴雪翁に師事して俳句を嗜む。雅號を『有樂』と稱し、常に雅懷を吟じては興を遊るの人である。

『復興の汗に咲くなき無沙汰哉』

と云ふのは訪問當時の即吟であつて此點に見ても君の機智ある、句風が窺はれる。君の高雅にして而も温情ある一面はこの風流道に於て増はれてゐるものである。

尚ほ友人と計つて一竹馬吟社』を設けてゐる。

家庭には淺惠夫人との間二男一女を擧げ、長男堯君は立教大學商科を卒へ、次男克巳は府立二中に、長女嘉惠子は麹町高女に在學中であると云ふ。

第四地區委員

勳七等　岡崎將次君

出生地　和歌山縣
生年月　明治十九年二月一日
現住所　麹町區有樂町一番地
職業會社員

翔も日本帝國に男子として生を享けたるもの、誰か志を邦家の爲に抱げ、一端の報恩に際しては皇國の大義に殉ずるを以て其本懐と爲さぬ者があらうか。然し乍ら、志を之に存しても、其機會に際會せず、或は躊躇して朋に後るゝもの無しとは云へない。此時に當つて、捨身國家の難に赴き、大功を樹て得ば、大丈夫としての幸慶之に過ぐるものはあるまい。更に之に加ふるに平時に在ては不屈不撓の志を抱いて家を興し産を整へ、衆人の尊敬を得て社會の活模範となり、社會人としても遺憾なき得る事は常に人の理想とする所であらう。

我が岡崎將次君は、實にその理想を實現した人である。君は和歌山縣東牟婁郡上太田村大字南大居の人。幼にして他家に入つて商業を見習ひ、八ヶ年の永續の後獨立して業に志したるも不幸失敗に歸した。

茲間、明治三十七八年戰役起るや、君は召されて重砲兵第三聯隊に屬し、第二軍に從ふて遼東、南滿の野に轉戰し、樹功著大、奮發して勳七等に叙せられた。

明治四十四年四月、年二十六歲にして東京に出で、電氣工業及勞力供給請負者伊藤商會に入り、熱心業務に携はつたが大正五年同商會の解散に依つて其商號を繼承し、獨立して電氣工事請負及電氣材料の販賣に從事し大正十五年三月には組織を改めて合資會社協立興業社を興し、君は其代表社員と爲つた。其營業とするものは、一般電氣工業設計及工事請負、電氣機械器具材料の販賣で、業務頗る盛大、君至誠にして剛直、思慮周密なるを以て信用多大なるものがある。

現在、帝國在鄕軍人會麹町分會常務理事、愛第一班長として盡瘁すら傍ら、選ばれて麹町區會議員の職に就き區政の爲に昏々の努力を爲しつゝある。今次帝都復興の大業興るに及んで第四地區より擧られて區劃整理委員の任に就いたが、素朴の人たる君の曾見に依つて、事業の進捗多大である。

第四地區委員

加藤芳太郎君

出生地　東京市
生年月　明治六年八月八日
現住所　麹町區有樂町三丁目一番地
職業　速記及寫眞製版業中央文藝製版社

君は生粹の江戸つ兒にして深川木場町十六番地に加藤芳次郎氏の長男として呱々の聲を揚げた。幼にして讀書、日本橋久松小學校を終ふるや直ちに府立第一中學に入るを得、早稲田專門學校に學んで三學年にして退學したが、此間速記術を河井昇造氏に學んで技倆衆與に達した。明治二十九年星亨經營の人民新聞に入つて經濟及政治記事として大いに鋒鋩を露はれたが、三十三年習得せる速記術を以て立ち、海軍省及陸軍省に速記事務を擔任した。三十七八年戰役起るや君は朝鮮語通譯として渡韓し、其間習志野俘虜收容係を命ぜられた。明治三十九年大阪毎日新聞社に入つて速記部を擔任し、同十一年東京日日新聞に轉任したのである。同四十四年東洋文藝株式會社に專務取締役として入社し、更に大正二年には中央文藝社を創立し、爾來皆聞記事通信及寫眞製版業速記業に從事して今日に至つたのである。

君はまた公共の事業に盡瘁する事多大にして、麹町區學務委員として育英事業に傾倒する一方、有樂町々會長として自治制の補助機關たる使命を誤らしめず、功績頗る厚い。

今次帝都復興の大業興るに及び、君は第四地區より推されて區劃整理委員の任に就き、東京市百年の爲に傾倒努めつゝあるが社會の先覺として、また德望學識を兼ね備へたる紳士として地區民の信頼と期待劃る大なるものがある。

君は一見身長高く、肉肥え、常に快活にして、人に接して春風膚蕩の感あらしむる紳士である。佛教を信仰し、日蓮及び親鸞を尊敬すると云ふ點に見ても、樂天的なる、包容的なる人格の現はれを見る事が出來る。また皇室中心主義を奉ずる事厚くして大楠公を崇拜する。趣味には散歩と酒があり、また書畫、茶道を愛して高雅なる人格を立てゝある。さき子夫人は君を補けて內助の功厚き賢婦人である。

財團法人 神宮奉齋會

所在地 麹町區有樂町三丁目二番地

敬神崇祖は我國傳統の美風にして、三千年精神王國の建設は殊に此思想に依つて基礎を爲せるものなり。就中伊勢大神宮は我が皇室祖宗の鎮座まします處、千年の緑々天を摩し、神威赫赫の境を爲すほどりは我が國民の敬仰畏服する聖地たり。

近時、物質文明の輸入に依りて風を爲せる黄白崇拜の思想、黄白過重の弊は、今や蔓然として神州の全土を掩はんとす。斯の知き時世に於ては特に我が國特有の精神文化を以て、確乎たる民族精神を樹立し、以て部衆卑疑の思想を排せざるべからず。傳統的精神の宣明は特に之を爲さざるべからず。敬神思想は特に重要なる一部なりとす。

我が神宮奉齋會の目的は神宮の尊嚴を欽仰し、皇祖の遺訓、皇上の聖勅を奉戴し、國典を攻究し、國體を講明し、國禮を修行するに在り。之を目的として現在はゝ此の事業は神宮奉齋所を設け評議員及會員贊成員其他有志者參拜の爲に祭儀を行ひ、神宮大麻及暦頒布の事を協賛し、其總官を講明し、業務をして神宮崇敬の誤を致さしめ、參宮會を組織し、評議員及會員贊成員其他有志者をして神宮欽仰の實を表せしめ、國典講究會を開き國典を攻究し、之に關する書籍を編纂し、又公業を會し講演を爲す外、國禮講習會を開き國禮を講習し、又評議員及會員贊成員、其他有志者に係る國禮を介助す。

本會はもと神宮教院と稱し、明治五年伊勢神宮に於て創立せるものなり。明治十五年一月、神宮、教導職分離に至り、神宮を離れて獨立し、內務省の認可を得て教派神道、神宮教と稱す。三十二年に至りて神宮教を解散し、民法第三十四條に依り財團法人神宮奉齋會を設立し、以て今日に至る。實に全國に亙りて多大の共鳴者を擁し、神宮教當時の講社員二百七十一萬九千餘人を數へ、現在會員及贊成員十二萬餘人を有す。

帝都復興の事業は、國民協力して事に當るを要す。此時に當つて本會をも區劃整理委員に加へ得たるは事業の性質上大いに喜ぶべき事なり。同會理事藤岡好春君代表出席して愼重事に當り、謹に國士の樞を以て擔當しつゝあるは帝都百年の爲永遠に顧へざるなり。

東京電燈株式會社

所在地 麹町區有樂町三丁目三番地

本社事業の沿革を顧るに、明治十九年七月資本金僅かに二十萬圓を以て東京に創立せられ、宮城、官廳、各富邸、神商等の少數需用家に點燈したるに過ぎざりしを逐次業務を擴張して明治二十三年一月には日本電燈株式會社を合併の結果、資本金百三十萬圓を加ふ。然るに明治二十三年の交、會社の經營は一時逆境に陷り二十四年中に二回の減資を爲し、遂に資本金は八十三萬五千六百五十圓となる。然れども此整理に依りて內部資產の充實を圖りたるを以て、忽ちにして社運を恢復し、二十六年十二月には既に資本金百萬圓に復歸し、爾來事業の繁榮と共に數回の增資を重ね、明治三十五年八月品川電燈株式會社を買收して三十七年十月には資本金七百萬圓に上り、會社の基礎益々堅實となれり。其後今日に至る約二十年間は會社の發展進歩は極めて急速に先づ深川電燈、東京電力、江戸川電氣、日本電燈、利根發電、利根軌道、横濱電氣等の諸會社を併合買收し、次で第二東信電氣、高崎水力電氣、熊川電氣、桂川電力、日本水力電氣、鳥川電力、水上發電、猪苗代水力電氣、忍野水力電氣等の諸會社を合併統一したる結果、大正十二年には資本金貳億五千八百萬圓の巨額を擁したり。更に大正十四年十月には京濱電力及富士水電、十五年五月には帝國電燈を併せて現在の資本總額三億四千五百七十二萬四千圓を算す。實に東洋第一流の大會社なりとす。會社創立以來の營業成績を見るに、每決算期に於ける配當率は明治二十三年より二十九年に至る七年間、三十二年及三十三年の二年間、大正三年下期より大正六年上期に至る三年間を除けば何れも一割以上の配當率を保ち、大正十二年下期に於ては震火災に依る被害の爲に八分に減配するの止むなきに至れるも直ちに恢復して、現在は依然として其威望を保ちつゝあり。而して震災當時に於ては、直ちに復興の方略を定め、迅速に公安及公益に必要なる機關に對して送電を開始し、約三夜に於て淀橋淨水所の電動喞筒に給電して、市民を渴より救ひ、續いて中野無線電信綜の活動を援け、次で精米所及新聞社に送電し、數日ならずして煌々たる光明市民を慘憺たる暗黑より救へり。とは實に復興上最大なる力となりしなり。今次帝都復興事業興るに及び、土地區劃整理委員として再び復興の第一線に起ち指導する所公平無私、志村茂雄氏を代表出席せしめて幹旋多大なるものあり。

三井合名會社

所在地　日本橋區駿河町一番地

三井家が、積年我國の金融、貿易及殖産興業に亙る廣汎なる諸事業を以て、我國運の發展に貢献し來りたる事は天下何人と雖も否定する能はざるべし。

三井合名會社は實に三井系諸事業の内閣にして三井家關係事業及會社に對する指揮命令は一にこの合名會社に出づるものとす。三井合名會社は其昔大元方と稱し明治四十二年、更に三井同族會管理部と稱せるものを資本金二千萬圓の會社組織とせるものにして、三井家公私財方面の諸計業を樹て之を統括するの機関と爲せり。其後、資本金は六千萬圓よりなり増して今は三億圓の巨額に達し、財界の覇者として天下に雄飛せり。其機能の廣大なるを以て之が責任者も三井系の巨頭を網羅し、男爵三井八郎右衛門氏社長と爲り、業務執行社員には同男及び三井元之助三井源右衛門の三氏監査役には三井守之助、男爵三井壽太郎の二氏、理事長には團琢磨氏、常務理事には有賀長文、福井菊三郎の二氏、理事には阪井徳太郎、大島雅太郎の二氏あり、其他多數の參與を挽して銀行、物産、鑛山、信託及東神倉庫の諸社を直系とす。其他王子製紙、北海道炭礦汽船其他の大事業が多く三井系たる事天下周知の事實なりとす之に同社の一擧手一投足は我國經濟界に影響する處頗る深甚なるものありて、實に我が經濟界發展の鍵を握ると云ふべし。同社は益に鑑みて其事業に着手する場合、先づ濟世興國の國家的事業なりや否やを攻究するを常とし、之を以て其施設の標準と爲す。蓋は同社の社是にして、國家百年の大計にして且つ三井家百年の計にあらずんば未だ敢行せる事なしとは同社の信條たりとす。從つて妄りに小資本を壓迫するが如き行爲を爲さず、一貫して財界の覇者たる態揚たる態度を持し、また社會奉仕の爲に慈善病院を設け其他教育社會の諸事業に多大の義捐を爲せるは言ふ迄もなく、這般の大震火災には直ちに罹災民の爲に大バラック を設けて數十萬の罹災者を收容し、五百萬圓の巨額を救恤金に寄附せる事著名たるものたり。直屬の山林課不動産課は植林開墾及所有地の保存及利用を目的とし、今次帝都復興の大業興るに及んでは不動産課より區劃整理委員を出席せしめて帝都百年の爲に公平なる措置を講ず。同社が斯の如く國家的社會奉仕を基調として益々發展しつゝあるは國家の爲に欣幸に耐へざる處、此の多岐多樣の經營をして一絲乱れしめざる統督を爲しつゝある同社の首腦部には敬服の念禁ずる能はざるものありとす。合名會社を代表して整理委員會に出席する不動産課長手島知健君は明治三十九年東京高等商業學校出身の俊材にして、京都市の產、三井物產を經て現職に在り、手腕の卓越を以て社の内外に重視せらるゝ一人を四谷區東信濃町二十八番地に營み、セサ子夫人との間、知篤、知徳、社

三菱合資會社

本社所在地　麹町區八重洲町一丁目一番地

三菱合資會社の始祖は故岩崎彌太郎氏にして、幕末、土佐藩の事業たりし海運貿易の業を繼承して土佐開成商社を興し、後九十九商會と改稱して我國海運業の基礎を開く。

明治八年政府より航海命令を受くるに及び社名を郵便汽船三菱會社と改めて其規模を擴張し、更に明治十三年三菱爲替店を開きて金融業倉庫業を經營し、十七年に至りて政府より工部省所管長崎造船局の貸與を受けて造船業を開始せり。これより先明治十五年官民合同にて新に共同運輸會社設立せらるゝや郵便汽船三菱會社との間に自然的競爭起りしが十八年に至り商議成り兩社を合併して日本郵船株式會社設立せられ三菱會社は其主要事業たる海運業の一切を擧げて新會社に移せり、此間初代社長岩崎彌太郎氏歿し實弟岩崎彌之助氏其後を襲ひて社長の任に就く。十九年三菱社を組織して鑛山炭坑造船の各事業を經營し、前年郵船に承たる第百十九國立銀行の一般銀行業と共に現在諸事業の基を成せり。明治二十六年舊商法の實施により、之に則りて岩崎彌之助、岩崎久彌（彌太郎氏嗣子）兩氏の合資を以て、新に三菱合資會社を設立し在來の業務を全部之に移し、久彌氏社長に就任せり、後三十九年岩崎小彌太氏（彌之助氏嗣子）歐洲より歸朝するや社員に列して副社長となり大正五年久彌氏に代りて社長に就任し以て今日に及べり。

此間業務愈々伸張し、時勢また携屋せるを以て組織改革の必要生じ、先づ大正六年造船業及製鐵業を分離して三菱造船株式會社及三菱製鐵株式會社を新設し、翌七年東京倉庫株式會社を改稱して三菱倉庫株式會社とし、更に逐年、商事、鑛業、海上火災保險、銀行の業務を分離して夫々三菱商事株式會社、三菱鑛業株式會社、三菱海上火災保險株式會社、株式會社三菱銀行を設立し、尚三菱内燃機株式會社及三菱電機株式會社を三菱造船株式會社より分立して今日に至れり。

三菱が常に社會公共に對し貢獻する所枚擧に遑あらざるも殊にかの大震火災の際に於ける同社の活躍に至りては特筆すべき大なるべし。即ち同社は震災直後救助船を別紙として食糧品日用品の不安を除去し、臨時診療所を開設して無料診療に從事し、其取扱ひたる患者十三萬人、投宿人數四十萬に及ぶ。更に衣類、圖書を提供して罹災民の救護慰安に力め、また金五百萬圓を寄附して政府の救護事務を助くる等、其功績多大なるものあり。今や帝都復興の大業興るに及び、同社は其擁する廣大なる地所の關係より、第四、第五、第十九、第二十五の四地區に地所部より四人の代理者を出し以て區劃整理委員たるの責に任ずり。即ち第四地區に銅口實君を、第十九地區に山田耕作君を、第二十五地區に高山信吉君を夫々分擔盡力せしめて復興の進捗に資する所あらしめたり。

第五地區　東京市施行

大正十三年七月二十九日東京土地區劃整理委員並ニ同補闕委員ノ選擧ヲ行ヒタリ

土地區劃整理委員

四番	議長 笠原文太郎(樓)	十三番	副議長 水原 漸(地)
一番	川田準一郎(樓)	二番	角谷 普吉(樓)
三番	大西 橋三(地)	五番	小仲井石藏(地)
六番	今村力三郎(樓)	七番	原島藤藏(地)
八番	長尾景英(樓)	九番	寺島清司(地)
十番	上野榮(地)	十一番	濱田端(地)
十二番	久松喜治郎(樓)	十四番	專修大學出席者 岡伊助(地)
十五番	三菱合資會社出席者 植田貞(地)	十六番	松見文平(地)
十七番	柴田竹三郎(樓)	十八番	田島熊太(樓)

土地區劃整理委員補闕委員

土地所有者

東京商科醫學並門學校　五味二吉　日本大學　石井權藏

借地權者

春田滿三　河野義一　五味保　波多野萬吉

小室啓次郎　大野新吉　野村勇七郎　宇田川銀次郎

地區々域

神田區　今川小路三丁目、今川小路二丁目ノ一部、北神保町、仲猿樂町、西小川町一丁目、同二丁目、三崎町一丁目、同二丁目、同三丁目、表猿樂町ノ一部、猿樂町二丁目、同三丁目、三崎河岸

整理前後宅地道路面積比較表

	整理前		整理後		減歩率
總面積	宅地	公共用地	宅地	公共用地	
一二八四八九	九四三二五	三四一七四	七八六四一	四九八四七	〇・一六六

委員會經過ノ概要

一大正十三年八月九日　第一回委員會開會、議長副議長ノ選擧ヲ行ヒ、委員ノ席次ヲ定メ、議事規則議定ノ件ヲ審議シ原案通リ可決ス

一大正十四年三月二十八日　第一號整理地區面積決定期日ニ關スル件、第二號換地位置決定ニ關スル件ノ諮問ヲ受ケ、第一號案ハ六月十日現在ノ土地登簿面積トシ、五月二十一日ヲ期日ト訂正指定期日ヲ終ル上可決ス決定、第二號案三月五日臨議會ニ於テ原案ヲ基礎トシ設計直シスルコトヲ銘要ス

一同年五月十七日　第二號案ヲ審議シ、第三號換地面積一部決定ノ件、第四號整理前路線價指數並ニ各筆坪當リ平均指數ノ件ノ諮問アリ之レヲ審議シ、第二號案ノ一部ヲ決定シ、第三號案ノ一部ヲ決定シ何レモ可決シ、第四號案ヲ保留ス

一同年十二月二十六日　第二號案ヲ審議シ、第五號案ノ一部換地面積決定ノ件、第六號案一部換地面積決定ノ件ノ諮問アリ、第五號案ノ中西小川町一丁目一部ノ換地位置並ニ面積ヲ決定可決シ、第六號案中三崎町三丁目ノ一部同三崎河岸地ノ換地位置ヲ決定可決シ、面積決定ヲ保留ス

一大正十五年一月二十六日　第四號案、第六號案ノ審議シ、第四號案ハ保留シ、第六號案中今川小路二丁目、三丁目ノミ面積決定可決シ、三崎町三丁目及河岸地ヲ保留ス

一同年三月十八日　第二號案、第六號案ヲ審議シタルモ決定ニ至ラス

一同年四月二十八日　第二號案、第三號案ヲ審議シ、第二號案ノ中西小川町一丁目ノ一部、三崎町二丁目ノ一部猿樂町三丁目ノ一部ヲ決定可決シ、第三號案ノ中三崎町三丁目ノ一部及三崎河岸地ヲ決定可決ス

一同年八月十一日　第二號案ヲ審議シ、猿樂町二丁目ノ一部、同三丁目、西小川町一丁目ノ一部、三崎町三丁目、西神田警察署敷地位置ヲ決定シ、更ニ第八號一部換地面積決定ノ件ヲ審議シ第二號案ノ一部前記町ノ部分ヲ決定例レモ可決ス

第五地區委員（議長）

笠原文太郎君

出生地　埼玉縣

生年月　慶應元年五月十五日

現住所　神田區伸猿樂町十七番地

職業　辯護士

埼玉縣比企郡小川町は鐵路川越市より寄居町に通ずる中間の名邑、南は越生町を經て飯能町に出で、北西秩父山塊を繞らして說谷超塵の境に在り、所謂「鶴犬發歷落、寔是武陵源、溪水分溪水、一村開一村」の詩句は此町に入る途上の村舍茅屋展開の景を賦せるにあらざるやと疑はる。

由來、自然の人心を化して之に適せしむる事、英領蘇格蘭の地に幾多の詩人を生み、北歐に意志の人を生じ、南歐に情熱の人を出すが如し。我が笠原文太郎君は此烟霞境に生を享けて其性純實、芋だ俠骨あり、夙に東京市自治會に其令名を謳はして今や長老の地位に在り。

君は慶應元年五月十五日、埼玉縣小川町大字角山に呱々の聲を揚げ、後笠原家に養嗣子となる。

現今の中央大學の前身東京法學院に學び、辯護士事務所を現在の地に開設して其明敏の頭腦と、深奥の學識と流暢の雄辯と、天禀の俠骨とを以て多大なる信望を繫ぎ、我國法曹界の雄たり。

他面公共事業に如倒して神田區會議員と爲り、市會議員に撰され、我が東京市の爲に寄與せるもの一々擧ぐる遑なき功績を有す。

かの大正十二年の大震火災後に於ける火災保險金支拂の問題には、目的の貫徹に努め、保險金支拂期延同盟會委員長として奔走せる義擧は吉人の今猶腦裏に銘記せる處なり。

今次帝都復興の大至興るに及んでは第五地區より撰されて土地區劃整理委員の任に就き帝都百年の爲に寄與して塗らざる功勞を我市の爲に効す。勞苦は大いに多とすべく君が今日名望の高きは偶然にあらざるなり。

家庭にはきく子夫人との間一男三女あり。家門益々榮えて積善の家餘慶に滿つるが如し。

第五地區委員（副議長）

醫學士　水原瀬君

出生地　和歌山縣

生年月　文久元年十一月五日

現住所　神田區表猿樂町十二番地

職業　水原病院長

和歌山の海、和歌山の山、山紫水明、その風光は世に憧憬せられたところである黑潮流るる南の海、紀淡海峽の夕映、吁に雄渾、壯大な自然美を思ふのである。君は文久元年十一月五日和歌山縣海草郡岩橋村に呱々の聲を上げた、君はこの自然美の感化に負ふ所多く資性純情、溫厚、情熱の强い人である。

家は代々大地の香に親しみ、田園生活をなす。君は希望に燃ゆる青春を胸に抱き、單身、笈を負ふて、上京したのは明治十二年で、君は社會人として、公共に盡力し、多くの廢疾、傷病者を救助し、貧人として社會の暗黑に泣く多くの疾病者を救治せしめんが爲、斷然、刀圭界にその活路を求め、錢意研鑽、明治十九年東京帝國醫科大學を卒業し、直に神田區表猿樂町に堂々たる病院を開業し、その初志を貫徹し、醫は仁術なりを標榜として三十餘年を閲し、世の患者の治療に努力し、不幸なる人を、救助し、今日の榮名を謳せた。君の努力、熱誠は何人も感動せざるものはない。

君は前には區會議員として神田區より選出され、區の發展、福祉に寄與せるところ甚大に、特に公衆衛生等は君の翼壇上で大にこの方面に刷新改造の實を擧げた。また東京府立第一高等女學校の校醫として令名を博した。

君は明治二十一年三月水原產婦學校を創立し現に病院内に建設し、これが經營を率して、優秀な產婦を養成し、年々社會に送り出してゐる。君はまた燃ゆるが如き神道の信仰者で、博愛人道の鼓吹者として令名がある。圖藝に趣味を有し、君の優にやさしき一面を表現して、奥床しき限りである。

君の識見抱負、經綸を以て、天下の曠業、大東京の復興區劃整理委員として、第五地區を擔當し、その活動凄じきものあり、名聲嘖々たるものがある、期待すべきである。復興の前線に馳驅し、幾望を双肩に擔ふ君の光榮また想ふべきである。

君は家庭的にも大に惠まれ、令夫人は豫本縣の人、賢夫人を以つて聞ゆ、二男一女がある、長男豐君は醫學博士にして、現に東京帝國大學醫學部に教授をなし、醫術の奥を極め、赤門の人氣を一身に蒐めてゐる。二男滋君も京都帝國大學の講師をなし令名京洛の地に響く。此の恩にして此の兒あり、また宜ならずや。一門榮え家庭の前途洋々たる事春海の如し。

第五地區委員

法學士　川田準一郎君

出生地　栃木縣
生年月　明治十二年十二月十九日
現住所　本郷區根津西須賀町十七番地
職業　辯護士

現代複雜多端の世相は、人生の行路者をして頗る方行に困難を感せしめる。若し一歩を誤たば不識の内に深淵に陷らねばならぬ。或は事業の蹉きあり、人に誅らるゝあり、其他百般の困惑は日常生活の多大なる脅威となる。而して世に苟くも社に赴くに從つて業務はますます分業的となり、それが爲に專門以外の智識に深きを求むる事は既望み得ない。之等の缺陷を補ふて經世濟民の爲に存在する職業の人々の警戒を躊ふことは當然である。

我が川田準一郎君は栃木縣下都賀郡都賀和村大字和泉の人、慶安は明治初年の岩内吉宇郡長故川田遵吉翁で君は實見たる川田藤三郎氏に委ねれた。藤三郎氏に同志北理方法院長で君と同じく法曹界の人であつた。

君は宗都宮市立の高等小學校を卒へて、宇都宮中學に學び、後東京大成中學に轉じ、第一高等學校を經て、東京帝國大學獨法科に學んだ。小學校中學校共に首席を以て一貫し、一高時代は大島正德君と共に校友會雜誌、論壇の双璧と稱せられ其帝大に在るや幾多俊秀の中に在つて巍然頭角を擢し、特待生を以て遇せられたに見ても、君の俊材たりし事が知られる。

而して今は母校東京帝國大學に法律顧問を囑託せらるゝ外、郷里栃木町に於ては栃木商業銀行監査役（大正十三年七月十五日就任）栃木銀行監査役（大正十四年十二月三十一日就任）として郷黨間に名望あり、帝都辯護士界に於ては大正二年五月東京辯護士會常議員に推され、大正七年十二月には日本辯護士協會理事に任じてゐる事は君の嘗望の高きを物語るものである。

帝都復興の事業興るに及んでは第五地區劃整理委員に推されて發展する所頗る厚く、其學識と閲歴とは委員中に重きを成してゐる。

君は後進の養成を以て志とし、君に依つて大成せるもの多大である。中川孝太郎、秋山高三郎、吉岡秀四郎の三君は君の最も信頼する友人で、交誼頗る密である。家庭にはテイ子夫人との間、長女節子嬢、次女道子嬢、三女早苗嬢、長男晃君、次男侃君の五兒を擧げ、節子嬢は府立第五高等女學校、道子嬢は日本女子大學附屬高等女學校に通學してゐる。夫人は故論澤喜作翁の長姉にて翁逝去十月目の外孫で翁は三木氏、内助の功厚き賢婦人である。

第五地區委員

角谷音吉君

出生地　三重縣
生年月　明治十六年三月二十六日
現住所　神田區三崎町一丁目地番
職業　酒商（市島屋）

角谷家は十八代に亙り土地屈指の富家であり資産家として知られてゐるが、君は角谷家十八代目の主落清氏の令弟、三重縣松坂町在に生れ土地の小學校を修績にて卒るや更に縣立松坂中學校に進學し拔群の好成績を以て卒業した同校の秀才である。

松坂中學を卒るとと毎の生家が酒造家であり土地に於ける素封家、有力家として知られてゐる爲め大いに勤かさるゝ處あり、將來酒類業を以て身を立てんとの堅い決心を爲し明治三十二年十七歳の時上京、四十一年迄、此の間九ケ年に亙り酒類營業に就て研究に研究を重ね功成りて同年一月現住地に獨立、家族を市島屋と稱して酒商を開業し九ケ年に亙つて研鑽した經驗を傾け業に精勤怠れず努め其の發展を計つた結果、心勞大いに酬ひられて今日の隆盛を見たが同業の信頼も厚く顧客の嘗望は頗が上にも高まりつゝあり、酒ならば市島屋に限ると言ふ絶大の信用を得てゐるから酒商市島屋の將來は洋々たるものがある。

酒類同業組合代議員、同業聯合會々計等に在任し同業向上發展に鋭から手腕力してゐるが凡て圓滿主義に行く君の穩健篤實振りは同業者の評判頗る宜い。

帝都復興の爲め區劃整理事業の擧あるや第五地區より業望を擔いで區劃整理委員に推擧せられ本事業の目的達成に身を捧して盡力し多大の實績を擧げてゐるが南佐三崎町三丁目町會副會長參會計係、現在本郷區等正寺檀家總代等に歴任し公共の爲に貢獻する處極めて多い。

君は趣味の人、特に義太夫を好み精練されたる其の藝能は現に素人の域を脱し、宗匠たるの藝格があるとの定評がある、信仰の念厚い君は西本願寺派の信徒である。

令閨まさ子女史は淑徳の誉れ高い賢夫人として知られ子女一人あり、麥基殊の外相和し一家團欒、幸福圓滿にして和氣藹々たるの感がある。

紀元二千五百二十二年、改元して元治元年と稱す。宇内騒然、京師には長州人の亂を起すあり、水戸浪士の太平山筑波山に據るあり、諸國に新聞を設けて警戒を辰にすと雖も、遂に四年を出でずして幕府瓦解せり。

君は此年十月十日を以て下谷御徒士町に呱々の聲を揭ぐ。帝國新生の曙光と共生を共にし、興國の進運と共成長を共にせるの人なり。

後大西平五郎氏の養嗣子となり、神田區今川小路大西藥局を主宰して今日に及ぶ。業務益々盛大にして斯界雄視し、益々斯業の發展向上に努力しつゝあり。

また社會公共の爲に奮倒して功勞多大、前には區會議員に推されて自治の爲に寄與し、町會の設立に奔走して其成立するや町會長に推され、十五年の長きに亙つて克く町の和親發展に傾倒し來れり。定に善隣の誼に厚きを見るべし。

裁判所囑託借地借家調停委員としても斡旋多大なり。

在郷軍人會名譽會員に推され、銅守神氏子總代に擧げらるゝ等、其他社會の爲に盡心せる功績は擧げて數ふべからず。

今次帝都復興の大業興るに及んでは沿五地區より推されて土地區劃整理委員となり、帝都百年の爲に傾倒して措置する處公平無私、事業の進捗を資けて地區民推服の的となる。

抑々、今次の復興事業は列國環視の下に行はるゝ世界的壯擧にして事の成否は我國民能力の如何に係るもの、故に能ふ限りの才能を網羅せざるべからず、君老來益々健康に、事業の眞意を體して骨髄傾倒しつゝあるは吾人の敬仰に耐へざる處なり。

第五地區委員

大西橘三君

出生地　東京市

生年月　元治元年十月十日

現住所　神田區今川小路町三丁目一番地

職業　藥劑師

人が社會に起つて事を成すに當り必しも學究が必要のものではない。成功すると否とは實に其の人の克己勉勵と自重自信とにある、成功したるものの經歷必しも經學によつて燦爛たるものでなくして、成功者の臥薪嘗膽の躬驗程整然として權威ある尊き經歷はないのである。

我小仲井石藏君は千葉縣下船橋町に明治大役の一として世人の驚愕してをる西南戦役の際に呱々の聲を擧げたのである。君は此の亂世に生れたるの故を以てか資性豪毅にして而も潤達、よく衆を容るゝの攝度ある男性的意氣の持主である。

君は幼少の頃船橋小學校に學びたるに過ぎざれども、金識をも徹す勇氣と、才幾喚發君の如き英才が如何で餓地に終始するに甘ぜんや、即ち明治三十四年二十四歳にして青雲の志を抱いて上京し、或は商業の見習として屈はれ、又は自から商業を經營し、十ケ年間の苦心慘憺たる躬驗に基き、明治三十六年現所に煎豆商を開業するに至つたのである。

成功元より勁勉の賜でなければならない、君が現所に開業以來共の營業上に盡せし努力は實に神人共に泣かざるを得ざる位であつた。『天は常に人に幸す』而も勁倹力行の子をよりよく多幸ならしむるのである、君が日夜の奈勝努力は漸次報ひられて、日に月に盛況に至り遂に附近屈指の資産家となつたのである。

君は又徒に商財のみの人ではない。よく公共的事業に盡すことを快とし、常に町内の繁榮に志し又は隣の誼に力を盡し三崎町二丁目町會の創設に付て功績あり、衆望を負ふて町會長に推さるゝや適任として名聲がある。

又青年の調育に心を用ひ指導啓發に盡して俗子惡父尚及ざるの憾がある、君が青年團長に選ばる決して故なきではない、復興計畫の基礎である區劃整理事業興るや第五地區より委員に擧げられ深身の努力を以て處理に當る。地主借地人に對しては懇切を極め、當局との了解に努むるなど誠に整理委員の實績を遂して居る。

家庭又常に圓滿にして和氣藹々たるものがある。

第五地區委員

小仲井石藏君

出生地　千葉縣

生年月　明治十年九月一日

現住所　神田區三崎町二丁目六番地

職業　煎豆商（船橋屋）

今村力三郎君

出生地　長野縣
生年月　慶應二年五月二日
現住所　神田區三崎町三丁目一番地
職業　辯護士

君は慶應二年五月、長野縣伊那郡上飯田村に呱々の聲をあゞ。

幼より資性頴悟にして才智衆に勝れ、十歳の時既に四書五經の素讀暗誦を能くし長者をして驚嘆せしめ神童を以つて稱せられたりと言ふ。即ち君の非凡なる才幹は夙に識者に知られた所なり。

長じて志を法曹界に立て、勉學を期し笈を負ひて上京し、明治十六年東京專修學校即ち現今の專修大學に入學することゝなれり。

君は既に非凡の才分を有せる秀才なり、而してまた刻苦勉強怠らず益めに學業の進歩上逮異常にして成績群を拔けり。かくて明治二十一年同校を卒業し、直ちに同年代言人試驗に及第せり。

源來君はその才能を若々發揮せるが、殊に明治二十七年四月より三十一年九月まで東京地方裁判所判事の職にありて、最もその名聲輿望を高揚せり。その敏腕縱橫にして裁斷の流るゝが如き明快は昔く令名を馳せたる所にして人或は君を指して私かにかの一世の名判官として謳はるゝ大岡越前に擬して稱讃措かざりしものありしと言ふは蓋し單なる偶言に非ざるべし。要するに君の識見の卓高にして頭腦の明晰なりし所以に外ならざるなり。

その後、長野、前橋等の裁判所に轉じ名聲益々揚がれるが、間もなく冠を挂けて野に下り辯護士を開業するに至れり。

君の辯護士となるや忽ちに令聞は以前に增して加はり、門前常に賑を呈し、信望依賴の相集りて篤く、殊に君は刑事々件を最も得意とし、世上に喧傳せられたる數多の大事件に與り活腕を揮ひて盡々その才幹誇言を稱せらるゝ。

最も著名なりし事件としては、日機事件、教科書事件、瓦斯疑獄事件等あり、就中最近世人を驚目驚聽せしめたる中岡艮一の原首相暗殺事件あり。是等の大事件に於ける君の活躍は屢々新聞紙の報じたるところにして君は江木、原、花井博士等と共に我が法曹界の重鎭たり。

君の趣味は圍碁、相撲等にしてまた有名なる讀書家として知られ殊に歷史書文學書を愛すと云ふ。

夫人ささ子は長野縣人大原氏の女、長男學郎君あり、長女富子嬢は長野縣人峰谷し氏の養女となる。

原島藤藏君

出生地　東京府
生年月　明治四年二月十日
現住所　神田區三崎町三丁目三番地
職業　製材業

現在、我國實業界の大立物として名を成すもの澁澤、大倉を始め其他幾多の成功をなした大小の商賈はあるが、何れも當初の悪戰苦鬪は成功界談の好資料であらぬはない。最初から相當の資金と而して機會とあつて此の生存競爭裡に驀驅するといふならば暫兒と雖も尙容易の業であるけれども、現世業商として一世に時めくものゝ多くは徒手空拳、孤軍奮鬪の戰場を經て其成果を贏ち得たるものであるが故に、成功は一厝の光輝を添へ據として無乎たる明月をも蓋閉するの概を呈するものである、實に此の獨立獨行は人生行路のモットオであつて、人間生活の意義も亦實に此處に多分を藏さねばならぬ。

即ち君は明治四年東京府下西多摩郡古里村に生れ、農村の一青年として家業に從事して居たが、澎湃たる精氣を持てる君は、僻陬なる一村に蹈躇を欲せず、大なる風雲を望みて常に立身出世の機會に向つて猛進せん事を庶幾して居た京自由の天地に游遊して思ふ存分自己の力を揮ふには商人に若くはないと大決心を立て、一田園に懊惱しつゝ無氣力なる日を過すに堪え乎して幾多の業業を樹てたのであつたが、何分生に立つものは資本金である。然れども君の生家は此の君の計畫に對して十分なる助力を與ふるを得ない實情にあつたが故に、君は斷然として自己に信ずる處あり、徒手空拳は已れの光りを一層增す所以であるとの深い信念から、殆ど無一物に近い君は漂々乎として明治三十年出京し現在の處に材木商を開業したのであつた、將來大をなさんとする者は既に業に當る前から尋常ではない、殊に獨立獨行の大精神が之を手傳つて居るから幾多の辛酸に逢ふ毎に益々君の信念を固めたる結果は遂に今日の君を大成せしめた。

其後愈々家業を擴張して製材業をも兼ね手廣く營業をなすに至り、旣に同業組合三縣會々長に推され、町會副會長に擧げらるなど今は押しも押されもせぬ業界なる地盤を作り上げたる所以のもの、蓋し同君の自主獨往の大精神に俟つもの頗る多い事を特記せねばならぬ。區劃整理委員として君を擧げたる又明あるなり。

長尾景英君

出生地　大分縣
生年月　明治十四年五月五日
現住所　神田區仲猿樂町十一番地
職業　歯科醫師

近來、口腔衛生の必要を力說唱導する風潮の昌んになりゆき、都鄙を問はず、學校或は衞生當局に於て特に此方面に關する事業に力を注ぎ出した事は實に慶賀すべき現象であると云はねばならぬ。宜に此事業は國民保健の上から一日も怠緩に附すべからざるもので、此點に自覺を生じ來つたのは喜ぶべき事ではあるが、また當然の事であるとも云はねばならぬ。而して、此事業に於ける商科醫師の責務も重大を加へ來つたが故に、到底、技術のみを主とする在來の方針にては此進運に處して最善を期す事は出來ないのである。斯る時、我が長尾景英君の如き、學理に通じ技能に秀で、而も終始事業の爲に努力せらるゝ良醫を得た事は吾人の大いに力强しとする處である。

君は明治十四年五月五日、大分縣玖珠郡、八幡村の農家に呱々の聲を揚げ、長じて東京齒科醫學專門學校に學んだ人である。校門を辭して後現在の地に開業し、其親切にして優秀なる施術は忽ち患家の信頼を得て勤かすべからざる地盤を築き上げた。

而して、また公共の事業に盡す處厚く、神田區役議員保健に樹立せられては業界の錦る處直ちに當選の榮を荷ひ、神田衞生委員として適材適所の實を擧げつゝある。

今次、帝都復興の大業興るに及んでは第五地區區劃整理委員に推され、傾倒する處多大であつて、指導極めて公平である。蓋し、君の崇拜する人物に於ても知るゝ如く、君は徹頭徹尾正義を重んずるの人である故に、如何なる場合にも其思想性格の上に動かすべからざる根底を有す正義の觀念あるからであらう。

君は佛教を信じ、淨土宗に歸依してゐる。趣味として蒔繪及壇球に最も愛着を有し、盛期とたれば直ちに山野を跋渉して勇健の氣を養ひ、また閑暇あれば紅白珠戲に興を續ると云ふ。家庭には夫人との間に一男を擧げ、令息は目下駿京第五中學に在學中の俊才である。

醫學士　寺島清司君

出生地　長野縣
生年月　明治九年十二月廿五日
現住所　神田區西小川町二丁目三番地
職業　東京女子醫學專門學校教授

醫は仁術である、人は生身である間は必ず身體の何處かに支障を生ずるものであつて、無病息災だと云ひ、醫師の厄介になつた事はないと豪語してゐるものでも何時病氣に罹らぬとは限らぬ、何時不慮の怪我を蒙らぬとは斷言出來ない、數時間前までは人一倍元氣であつたものが身體の故障乃至不時の災ひから忽若として幽明さかひを異にする事實は常に吾等の見聞する處である、不老不死の靈藥を全國に求めた秦の始皇帝は既に二千年前の人となり、百二十五歲說を呼號した大隈侯は遂に百歲に滿たずして世を去つた。

眞個の學究の徒があつて醫術に關する智識を大宇宙に求め、技術的に靈肉の永遠不滅の眞理を發見したならば秦帝も大隈も再び蘇らせるばかりか、現世に生存する人類は死の場面に接せずに濟む次第であるが、人は誰れしも死を怖れ、身體に僅かの故障があつても直ちに醫師に縋り醫藥を求める、蓋し靈肉不滅の大原理が發見されざる間は人類は常に醫の仁術を拒む事は出來ない。

玆に、醫に業を享け最高の學府を出でゝ目下東京女子醫學專門學校教授といふ重要なる社會的地位を有する君は、明治九年十二月二十五日、長野縣南安曇郡梓村に呱々の聲をあげた、幼少より頗る聰明にして沖航、品行方正にして學術優秀、其の將來に就ては先輩學友より大なる期待を以て迎へられたものである、故杉浦重剛氏の日本中學校から東京第一高等學校に入り、更に進みて東京帝大醫學部に入學したが成績卓絕にしてクラスメート中異彩を放つて居た。

明治三十九年十二月卒業して醫學士の稱號を得、直ちに同大學附屬病院三浦內科に勤務して一層の研鑽を積み技を研いたが、勤續十年にして現在の東京女子醫學專門學校に教鞭を採り、後進養成の大任を負ふ事となつた、其の恬淡の性、謹厚の資は貴紳の間に多くの知己を作つた、故松方公、一條公、細川侯等を始めとして、朝野の名家に親炙し、頃者故總理大臣加藤高明伯の主治醫として努力したことは尙人の記憶に新たなる所である。

愛子夫人との間に三男一女あり、長男尚俊君は目下東北帝大醫學部に在り、父業を繼いで斯界に貢獻さんと勉學中である。

第五地區委員

正六位 勳六等 **上野繁君**

出生地　東京市

生年月　明治十六年十一月四日

現住所　牛込區北町三十四番地

職業　陸軍教授、東京中學校長、東京實業學校長

名門名家を出だす、君の嚴父上野清先生は明治時代に於ける我國數學者の權威として既に天下に名聲を轟かしたのは人も知る處、明治五年上野塾を開き數學を教ゆ、爾皆の大業機かに成りたるも世は未だ全く平らかならず、從つて人心亦未だ歸結する處なかりしを以て數學の如き緻密の頭腦を養ふことに最も急を要するものありたるや論を俟たざる處にして上野先生の卓見と其の天才的像材に養成され幾多の英才俊傑を出したるは我國の發達史上永く銘記せらるべきもの、又先生は東京中學校、東京實業學校を創立し多數の學生を教養せられたる眞も我國教育界の大なる恩人である。

君また嚴父の後繼者として夙に教育者たらんとし、東京中學を卒へて第一高等學校に入り明治四十一年東京帝國大學理科大學を優秀なる成績を以て卒業せる理學士として嚴父の後を襲ひ東京中學、東京實業學校に校長たり又兼るに陸軍教授を以てし正六位勳六等を拜受せる名譽の教育家たり、君が嚴父の後を享けて東京中學同實業學校に校長たるや時世の進運に伴ふべく學校の諸設備を改革し多くの新進教授を聘し、生徒を教ゆる嚴に失せず親に流れず、近時の惡思潮に泥まず時代に適應せる精神的訓育に重きを置き現に生徒八百餘名を有する名中學として名實共に代表的東京中學として帝都の教育界に一方の雄を稱へらるゝは君が教育者として非凡の稟望あり手腕の存する處、蓋に名門名家を出すものと言はざる可らず、斯の如き學德兼備の君を迎へて帝都復興に區劃整理委員として活躍を請ふは復興事業に一異彩を添加したるもの事業の完璧を期する上に於いて頗る意を強うするものあるは市民は勿論當局亦深く銘記する處たり。

君の一門は悉く名士たり即ち令弟上野清輔氏は法學博士として我國法曹の權威者たり、同じく令弟堀越三郎氏は建築家として業に名聲を博し令姉上野石子女史は是亦嚴父の血を享け數學者として令名高し、君に四男二女あり孰れも俊才の譽れあり家庭は藹々として水へに春の如く和氣藹々たるものあり。

濱田端君

出生地　東京市

生年月　明治三年五月三日

現住所　神田區東松下町三十二番地

職業　地主

地主對借地人の紊爭問題は今や社會問題の重要なる一事となり之が解決は益々困難たるものとなりつゝあるが地主及び借地人の兩者に夫々直接の利害關係深き爲め起る此の紊爭問題は今後益々增加を見んとしつゝあり、之が解決に沒頭しつゝある地主は尠くない。

地主に取つて煩しく且つ厄介極まる斯の地主對借地人の紊爭問題を惹き起して其の解決に惱んでゐる地主の多い中に左程な問題などは夢にも知らず、地主對借地人の間は常に圓滑なる協調を遂げ、眞に名地主として嘖々たる好評を博し借地人より多大の信望を得其崇高なる人格を讃へられてゐる我が濱田端君は日蓮上人を崇拜してゐる佛教信者であるが實に模範地主として推賞して餘りある人傑である。

共存共榮の大精神に則り家業を主宰してゐる君は現住所に生れ慶應義塾に學業を卒るや、嚴父を扶け家業に勵んでゐたが先代の後を承け大いに社會的地位の向上に努め家產と相俟つて愈々向上發展しつゝある。

濱田家は世々醫業を以て家業とし寛政元年より引續き現住所に在るが大正十五年迄百三十八年間の永きに涉り引續き子孫相繼ぎ來つた稀に見る舊家であり又實に神田區內に於ける有數の資產家である。

君は趣味の人である、謠曲、仕舞、讀書其他多方面に趣味が廣いが就中謠曲、仕舞には造詣深く其の技術は夙に堂に入るとの定評がある、君は皇室中心主義を奉じ日蓮主義者である、社會公共に奉ずるの念厚く各種の社會公共事業に貢獻してゐる。君は神田區會議員として既に令名あり、又學務委員、在鄉軍人會神田區分會第九班後援會幹事長、神田區東松下町々會長等に就任し區政町治、教育等に貢獻する枚擧の遑がない。今や帝都復興の爲め區劃整理事業の擧あるや第五及第九の兩地區より衆望を繫いで區劃整理委員に推擧され本事業の目的達成に多大の貢獻を爲し其の實績大なるものがある。

家庭には賢夫人として聞え高ききみ子夫人と麥穗相和し常に春風駘蕩たるものがある。

第五地區委員

久松恭治郎君

出生地　茨城縣
生年月　明治廿二年十二月廿三日
現住所　神田區表柴町二丁目六番地
職業　肉商（久松屋）

人類の使命は、文化の改良進歩に資するに在る。若し、人類の歴史から此項目を取去つたならば、其處には獣類と等しき生活が存在するであらう。故に、親は子に、子は孫にと漸を逐ふて其計畫を大にし、其德を擴げ、以て其生命を永遠ならしむべきである。父祖の志す所を固守し、敷延し、其遺業を繼して之を行ふは孝の大なるものである事は、此の如き理由に於て闡明せられるのである。

我が久松恭治郎君は、茨城縣新治郡荻鍋町の人である。能く其はらを研太郎氏と稱し、地方政界の有力者であつて、新治郡會議員、荻鍋町會議員として地方自治の指導開發に力あつた人で、君は其血統を享けて公共事業に盡す事多大、また、其遺業を承けて克く其志を伸べたる所の不肖の子にあらざる偉才である。

幼時修成義塾に學び、十八歳郷里を去つて東京に出でゝ現在の地に肉類販賣商久松屋商店を開いた。而して店運隆盛に赴くや、益に其素志たる公共事業に力を効し、四隣、區民の尊崇頗る厚く、推擧せられて區會議員となり、學務委員に任じ、以て區政及び育英の事業に盡して功績頗る多大である。

また町治に盡すこと厚く推されて旗攀町二丁目會長の職に在り、自治消防團長としても功績多く、又神田公正會理事及憲政會東京支部評議員の公職に在つて政界に活躍してゐる。

今や帝都復興の大業興るに際し、第五地區に區劃整理の委員に推され、幹旋多大にして地區民の期待する所極めて重い。君は鶴見總持寺の壇越として信仰厚く、また玉堂を趣味として技倆侮り難きものがある。閑暇あれば獵銃を肩にして山野湖沼を跋渉する等、其高尚雅武の趣味に見ても、またその信仰に見ても、君の人格の今日在るは偶然ではない。

家庭にはみね子夫人との間に二男一女あり、長男美太郎君、次男三千三君は既に一家を成し、三千三君は東京商科大學出身の俊才にして三井社員として別途に其志を伸しつゝある。一家益益前途洋々たる事を祈るのである。

專修大學

所在地　神田區今川小路二丁目八番地

明治三年九月、相馬永胤、田尻稱次郎、目賀田種太郎、駒井重格等の諸先覺、相圖つて京橋區南鍋町に專修學校を創立し、法律經濟の二學科を教授し、以て國家の文運を昌んにせんとせり。實に現在の專修大學の前身にして、幾何もなく阪谷芳郎氏も之に加はりて經營の衝に當る。實に其歴史の古き事、私學中慶應義塾に次ぐ。

星霜既に四十餘年、今日の健闘眞實なる校風を爲して燦然たる光輝を學界に放ち、夥多有爲の材幹を歌出せるもの、聚として經營者に共人を得たるに依ると謂ふべし。

此間、明治三十九年學則を改正して專門學校令に依る大學組織と爲し、次で大正二年七月專修大學と改稱し、越えて大正十一年五月大學令に據るの認可を得て昇格し、翌大正十二年新たに大學經濟學部を創立せしめたり。同年九月大震火災の爲校舍を擧げて烏有に歸せしめたるも直ちに復興に着手して翌年迄には全部の再整を見たり。

今や經濟學部、大學豫科、專門部經濟科、專門部計理科を置き、法學博士男爵阪谷芳郎氏學長として之を統制せり。

今次帝都復興の事業興るに及んで本校は第五地區に土地區劃整理法人委員たり。而して大學理事兼幹事總間伊作氏代表出席し、復興の基礎事業の爲に後々幹旋努力せらる。

鶴岡氏は岡山縣阿哲郡神代村の人、明治十六年高梁藩々黌に學び、後村の聲高かりし人にして二十年東京に出でて中村敬宇先生の同人社に入り、在學數年にして更に經濟學を修めんが爲に專修校に入る。明治二十七年校門を辭するや其前後に於て操觚界に入れる君は現農林大臣田中義一氏と謀つて東洋經濟新報を興し、明治三十三年東京銀行集會所に入り、後母校に招聘せられて現在の要位に在り。

君は都鄙室々たる紳士、常に謹書を趣味とし古人を友として自省信義を忘れざるの高風を吞し、また詩作を好んで興あれば感懷を詩詠して樂しみとす。其母校の爲に起つや粉骨碎身、遂に今日見の校風を沁持せしめたるもの、一に君が如上の高風の及ぼす處なりと謂ふべし。常に行つて餘力あれば即ち文を學ぶと謂へる古語は之を往て直ちに君が表徴たらしむるを得べきなり。

第五地區委員

勲六等　松見文平君

出生地　東京府
生年月　文久元年七月十五日
現住所　一神田區西小川町六番地
職業　順天中學校長

人生五十功名富貴を外にし日夜屹々として育英の業に從ふこと四十餘年、併も倘倦むことなく老の將に至らんとするを知らず、分に安んじ職に忠なるもの世間果して幾人あるであらうか、即ち君の如き今日に及ぶ偉績といひ現在の地位といひ誠に當代第一人者として嘖々に傳ふべきであらう。

君は甲斐先生を父君として資性頗る温厚篤實、夙に學に志して初め順天求合社（現在の順天中學校の前身）に於て同校々主福田半氏及其父理軒氏に就き數學、測量、天文の學を修め傍ら漢籍を儲者阿部傳氏に、英學を佐々木鵬忠氏に、漢文を密道應に、書法を卷菱潭に學び更に理學博士寺尾壽氏に從ひ天文學を修め數學と測量の技に至りては實に天下隨一の稱があつた、かくて君は印刷局、近衛師團、士官學校等より重要なる測量を命ぜられ、同十九年には中等教員の免許狀を得て皇典講究所、跡見女學校に教鞭を執つたのが、抑も君が教育界に乘り出した發端であつた、其後母校の教授を囑託され設立者を補佐して教授管理の任に當つたが、後同校々長を兼ねるに至つた、而して二十六年中學校令に準據して同社内に順天中學校を併設し、爾來四十年間に卒業生を出すこと三千有餘名。

斯の如くして我が教育界に寄與貢獻すること甚大であつたので、長くも他の私立中學校に先立ち明治四十四年には先帝兩陛下の御寫影を、次で又大正四年には　今上陛下の御寫影を夫々御下附になり空前の榮譽を擔つた外、學制頒布紀念祝典には　天皇陛下より御下賜品を拜受し、又文部大臣其他より幾多の表彰に接し無上の面目を施したが、今日まで各方面より表彰されたること三十餘回に及んでゐるといふ事實に付て見るも如何に我が教育界の大恩人であるかゞ窺はれる。

更に育英の功により皇太子殿下御成婚の祝典に際しては提き遂より勳六等に叙せられ瑞寶章を授けられた、以て君の國家的、社會的に盡瘁された事が思ばれる。

柴田竹三郎君

出生地　東京市
生年月　明治七年十二月十六日
現住所　一神田區三崎町一丁目一番地
職業　酒商

内に在りては父祖の家を興して家業に努め、出でゝは社會公共の爲め眷々の至誠を捧げて倦まざるもの、眞に社會人として、個人として崇仰するに足るの人と云ふべく、之に對して、彼の自らを守るに汲々たる者、及び父祖の遺財に安逸袖手する者は愧死すべきなり。

君は明治七年十二月十六日を以て現在の地に先代惣兵衛氏の長男として生を享けたる江戸つ兒にして、俠骨稜々たる快男子なり。

家業は酒類商にして業務の盛大なる事、一に君が精勵の賜なり。

君は他面社會公共の爲に盡心する事厚く、現に三崎町一丁目自治會々長の任に在つて町の平和及發展に盡し、また神田區營業稅調査委員たり。何れも熱心事に當る。

從つて衆望甚だ厚く、今次推されて第五地區土地區劃整理委員の大任に就き、帝都復興の大事業の爲に頻倒して公平妥當、市百年の爲に孜々努力して事業の進捗に努めつゝあり、地區民の信望益々大を加へつゝあり。

君家庭には祖母みつ子刀自高齢を以て偏存し、君が活躍を親しく見聞しつゝあり。君之に仕へて内助の功厚く、君との間一女千代子孃を擧ぐ。千代子孃は岸本常之輔君と養子緣組をなして共に家業を輔け、既に息富士男君を擧ぐ。

一家睦まじく和樂し、常に談笑の聲を絶たざるは眼前に耐へざるなり。

慶應三年十月、十五代將軍德川慶喜大政を奉還してより、王政益に古へに復し、之よりして興國の氣運宇内に漲ち、僅々半世紀の間に於て世界を壓倒せしむるの進歩を遂ぐるに至れり。

君は封建の制廢せられて新興日本の生産せる境に生を享く。實に皇國の更生と共生を共にせるの人なりとす。

生地は本郷區元町、田島五六氏長男たり。夙く日本大學に學びて法律を研究し、學業を卒へて後辯護士試驗に登第し、後日本橋區室町二丁目三番地に公證役場を開き、公證人として最も古き地盤を有す。事務に當つて熱切事を處理して明快、克く衆人の信賴を受けて業務甚だ昌んなり。

今次帝都復興の大業興るに及んで現住所の關係より推されて第五地區土地區劃整理委員に擧げられ、帝都百年の爲に寄與して功勞多大なるものあり、以て事業の進捗を速かならしめつゝあり。

夫人はま子は大分縣日田郡豆田町伊藤禮介氏の長女、君に事へて內助の功厚き賢夫人にして、君との間三男二女を擧ぐ。

長女しん子嬢は長野縣東筑摩郡本城村の人堀內健治君に嫁ぎ、二女らん子嬢は熊本縣下益城郡隈庄村塚崎郡藏君と結婚す。

二男三郎君、三男弘信君、四男弘信君は家庭にあり、一家和氣藹々、春風長へに吹く亦如き觀ありて訪人をして健義に頭へざるしむ。

第五地區委員

田島熊太君

出生地　東京市
生年月　慶應三年六月二十日
現住所　神田區表猿樂町一番地
職業　辯護士、公證人

第六地區　國施行

大正十三年五月六日東京市土地區劃整理委員並ニ同補闕委員ノ選擧ヒタリ

土地區劃整理委員

九番	議長 明治大學(地)	十三番	副議長 屋代安平(權)
一番	清水釘吉(地)	二番	濱田次郎(地)
三番	五味保(地)	四番	瀨川昌世(地)
五番	小畑惟清(地)	六番	小林長次郎(地)
七番	服部廣太郎(地)	八番	山本留次(地)
十番	酒井兼吉(權)	十一番	辻歌之助(權)
十二番	金高良助(權)	十四番	深井安藏(權)
十五番	佐藤一十郎(權)	十六番	吉岡藤助(權)
十七番	內田清吉(權)	十八番	守屋祐亮(權)

委員ノ移動シタルモノ

十番　島田宏　辭任シタルニヨリ酒井兼吉補充ス

土地區劃整理委員補闕委員

土地所有者
日下部志勇　井迅逮二　三輪竹次郎　白井千助　中村直次郎
金杉英五郎　阿久津三郎　廣川和一　藤摩治兵衛

借地權者
山本一平　加藤精一　酒井庄吉　日比二一　森伊三吉
石川三郎　近藤六藏　黑瀨正彌

地區々域

神田區　猿樂町一丁目、裏猿樂町、駿河臺鈴木町、駿河臺袋町、駿河臺西紅梅町、駿河臺東紅梅町、駿河臺北甲賀町、紅梅河岸、駿河臺南甲賀町ノ一部、淺路町二丁目ノ一部

整理前後面積比較表

總面積	宅地	公共用地	宅地	公共用地	減歩率
	整理前		整理後		
八八、九八三	七七、七八五	一一、一九八	六九、四二八	一九、五五五	〇・一〇七

委員會經過ノ概要

一大正十三年五月二十九日　第一回委員會開會、委員會ノ席次ヲ定メ、議長副議長ノ選擧ヲ行ヒ、委員會組織要項ヲ審議シ議事規則ヲ決議ス

一同年六月二十一日　第一號區劃整理前路線價指數ニ關スル件、第二號區劃整理後路線價指數ニ關スル件、區劃整理街路ニ關スル件ノ諮問案提出アリ之レヲ審議ス

一同年七月二日　第一號、第二號、第三號議案ヲ審議シタルモ決定スルニ至ラズ

一同年七月七日　第一號、第二號議案ヲ可決シ、第三號議案ヲ審議シ之レヲ保留ス

一同年七月十四日　第三號議案ヲ審議シ、第四號換地位置決定ノ件ノ諮問案提出アリ之レヲ審議ス

一同年八月九日　第三號、第四號議案ヲ可決シ、第九號換地面積決定ニ關スル件、第六號整理前土地各筆坪當指數決定ノ件、第七號整理前土地面積決定期日ニ關スル件ノ諮問案提出アリ審議ノ結果、第七號議案ヲ可決ス

一同年八月十三日　第五號、第六號議案ヲ審議ス

一同年八月十八日　第五號、第六號議案ヲ審議ノ結果之レヲ可決ス

一大正十四年二月十三日　一般事項ニ付キ開會ス

一同年三月三十日　一般事項ニ付キ全員協議會ヲ開ク

一大正十五年四月五日　町名變更ニ關スル件ニ付キ審議ス

一同年四月十五日　換地ニ關スル件ニ付キ審議ス

一同年五月二十二日　換地ニ關スル件ニ付キ審議ス

一同年七月二十日　第八號整理後路線價指數並ニ整理後土地各筆坪當リ平均指數ニ關スル件、第九號借地權價格割合決定ノ件、第十號指數單價決定ノ件ノ諮問案提出アリ之レヲ審議ス

明治大學

神田區駿河臺甲賀町

明治十四年、岸本辰雄、矢代操、宮城浩藏の三先覺者相謀つて麹町區有樂町の地を卜して茲に明治法律學校を建設す。實に本邦に於ける法律專門學校の嚆矢にして、後の明治大學の前身とす。

明治十九年校舍を駿河臺に移して後、明治三十五年學制を改めて大學組織と爲し、爾來法學、商學、政治經濟の三學部に配するに法、商、政治、經濟の各科專門部並に大學豫科、附屬明治中學校及商業研究所等を經營し、駿臺上堂々たる學府を現出せしめ、七千の學徒一萬五千の校友を抱擁し、學問の獨立と研究の自由とを校是として學界に重きをなせり。

學長は岸本辰雄、木下友三郎、富谷鉎太郎氏を經て現在は法學博士横田秀雄氏其任に在り。

大正十二年の大震火災は明治大學をも遂に烏有に歸せしめたるも、駿河臺は最も早く復興事業に着手せる地區にして、明治大學は第六地區たる本地區に區劃整理委員に推され、會議長に任じ、時の學長富谷鉎太郎博士本校代表者として會議を主宰せるも、同氏は學長辭任と共に代表をも辭任し、現在に於ては明治大學理事、甲野順氏代表出席して幹旋しつゝあり。

明治大學は駿臺に於ける最も重大なる存在にして、、本地區は敢て明大のカレッヂタウンとも謂ふべき處にして、其地區に議長たるは最も適當なるべく、又、その措置の適否は復興の上に影響する所多大なりと云ふべし。

幸いにして適當なる整理委員と共に代表者に其人を得て、最も迅速なる整理の實現を見たるは、東京全市の區劃整理の範と爲すに足るべく猶り本地區のみの幸に非ざるなり。

第六地區委員（副議長）

屋代安平君

出生地　埼玉縣
生年月　明治五年十一月三日
現住所　神田區東紺屋町六番地
職業　會社重役

人格高邁にして頭腦明敏の俊才であり資性溫良にして謙直方正の紳士であり且つ機を見るに敏にして赤心誠意を以つて奮鬪努力する活動性に富み然かも手腕家として所界に令名を謳はれてゐる我が屋代安平君は埼玉縣比企郡大河村が生める偉材である。

君は幼少時代郷里に在つて郡立中學を出て明治二十二年齡十八歲の時青雲の志を抱いて上京し將來法曹界に頭角を現し大いに經綸の才幹を揮ふべく明治法律學校に入り專心法律學の研鑽に努めたが流柳の質は復雜なる權義の蘊奧を究むるを許さず涙を呑で意志を翻し東京市に奉職、吏員として永年勤續し相當社會的地位を確保するに至つたと雖も到底之を以て滿足し能ふものでなく後ち轉じて全く無關係の實業界に入り大正八年日本國粹發業株式會社の創立に東奔西走し遂にこれを設立し同社常務取締役の要位を占め以て今日の成功を收めた幸運兒である。

生家たる小高家は同地の名門家として知名であるが代々公共に盡瘁する處多く又村政の進歩發達に盡力し現戸主たる令兄黃吉氏又現在大河村々長として在任中である、君亦公共に對し奉ずるの念頗る篤く、先年裏猿樂町々會の創立に際して三輪博士共々大いに盡力惟れ努め其の創立を見るや理事に擧され引續き現在其の任にあるが、此の外國勞調査委員、市勢調査委員勤儉禁酒神田區委員等に任ぜられ、又神田協和會常務幹事として同會の發展向上に貢獻してゐる。

斯かる慈忠家なる爲め帝都復興に際し區劃整理の大事業を敢行する計畫が定ると直ちに第六地區より衆望を擔いで區劃整理委員に擧げられ更に同地區の副議長に推薦せられて本事業の目的達成に瘁身的の盡力を爲し大なる實績を擧げ今や地區民思慕の的となり大に其の將來を期待されてゐる。

夫人ひで子は故第一高等學校教授宇田康平氏の四女にして二男あり、長男忠正氏は順天中學卒業後國藝に志し目下埼玉縣に於て實地研究中次男正夫氏は同縣立川越中學在學中にして目下同校劍道選手なり一家は全く至幸至福に恵まれた家庭である。

第六地區委員

清水釘吉君

正七位 勲五等 工學士

出生地　東京府
生年月　慶應三年十一月十日
現住所　神田區駿河臺北甲賀町七番地
職業　土木建築業

目覺しい帝都復興の大事業の第一線に立つて、殊に華々しい活躍を示しつゝあるものは土木建築界である。其中に於ても清水組の盛名は最も都人士の間に重きを爲すものである。名ある高層建築に於て、大規模なる工事に於て常に白熱の健鬪を都市文明の爲に戰ひつゝあるものは清水組である。

我が淸水釘吉君は實に其代表者として、九鼎大呂よりも重き名を其双肩に荷ひつゝあるのだ。

君は舊丹後宮津藩士小野高永君の二男に生れ、明治二十四年、先代清水滿之助氏の養子となつた人である。幼にして頴悟、神童の名あり、長じて帝國大學に學んで工學の經典を究め、明治二十四年、工科大學を卒業した。一年志願兵として現役を經るや、間もなく日清の役は始まり、君は陸軍少尉に任ぜられて一小隊々長として遼東の野に轉戰して功を樹てて中尉に昇進した。更に三十七八年日露の役には再び召されて軍旗に從ひ、北韓地方に戰鬪してまた殊勳あり、大尉に進み勳五等に叙せられた。

斯の如く一端の禍念に處しては克く至誠奉公の念を有せる君は業務に對しても創る誠實にして常に向上研究の途を忘るゝなく、既に帝大在學中、當時大阪第一銀行設計成つて建設の運びとなるや、君は學生の身を以て建築工事監督の主任として實務に當り、善く老巧生徒の間に處して實績を擧げ、斯界の注目を錦めたるのみならず、明治三十四年に遂に海外に遊んで具さに斯界の見聞新機運を究めて歸れる等、業成つてますます向上の志を強めざる點は實に敬服すべき資性である。君は本業の外、沖電氣株式會社取締役其他諸會社の重役としても實業界に重きを成してゐるが此多忙なる身を以て第六地區に區劃整理委員の任に在り、其職業として直接復興事業に力むる外、一個人としてもまた眷々の努力を爲しつゝある。

家庭にはたけ子夫人との間に四男二女を擧げ、長男俊雄君は文學士、三男康雄君は早大を出で、共に清水組に勤務し、長女文子嬢は東京女子高等師範附屬高女を出でゝ守安鑑三君に嫁してゐる。

人格品過にして頭脳明晰、容姿温厚にして、廉直、克く高僚を慈しみ業を客れ難業あり抱擁力ある精力絶倫の精勵努力家たる我濱田次郎君は福島縣河沼郡坂下町に生れた福島縣の素封家として令名を謳はれてゐる高久市太郎氏の令弟である。

第六地區委員

濱田次郎君

出生地　福　島　縣
生年月　明治二十四年六月二十一日
現住所　神田區猿樂町一丁目一番地
職　業　旅　館　業（龍名館）

郷里の會津中學校を拔群の成績を貞つて卒業するや翌年は商業家として起たんとの理想を以つて上京應義塾大學の理財科に入り大いに經學惟れ努め結果大正五年優秀を貞つて卒業し卒業後日本興業銀行に勤務する事になり敏腕家たる君は大いに上長に認められ漸次重用されるに至つたが其の間旅館名龍を經營する濱田長藏氏の懇望に依り濱田家に養子として入家し旅館業の發展を圖るに當り最新の智識と文明的理想の普及を努力するに、永く興業銀行に在任を許さず數年なら乎して辭し專ら現業の經營に全力を傾倒したのである。

爾來益々業の發展を來し彼の大震災には莫大の損害を蒙り營業上大打撃を受けたに係らず災後直ちに復興を圖り各種の設備は全く至れり盡せりと云ふ迄に整へ且管旅客に誠意と慰安とを十分に與へる事に腐心し今や曉々たる好評を博してゐるが歳月未だ極めて短きに係らず其の業績は實に目覺しいものがある爲め斯業界に於ける敏腕家として大いに其の將來を期待されてゐる。

養父助兵衛氏は龍名館の創業者であつて當時は營業稅調査委員たり其他神田區庶務委員、辰巳商會の社長をも勤めた手腕家で斯業界の傑出として知られてゐるものである。

君、帝都復興の爲區劃整理事業の秦あるや奥望を繋いで第六地區より區劃整理委員に推され公事に盡す忠願る多く大いに實績を擧げてゐる現在猿樂町一丁目町會々長、東京旅館組合本部次長の要職を勤め更に、神田旅館組合長をして十余年間の永きに渉る、又日本橋旅館組合副組長に推たるが如き如何に君が斯界に重き爲して居るかを窺知することが出來る。

令夫人たつ氏は京華高女出身の才媛、良妻賢母の譽高く一女孝子を擧げ目下富士見小學校第壱幼稚園にあるが一家團欒、羨望羨ましき感がある。

第六地區委員

五味保君

出生地　東　京　市
生年月　明治七年十二月十一日
現住所　神田區猿樂町二番地
職　業　土　地、家　屋

君の祖父は舊字都宮戸田藩士五味吉助氏として明治維新後廢藩置縣となり首都は東京に移り、皇居奠都せられて後宮中に入り永く宮内官となつて至誠奉公を竭されたるものであつた。

君は祖父の資性を受け溫雅端正なる當代稀に見る紳士の典型であるが、幼少當時を顧るときは涙くましきこともあつた、君は實に六才の時嚴父勇曹氏は逝去し、他家にあつて訓育を受け父母の温情と慈愛に惠まれなかつた。

君は學を慶應義塾商業部に修め其の識見衆に優れ當時學生中の模範として仰がれ、其の將來を嘱望せられて居つた、學を卒へるや明治三十年東京に市制施かれた時名市長として令名あつた松田秀雄氏に聘せられて市役所に入り、爾來十數年間に亘り我が東京市自治の爲に竭され、市自治發展史を飾りたる一人であつた、君人と爲り至正至直而も奮鬪的の傑材は實は君が宗家傳統的の流に顧へ、由緒深き祖家の再興を志し、幾多時世の潮流に棹して屈せず捷さず其の奮鬪は實に鬼神をも泣かしむるものがあつた、さすが學生時代の先覺者として當代第一人者と知られる福澤翁の教を受けたる爲め、機を見るに極めて敏であつた、早くも東京市の土地的發展を知り、祖家再興を畫策し遂に今日の如き成功を收めたのである、君は又社會民業の爲めに盡すを樂しんでゐるのである、即ち大正十一年六月には町會の創立を企圖し且つ多大の盡力を爲したる結果其の成立を見たもので其創立後は、請はれて町會長となり、爾來變る事なく現在に及び町會町民の爲めに貢獻されたる功や擧げて數ふべからざるものがある、又錦華小學校保護者會評議員に選擧せられて國民教育の爲めに至大の盡力を爲しつつあるものであるが、今又第六地區の委員に擧げられ帝都復興の爲めに都市區劃整理の爲めに其の樹功は期待されつゝあるものである

君の家庭は又常に春風駘蕩の趣あり、賢夫人とよ子との間に一男五女あり長男信君はお茶の水附屬小學校に在りて成績頗る佳良であり、長女龍子文女房子、兩嬢は共に佛英和女學校に在つて才媛の譽が高い。

第六地區委員

醫學博士　瀬川昌世君

出生地　東京市

生年月　明治十七年十一月二十七日

現住所　神田區駿河臺西紅梅町十番地六

職業　瀬川小兒科病院長

君は我日本に於ける小兒科の泰斗として其名學世界に鳴る醫學博士であることは世に最も著明である。

父君は醫學博士界の先輩である故瀬川昌耆氏で我國刀圭界の指導者であつて其の教を受け今博士の榮位を受けをるもの甚だ多いのである、昌耆氏は明治三十二年本所に江東病院を經營し三十五年に至り現瀬川小兒病院を創設し、共に其の院長として嘖々の名を馳てゐた、君は大正四年以來兩院の副院長として父君を助け益者せる學識と斯界稀なる技倆とを振ひつゝあつたが、大正九年父君の後を繼いで兩病院長となり非凡なる經營のまと、優秀なる臨床の技倆とは瀬川小兒病院の名聲をして益々高かからしめてゐる。

君は明治四十三年帝國大學醫學部卒業後、同校病理學教室に助手たる事三年、更に小兒科に轉じて二年間研鑽した。大正二年より歐洲に留學研究して益々學績の豐富を極め、同四年歸朝し、大正五年學位論文通過して醫學博士の榮譽を得た篤學の人である。

君は學者であり、刀圭家であり且つまた名望家であるこれは、瀬川病院の名が世に喧傳稱揚されて年久しく、今日誠々世人の賞揚信望の的となつてゐる所以である。君は實に技能の秀拔な學績の富饒な國手として著名であるばかりでなく、內務省保險衛生調査會委員、醫學士會幹事等、あらゆる我國醫界の要職を兼ねてゐるのはまた君の名望の一端を語るものである。

君は溫厚敦厚の君子で、世間醫家の模範と仰がれてゐる。帝都の復興に當り區劃整理委員として擢されることになつたのは、名聲絕望一世に高く、識見高邁の君子なる博士の如き人を此の偉大なる事業の委員として推敲するは市民の大に欣びとする所である。瀬川博士の名の醫界に響くは夙に著名であるが、また茲に市區整理といふ復興機運する大東京の實際的社會活動の根帶を其礎づける此大事に參劃されたのも目ら博士の名望の洪溢せるに外たらぬ所以である。

金間善子夫人と伉儷相和し一女を擧げ和氣藹々の家庭である。令子夫人は男爵古市公威氏の長女にして淑德溫良の誉高き夫人として譽れ高く、長女妙子嬢は日下夏雄高等女學校附屬小學校在學中である。

第六地區委員

醫學博士　小畑惟清君

出生地　熊本縣

生年月　明治十六年六月二日

現住所　神田區駿河臺鈴木町六番地

職業　濱田產婦人科病院々長

東京神田駿河臺の濱田病院と云へば故濱田博士の創立されたもので、產科婦人科病院としての最高權威である事は茲に敢て喋々を要せざるものである、前して故濱田博士の逝去されてから我が小畑博士が之れが繼承經營されることになつたのは大正八年であるが、以來博士の技、神に入れるものあると、患者を遇する事の懇切叮嚀なるとにより益々其の聲名を博し、診老乞ふもの門庭雜を爲し又常に入院者過剩にして容易に入院を許さざるの狀を呈したりしが、偶々彼の大震災に際會し當病院亦烏有の憂禍に罹りたるも直に復興再建せられて今日の隆昌を來して居るのは、病院即ち博士の聲望の如何に高きかを證し沿て餘りあるものである、更に博士は單に國手として最高の技能を權威の保持者であるばかりで無く其の人格の崇高なる點に於ても比類がない、病院が故濱田博士創立たりしを以て博士が繼承された今日も猶而名の儘濱田病院と稱されて居るが如きも博士人格の現さとして奥床かしい限りではあるまいか。

博士は熊本縣宇土郡宇土町の名門小畑宗遜氏の長男に生る、明治四十一年東京帝國大學を卒へて後、前濱田產婦人科病院に入り專ら實地に研究中であつたが其間海外に留學する事三年、歸朝後論文を提出して大正六年遂に醫學博士たるに至れるは未だ博士が齡三十五の時であつた、以て博士が學技共に如何に非凡なる鬼才であるかを思はしむるものがあるではあるまいか。

悲慘なる帝都の大災害に就て再び斯の如き慘禍を繰らしめざる爲には、完全なる帝都を建設せんとするには、先づ其の區劃整理が完全でなければならぬ。區劃整理の完璧を期するには其の委員に學殖深く事理に透徹した德望の高い人を推さねばならぬ、此の意味に於て我が小畑博士の如き委員に、集め得た事は單に市民の榮譽のみではなく實に帝都再建の爲の幸福である、宜べなる哉駿河臺一帶の區劃整理は東京市に於ける最も早い地區であつて、他の各地區に範を垂れたものともいふべきである。家庭は刀圭家の夫人として洵にふさわしい溫良典雅な夫人せい子との間に二男一女があり、義望すべき良家庭を營んで居られる。

第六地區委員

小林長次郎君

出生地　東京市
生年月　明治十二年九月十七日
現住所　荏原郡入新井町新井宿六百九番地
職業　地主、家主

きん藤漆器店は我が國漆器業界に著名なる店舗にして、世界に冠たる我が漆器業の盛大なる中に在つて常に榊然たる業績を擧げ、斯界に闘歩する處、當に一大偉觀たるを失はざるものである。店舗は日本橋通二丁目に在り帝都中心の繁華に在りて最も榮譽を極めたるものゝ一なりとする。

君は三代小林藤左衛門氏の次男に生れた。既に現在の主人を以て五代を數ふる舊家に生れた君は、人と爲り、純良淳樸、稍〻長ずるに及んで日本中學に學び、至誠純忠の人杉浦重剛先生の薫陶に浴したのである。

君は明治三十八年、分家して神田區河岸西紅梅町即ちお茶の水橋畔に寫眞業を開始した。寫眞の技術は君の幼少より妙を得たる處で、天稟の系巧は遂に君をして斯道に進ばしめざるに至り、道を樂しんで之を業とするに及んだのである。斯の如きは尋常營利の人と異り、其天性の趣味を以て斯道に參するのであるから、良心も說く、單に錢を得るを以て目的とせざるが故に顧客に對する態度も自ら眞執で、絶大の信賴を博し得たのである。

然るに大正十二年の震火災は、君の經營する處を灰燼に歸せしめたので、業を廢して府下荏原郡入新井町新井宿六百九番地に退き其所有に係る土地家屋を管理して悠々自適するに至つたのである。

今次帝都復興の事業興さるゝに當つて、君は其關係甚深なる第六地區の爲に區劃整理委員に推されて起つに至つた。而して尊旋する處公平無私、功績著大である。

君はまた前述の如く、大正の和氣清麿と稱せられ、攝政宮殿下御學問所に奉仕して誠忠の人たり、杉浦重剛先生を校長とせる日本中學に學び、其大人格の感化を受けて夙に皇室中心主義を奉ず、其公共の事業に盡して赴心なるは偶然にあらざる處である。

君、舊家に人と爲り、人物温厚、夫人はまた得難き佳人にして、君を助けて內助の功顯る厚い。令息治男君は都井荏原第二小學校に在つて成績優秀、君の錦衣厚きものがある。

第六地區委員

服部廣太郎君

從五位勳六等
理學博士

出生地　東京市
生年月　明治八年五月一日
現住所　神田區駿河臺鈴木町十地二三番
職業　東京帝國大學理學部教授、東京帝國大學及學習院講師、徳川生物學研究所長

拾萬の生靈と百億の富を失ひ史上未曾有の慘狀を現出し、帝都の震滅を思はしめたる彼の大震大災の慘苦も、堅忍不拔の我が國民性は遂に能く再び茲に大帝都建設の曙光を認めしむるに至れり。而かも帝都の復興は單に日本としての大事業たるのみに非らずして實に世界列國環視のもとに行はれ、帝都再建の成否如何は一は以て我國の威信に關し、一は以て各國に範を示すものとして再び彼の如き慘禍に遭遇する事あるも辰として微動だもせざる、且つ近世文明の凡ゆる施設を完備し帝國の首都として、世界の大都市として列强に誇示すべきものを建設せざる可らず。之れが爲には總ての方面に亙り其權威者を網羅し施業の完成を期すべく、復興計劃に參與すべき人選亦自ら至難なるを感得せる所以なり。

ここに我が服部博士の如き篤學にして而かも人格崇高、温厚にして玲瓏玉の如き君士人出でゝ復興計畫に自ら盡瘁せらるゝに至れるは復興の前途既に決せりと壞觀すべく洵に好個の逸材を得たるを慶せずんばあらず。博士は夙く歐洲大戰直後歐米に留學せられ、其の留學中殊に戰後の歐洲が如何なる經過を辿つて復興せんとするかに深く留意研鑽せられ、此種事業に深遠なる識者を貯へ一隻眼を有する權威者として重望を負はる。斯の如き權威ある學者を迎へて區劃整理に委員たる事を得たるは實に市民の榮譽たるに止まらず當局者も亦感激措かざる處にして帝都復興の最難關たるべき區劃整理の遂行上愈に祝福すべき事と言はざるべからず。

博士は人も知る如く、東京帝國大學理科大學植物學科卒業後同大學助手となり次で學習院教授、東京御學問所御用掛等に歷任後ち歐米に留學され歸朝後更に東宮職御用掛、東京帝國大學及學習院講師、徳川生物學研究所長として我國植物學界の權威者として既に定評ある學界の著宿たり。

經過して云ふ、我が復興事業の途上、君の如き世界的人物を其第一線に加へ得たるは東京市民の世界に向つて誇示し得るものにして斯して始めて本事業の價値を高からしむるものなりと。

山本留次君

出生地　新潟縣
生年月　明治五年九月二十八日
現住所　神田區駿河臺北甲賀町三番地
職業　會社重役

産業立國策が近世各國の基幹を爲すや言を俟たず、而して我國が建國二千五百有餘年の間に培養されたる固有の精髓は更に西歐文化の移入に依り茲に完全なる國家の發達を遂ぐるに至れるは實に中古世紀以後に勃興せる歐米産業界の歸趨を取て以て我國に移入し之れに我國固有の機界を注入し運用したる賜なりと言はざる可らず、然り而して斯の如く我國産業の基礎を築き上ぐるに至りたるは到底尋常一様の丸腰の徒の爲し能はざる處にして不屈不撓の精氣を誠し非凡の逸材輩出するに非らざれば今日の成果を齎らす能はざりしなり、我が山本留次君は此の見地よりして質に我國産業界に一大指針を寄與したるものと言はざる可らず。

君は新潟縣長岡市の産、幼にして鳳雛の志を抱き學業を卒のるや出て丶博文館に入れるは明治二十年、爾來卓越せる才能を發揮して累進し遂に大博文館の支配人として我國出版界に資獻せるに人も知る處の如く、出版界の權衡より歸納して明治三十年には博進社洋紙店を創始し之れが事務理事に乘げられたるは蓋し君が洋紙界に先驅者たると大産業家たる見識を具有せるもの、果然業務は大なる發展を遂げ後組織を擴入して株式會社となし事務取締役社長として今日の隆運を見るに至れり此間歐米に遊んで斯業の視察研究を爲す等君が如何に進取的産業家たるかを證するものにして現在君が重役として關與せる會社は實に左の如き多數に上れり。博文館、日本化學工業、北越製紙、日本フエルト、東京紙器、東京商會、東京英大小、合同紙店、東北板紙、日本加工紙、明治製菓、文運堂、大日本鉛筆、の株式會社に或は取締役會長となり或は取締役監査役となれる等其の精力絶倫なるは驚異とすべきものあり。斯の如き機界縱横なる君を擁して此の雛事業たる區劃整理に參與したる事を竭したる帝都復興に一層盛一層加したるものと言ふべし。

君は家庭的にも亦至幸至福、瓊姻濃厚なる夫人メヾ子との間に一男六女の子福者にして令息博君は早稲田大學商科在學中の秀才たり。

酒井兼吉君

出生地　東京市
生年月　明治十二年六月四日
現住所　神田區駿河臺西紅梅町六番地
職業　湯屋業

湯屋業を經營してゐる我が酒井兼吉君は庄作氏の長男として京橋區南鍛冶町に生れた生へ抜きの江戸兒、仁俠の士にして世話を好み人の依頼は如何なる事でも爲し遂げねば止まぬ徹底せる篤志家であつて神田駿河臺に營業しつゝある紅葉湯の當主としてよりも政治方面の活動家としてより以上知名の仁である。

憲政會の主義主張に大いに共鳴する處あり、神田の人氣者作間清逸氏を信頼し選擧毎に渝からざる應援を爲し何時も當選の榮をかち得さしめてゐるが是れは君が選擧に際して作間氏の爲め砥いては憲政會の爲めに身を挺して活動した勞に與る處が多き結果に外ならぬものがあるとの趣意から作間氏第八回目の當選に當つては憲政會總裁たる加藤高明子より感謝狀を贈られ大いに其の功勞を讃へられる處があつた憲政會の功勞者である。

君は學業を卒るや早くも十八歳の時慈父の長逝他界に遭つた爲め年少にして能父の遺業を繼承し、家業の發展を計つて精勵努力の結果家運を好轉せしめ京橋より大正六年現地に移轉營業を繼續今日の盛業を見るに至つたものである、岳父庄作氏は未だ湯業の稀なる時代京橋に開業し斯業の發展向上に、陰に陽に盡瘁する處甚だ多かつた斯業の功勞者なるが故に今に至り斯業者間に其の德望を傳へられてゐる程である。

帝都復興の爲め區劃整理事業の擧あるや仁俠の士にして克く社會公共の爲めに身を挺して盡力する處あり、君は業望を負ふて第八地區より區劃整理委員に推薦され本事業の目的達成の爲め各方面に亙り獻身的大努力を拂つてゐるが其の實績は頗る多く尚ほ駿河臺整和會の幹事として神田區表神田浴場組合の幹事として太田姫神社の世話人として京橋區南槇町在住當時青年團團長として夫々盡力した功績は蓋し大なるものがある。

令閨ふで子は良妻賢母の譽高く一男三女あり、零瑟殊の外相和し一家團欒、和氣藹々たる處がある、長女キヨ子嬢は學業を卒へ家事を助けつゝあるが趣味廣く諸藝に通じた才媛として知られ長男勝次郎君亦優績を以つて學業を卒へ家業を助けつゝある。

辻歌之輔君

出生地　埼玉縣
生年月　明治十八年八月六日
現住所　神田區駿河臺西紅梅町一番地
職業　酒類（和泉屋）

世に二男三男と生るゝは普通にして五男七男又異とするに足らざるも九男十男と生るゝが如きは蓋し異無稀に見る處たり而かるに我が辻歌之輔君が埼玉縣北葛飾郡八木郷村の豪家成川半八君の第十男として生れたのである、は洵に芽出度生び立ちと云はねばならぬ、是等多數の一族各繁榮あり、今見市には迎米問屋として有名なる神田川の豪商多額納稅者である佐久間町の松村金兵衛君の如きがある。

君は幼時より實業界に志し學業を卒ゆるや直に斯業見習たる事數年、明治三十八年徴兵に合格して騎兵第十六聯隊に入営し軍務に勤勵すること三年、温良にして從順而かも仁俠の氣に富み內に燃ゆるが如き覇氣を藏し、挾話にして動作極めて俊敏なる君は上官に愛され戰友に畏敬せられ模範軍人として最上成績を以て軍務を果し、歸郷するや其翌明治四十二年二十五歳にして現地に斯業を開始せしに固より豐富なる資金に多年の熟練を以てせるに由り商機商略は悉く的中し、華客愈々增加して遂に今日の盛大を致せるは君が實業家たる天分を發揮したる處とは云へ又以て熱心なる努力の賜たるべし。

君は軍事に關しては頗る熱心にして在郷軍人會神田分會員として分會の爲め區民の爲め將又後進の爲め奔走して倦む處なく功勞絶大なるものあり、同會より功勞章を贈與されたるは稀に見る處の盡忠の士である、又駿河臺和會幹事として推され町の紛糾混亂和に盡す處多く、國勢調査の如きは毎回乗げられて調査委員となれるが如き君の公共的誠心を披瀝せられたるもの少なからず、帝都復興の大計畫に參與して區劃整理に第六地區より選出せられて整理委員となり此の難業の遂行に當り著々實績を擧げ來れるは平常君が町治の發展者として且つ信望篤く手腕の凡ならざるに依るものなり。

君は生家成川家と緣故淺からざる故を以て辻家に入り、温雅貞節なる夫人ふく子と婚して二女を儲ぐ、長嬢ふく子は市立實科高等女學校在學中にして才媛の名あり、滿々の利氣四堂に滿ち圓滿和樂の良家庭今當れり。

金高良助君

出生地　埼玉縣
生年月　明治十年四月十五日
現住所　神田區淡路町二丁目四番地
職業　合資會社柳下商店支配人

實業家たらんとして遂に其の素志を貫徹し東都實業界に其の人あるを知らるゝに至つたのみならず斯界屈指の積腕家として大いに其の將來を期待されてゐる立志傳中の傳材は誰あらう我が金高良助君である。

柳下音次郎氏の二男として埼玉縣入間郡南畑村に呱々の聲を擧げた君は、悠里に於て學業を終るや齡未だ十七歳の時、青雲の大志を抱いて上京し芝區愛宕下町二丁目四番地に在る雜貨問屋長島商店に入り前後七年間刻苦勉勵、辛酸を嘗めつゝ傍ら芝區商業夜學校及商業講習學校に學び優績を以て卒業の後、轉じて化粧品問屋として斯界に名名ある現商店に入り奮勵努力克く店務に從事中其の非凡なる手腕を認められ同店の支配人となり、今日迄前後二十有餘年間其の任に在つて合資會社柳下商店をして今日の隆盛を見るに至らしめたのである、君が今日の大成を見たるは實に半生に涉り勤勉力闘の結果であると思ふ。

柳下商店が今日の盛業を爲したのは一に人格高潔、資性温厚篤實にして自ら服して人を服さしむるの德を具へてゐる君の力に俟つもの極めて多いのであるから君は同店に對する傾動は誠に縛々たるものである、尙ほ株式會社花型ロクロ製作所取締役、米山チイダー株式會社副社長（現任相談役）等に就任せ乘きを爲して居る有力家である。君社會公共に對し奉仕するの念厚く多忙の中に神田區愛和會幹事、淡路町昌平會幹事等に就任せる外各種の社會公共事業に貢獻する處頗る多いが帝都復興の爲め區劃整理事業の舉あるや業望を擔いで、第六地區の區劃整理委員に擢擧せられ本事業の目的達成に獻身的の努力を以て盡す處あり其の實績大なるものがある。

令閨やま子は淑德の譽高い賢夫人として知られ二女あり、長女花子嬢は目下三輪田高等女學校三學年に在學中、又次女榮子嬢は淡路小學校在學中の何れも俊才揃にして一家團欒、我が金高家は實に幸福圓滿其のものであつて常に陽春の氣かさがある。

第六地區委員

深井安藏君

出生地　新潟縣
生年月　明治九年十月十日
現住所　神田區淡路町二丁目四番地
職業會・社重役

土木建築界に見る手腕家として斯界に多大の信望を博してゐる我が深井安藏君は、夙に定評ある非凡の偉才であるが現に斯業界の一大權威たる株式會社竹田組の常務取締役として同組に重きを爲し竹田組をして斯業の覇者たらしむべく其の發展興隆策を講じ着々として、斯界に壓倒的勢力を扶植しつゝあるは今更ら乍ら同業者より尊敬せられてゐる所である。

君は政歳氏の長男として新潟縣三島郡米迎寺村に生れ學業を卒るや駿叉政藏氏が郷里新潟に於て村木組に土木建築業を盛大に經營して居つた爲め殿叉を扶けて斯業を研究しつゝあつたが、明治四十一年志を立てゝ上京し斯業界の重鎮であり一大權威である竹田組に入り、不撓不屈、克く業を勵み共天賦の鮮やかな手腕を發揮して大いに業績を擧げた。功成り三年後には工事主任に抜擢重用され、爾來各種の工事を擔當して何れも優秀の成果を收める處があつた爲め、大正十二年竹田組が株式會社に組織が擴大變更せらるゝと共に常務取締役となり、今日に及んでゐるのである。

斯業界の奇才と迄謳はれる今日の地位を築き上げた君の刻苦勉勵は一方でないが是れ全く君が長する處に向つて奮鬪努力した賜である、竹田組の將來は君が手腕を振ふか揮はざるかに依つて盛衰何れかに岐れるだらうと言はれてゐる程君は其の前途を囑望されてゐる人傑である。

性剛毅快活にして仁俠の士である君は社會公共に對し奉ずるの念厚きを以て淡路町昌平會評議員、東京土木建築同業組合常任理事等に歴任して多忙係ら乎帝都復興の爲め區劃整理事業の場あるや第六地區より衆望一致の要望を受けて區劃整理委員となり、本事業の目的達成に竭してゐるが、其の實績は頗る多きものがある。

令閨美江子は淑德の譽高き賢夫人にして一男三女をあげ、琴瑟相和し、至極幸福な家庭を結び、長男誠君は目下慶應中學在學中の秀才として知られ將來を囑望されてゐることは喜ばしき事である。

第六地區委員

芳賀佐藤一十郎君

出生地　長野縣
生年月　明治十四年三月十日
現住所　神田區猿樂町一丁目三番地
職業　軸組、書畫、骨董商（晩晴堂）

君は信越の國境に介在せる僻村、長野縣下水内郡柳原村の農　長右衛門の長男として生れた、温厚にして資性極めて高潔、人と爽つて頗る信義の念に厚い德望の人である。鄕里に於て學業を卒るや父母を扶けて專ら家業に從つて居たが、明治三十五年、二十一歳にして青雲の志を抱いて上京し、軸組製造業として有名なる藤井長太郎氏に師事すること前後三ヶ年、此間幾多の辛酸を嘗めたが、其苦心と努力は酬ひられて二十四歳の時現住地に獨立自營、斯業を開くことゝなつたが君の傑出せる技量は遂に東都に於ける書畫骨董界の巨頭木山謬資氏の認むる處となり、氏の好遇引立を受け一層斯道に精勤努力の結果家業の發展は勿論、大に顧客の信望を博し、今や軸組の製作を以て氏の右に出づる者無く從つて天下古今の名幅は殆ど氏の製作に係る軸組に收藏せられざるもの無き有樣である。殊に書畫骨董に一雙眼を有する君は、芳齋と號し、家號を晩晴堂と稱し斯業を兼營するに至つたが、善良なる氏は彼の川合玉堂、平福百穗、木村武山氏等を始め、帝展院展兩派の諸畫伯に信認せられ、是亦門前市を爲すの盛況を呈してゐる。

斯の如く内外の信望を一身に蒐めてゐる君は本屬に同業者間にも重きを爲し、今後の活動如何に依つては將に斯界の權威者たるに至るであらうと、大に其前途を囑望せられてゐる。

又君は何等見樂の念を有せず、公共に對して奉ずること頗る厚く、今日迄社會公共の爲めに盡力せること殆ど枚擧に遑あらず、現に未だ猿樂町一丁目會が設けられない以前、既に一樂會なるものを設立し後大正十三年猿樂町二丁目町會と改稱せらるに際し之が會長に推され、神田區公正會評議員、帝國在鄕軍人會神田分會評議員、聯合帝都復興の爲め區劃整理事業の遂行に當つては第六地區より衆望を負ふて區劃整理委員に選ばれ本事業の目的達成に對から手盡力し、其功績頗る顯著なるものあり、今や同地區住民から感謝的となつてゐる。

良妻賢母の譽高い喜多子夫人は克く夫を扶けて家庭を收め、一男あり長男誠一氏は日本大學中學部を卒へて目下一ツ橋商科大學入學の準備中の秀才、次男俊雄君は京華中學校在學中の俊才にして今や一家は團欒和氣の間にあるの觀がある。

第六地區委員

勲八等　吉岡藤助君

出生地　埼玉縣

生年月　明治九年六月十七日

現住所　神田區樂町二丁目二番地

職業　履物商

君は人に接して極めて溫厚柔和面かも自ら他に接されて其間個たるの風格あるは是迚に君が圓熟せる人格の現はれであつて性眞率、至誠奉公の念に厚い德の光りが仄見ゆるに外ならぬものである。

君は埼玉縣下谷塚村の眞宗古刹作造氏の次男に生れ鄕里の小學校を卒ゆるや直ちに家事を助けて孝養厚く隣人新く其子弟の模範に推ゆるに至つたが、明治三十年近衛歩兵第二聯隊に徵召され、國家の干城として奉公の赤誠は盡くされたのである。斯くて兵役の重任を果して滿期除隊さるゝや、二十四歳に至り敢然獨立して分家し除に父母の膝下を去つて、當身帝都東京に出で更に繁華を親ふ淺草に店舗を開いて雜貨業を營む、爾來營々として家業に勵精し家運日に月に興隆して盛に斯界に覇者爭はんとする時に當り偶然東亞の風雲急を告げて、日露は干戈相見ゆるの機となつた、君が至誠奉公の念厚き途に神に通じて再び戎衣に身を固めて强露征討の皇軍に參加する事となつたのである。君が砲煙彈雨の間に如何に奮戰指揮盡忠の誠を盡くしたかは今や胸間を飾る勲八等の光にも知らるゝものである、君が異鄕に於て轉戰激闘克く萬死に一生を得て凱旋すれば時代は昔日の夢を消さず一般實業界も其面目を更むるものが多かつた、君も茲に見る所あり明治三十八年十二月現住所に新らしく店舗を開いて現業履物商を營む事とはなつたのである。爾來二十年誠實を旨とし顧客を本位とし利を薄くして德を厚くし家業に孜々として倦む事なく精勵搭勤業人の克く及ばぬものがあつたが爲め遂に今日の隆昌を見るに至つたのは君が實業家として如何に非凡なる手腕を有するかを語るものである。

君が忠君愛國至誠奉公の念に厚きは又克く市政公共の爲めに及ぼし風に自治の發達を圖りて德望努力克く町内の指導者となつた爲め町會の役員或は會計を預る事長く、又小學教育に貢獻して歸華小學校保護者會幹事並に評議員たり、更に今や區劃整理委員に推されて君の手に俟つ事頗る多い。さく子夫人との間に三男二女あり、昇男太郎君、次男、次郎君は僅に學校を卒へ父母を扶けて共に家業に勵み孝子としての譽高し、家庭圓滿一家は益々繁榮に赴くものである。

第六地區委員

勲七等　内田清吉君

出生地　山口縣

生年月　明治十年五月廿六日

現住所　神田區駿河臺北甲賀町九番地

職業　鑄物師

君は明治十年五月二十六日、山口縣美彌郡伊佐村に藤吉氏の五男として呱々の聲を揚げた。家は代々農に從事し附近に於ける名家として知らる。

君は鄕里にて學を卒へるや、志を法曹界に立てゝ上京した。資性溫逸にして剛毅、志を思せず殺意專心して螢燈雪窓の功を積むこと數年、明治三十七年中央大學法科を卒業した。其間君は兵役に從ひ、北清事變、日露戰役に出征し功を樹てゝ勳七等を授けられてゐる。

君は體軀偉大にして風采堂々、東京法曹界に主に民事を取扱つて、嘖々の令聲を揚ふ。氣宇の溫逸豪宕にして放膽不羈なる、その天性の自ら然らしむるところなるも、赤君が青年無慾の頃、兩度の國難に遇ひて戰地に出征し、氣を非にし體を勇にせるに所以すると言ふも敢て失當の妄言ではあるまい。君は單に辯舌滔々として修理明快なるのみなら手腕宏肇敏の氣象を吁して、屑著の味方となり、萬丈の紅焰を嘖吐するまた一個の丈夫である。宜なり君が業を負ふて今日赫々たる發展を博するは蓋し一に君の人格の自ら發露する所と云ふべきである。

君は常に法曹界に又個人の爲に盡心碎身するのみならず、町治に力を用ふる所多きは、君の精神の熱烈にして對社會的に責任せむとする抱負の一端であるが、而も柔密の推して以て君に期する所大なるものあるが爲である。君が多忙の身に在りながら、駿河臺全體より成る駿河臺組合の理事として一般町治の發達向上に力を揮げて倦まないのは、又君の人格の嘉厚に依因するに外ならぬ。今回、第六地區の整理委員として擧げられ諸方面に活躍し實績の顯著なるは眞に大方の認知推讃する處である。

家庭は極めて溫暖輪々として令閨との間に一男一女あり、令息藤雄君は東京高等學校に、令嬢つる子嬢は淑英和女學校に學れも目下在學勉强中である。

第六地區委員

守屋祐章君

出生地　宮城縣
生年月　明治二十一年十二月一日
現住所　一番町一丁目一番地
職業　理髪師

君は舊仙臺藩士力之助氏の三男に生る、父君は若たがらの武士氣質、且て宮城縣警察部に奉職して令名高かつた。君亦父君の血を承けて誠直にして而かも俊敏快活にして而かも深謀遠く時勢を察し業に先んづるを常としてゐる。又下に厚く上を敬ふ事深く自ら信望を寄せらるゝ事稀に見るの德を備ふ。君は鄕里の中學を中途にして止め敢然志を決して斯業に身を立てんとし投じて、同業の見習を爲し、幸若數年、技大に進み年二十一歳を數ふるに於て旣に獨立して仙臺市に開業す。家業に精勵する事、實に隣人の模範たるものあり從つて君の技術は益々圓熟したるも元來進取積極の君は猶西米の技術に甘んずる能はず、更に新しきを示めんと欲して大に斯業の革命を志し遂に店舗を其使用人に任せて單身或は上海或は香港に、最も殷盛なる開港場に渡つて汎ゆる欧米人の新粧を研究し、更に伊太利人アールバーク氏に師事して斯道の眞諦を體して再び仙臺市に歸り、玆に理髪業界の一新紀元を劃するに至つた、外國に研究する事、實に大正五六兩年に及ぶもので仙臺市同業界の師表と仰がれたのも無理でない。大正九年更に東京に店を開いて其盛況を傾け克苦精勵の結果果に明治軒の榮名を馳するに至つたのである、現に徒弟二千有餘人顧客種を絶たぬ繁盛である。

家業の傍又斯道の向上に努力する事多く或は大日本美髪會の技術講師となり、其他多くの講習會の講師として斯業の啓發に貢獻する所甚しく君の手に救へられたる子弟其數幾百を數ふ、又門下生を出す事六十有餘人に及ぶ、實に我斯業界の大恩人たるものである。

君は斯くの如く公共に盡くす事厚く其仙臺市に在る時は納稅組合の創立に奔走して其成るや永年組合長として貢獻し或は同業組合の爲に盡瘁して其効大に顯著であるが爲め、仙臺市及組合より夫々表彰木杯を受くる事數回に及ぶ。東京市に在つても神田理髪同志會會長たり、麻樂町懇和會幹事たり、又更に區劃整理委員たり、何れも貢獻頗る多い。三男三女あり、家庭平圓謙君の前途に洋々たるものである。

第七地區　東京市施行

大正十三年八月七日東京土地區劃整理委員並ニ同補闕委員ノ選擧ヲ行ヒタリ

土地區劃整理委員

十四番　議長　塚谷　壽一(地)　二番　副議長　小坂淺次郎(權)
一番　田中良三(地)　三番　長谷川英(地)
四番　岡本久三郎(地)　五番　小林久四郎(地)
六番　出雲寶太郎(權)　七番　井口吉藏(權)
八番　松浦定(地)　九番　江草重忠(地)
十番　小坂壽(地)　十一番　飯野祐吉(權)
十二番　柴藤助之吉(權)　十三番　西川穩治(權)
十五番　山崎鶴(權)　十六番　伊藤直一(權)

委員ノ移動シタルモノ

六番　議長　米田實　死亡シタルニヨリ出雲寶太郎補充ス、議長補闕選擧ノ結果塚谷壽一當選ス
八番　柴多野太兵衛　死亡シタルニヨリ松浦定補充ス
九番　副議長　江草重忠　副議長辭任ニ付キ選擧ノ結果小坂淺次郎當選ス

土地區劃整理委員補闕委員

土地所有者
小林岩次郎　殖栗文造　小泉愛之助　谷八造　宮田儀七
安西久治郎　村松平次郎

借地權者
坂口長忠　中澤郷　片桐應重　辻井勇造　高池和七
白井幸助　淺井榮太郎

地區々域

神田區　表猿樂町ノ一部、通神保町、南神保町、今川小路一丁目、今川小路二丁目ノ一部、一ツ橋通町、小川町ノ一部、表神保町ノ一部、錦町三丁目ノ一部

整理前後宅地道路面積比較表

總面積	整理前 宅地	整理前 公共用地	整理後 宅地	整理後 公共用地	減歩率
九二、五四三	六二、一八〇	三〇、三六三	五二、二〇七	四〇、三三六	〇・一六〇

委員會經過ノ概要

一大正十三年八月二十七日　第一回委員會開會、議長副議長ノ選擧ヲ行ヒ、委員ノ席次ヲ定メ、議事規則議定ノ件ヲ審議シ、之レヲ修正ノ上可決ス

一同十四年三月二十七日　第一號整理前土地面積決定期日ニ關スル件、第二號換地位置決定ニ關スル件ノ諮問アリ、審議シタルノミニテ決定セス

一同年七月二日　第三號一部換地面積決定ノ件ノ諮問アリ、審議ノ上原案修正ノ上決定可決ス（鎗町三丁目ノ一部河岸地）

一同年十月九日　第一號案ニ付キ審議シ十二月二十日現在ノ帝都面積ニヨルコト、訂正出願ヲ十二月十日ト修正可決ス、外ニ一ツ橋高等小學校建築敷地承認ノ件ヲ可決ス

一同年十二月十四日　第四號整理前路線價指數並ニ各筆坪當平均指數ニ關スル件ノ諮問アリ、之レヲ審議シタルモ決定セス、更ニ第二號案ヲ審議シ、如水館建築敷地位置ヲ承認可決ス

一大正十五年六月十四日　第二號案中本建築承認ノ件ヲ審議シ、帝國教育會學士會館敷地位置ヲ可決ス

一同年六月二十二日　議長米田實、副議長江草重忠辭任ニ付キ此レカ選擧ヲナシタル結果假議長指名ニテ塚谷喜一議長ニ小坂淺次郎副議長ニ當選ス

一同年七月七日　第四號案ノ審議ヲ爲シタルモ決定セス

一同年八月五日　第二號案並ニ第三號案ヲ審議シタル結果兩案共ニ救世軍本營敷地位置並ニ面積ヲ決定可決ス

塚谷喜一君

出生地　東京市

生年月　明治十年一月二十九日

現住所　神田區南神保町一番地

職業　洋品店

維新の鴻業成就し、新帝都東京に建設せられてより僅かに半世紀を經て、物然たる皇國の隆興は、日清日露の役、世界大戰を經て遂に三大强國の一に列し、世界を驚倒せしめ、以て泰西史家をして、世界二十世紀史の冠頭は日本の勃興を以て飾らざるべからずと云はしめたるもの、上に英邁なる至尊を奉戴し、下孜々たる國民の一致せる努力に依ると云はざるべからず。

而して、今次の帝都復興事業も亦、國民一致の協力に依らざるべからざるものにして、就中、東都市民の責任最も大なり。近時我國民の廢頽を說くものあり、果して、然るかは今次の事業に於て其實否を認め得べく、帝都の再建、理想の如く成るや否やは、世界列强の環視する所なり。然りと雖も吾人は猶ほ國民、市民の中に烈々たる志士多きを見て、萬々意を强うするものなり。我が塚谷喜一君は其一にして、內に在りては家運を興し、出でゝは社會人として、公共の爲に傾倒盡身、至誠奉公の任を湯す敬仰すべきの士なり。

君は明治十年、現住所に於て先代善平氏の長男を以て呱々の聲を擧ぐ。

現在の業は明治五年先代の創業に係り、拮据經營大いに業の盛大を來し、家運全く安かりき。君其後を繼ぐに及んで益々店務を擴張し、現在に於ては朝鮮京城本町一丁目の出張店と共に殷盛萬々大なる營業を營ず。

今次擧げられて第七地區より土地區劃整理委員に任じ、議長米田實君病氣の故を以て辭さるゝや其後を受けて議長に任じ、更に一神會々長として斡旋公平無私克く其大任を竭す。當地區は從來恐るべき惨禍を惹起せる火災の屢々ありし地なり。今次の事業に於ては特に此點に鑑る處あるべく市民の君に懸る期待多大なるものあり、幸ひに努力以て我等の期待を滿足せしめられん事を祈る。其他區劃整理につき一般町民と協議のため區劃整理研究會を設置し功績顯著なるものあり。

君、家庭には深川靈岸町松本芳藏氏の令妹つや子夫人あり、君との間に三男二女を擧げ、精一君は日下帝大法科在學中、治良君も亦立教大學在學中にして、豐君は明中に在學す、幸代子嬢、靜子嬢の五兒を擁し、美しき家庭を營む。

君は神田猿樂町青木淺五郎氏の長男で、明治十九年九月十日を以て呱々の聲を擧げた。
長じて神田區表神保町小坂菊十郎氏の家に入り、其令嬢を娶つて姓を小坂に改めた。
現在の質店は明治十三年の開業に係り、先代が經營して今日の基礎を作したのである。君其後を承けて詰經努力、一層事務を盛大ならしめたが、不幸大正十二年の大震火災に依つて其經營を一擧にして灰燼たらしめてしまつたのである。
若し、君が尋常凡庸の人であつたならば、彼の慘むべき大打撃に依つて其再起の志を失つてしまつたであらう然し乍ら、君は不撓不屈の志を有して直ちに復興に着手し、捲土重來の勢を以て活躍を呈し來り、更に精米業をも併せ營んで今日に及んでゐる。
誠に君の如きは大丈夫の魂を備へたりと云ふべく、東京市の復興は、斯の如き市民に依つて始めて完成の將來を期待し得べきものであると云はねばならぬ。
嘗ては大正十一年區會議員に衆望を擔ひて當選且下倚名譽職待遇を受け信望極めて高きものあり。
今次、帝都復興の大業興るに及んで、君は第七地區から推されて區劃整理委員の大任に就いた。
抑々、帝都復興の事業は、世界列國環視の中に行はるゝ世界的事業である。此壯擧に依つて我が帝都が世界に誇るに足る三大强國中の大首都たり得べきか否かは懸つて國民の双肩に在る。其成否は國民の恢復力を試練さるゝものであつて、我國の名譽を賭せる大事業である。然るに區整委員の中には單に一地區、一身の事業の如く誤れる觀念を抱く人がないでもない。事は一地區の事業であるにもせよ、波及する處は深甚無量である。幸ひにして君の如き熱誠の士を加へ得た事は事業の爲に多大なる幸榮であると云はねばならぬ。君に鏹る衆望と期待の大なる、宜なる哉と云ふべきである。
家庭には良子夫人との間長男明君、二男晴二君、長女惠美子孃、三男松彦君、四男晴彦君を擧げ、美しい團欒を作つてゐる。

第七地區委員（副議長）

小坂淺次郎君

出生地　東　京　市
生年月　明治十九年九月十日
現住所　神田區表猿樂町二番地
職　業　精米商、質商

洛北葛野郡は京都郊外中最も景勝の地、愛宕山麓に位して嵯峨、小倉、嵐山の勝を得たり。人情風俗の純美清高なるはもとより論ずる迄もなく、自然の美の陶然として人の心に移れるかの如き地情なりとす。
君は此地西九條村に橋本治作氏の二男を以て呱々の聲を擧ぐ。
長ずるに及んで京都市下京區猪熊通梅小路下ル、或光寺町田中重兵衛氏の四女照子と婚し、養母りき子刀自の養嗣子となる。
後東京神田區一ツ橋通十六番地に繪葉並に繪葉書出版及印刷業尙美堂を開き、拮据經營して遂に今日の大を成す。言は蓋し、文運の隆盛、文化の絢爛今日の如きはなく、美術工藝の進展亦從つて大に、克く時運に際會して其機を誤らざりし君が明敏先見の力に依ると謂はざるべからず。
今次帝都復興の大業興るに及んで第七地區より推されて土地區劃整理委員の任に就き、帝都百年の爲に煩倒して努力多大、事業の進捗を資けて貢獻深く、措置する處公平無私地區民推服の鍾る處となる。
君は家庭に於て夙だ惠まれたる人にして、てる子夫人との間數多くの子女を有す。長女千代子孃は淺草區茅町二の九古平幸太郎君に嫁ぎ、二男貞三君次女富美子孃、四女美子孃、五女久子孃、三男正男君、六女尙子孃、七女信子孃、四男彌之助君、五男尙三君ありて家庭は常に和氣藹々談笑の聲を絶たず、訪人をして健美に耐へざらしむ。

第七地區委員

田中良三君

出生地　京　都　府
生年月　明治七年一月十六日
現住所　神田區一橋通十六番地
職　業　繪葉書出版並印刷尙美堂

醫學博士　長谷川　基君

出生地　三　重　縣

生年月　明治八年十二月二十五日

現住所　神田區今川小路町二丁目四番地

職　業　醫　師（長谷川病院）

三重縣桑名町は桑名郡の首邑、木曾の清流伊勢の海に注ぐほとゝ、愛知岐阜二縣に境して三重縣下主要都市に至る門門たり。古來東海道の要津として舊名三崎桑名と稱し、澄川一益以來天野景俊、慶部一正、一柳直盛、氏家貞和、本多忠勝依據して松平侯に及ぶ。

醫學博士長谷川基君は此地字北鍋屋町に呱々の聲を揭ぐ。自然の美が人心を醇化するは蓋に鮮理なるが如く、此名邑に生を享けて君は資性秀美にして甚だ向學の志に厚く、年長ずるに及んで愛知醫學專門學校に學ぶ卒業後同校に於て二ヶ年間研究し、其他北里研究所、東京帝國大學醫化學教室に於て二ヶ年研究を重ね、更にヴェルツブルク、ミュンヘン大學ドクトルメヂチーネ、シュルラー氏に村き内科を專ら研究し、大正元年神田區今川小路なる現在の地に長谷川病院を開き大正十年醫學博士の學位を受く、而して深遠の學識と神の如き診斷とは患家の信頼を得る事極めて大に、常に多忙を極めつゝあり。

君の世に處するや眞に國手たるの風格を有し、濟世救民の大理想の下に從ふ。又趣味として動植物の研究に篤く現に論文起稿中であると。

今次帝都復興の大業興るに及んで、土地區劃整理事業の擧あるや第七地區に土地區劃整理委員に推され、多忙の中此國家的事業に參じて事業の進捗を容けつゝあり。事は世界列國環視の下に行はるゝものにして、其成否は國民再起の力の有無を知らるゝ秋、君の如き學識德望並高き博士を委員に得たるは市民の大なる誇りたらずんばあらず。家庭にはきぬ子夫人との間令息勢君あり一家極めて美しき圓欒を營み、訪人をして健羨せしめずんば措かざるなり。

勳八等　岡本久三郎君

出生地　東　京　市

生年月　明治十六年三月十七日

現住所　神田區表神保町五番地

職　業　地　主、家　主

地主階級は國家の中堅である。しかし乍ら、其人によつて國が滅びもし、興りもする。

ロシアは地主階級の無智に依つて滅び、ローマは地主階級の橫暴に依つて亡びた。

彼等の多くは永代の亡失せざる財産を有するが故に安逸に居て國家を思はず、緊張した生活を有しなかつたが故に滅びたのである。

我國に於ても近頃、共産的思想の浸潤に依つて國礎を危くするやうな議論が行はれつゝある。國民自覺の必要な時である。

而して其目標となつてゐるのは貴族、富豪及地主階級である。

我が岡本久三郎君も地主である。然し乍ら君は其資性溫厚篤實、常に借地人借家人の爲に善處して德望が厚い眞に國家の中堅なる地位を自覺し、自らの使命を知る紳士である。從つて衆人の信望も厚い。

君は明治十六年三月十七日、日本橋區村松町に中川喜三郎君の令弟として呱々の聲を揭げた。

長じて岡本三四郎君の二女春子嬢と養子緣組を爲し、岡本姓を繼ぎ、現地に所有土地家屋の管理を爲しつゝ今日に及んでゐる。先代三四郎氏は當町會の功績者にして其創立者なり。

君は其の長男として生を系け十歲にして既に橫濱に亙り橫濱二十六番ボーラヲグ商會に入り輸入業に從事す。後明治三十六年騎兵聯隊に入營、同二十七年日露の役に出征各所に轉戰武勳を樹て勳八等に叙す。

君の祖は元、京橋區八丁堀に於て質商を開業し「高須屋」と號し營業せるも先代死去せらるゝ時の遺言により廢業し明治四十四年小間物商に轉手。

後大正七年更に株式會社中喜商店を創立し織物問屋として今日の力成を招致するに至る。目下は其の取締役たり。

此度帝都復興の大業興るに及んで第七地區地主側から推されて土地區劃整理委員に就任し、帝都百年の爲に多大の犧牲を拂ひつゝも孜々努力をつゞけてゐる。尙神保會幹事軍人會班長現在參與せり。

家庭には養母きん子刀自健在にして、夫人春子との間に長女濱子嬢、二女愛子嬢、長男元男君、三女光子嬢を擧げ、一家和氣藹々たるものがあり、近隣の羨望する處となつてゐる。

婦人の世に處する途は、良き妻として、また賢き母として、家庭を齊へ、子女を教養するを以て第一とする。其上に家を興し、業を昌んならしめるのは既に男子の職分に逆枝入する事で、其偉大なる事は遙かに男子を凌ぐと稱しても過言ではない。

神田神保町交叉點の一角に地久庵と號する蕎麥店がある。これは小林久次郎氏の創業で後繼家たる先代藤三郎氏が千葉縣山武郡日向村矢部より出京して久次郎氏の經營したる地久庵をついだ。然るに藤太郎氏は不幸早逝したので、妻女美代子が代つて經營に當り、三十九歳の時から六十六歳を以て死亡する迄、二男一女を擁して男まさりの活動を爲して遂に今日久四郎君に代を譲つて益々盛大なるを得たのである。

帝大の前身が一つ橋に在つた頃、今は世に時めく元田肇氏なども美代子刀自の經營してゐた頃の地久庵の常客であつたと云ふ。

大正五年頃の「實業の日本」には刀自の奮鬪史が書かれてあつた事を覺えてゐる。

小林久四郎君は明治十一年一月二十三日、先代藤太郎氏の長男に生れ、早く嚴君に別れて、女丈夫たる母堂美代子刀自の手に育まれたのである。

長するに及んで母堂を佐けて手腕縱横、母堂の後を承けてます〳〵業務を盛大ならしめ、遂に今日の大を成した。

君は此母にして此子あり、常に母堂の恩惠を忘れず、今日あるもの、悉く母堂の庇護に依るものであるとして、寢ても覚めても其恩愛を忘れず、「我が今日あるもの、全く母のお陰である」と稱して決して自らを誇らうとはせぬ至孝の人である。然し乍ら、母堂をして後を樂しめつゝ、之を慰撫し、之に奉仕した君の孝心は之を没却すべきではない。

君又公共に盡すの念極めて厚く明治四十三年率先して納稅組合を設立して其組長となり現に相談役の重責にある。

此度はまた帝都復興の事業に第七地區土地區劃整理委員に推されて多大の追憶ある同家も其外形を變へねばならないが、君は其犧牲を意とせず一意復興の爲に努力を捧げて至公至平である。

家庭には内助の功厚いとの子夫人がある。

小林久四郎君

出生地　東京市
生年月　明治十一年一月二十三日
現住所　神田區通神保町五番地
職業　蕎麥商（地久庵）

出雲寶太郎君

出生地　東京市
生年月　明治二十年七月二十日
現住所　神田區今川小路一丁目三番地
職業　印刷業（一番館）

出雲家は島根縣の舊家にして、君の先考與吉氏の代に江戸に出で、銀座に小間物商を開き、商號を伊勢屋と稱す。

然るに不幸君が七歳の年、嚴君逝去せられたるを以て、其後は母堂の孃手に依りて養育せられ、十歳にして日本橋區本銀町鍾美堂に入り印刷業を見習ふ事七ヶ年、十七歳にして本石町文運堂に入り、大正二年迄在勤す。

大正三年六月一日現在の地を卜して獨立印刷業を始め、途に隆々の發展を遂げて今日の大を成す。定に人生の遭逢、如雷如露なりとはいへ、幼にして其親を喪ふばかりの不幸はあらざるべし。然し乍ら、君に於ては、其試練は克く今日の大を成せるものにして、艱難汝を玉にすと云へる古諺は吾人を欺かざるを思ふべし。

君は今や業務盛大、産また甚だ富む。從つて同業の間に雄視して衆望重く、東京印刷同業組合代議員の任に在り、斯界の向上發展に寄與する所甚だ大なり。

また、社會の爲にも其力を傾け、嘗には今川小路共睦會幹事として町治に盡し、曾ては市勢調査員としても斡旋大なりき。

今次、帝都復興の大業興るに及んでは、第七地區より推されて土地區劃整理委員となり、帝都百年の爲に寄與して公平私無、多大の犠牲を拂ひつゝも一意事業の達成に努めつゝあるは、帝都の爲、地區の爲、大いになる幸慶と謂はざるべからず。

君、家庭には母堂ゆう子刀自六十八歳を以て齢耀爍として健在し、君が孝養を享けつゝあり。凡そ婦人の使命は悉く良妻賢母たるべきにあらずと謂はんも、而も良き妻たり賢き母たるは男子の功業に劣らざるの事業なり、君の母堂の如きは、愛兒を養ふてゝをして今日の成功を遂げしめ、以て社會に貢献せしめたるの女丈夫なり。今日の君が大成を見、喜悦の大なるものあるべしと信ず。

たか子夫人は茨城縣下館町須藤市左衛門氏の女、内助の功厚く、君との間に女友惠嬢を擁ぐ。

井口吉藏君

出生地　東京市
生年月　明治十五年二月二十六日
現住所　神田區表神保町三番地
職業　讃紗毛織物商（井口商店）

我國は僅々半世紀の間に世界の驚倒する程の進展を遂げた。而して、泰西文物の輸入に依つて、生活が富となりつゝあり、精神上にも物質上にも一大變轉を劃したのである。恐らく例れの時に於ても現在の如く甚き風俗及思想の變化は見なかつたであらう。

中にも、最も大なる影響を與へたのは毛織物の需要である。現在に於ては既に國民生活の必需品たるの使命を有し、これなくしては活動し能はざる習ひとなつた。而して之を供給する店舗も從つて多く、將來に於ても益々多からんとする傾向がある。之等の中に在て羅紗商井口商店は群鶏中の一鶴の如き巨大なる店舗である。實に我が井口吉藏君の經營に係り、其才腕に依つて今日の大を成したのである。

君は明治十五年二月二十六日を以て井口銀藏氏の長男として現地に呱々の聲を擧げ、長じて家を繼いだ。

君は家業に努むる傍ら公共の爲に傾倒し曾ては表神保町々會幹事として幹旋したが、今は辭して店舗を婿養子淺三君に委ね、自らは駿河臺別居してゐる。

今度、帝都復興の大業興るに及んで第七地區より推されて土地區劃整理委員の任に就き東京市百年の爲に萬倒して盡瘁多大なるものがあり、事業の進捗を資くる事尠少ではない。

指置また公平無私、地區民の推服する處となつてゐる。

家庭には淺草區材木町の人神本辰五郎氏の長女たるあさ子夫人あり、君に事へて内助の功多大である。その間長女みき子、三女ゆき子、四女しづ子、五女すゑ子、八女ゆり子、長男吉太郎の諸兒を擧げ、長男幼少なので令嬢みき子に婿養子淺三君を迎へ、神保町の店舗を委ねてゐる。淺三君は秋田縣山利郡川内村栗津佐藤久太氏の三男、君は家業を使へて精勤勉勵、既に寄子嬢、吉淺君の二兒を擧げ、君をして後顧の憂ひなからしめてゐる。

松浦定君

出生地　廣島縣
生年月　明治十五年二月一日
現住所　神田區西今川町八番地
職業　園藝小鳥（松浦花鳥園）

書海波穿ふにして香風不斷、ゆくゆく青嵐綠驚の眺めを恣にし、白砂青松の間を縫ひ、瀬戸内海を西に向つて船を進むれば鐘灘を過ぎて右大崎下嶋を望み、左伊豫硯取郷に對する處、勝景更に極みならんとす。

廣島縣豐田郡御手洗町は瀬戸内海の中央に位する多島海中の一島岐大崎下島に在り。風光明媚の如き中に存して土俗清純、自ら逢萊境を成す。

實に我が松浦定君の鄕閭にして君は明治十五年二月一日故吉良右衛門氏を父として故しよう子刀自を母として呱々の聲を擧ぐ。家は累代此地に庄屋を勤めたる家柄にして後嗣殺を商ふ。

君は長ずるに及んで郡下の縣立忠海中學に第一回卒業生として業を卒へ、東京に出でて正則英語學校に語學を學び、其間北海道十勝國廣尾に叔父君たる道會議員淺徳三氏を訪れて其牧場經營を習ふ。

後、明治三十九年八月北米合衆國に渡り、タコマ、桑港、アラメダ、紐育、オレゴンに轉遊す。其間桑港ハイスクールに三年間在學。後アラメダに於て機械洗濯業を營み、其後溫室園藝を業とす。

大正四年三月歸朝して今川小路に組織花園を營み、本邦に於ける斯業の先驅を爲す。瀟洒華麗清雅の趣きある店舗も、當時未だ人に識られず少して其宣傳には人知れざる苦勞をなせり。業務は時勢の變遷に伴ふて日增しに繁榮に趨き稍や安堵の域に達せり。偶々北海道の渡邊叔父危篤の報に接し見舞の爲め渡道滯在する事一ヶ月未開なる斯の地は依然元始時代の閑雅たる大樹の叢林にて未弥無を加へざる三千町歩の渡邊牧場及其附近一帶に有望林なる事を視察し、歸京後木材賣行きを精密に調査したる處其だ有望なるを知り直ちに再渡道し、斯地の實兄藤吾氏と共同經營とし園藝付屬の副業として大正十年七月木材の伐採及び機械道用枕木の製材所を新設して東京より毎回千五百噸級の積取汽船を雇入れ廻航せしめ、多量の角材と枕木を東京に販路を得、前途萬大の望みを屬せしに偶々大震災の打擊を蒙り材木界は漸次沈衰せるを以て一時中止の狀態となる。震災後園藝小鳥店を現地に移し、今や生産の勞は酬いられて業務益々繁ゆ。

君は社會公共の爲に盡す事厚く大日本園藝組合を發起し評議員に推されて同業の爲に貢獻し、また今川小路共睦會役員として震災前迄其任を謂せり。

今次帝都復興事業の爲には第七地區區劃整理委員に推されて頗倒多大、事業の進捗に多大の力を寄す。

家庭は故、淺川清造氏次女愛子夫人との間に長男肇郎君、此男俊郎君、令嬢智子嬢の三兒を挙し、美はしき團欒をなす。

第七地區委員

農學士　江草重忠君

出生地　東　京　市

生年月　明治十年二月二日

現住所　神田區一ツ橋通五番地

職　業　出　版　業（有斐閣）

日に月に進展して休みなき世界文明の潮流に棹さして最も重大なる使命を受持つもの、書籍出版を以て第一に數ふべきである。從つて斯業に從ふものに其人を得るか得ざるかに依つて、其影響の普及も及ぼす處甚大であると謂はねばならない。

我が江草重忠君は有斐閣主人として、法制關係の出版物に多大の貢献を爲し來つた本邦有數の出版業者であり、また其他種々の出版事業に關係せる斯界第一流の人物である。

君は三重縣の人水谷忠左衛門氏の令弟にして、江草家の先代斧太郎氏の養嗣子となり、其令嬢千代子に配せられたのである。明治三十七年、東京帝國大學農科を卒業した俊材である。

君の江草家に入つて出版の事に由るや、常に法制經濟界の趨勢に其大なる注意を拂ひ、常に新學說の紹介、新人の發見に意ら寸、從來存するものゝ改良を企てゝ就中先年發行せられたる六法全書の如きは頗青中に卓絶せる内容と外形の故に壓然として他を壓し、今や獨歩の地位に在り、其他、君の熱誠なる出版方針は江湖の絶大なる歡迎を受けつゝある。

君は此他日本書籍株式會社取締役、大日本圖書株式會社取締役、國定教科書共今販賣所監査役、日本表紙株式會社監査役等の重職に在つて斯界の發展に寄與する所多大である。而して今般帝都復興の大業興るや、第七地區より區劃整理委員に推され、其副議長の重任に就いて多大なる斡旋を爲しつゝある。「君は資性温厚篤實、牛馬藥王寺の瀟洒なる邸宅の應接室に掲げたる家康公遺訓の「人の一生は重き荷を負ひて遠き道を行くが如し」を座右の銘として、堅實なる歩みを積けつゝあるが故に施設する處經健妥當、地區民の推服する處となつてある。

家には夫人千代子との間令嬢英子を擧げて一家和氣藹々たる美しい家庭を營みつゝあるが如き、君の積善の餘慶即ち是れ以て知る人をして恬淡に和やからしめる。

小坂喜德君

出生地　東　京　市

生年月　明治十九年四月十二日

現住所　神田區通神保町三番地

職　業　質　業

東京市民中生粹の土着人に取て最も苦痛を感じ遺憾とすべきものは、東京市を殖民地の如く思惟し、野心の途行場の如く見做す輩である。我が愛する東京市が雲落乾燥の寄合世帶の如き觀を做す一面には、斯の如き無責任なる人々の行動の爲ひしてゐる事は事實である。從つて、今次の復興事業の如き、眞に市を愛する人々から見れば慨嘆痛心すべき不祥事が多く東京市を野心慾望を滿すべき場所かの如く心得たる吏員、所謂名譽職等に依て起されてゐる事は明瞭なる事實である。

我等の要求する人士は眞に帝都を愛する士清人である。玆に我が小坂喜德君の如き人を一人にても多分に有すれば、帝都の復興は始めて眞摯なるを得るであらう。

君は神田裏神保町に故小坂菊十郎氏の二男に生れた。累代質商を營んで巨然たる老舗である。

今次帝都復興事業興るに及んで第七地區から推されて土地區劃整理委員に就任し、父祖傳統の他帝都の爲に投々として復興に努力し、措置公平無私、以て帝都百年の爲に寄與する處多大である。

君は前途未だ春秋に富むの人、帝都再建成就の曉には、一層の活躍を遂ぐるであらう事は疑ひを容れぬ。我等は眞の江戸つ兒に期待する事痛切である。

家庭には母堂勞子刀自猶健存と、君之に仕へて孝養厚い。

夫人いね子は日本橋區濱町岩崎岩殿氏の五女、君との間長女周子、二女隆子の二嬢あり、夫人は君に仕へて内助の功屋、子女を教養し、且つ一家に和氣藹々たる空氣を充滿せしめつゝある。

勳八等　飯野祐吉君

出生地　埼玉縣
生年月　明治十二年十二月二十日
現住所　神田區南神保町九番地
職業　法帖店（精華堂）

溶々たる坂東太郎の流れに臨んで白帆のゆきゝ幽やかに、絶人靜のロマンティックなる哀話を秘めたる古き河港、埼玉縣栗橋の町は君が生誕第一聲を放つた處である。

悠遠平明の自然に育まれて君は爲人溫雅にして純質、若冠志を抱いて帝都に出で、初め四谷區鮫河橋町に卜居したが、中頃此地に移り、和漢の法帖を主とせる古書籍店を開き、同業稱比せる現在の地に於ても一國地を找くの盛業に在る。

君の職業に對する志たるや、極めて結構なもので、道を樂しんで悠々たる趣きがある。何とならば、古書特に法帖類の蒐集を趣味としてゐるのである。隨つて、集められたるもの、斯界の好事者を悅ばしめ、專門家をして垂涎三尺たらしむる珍書秘籍に富む事、既に定評がある。またその書籍に對する心も、尋常營利のみでない態度に倒はれて、一層奥床しく感ぜられるのである。

君の上京した時は僅僅かに十歲であつた。初め神田の質商に奉公して粒々辛苦、遂に今日の大を成しただけに人に對しては懇篤の志厚く、社會に對しては獻身的奉仕を爲して人望極めて厚い。

殊に自治の發展の爲に傾倒し來つて貢獻多大、現に神田區々會議員に推されて區の爲に盡す事頗る厚い。

また神田區營業稅調査委員としても幹旋多大である。

尙震災後は火災保險一割問題に就ては寢食を忘れて奔走し被災民に寄與すること多大なり。

此度、帝都復興の大業興るに及んでは、第七地區から推されて區劃整理委員となつた。而して帝都百年の爲に傾倒して深甚、措置また公平妥當、地區民の推服する所であると云ふ。名望の存する、偶然ではない。

家庭にはかめ子夫人との間四人の子女を擧げてゐる。節子、喜代、節、久、の諸嬢がそれで、家庭は常に和氣藹々、君を繞る春風の如くなる趣きがある。家庭に於ても恵まれた人とは云はねばならない。

柴藤卯之吉君

出生地　福岡縣
生年月　明治一年四月一日
現住所　神田區小川町二十三番地
職業　銀商

南の國、不知火の燃ゆる筑紫の國は由來詩の國歌の國として世間に傳へられてゐる。

北玄海洋の黑潮流るゝ海の神秘、白砂青松の海岸、南雲仙岳の秀麗、そこに近代的美觀を繪き、近代人を觀賞させる要素を十分に備えてゐる。神功皇后の三韓征伐來文化の關門であり、天孫降臨の地、實に我國三千年の傳統、誇るべき日本特有の日本文化の發祥地である、文法王醫農の最高學府を一丸として、福岡は鶴古し、日本の三大都市に匹敵しつゝある新興の都市である。

君は明治元年四月一日福岡市須崎土手町柴藤伊右衛門の三男に生れ、若くして、前途を囑目され、養父久兵衛氏の養嗣子となる。

君は資性恭順で、向上心に燃えてゐる。

君は南國の自然に育まれ、その感化を享け、純情にして、物質に恬淡なるところがある、君は燃えるが如き熱を持つて、單獨上京、帝都の實中に堂々店舗を開き、その正直と、優良品をもつて、信望、益々加はり、一躍、斯界の龍兒となる。

神田區小川町二三番地に堂々たる店舗を有し門前市をなすの盛況である。

君は圓滿なる人格者で、敢て表面に立つて美名を得るの念なく、常に蔭に立つて、公共團體の爲に奉公の誠を致し、これを善導する、名譽慾に燃えた近代人の好模範にして、實に奥床しき限りである。

家庭には福岡縣筑紫郡住吉村中上岩太郎氏の妹まさ子夫人があつて長女さき子嬢、二女はる子嬢、長男正治君を儲け、夫人は賢夫人の譽高く、よく家道を修め、貞淑、溫良である。

家庭圓滿、春風滿堂の感がある。

君の盛望、德望は、帝都復興の一線、區劃整理委員として、推薦され、復興の中堅となつた。その至公至平な君の人格は良く、區民の希望を容れ、これを一丸として、これを抱擁し、以て、帝都百年の計を樹立せしめ、幸福、を增進せしめ、平和の希望を齎すこと必然のことで、君は區民の熱誠な期待に添ひつゝ、日夜東奔西走活動してゐるのは、感謝に堪えざるところで、君また天晴れの器量振を發揮してゐる。

第七地區委員

西川德治君

出生地　新潟縣
生年月　明治十一年一月三日
現住所　神田區錦町三丁目九番地
職業　印刷業（西川錦有堂）

信濃國千曲の川波、善光寺平を經て落々數十里を隧後に入る、東小千谷附近に於て魚沼川を分流して更に其大を加へ、遂に新潟市を貫流して日本海に入る。魚沼川は其源を南魚沼郡に發す。鹽澤の名邑は三國峠の險に依つて群馬縣と境し、鐵路長岡市に連る。實に南魚沼郡中の雄都にして衆ねて嬉遊常樂の仙郷、魚沼川の上流に在り人情純朴にして土俗剛健、我が西川德治君の鄉土たりとす。

君は明治十一年、一月三日の佳日を以て此地に生を受け、長ずるに及んで東京に出でて縣人鴻特の拠所たる不撓不屈の努力を以て印刷業に從事し、錦有堂の號斯界に雄視するに至れり。

抑々、印刷の事業は文明の源泉とも謂ふべく、君が我國文化の進展に寄與する處、蓋し、少ならざるべし。

また有國火災豫防組合常財人として斡旋する處甚だ厚きものあり。

今次帝都復興の大業興るに及んでは推されて第七地區に土地區劃整理委員となり、帝都百年の爲に傾倒盡瘁する處多大、至公至平の措置を講じて地區民推服の錦る處となる。

抑々帝都復興の事業は列國環視の中に行はるゝ世界的壯舉にして、世界三大強國の一たる大日本帝國の首都たるに適はしき面目を有せざるべからざるもの、事の成否は我國民能力の有無を窺はるべき事業なるは論を俟たず就中、帝都市民の責任に至つては最も大なり。

故に事小なるが如くに見えて區劃整理の事業は區々たるものにあらず。復興の根本的事業にしてあらゆる人材を網羅し、以て萬全の策を樹でざるべからず。

幸ひにして君の如き有爲の士を得たるは市の爲國家の爲欣慶すべきなり。

家庭にはいつ子夫人との間長男行雄、次男正雄、長女善志子、二女善美子、三女善久子の諸兒を擁げ、一家團

山崎遜君

出生地　和歌山縣
生年月　安政三年四月三十日
現住所　神田區表神保町十番地
職業　旅館兼下宿屋（花月館）

和歌山縣海草郡は紀伊川の流域、南は有田郡に接し、西は由良海峡を距てゝ淡路島に對し、北は河内國と境し東那賀郡に接す。郡中和歌山市を擁して最も名勝古蹟に富み、人情高雅純朴なり。

君は此地川永村に山崎武兵衛氏二男を以て安政三年四月晦日呱々の聲を揚ぐ。

安政三年は米使ペルリ提督、浦賀に來つてより四年を經て開國進取の氣運勃然たりしの時、君は其新興の氣と生を同じくせり。

明治十九年警官教習所設置せらるゝや、君は其の第一期生として入所し、修業一ヶ年、和歌山縣警察部に勤務を命ぜられ、更に明治二十一年東寶郡の分署長を拜命せり。後和歌山縣警務課詰となり、

巡査採用試驗官及巡査教習所教授として三ヶ年專心奉職、再び箕島分署長に榮轉せり。

斯く多年民衆警衛の職に在りし君其卓拔なる手腕を以て銀行界に投じ。山崎銀行東京支店支配人として克く卓腕を振ひ業績大に擧れり。然るに明治三十九年病魔の犯す所となり銀行界を退き現地に居停花月館を開き今日に及ぶ。現在は賢夫人として令名高きうたの子夫人に業務を一任して君は更に多方面に手腕を揮ひつゝあり。

而して今次帝都復興の大業興るに及んで、第七地區より推されて土地區劃整理委員となり、帝都百年の爲に寄與貢獻して老來益々鑽鑽、ひたすら事業の達成に努力しつゝあり。外表神骨には其の餘事として措置する處公平無私、區民衆望の歸る處となれり。

實に事業の爲に君の如き熱誠の士を得たる、帝都の爲地區の爲幸慶に耐へざるなり。

うたの子夫人は和歌山縣那賀郡竹屋村增田重兵衛氏の長女、君に對して內助の力厚く、君また之を重んじて一家和氣の中に大家族を擁す。

夫人との間長女つね子嬢、長男景明君あり。景明君は藝術師にしてラジウム製藥株式會社に奈驗匠に振君の鄉里和歌山縣有田郡箕島町木村伊兵衛氏の三女つる子夫人を迎へて既に一子弘君を儲け、君に仕へて孝養共に厚し。斯の如くにして家門益々榮え、君は既に後繼の憂ひを有せざるなり。

第七地區委員

伊東直一君

出生地　神奈川縣
生年月　明治三年五月十二日
現住所　神田區今川小路一丁目二番地
職業　菓子商（風月堂）

本邦に於いて常に平和の使命を果してゐる功勞者は菓子である。我等は飽りに其恩恵に浴れ過ぎて却つて之を何とも思はないが、これは恰度支那堯舜の世にあまりに世の中が治まり切つてゐて殆と帝王の有無さへ國民が感じたかつたので、帝王は却つて之を以て世の治つてゐる證據としたのと同じく、すでに我等の生活の一部として之を感じないのである。然し乍ら、人の心は一片の菓子を無接の間に飽へる事に依つて無限のやはらぎを待ち、無心なる赤子も之を得て笑み、家庭の團欒に於て、思子どもの集ひに於て、如何ばかりの貢獻をもたらしてゐるだらうか。

風月の名は斯界に於ける權威である。神田のそれは我が伊東直吉君の經營に係り、其喫茶部と共に東都の一名物たるを失はない。

君は神奈川高座郡御所見村字用田一〇三九番地に生れた。嚴君は伊東久右衛門氏で君はその長男である。若くして帝都に出で、幸苦の後今日の盛大を成したのである。

君の店舗、喫茶店たるべくは餘り地の利を得てゐない。然し乍ら、神田を散策する人も、九段附近を通る人も枉げて君の店舗に一抱の香味を味ひに來る事は、如何に其取扱する所のすべてに絶大の信用を得てゐるかゞ窺ひ知られるのである。菓子の點に於ては玆に云ふ迄もなく、牢固たる名聲が古くから喧々たるものである。

復興事業の上に於ても、其店舗はまつ先に復活した。今や帝都の復興事業に於ても其第一線に立ち、第七地區區劃整理委員として、熱誠事に當り、帝都百年の爲に善に處して功績大、地區民推服の鍾る處となつてゐる。やがて帝都が面目を一新して出現する時、君の家は更に地の利を得て一層大なる進展を遂げる事と信ずる。

令閨すゑ子は明治九年九月生れの人、東京の人高橋再一郎氏の令妹である。君に事へて内助の功厚い賢婦人で家庭は圓滿百福の美しい笑みを湛へる。

第八地區　東京市施行

大正十三年八月十九日東京土地區劃整理委員並ニ同補闕委員ノ選擧ヲ行ヒタリ

土地區劃整理委員

二十一番　議長　秋草愛一（權）
一番　峰村陸之助（地）
三番　三須安五郎（地）
五番　稲田又一（權）
七番　關根虎蔵（權）
九番　鑓信治（權）
十一番　島連太郎（地）
十三番　株式會社伊藤博文（地）
十五番　山本商店代表者藤治（權）
十七番　清田留次（地）
二十番　大宮徳太郎（權）
十八番　副議長　鳥山周助（地）
二番　小林金四郎（權）
四番　村木喜助（地）
六番　今城續太郎（權）
八番　宮本伸（地）
十番　鈴木友三郎（地）
十二番　泉清吉（權）
十四番　宇佐美由次郎（地）
十六番　酒井源太郎（權）
十九番　峰島合資會社代表者茂兵衛（地）
二十二番　石田常太郎（權）

委員ノ移動シタルモノ

八番　岩倉與三兵衛　死亡シタルニヨリ宮本伸補充ス

土地區劃整理委員補闕委員

土地所有者
岡野富之助　蛭田幸三郎　岡田久太郎　大久保權蔵　澤與武夫
鮏澤鮏吉　大瀧亀吉　青山金四郎　石山和吉　藤木林蔵
借地權者
相原亀吉　植松勝次郎　伊東亀太郎　初谷藤兵衛　毛塚治兵衛
平田竹次郎　山田壽二　崎山熊楠　大里佐吉　伊澤弘芳
石川喜一郎

地區々域

神田區　美土代町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、錦町一丁目、同二丁目、錦町三丁目ノ一部、表神保町ノ一部、小川町ノ一部、淡路町一丁目、淡路町二丁目ノ一部、三河町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、雉子町、新銀町、陽口町、皆川町、松下町、鎌倉町、鎌倉河岸、佐柄木町、練塀町、旭町、永富町、千代田町ノ一部、西今川町ノ一部、新石町ノ一部、上白壁町ノ一部、堅大工町、鍛冶町ノ一部、黒門町ノ一部、鍋町、多町一丁目、同二丁目、通新石町

須田町、小柳町、速雀町、平永町ノ一部、柳原河岸ノ一部

整理前後宅地道路面積比較表

總面積	整理前 宅地	整理前 公共用地	整理後 宅地	整理後 公共用地	減歩率
二三一、二八四	一六三、四二九	六七、八五九	一三八、七八五	九二、四九九	〇・一五〇

委員會經過ノ概要

一大正十三年九月五日　第一回委員會開會、議長副議長ノ選擧ヲ行ヒ、委員ノ席次ヲ定メ、議事規則議定ノ件ヲ審議シ、修正ノ上可決ス

一同十四年五月十二日　第一號整理前土地面積決定期日ニ關スル件、第二號換地位置決定ニ關スル件ノ諮問アリ第一號案ハ七月三十一日現在ノ臺帳面積、訂正出願ハ七月二十日トシテ決定可決シ、第二號案ニ付テハ地區内ヲ五部ニ分ケ特別委員ヲ設置シ之レニ附託ス

一同年十月二十三日　第二號案ニ付キ審議シタルモ決定セス

一同年十二月十八日　第二號案ヲ審議シ、鎌倉河岸ノ位置ノ決定可決シ、更ニ第三號整理前路線價格數並ニ各筆坪當リ平均指數ノ件、第四號一部換地面積決定ノ件ノ諮問アリ、第三號、第四號案共ニ決定セス、外ニ木建築出願承認ノ件、五件ヲ承認可決ス

一同十五年三月九日　第二號案、第三號案ノ一部ヲ審議シ、第二號案ノ一部即チ須田町ノ一部ノ位置ヲ決定シ、西小川町、千代田町ノ一部、美土代町一丁目、二丁目ノ一部ノ位置變更案ハ委員附託トナリ、第三號案錦倉河岸面積決定案ハ特別委員ニ附託ス

一同年四月十二日　第二號案ニ付審議シ、美土代町一丁目、二丁目ノ一部、千代田町ノ一部ヲ決定可決ス

一同年五月二十五日　第二號案、第四號案ノ一部ヲ審議シ、第二號案ノ一部即チ南甲賀町ノ一部ヲ可決シ、運雀町ノ一部ノ位置ヲ特別委員ニ附託シ、第四號案ノ中錦倉河岸ヲ決定可決シ、尚本建築出願ノ件ヲ承認可決ス

一同年七月二十六日　第二號案、第四號案ヲ審議シ、第二號案中運雀町ノ一部ヲ決定シ、第四號案中錦町、黒門町ノ各一部ヲ決定シ、何レモ可決ス、外ニ本建築出願ノ件四件ヲ承認可決シタルモ基督教青年會館ノ件ハ保留ト決ス

從七位勳六等功五級　**秋草愛一君**

出生地　群馬縣

生年月　明治十三年六月七日

現住所　神田區表神保町一番地

職業　辯護士

明治十三年六月七日、君は群馬縣山田郡矢場川村大字荒金に彌太郎氏の次男として呱々の聲を揚げた。

長じて東京に遊學して中央大學を卒へ、一年志願兵として歩兵第十五聯隊に入る。恰も明治三十七八年戰役起るに及び、君は第一師團に屬し、第三軍乃木大將軍麾下の一員として遼東半島及奉天攻圍戰に大功を樹て、勲七等に從七位勳六等功五級に叙せられ、陸軍歩兵中尉に任官した。

其後直ちに辯護士を開業し、其淵博の氣宇と、深奥の學識と、明敏の頭腦と、社會國家に對する至誠とは忽ちにして其令名を四方に喧傳せしむるに至り、大正六年現在の地に移りて以來は更に一層業務の繁忙を極めたが、更に繁忙を意に介せず、神田區の爲にも傾倒する所多大であつたので、擡立せられて區會議員に擧げられ、區政壇上にも君の明快なる熱辯を聞く事が出來たのである。また、君は東京借家人同盟會會長として帝都百萬の無產階級者の爲に起ち、自ら之等を代表して奔走盡瘁する事多大であつて。滔々世を擧げて金權に阿附し、强者に媚ぶる中に、敢然として弱者の擁護の爲に奮鬪する君の熱血裡に、當年の勇士の面影を偲び得たのである。

斯の如く、平和の裡に在つては克く社會の爲に獻身し、在鄕軍人としての本分を盡しつゝあるが、また在鄕軍人を睿ねて社會事業に替裂せる點に於ても著大なる功績者である。現に帝國在鄕軍人會評議會議長の要職に在る外、第一師團管轄聯合支部の在鄕軍人團に於ても評議員の職に在り、麻布支部評議員、東京市十五區聯合會幹事、神田區分會長等、各方面の在鄕軍人會の牛耳を執つて盛名甚だ高い。

今次、帝都復興事業興るに及び、第八地區より推されて區劃整理委員に任じ、議長の重任に就いて鞏更に仕を加へ來つたのであるが、共も傷む處なく帝都百年の爲に至誠を捧げて怠る事がない。

君、家庭には榮子夫人との間に二男二女を儲けてゐる。夫人は日本橋數寄屋町中川氏の息女である。君を助けて内政の功厚く、美しい圍爐を囲んでゐる。

鳥山周助君

出生地　東京市
生年月　明治九年十一月二十二日
現住所　神田區新銀町三十番地
職業　土地管理業

守成の苦は創業の難を凌ぐと云はれてゐる。創業者は自らの好む處を撰び得るに反し、守成者は消極的な立場に置かれ、しかも自らの得意の途なると否とを問はず之を守らざれば惡評を受けねばならぬ。苦しさはこゝにある。

而して之を守つて破らざるさへ既に容易ではないのに、之を前代よりも盛大にするのは非凡の人でなければ能くし得ない所である。

我が鳥山周助君は明治十六年七月十九日を以て神田區新銀町三十番地に呱々の聲を揚げた。

嚴君は七郎右衛門氏、土地管理を業としてゝ之を君に傳へたのである。

君は父業を承けて之を一層盛んならしめ、また明治生命保險株式會社特約店としても才腕を揮ひつゝある。

今次帝都復興の大業興るに及んで第八地區より土地區劃整理委員に推され、更に副議長の重任に就いた。平常德望の高きは之を以ても推測し得るが、事實新銀町々會々長として、終始町の爲に多大なる努力を傾け、その發展和親に寄與する所尠少ではないのである。

殊に委員としての君は、區劃整理事業が帝都復興の中樞をなす曠古の重大事であるのに鑑み、至公至平の措置を講じ、自らは多大の犧牲を拂ひつゝも事業の進捗の爲に身を以て他に範を示しつゝあるは、高風寔に仰ぐべきものがある。

君、家庭には山梨縣南都留郡谷村の人吉田藤吉氏の長女つた子夫人あり、君との間に長女美津子嬢、長男榮雄君、二女雪江嬢、二男介君、三女美惠子嬢、三男晴二君、四女朝子嬢、五女勝代嬢、四男悠哉君、五男純男君の多數の愛兒を擧げた。

既に長女は豐多摩郡戸塚町下戸塚小松正雄君と結婚してゐる。

「白銀も黄金も玉も何かせむ、まされる寶子に如かめやも」と云ふ古歌の如く、君は既に名譽と地位と多數の寶を得たる眞の意味の長者であると云へる。慎善の實踐家ありと謂ふべきかな。

峰村陸之助君

出生地　東京市
生年月　明治二年十二月二日
現住所　神田區通新石町八番地
職業　菓子商

帝都の復興は今や、その灰燼の焼野ケ原より、廢墟の奥底より、新興、更生の熱を以つて帝都二百萬の福祉と希望とを以て、二十世紀の文化を基調として、世界帝都建設史の一頁に金文字を以て錄せられんとす。

あゝ世界的帝都は今やその誕生の道程にある。君は明治二年十二月二日日本橋十軒店小西幸助氏の二男に生る。

君は金太郎氏の令弟にして、夙に穎明、生粹の江戸つ兒にして、活動の淺草に生れ、雲雀益々軒昂、覇氣滿々たり。

君は獨學を以て終始し、益々孜々として倦まざるの士である、その透徹せる卓見、高邁の人生觀は當代の珍にして、君は隱れたる義人である。

君は幼少より仁俠に富み、敢て、公私の名譽職等は辭退し、慨世武士的の人士にして、君の胸管には、公共の血湧き、覺多の人を救濟してゐる。

君の信望は益々高く、君の地盤は今や、牢として拔く能はず。

「人生意氣に感ず功名亦誰か論ぜん」の語は君にして初めて適用されるものである。偉なる哉君、その男性的强味を多分に持つて、意地と張のある所は愛すべき所であり、然して、温厚篤實、今や圓熟した人格者である。

君は故養父、峯村陸之助氏より懇望されて、その養子となる。

喜久子夫人は先代陸之助氏の長女にして、夢慈祖和し一男一女を儲く。悉く兩親の愛を鍾めて、見また孝養厚く笑聲常に絶へず家庭圓滿和氣に充滿してゐる。

君は震災當時家を忘れ、罹災の救助に勉め、緣の下の力持式に活動したる、その涙ぐましい働きは人々今に感賞措かざるところで、君の仁俠の發露は到るところ、人を助けてゐる。今や天下の嘱望復興事業の中堅、區劃整理委員として、第八地區を擔當し、この曠業に參畫す。君の熱、廉直、仁俠の精神は如何に復興精神を指作し、難關多き復興事業の完成に貢獻しつゝあるか、君は今や日夜奔走到らざるない。華々しい活動の第一線に馳驅し本領を躍如たらしめてゐるではないか。

小林金四郎君

出生地　東京府
生年月　明治十九年八月五日
現住所　神田區鍋町十三番地
職業　消防用喞筒製作販賣業

君は明治十九年八月五日を以て東京府下南葛飾郡砂町大字亀高に風々の感を擧げた。

大正三年三月神田鍋町に移轉し專ら喞筒販賣業に從ひ別に神田區富山町二十三番地には製作工場を有し事業頗る盛大である。

抑々、大正十二年九月一日に於ける曠古の大震火災は一朝にして五億の富と十萬の人命を犧牲にしたのである。彼の慘事を繰返さざるが爲に人々は常に細心の注意を將來に向つて拂はねばならない。殊に防火消防設備が今少しでも完全であつたならば、或程度迄に慘害を逃れ得たであらう。近來此點に眼を着けて各町會と云はず個人と云はず會社と云はず防火設備に全力を擧ぐる傾向を帶び來つた事は眞に慶賀すべき事實であると云はねばならぬ。君の業が時代の風潮に依つて益々有望なるべきは從つて言を俟たないのである。

此度、帝都復興の大業興るに及んで君は第八地區から推されて區劃整理委員の任に就き帝都百年の爲に、更に有意義なる活動を爲しつゝあるは、帝都民として敬意を捧げ、また其勞苦を多とする所以である。

君、家庭には府下南葛飾郡寺島町の人渡邊孝一君の令姉さく子夫人がある。君を佐けて內助の功厚く、其間一男一女を擧げたが、不幸長女は夭逝し、令息武四郎君は君をして後嗣の憂あらしめざる俊才である。圓滑また頗る美はしく、子弟と共に業務に勵み、樂しみを共にしつゝ一意家運の發展に力めつゝあるは同家の前途をして益々多幸ならしめる所以である。

三須安五郎君

出生地　香川縣
生年月　安政六年十月二日
現住所　神田區平永町十四番地
職業　土地家屋管理業

蓋世の英雄太田道灌が武藏野の一角に金城湯地の江戸城を築き本丸を居城として、關東平野を一睨し天下を睥睨し、野望滿々として、天下に覇を稱えんとしてよりこゝに星霜六百年、光芒夢の如く、人生轉變興亡し、今や東京は震災後の廢墟に起つて、復興の熱に燃えてゐる。政治、文化、商業の中心として、首都大東京を實現せんとしつゝある。やがてその完成は二十世紀の世界都市建設史上の一頁を光彩陸離たらしめるであらう。

君は安政六年十月二日香川縣大川郡中川傳吉氏の長男に生れ現大藏參與官代議士三木武吉氏と同鄉なり。

君は明治十二年上京、熱と意氣に燃える青年男兒であつた。

君は山來仁俠に富み、義の有るところ火をも踏む底の情熱家にして、地方分權の自治議政壇上には辯じて出で寸公職等一切を受けず飽く迄雌伏のうちに大局を善處し、公共區民の爲に全生命を傾倒して今日に到る、近隣、君の德を稱すること、深く畏敬するところである。

君は聖望されて三須家の養子となる。しん子夫人は三須安五郎氏の長女にして、琴瑟相和す、君は養父の名を襲名し信望益々厚し、日蓮宗の厚き信仰家として各寺院、信徒の世話を爲し現に神田元講々元、神田八講總代として重鎭たり。

三女とき子氏は嫁東京市會議員中川重政氏と結婚し、中川家を嗣ぎ其他數多の子女夫々分家一家團欒、幸福な家庭を營んでゐる。

君は古武士の如き面影あり清廉潔白、正義觀念に生き、時今稀有の人格者である。

君の透徹せる卓見、高邁なる批評は現代の異彩である。

君のその德望、手腕、識見は直に後援されて、帝都復興の曠業に參畫して、第八地區々劃整理委員として、特に困難なる須田町小柳町平永町柳町黑門町の部分に主力を注ぎ模範的に事業遂行に力むる等復興の中堅たり、君の出現は復興の前途益々多忙なる秋これが完成に貢獻するところ多大なるを疑はず、區民の期待また絕大なるものあり、若々君は前程に馳驅し活動を爲してゐるのは一般の意を强ふするところである。

村木喜助君

出生地　東京市
生年月　安政二年五月五日
現住所　神田區連雀町十二番地
職業　青物商（鳥屋）

天光仁皇の天應元年、刀伊の外寇我が對馬壹岐を侵掠し、國司死守防戰せるも遂に敵に殉ず。寇賊勢に乘じて終に肥前松浦を掠め、兵船五十隻を以て筑紫に至る。太宰權の帥藤原隆家、其眼首ひたるも兵船を修理し、士兵を召集して賊を迎へ、撃て大いに之を破り、其侵す所の地を悉く復して遂く我が領土の外に寇を撃退し、後再び我が邊陲を窺ふ事なからしむ。五月五日は我國端午の佳節として、尚武の氣を横溢せしめ、男兒の吉日たらしむるは、此日藤原隆家全軍を率ゐて神明に戰捷を祈りたるの日にして、其大功を後世に記念せむが爲なりと傳ふ。

我が村木喜助君は安政二年、此の佳節を以て呱々の聲を揚げたる人にして、生粋の江戸つ子なりとす。現在の地區は古來土着江戸人の本場として、仁俠を誇りたるの地、君亦男兒の本懐たる佳辰を其生誕日に有し、老來益々勤勉努力、專心家業に勵み、併せて公共の事業に私を顧みざるを以て本領となすの痛快なる人士なり。

君に於て最も因縁の奇なるは大地震なり。其生年たる安政二年十月二日は未曾有の大震にして、水戸藩士にして偉傑たりし藤田東湖を始め、死傷甚だ多かりしに、七十年を經たる大正十二年、再び振古の大震災に會す。一代にして二回の大災に會するは稀有なるべし、と雖も、當年の孩子、今は古稀を超えて尚屈する所なく復興の第一線に立つて活躍す。而も、勤勞を生命とし慰安として、壯者をして後へに躁若たらしむるは、生れたる其日より既に恵まれたる生涯を送るべき瑞兆ありし故なるべし。今や八地區區劃整理委員として、公平無私の活動を積くるは、地區民の大いに多とする所なり。

君の家は代々青物商を營み、夫人も亦江戸つ子なり。一男兒を擧げたるも不幸にして夭逝したるは、千秋の恨尽たりとすべし。君は深く相先を崇祖して、恙ら家名を明さとする事に努めつゝあり

勳四等　福田又一君

出生地　埼玉縣
生年月　慶應元年八月十日
現住所　神田區雉子町三十番地
職業　辯護士

慶應元年は封建の制に依る日本の、最後の光輝である。此年より僅か三年を出でずして明治大帝即位し給ひ、王政古へに歸り、新日本興國の氣運を孕んだのである。我が福田又一君は此慶應元年八月十日を以て埼玉縣北埼郡南吉見村に生れた。君は興國の氣運と共に成長し、明治の盛世と共榮を共にし來り、輿望を荷ふて國家の事に奔走しつゝある。恰も天新日本の興隆の爲に君を生んだかの如き觀がある。

君の家は累代農を以て業とし、酒造を副業と爲した。君は幼にして大志あり、長ずるに及んで東京法學院――現今の中央大學の前身に法制を學び、明治二十三年聖雪の功を辛へ、遂で二十五年辯護士試驗に登第した。

君の向學の志はもと自家釀造の酒に對する檢査官吏の横暴非道に憤を發し、將來は必ず官吏民衆の弊を打破せんとして起つに及んだので、大いに民權の確立を呼び、民衆の利益を保護すべく、其意氣當るべからざるものがあつた。從つて衆人の君を倚賴し景仰するもの多く、少壯にして東京市神田區會議員に選擧せられ議長の職に就き、更に府會議員に推された。明治四十一年には郷里埼玉縣より擁立せられて衆議院議員に當選し、三期間引續き當選して議政場裡に雄視し、衆議院議員選擧法改正調査委員を命ぜられ、大正十二年復興院設立せらるゝや內閣より評議員に任ぜられ、續いて特別都市計畫委員を命ぜられて埼玉縣選出とは云へ東京市と密接不離の事業に參與しつゝある。其他現に東京市參事會員として幹旋多大、財團法人市政調査會評議員として常に東京市の爲に昔々の努力を捧げてゐる。大正十五年市會議員の改選に當り市政刷新を呼んで大多數を以て當選した。政黨の所屬は憲政會で、同黨政務調査委員として重きを爲し日獨戰役の際には跡後賞の功に依つて勳四等に叙せられてゐる。皇室中心を以て主義と爲し、佛教を信じ、書畫を愛好する。一家極めて多幸にして夫人との間に一男五女を儲け、長女は既に他家に嫁き、他はそれ〴〵勉學中である。令弟福田庫次司君は正五位勳三等東大出身の法學士で、一門頗る繁榮しつゝある。

常に君の公共に奉ずる努力の酬あられて今日を爲したものであると云ふべきである。

今城禎太郎君

出生地　新潟縣
生年月　明治五年三月四日
現住所　神田區錦町一丁目一番地
職業　旅館業

神田橋頭、殷賑人馬絡り成す所、舊酒清麗の一大建築あり。帝都バラック建築中に一異彩を放ち、人皆常に門前に絶えざる盛況あるものを即ち今城旅館と爲す。經營者は即ち我が今城禎太郎君にして、其ホテルの外觀に於ても君が舊委を脱せざる跡と日を同じうして語るべき底の人物にあらざるを證し得る。

君は新潟縣刈羽郡北條町の人、傳右衛門氏の次男に生る。幼にして頗悟、夙に志を立てて東京に出で、現在の地に旅館業を開く。時に年二十有五にして、實に白面若冠の青年であつた。君の此地に建業して以來、刻苦精勵、常に最善を竭して客を遇し、設備を整へ、施設を新たにして勉勵休む時なく、爲に家業次第に榮えて僅かに三十年に滿たざる今、市内は勿論、全國屈指の大旅館として其盛名を擅にするに及んだ。

今や同業間に重きを成して全國旅館組合聯合會副會長、神田組合幹事長の重任に在り、また區民に對しても信望厚くして、施設幹旋頗る多大、大正十年には推されて區會議員となり、區政に參與して頗る功績に當る。就中神田區學務委員として教育事業に力を注ぎ、成績大いに編著であつた事は周知の事實にして、此外、所得稅調査委員たりし事もあり。町治に盡す事も亦尠少ならず、目下は町會相談役として最高顧問の地位に在る。其他青年團評議員としても盡力多大である。

今次帝都復興事業興さるゝに當つては、君は推されて第八地區に區劃整理委員となつた。君の從來の閲歴と人格は地區民に期待せらるゝ處甚だ厚く、君も亦一身を事業に傾倒して措置公平である。

君、不幸にして夫人を喪ひ、家庭には夫人が遺愛の二男三女を有し、長男英一君は專ら店務に當つて精勤倒れし、又君をして毫も後顧の憂あらしめない。君はこの令息あるが爲に克く家庭を顧みして公共の爲に傾倒し得るのである。

關根虎藏君

出生地　某　京　市
生年月　明治七年一月十日
現住所　神田區美土代町二丁目四番地
職業　洋式農具商

農業を以て國を立つるは日本古來の風である。然るに、近世科學工業の進歩は、漸次耕地を狹め、また貨幾の關係は、勞働者をして農を捨てゝ工業に赴かしめ、更に全國的に成りつゝある工場の散布は地方農村の青年をして爭ふて田を棄てゝ工場に趨るの風を爲し、實に國民食糧問題の危急を憂慮せしめてゐる。然りと雖も、我國農民は既に山岳の上迄も能ふ限りの地面を拓き、之を田畑と化し、既に内地に於いては開拓の餘地さへ無い有樣である。然して、過剰の人口は益々農家の生活に脅威を與へ、猶頑大の田地に餘りに多數の人を加へる餘儀なきに及ぶ。然も收支は此人口に適せず、之を見限つて都會に走り、工場に走る農村青年子女の風は、止むを得ず看過せざるを得ぬ情況に在る。茲に於て最も手近にして可能なる方法を講ずる事は、閣下の急務となり、僅少の人數と耕地を以て最大の收獲を得んとする農村經濟の手段は樣々に講究せられつゝある。肥料の改良、田地の整理、導々、樣々に企圖せられつゝあるが、何よりも、勞力を省く爲に舊來の農具を改良する事は、最も緊要である。此に於いて、洋式農具は次第に其需要を加へ來つたのである。

我が關根虎藏君は茲に見る所あり、金物商を業務とする傍ら、洋式農具の提供を從々盛にせんとした。意圖大いに當り、忽ちにして產を成すに至つたのである。君は現在の地に保三郎氏の長男と生れた人で、幼にして頗悟明治三十年、嚴父の逝去に伏つて家督を繼ぎ、業を承けた君は、奮闘努力、次第に家運を興隆にし、以て今日に至つたのである。

今次、帝都復興の大業興さるゝや、衆望を荷ふて、推されて第八地區劃整理委員となり、父祖の地の再建の爲に、大いに力を効して倦む所を知らぬ。而して、事に當るや極めて公平、克く地區民の情況に通じて、愛常穩健の措置を講じ、地區民の尊賴は爲に甚だ厚きを加へてゐる。君は幼少より眞宗を信仰して人格の陶冶に餘念がない。

宮本仲君

出生地　長崎縣
生年月　安政五年十月二十一日
現住所　神田區雉子町三十一番地
職業　醫師

君は安政五年十月二十一日信州埴科郡松代に生る。祖先以來累代松代藩真田侯に仕へ、君亦然りしも明治維新の變革に依りて廢藩行はれ封建の制崩壞するに及んで決然父母の地を去つて帝都東京に遊ぶ。時に明治六年なり後東京帝國大學醫學科に學び、業を卒へて明治十七年獨逸及オーストリアに遊學し十九年歸朝す。學習院に聘せられて醫局囑託となり、次で東京府立本所病院長に任じ、臨時檢疫局に職を奉ずる傍ら、友人と計つて東亞夜學校を創立し、また東京醫學院を興して刀圭界に於ける育英の事業に盡さんとせしも幾何もなく失敗に歸したり

此間區會議員に選ばれて自治の發達に寄與し、醫事新報を創刊編輯して斯界の發達に志す等、其規模常凡庸の醫にあらざるを認知せしめたり。從つて其交友に於ても天下の名士、國士を有し、特に大審院長法學博士横田秀雄君、貴族院議員國民新聞社長德富猪一郎君とは最も交り深し、愛國の精神熾烈にして進取的思想に富み、佐久間象山、藤田東湖を崇拜する一方、儒教基督教の長を執て自家の修養に資する等、包容力豊富の多方面にして、孟落快活の老紳士なりとす。

また書畫骨董に趣味を有して其鑑識侮るべからざるものあり、囲碁將棋を伴侶として技練途の境に在り。雅堂を號とする外、猶二三の雅號を有す。

今次帝都復興の事業興るに及んで、君は第八地區より區劃整理委員に推され、老來益々矍鑠たる元氣を以て奔走し、町の長老として、また閲歴德望ある紳士として地區民推服の的となり、爲に事業の進捗に資する處極めて大なるものあり。

君は家庭に於ても頗る惠まれたる人なり。夫人は岡山縣士族丹治乙治君の令妹にして、内助の功厚き賢婦人なり。また、君との間に儲けたる令息は現に東京帝國大學醫學部講師として、不肖の子にあらざるを示し、君をして後繼の愛たからしむ。

燈信治君

出生地　東京市
生年月　明治十六年六月二十三日
現住所　神田區三河町一丁目八番地
職業　印刷製本機械製造業

文明の指導者書籍、出版の源泉、印刷製本機械製造の盛衰如何はまた一國文化の消長を實證してゐるものであらう。

君は明治十六年六月二十三日淺草小島町燈五郎平氏の二男に生る。

君は若くして、現實生活線の中に身を投じ、一進一退、起伏重疊、實に血と涙の知き、苦業を嘗めた。

君は不屈不撓、遂に今日の成功を贏た立志傳中の人である。

若くして、各所に印刷機械工場の實地修業の一職工として働き、精勵三千餘年の苦業を積け自力製學を以つて、修養研鑽怠らず、遂に一家をなす。

君は資性放膽にして細心、理智の上に立つた情熱の人にして、決して、その踏ふ所を過たず、愈々、人格陶冶され、その德望は益々光輝あらしめてゐる。

君は現に燈工工所において印刷製本機械を製造をなし、その獨創的、優秀品を製出し、市場に獨歩してゐる。

君の深い體驗と學識は他の追隨を許さず、其生産品は都下一般、他府縣へ移出し盛價愈々盛んなるものがある。

君はこの成功に對して寄らず今日も職工服を纏ひ、職工に伍して忠實に製品の精巧を期してゐる、堂たる工場はその生産、日に加はり、能率愈々向上してゐる。

淺草區小島町燈秀治氏は君の令兄にして、土地の元老である。

てう子夫人は淺草區北三筋町藤野駒吉氏の長女にして、賢夫人の名あり、淺草區聖天町燈貫治氏の二女花子嬢を養女としてゐる。長男信男君は大正十四年一月二十日生れにして、未だ幼少である。家庭鼓に圓滿、琴瑟相和し、和氣濃かなるものがある。

見よ、君は帝都復興の先驅、區劃整理委員に推薦され、八地區を擔當し、君の社會的體驗、人情の機微に通暁せるところを以て、難關多き復興事業に人心を收攬して、完成を促進しつゝあり、今や多大の成績を上げつゝあるではないか。區民の期待絶大なる所宜なりである。

慶應二年八月二十日將軍徳川家茂征長の師中道にして大阪城に薨ず。其年十二月五日德川慶喜十五代の征夷大將軍に任ぜり。蓋し封建制下に於ける最後を爲し、僅か一年にして王政古へに復す。

我が鈴木友三郎君は此年三月晦日を以て帝國新興の氣運と共生を共にす。郷地は神奈川縣西多摩郡東秋留村大字兩間。中村宇兵衛氏四男なり。

後鈴木喜七氏の養嗣子となり、神田區三河町二丁目十六番地に住して君は青雲明治書院に勤務す。

今次帝都復興の事業興るに及んでは抽されて第八地區土地區劃整理委員となり、帝都百年の爲に傾倒して指揮公平無私、爲に事業の進捗を資くる事尠少にあらず、地區民推服の鍾る處となる。

君、家庭には長崎縣北松浦郡平戸村下島安三氏長女すゞ子夫人あり、君に仕へて内助の功厚く、君との間二男一女を擧げたるも不幸二男欽治君、三男成三君を喪ふ。然れども長男敬三君は既に郷里松原村吉野郡次君の令妹民子を娶りて、一女ひろ子孃を擧げ、また長女かつ子孃は既に同郡五日市町内山豐藏君に嫁げり。

故に家門の前途益々多望なりと謂ふべく、君が後顧の憂なく公益の事業に專心して安きを得る所以なり。

鈴木友三郎君

出生地　神奈川縣
生年月　慶應二年三月三十日
現住所　神田區三河町二丁目十六番地
職業會社員

世界文明の向上、發展は一に、書籍出版の隆盛如何にある。精神文明のバロメーターとなるものは一に書籍であり、これを廣く傳播、仲介するものは出版、印刷業である。

君は明治三年三月八日福井縣今立郡粟田部村に呱々の聲を上げた。

若くして、書籍出版業の有望なるに着眼し、單身笈を負ふて上京、君の生活は起伏重疊波瀾曲折を經、今日の信望と、地盤を建設した。君は情熱の人であり、一面意志の人である。君が裸一貫より今日の地盤と財産と信望とを贏たのは一つに君の俊明と、力行の賜ものである。君は一躍斯界の龍兒となり、斯界の重鎮として名聲嘖々たるものがある。

君は本邦の書籍出版事業が外國に比し、幾多需要者にとり不便な點あり、その間種々の弊害あるを痛感し、新なる營業方針を樹立し、斯界を驚倒せしめんとしてゐる。事實他を壓する抱負と卓越せる經綸を有してゐる。

君の印刷所を三秀舍活版印刷工場と稱し、神田美土代町二の一に堂々たる工場を有し、第一より第四工場迄あり、その一角の偉觀である。

とし子夫人は同區猿樂町淺利信隣氏の二女で、長男誠君、長女美惠子孃、二男裕君あり、尙ほ養子として、淺利信隣氏の二男信次君を迎へ、また横濱市南太田町村田留五郎の二女律子孃を養女としてゐる。家庭圓欒、至極圓滿にして、近隣の羨望の的である。蓋世の雄、太田道灌が、六百年、武藏野の一角に金城湯地の江戸城を築き野望滿々として、天下を睥睨し、關東平野を一望して悠々たる雄圖を抱いて逝つた戰國時代より春風秋雨、星霜夢の如く、人生興亡し、今や首都東京市を實現してゐる。武藏野の月が草より出でゝ、草に入るの昔は一變して、墨より出で墨に入るの、巷大な近代都市は、更生の意氣に燃えて、復興への道程に只管精進してゐる。

此時に當り君は帝都復興の第一線區劃整理委員に推されて八地區を擔當す、君の遠大なる抱負、識見は、殆々實現しつゝある。區民の期待、益々大に、君の意氣また思ふべきである。

島連太郎君

出生地　福井縣
生年月　明治三年三月八日
現住所　神田區美土代町一番地
職業　書籍出版業

泉清吉君

出生地　京都市
生年月　明治二十六年十一月十日
現住所　神田區旭町十二番地
職業　金物商

世間に於て何者か最も富み、何者か最も貧しき。父母家に在る、之を名けて富とし、父母在らざる、之を名けて貧しとす。父母在る時は日中の如し、父母死する時は日没の如し。父母在る時は月明の如し。父母亡き時は闇夜の如し。是故に汝等勤めて父母に孝養せよ。如此人は佛を供養する福と等し。（心地觀經）

此意味よりすれば、我が泉清吉君の如きは最も幸福なる人なり。

君は明治二十六年十一月十日現在の地に嚴君藤吉氏の二男として呱々の聲を揚ぐ。

家は金物商を業とし嚴君藤吉氏は公共の爲に盡して功勞多き人なりとす。現に旭町々會長として重きを成し、町の發展親睦に寄與して功勞大なり。

君は未だ前途春秋に富むの青年紳士、中學校卒業後家業に從事して嚴君を扶け、益々家運を大ならしめつゝある傍ら、血統の致す處、衆望高く、今次帝都復興の大業興るに及んで推されて第八地區土地區劃整理委員となる。而して事業の進捗に新鋭の力を添へて、共達成を進めつゝあるは地區民の大いに多とする處なり。

君は煙草を嗜好すれど酒を嗜まず、溫厚篤實の人にして父子相携へて家を興し世を益す。實に健美すべき家にあらずや。

故に一家和氣に滿ちて法悦の聲を絶えず

伊藤藤治君

出生地　宮城縣
生年月　明治十六年八月八日
現住所　神田區堅大工町二十二番地
職業　會社員

宮城縣加美郡小野田村は羽前の國境に近く、所謂銀山越の險に依て山形縣尾花澤町附近に出づる往還に在り、途上輕井澤附近溫泉湧出し、山間烟霞の境たり。

君は此仙境に明治十六年八月八日を以て呱々の聲を擧ぐ舊姓兒玉氏　後東京に出でゝ伊藤とめ子刀自の養嗣子となる。

夫人は神田區堅大工町二十二番地細井きく子、君との間二男一女を擧ぐ。長男秀夫君、二男忠夫君、長女勝子儀なり。

今次帝都復興の事業興るに及んで第八地區より推されて土地區劃整理委員となる。

帝都百年の爲に指導する所公平無私、克く眷々の努力を捧げて世界的大都市再建の爲に多大の努力を拂ひつゝあるは地區民の推服する處なり。

君は丸の内某會社に勤務して重職にあり。體軀肥滿堂々たる風格を有す。

齢未だ不惑を超ゆる半ば、前途猶春秋に富める君の、今後、帝都再生の曙に於ける活躍こそは刮目して見るべく、君幸に自重加餐、以て善人が期待を空しくせざらん事を。

油脂は文明の進展に從つて益〻需用の多きを加へゆく。工業用燃料として、發動機用として、普時とは其使用の目的を異にしつゝも、同じく無限大の需要がある。從つて此種事業に從事する家にして、家運を昌んならしめたるもの尠少ではない。而して將來に於ても益〻有望であらう。

我が宇佐美由次郎君の如きも、年來此事業に携つて斯界に寄與し、併せて家運を發大ならしめた人である。

君は岐阜縣の大都大垣市の人、宇佐美若次郎氏令弟として明治十年十月四日呱々の聲を揚げた。明治三十七年分家獨立したのである。

君は幼にして大志を抱き、實業界に志を寄せた。而して、家を成すには中央に出づるに如かずとして、壯年東京に出で、日本橋區本銀町一丁目一番地に卜居して諸油商を開いた。

頭來拮据經營、天稟の才腕は次第に家運を昌んにするに及んで擴張の必要を感じ、明治四十三年神田鎌倉町に移つて益〻事業熾燃である。後組織を變更し、宇佐美合資會社の名に於て君は之を代表し、絶らざる努力をなしつゝある。

今次帝都復興の大業興るに及んで、第八地區より推されて土地區劃整理委員に任じ、帝都百年の爲に奮倒して努力多大、事業の進捗を資けて指導公平公當、地區民から多大の信頼を得てゐる。事業の爲にまことに幸慶と云はねばならない。

君、家庭には長男芳郎君、令嬢芳子嬢あり、先夫人の遺兒である。先夫人は京橋區南小田原町野口庄之助氏長女やす子、大正四年不幸逝去したのである。

現夫人は千葉縣の人、大正七年結婚し、君に仕へて溫良貞淑、克く家庭を和氣藹々の裏にあらしめ、君をして後顧の憂あらしめない。

君が公私の事業に專念し得るもの、一に夫人及愛兒の内を堅つて確まるに依るのであらう。

第八地區委員

酒井鍬太郎君

出生地　神奈川縣
生年月　明治元年十二月十六日
現住所　神田區須田町二十五番地
職業　自轉車商

自轉車は我國都市を問はず行はるゝ補助交通機關として最も民業的なるものにして、其利便に至つては此發明に於てすべての產業興業の上に利益せるもの幾何なるやを知らざるものあり、從つて斯業は將來に於ても益〻有利の業たるを失はざるべく、改良進歩の更に一層なる結果、理想的狀態の下にます〳〵重用せられつゝあり。

我が酒井鍬太郎君は斯業に從事して輪界に雄視するの人なりとす。

君は神奈川縣大住郡上粕屋村山田猪三郎氏の令弟、明治元年十二月十六日を以て此地に呱々の聲を擧ぐ。

上京して下谷區入谷町九十九番地に住し、後明治三十一年酒井家養嗣子となる。

自轉車販賣を業として業務益々繁盛。須田町巴會々長としては克く隣人の爲に寄與し、町の發展及和平に盡しつゝあり。衆望眞だ厚し。

今次帝都復興の事業興り、土地區劃整理行はるゝに及んで第八地區より推されて區劃整理委員となり、帝都百年の爲に傾倒して公平無私、事業の進捗を資けて功績多大なり。

抑〻帝都復興の事業は世界が壯擧にして、世界三大强國の一たる大日本帝國の首都東京市をして世界に冠たるべき壯美の大都市とすべき機運にあり、復興の衝に當る市民の責務たるや實に絶大のものにして、其根本事業たる區劃整理事業の成否は復興の上に影響する事尠大なり。幸ひに熱誠なる士の多くを得たるは吾人の欣快とする所なり。

君、家庭には神奈川縣高座郡大澤村の人井上喜左衛門氏長女かく子夫人あり、君に仕へて內助の功厚く、其間二男五女を擧ぐ。卽ち德子、百合子、園子、梅子、久和子、の諸嬢と新一郎、新二の兩君にして、長女德子嬢既に神田區材木町上野康次郎君と結婚す。一家悉く和氣に滿ち、至幸の家庭を營めり。

清田政君

出生地　廣島縣
生年月　慶應二年十月二十五日
現住所　神田區鍛冶町二十番地
職業　東京市吏員

日東文明統設の裏面には多くの傷いた落伍者、痛ましい犠牲者があることを忘れてはならぬ、文明の向上は多くの人を幸福、利便とするかも知れぬが、一面生活苦を招來するものである。

斃々たる武勳輝く凱旋將軍の勇姿を透して、多くの兵卒の血と涙とがあることを思はねばならぬ、一將功なり萬骨枯るとは實に至言と言はなければならぬ。

君は慶應二年十月二十五日廣島縣豐田郡上北村横山平八の二男に生る。

山來廣島の地は風光明媚、山紫水明にして、南は天下の景勝の地瀬戸内海の水に連る。

また嚴島の神社は結構壯麗にして、吾國代表建築である。

君はこの優秀な自然の山河を携帶の地として、大自然の感化を享くること至大なり、自然人として、君が誠實、犧牲、奉公の精神に携え、世の幸福、人類の平和と、健康保健に基礎を置いて、人の福祉を圖すべく、君は斷然として上京、醫學を研鑽し、遂に一家をなし今や丸の内有樂町衛生試驗所の一室に在つて、試驗管を手にして、民衆の保健に一意專心その研究に沒頭す、事幸かならずと雖も、その人類の幸福を招來することは至大である。

嗚呼その敬虔なる態度は敬服するところである。

君は、その人類の義務を實行しつゝあるものである、君の人格はこゝに傾倒されつゝあるを思へば、涙の流れる程感謝せざるを得ない。

君の人格、手腕既にかくの如く、萬人推して、天下の嚴選、大帝都の建設、復興の中心たる區劃整理委員に推す、また宜なる所である。

君また、この期待に添ひ、誠心誠意、公平無私、區民の平和、幸福の見地から、堂々たる抱負經綸を實行しつゝあるは、ひそかに吾人の欣快とするところである。

家庭には清田儀助氏の二女はな子夫人賢夫人として、内助の功著しきものがあつて圓滿な家庭を營んでゐる。

長女清江嬢は本郷區湯島南門町中村幸氏と養子緣組し、實に幸福生活に邁進せられてゐて、前途洋々として希望に輝いてゐる。

峰島合資會社
峰島茂兵衛君

出生地　東京市
生年月　明治二十六年七月十二日
現住所　麹町區下六番町二番地
職業　會社重役

帝都復興の大業は、市民一致の努力に依りて其完成を期すべしと雖も、土地區劃整理の事業は利害の係る所深きが故に、動もすれば紛議を醸して事業進捗の上に多大なる支障を爲す事、最も遺憾とすべきなり。

此時に當つて、帝都最大の大地主たる我が峰島合資會社が、進んで區劃整理委員として起ち、帝都百年の爲に多大なる犧牲を拂ひ、以て、市民協力の必要の切實なる所以を實行のうへに示しつゝあるは大いに多と爲すべし。

峰島合資會社は其興隆の端を一世の女丈夫峰島こう子刀自に發す。こう子刀自は慶應三年九月、貸商峰島茂八氏長女を以て孤々の聲を揚ぐ。性頗る慷慨にして機略に富み、明治十五六年の交、不換紙幣濫發に依りて紙幣の價値暴落するや、前途を洞察して大いに紙幣を贖へ一二年の後大いに富を得たるなど、其一例と云ふべく、土地に對する投資には最も力を注ぎ、現在に於ては所有宅地十三萬坪に及び、三菱合資會社の十四萬坪に次ぐ帝都第二位の大地主たり。明治三十年星張屋銀行を興し、更に四十四年四月尾張屋土地株式會社を興す。大正四年十一月二十日、同族を以て合資會社を組織し、不動產保全を目的として、經營甚だ盛んなり。刀自は身を持する事極めて儉粗、巨富を得たりと雖も些も強む處なかりき。我が峰島茂兵衛君は前名を德三と稱しこう子刀自の季弟なりしも、入りて其家を嗣ぐ。夙くより刀自を輔けて經營に從ひ、手腕甚だ優れたりしかば、刀自歿後と雖も、事業は益々盛大に赴き、親族たる小泉治兵衛君、荒澤平兵衛君等之を輔佐して基礎頗る堅し。

今次、帝都復興の大業興るに及び、第八地區、第三十二地區、第五十二地區の三區に亙つて區劃整理委員に推されたる峰島合資會社に、峰島茂兵衛君代表出席して至大の關係ある土地整理の爲に、利害を度外視して相倒し以て世界的大事業の爲に甚大なる貢獻を爲しつゝあり。故に事業進捗の上に力ある事最も大なるもの有り、以て復興の範を示せり。

人生の興亡、流轉極りなく、ローマの榮華も歴史識に眞をとゞめてゐる。大東京もあはれ大震災の前に桃花一朝の夢に過ぎなかつた。しかし内部的に燃燒せる江戸つ兒の意氣はこの天災に依つても挽き得ない、見よ近代文化を基調として、不燃質に立體的に、交通、軍事、都市美觀、の見地から、今や、その復興は素晴しいもので、世界史上の一頁を彩らんとする。草より出でゝ草に入ると云ふ昔日の淀々たる武藏野の原は近代的大東京市街と化せんとしその影服、その發展は更に凄じいものであらう。

君は明治八年四月二日、神田區小川町一番地に生れ、代々、和泉屋と號して、材木商を營む、今や復興途上の大東京には、木材は復興事業の需要あり、その用途は愈々多い。君は生粋の神田つ兒にして、意地と强りがあり、義俠心に富み、公共團體の爲には何ものもない、近時道徳觀念の地に墜つる時君は飽く迄道徳的生活に準據し、一世の師表と仰がれてゐる。

君は特に一宗派を信ずることがないけれど社會人として、道徳を根底として、久遠なる宇宙を思ひ、人間の果敢なさを知るの人にして、氏神によく參拜する。

君は學歴としては小學校を卒業したに過ぎないが、勤力、夜學等に通ひ刻苦精勵、今日の抱負、識見、を藏し堂々たる一流人士である。君は聰明、頭腦明晳にして、博覽强記なり。人、その德望、識見には均しく畏敬する。君は敢て驕らず、謙遜家にして、その材木業に精進し、信望益々厚く、和泉屋の門戸は、常として他の追隨を許さぬ盤石と、顧客を有し、都下斯業界の重鎮である。

君は現に神田區會議員として、若き東京の發展と福祉の爲に健闘し、區を代表して遺憾なき成算あり、その堂々たる論陣は區政壇上の花形である。子福長者にして、家庭には九人の子女あり、三嬢は既に他家に線す。家庭圓滿にして君は子女の教育に意を用ひ、模範家庭として近隣の噂高い、君は今また復興區劃整理委員として、その前後に處ち、大活動を開始せるは區民の認なるところ、君の經綸、抱負は復興の完成、促進に寄與するところ甚大なり、かねた一世の師表に參考すべきである。

大宮德太郎君

出生地　東京市
生年月　明治八年四月二日
現住所　神田區小川町一番地
職業　材木商（和泉屋）

君は廣島市八丁堀町四十二番地に石田佐一郎氏の長男として明治四年八月八日を以て呱々の聲を揭げた。

後、東京に出でゝ神田區佐柄木町二十一番地に下居して物品配達及び集金代理業を經營し、着眼の非凡は酬はれて業務甚だ繁盛、博運社の名は斯界の權威として四方に著聞するに至つたのである。

此度、帝都復興の事業興るに及び、君は推されて第八地區土地區劃整理委員に就任した。

而して資性俊敏なる君は、本事業が曠古の世界的事業たる性質を帶びたるにも拘らず、幾多大義の上より不合理なる點あるに鑑み、——例へば土地一割無償淺牧等の如き、憲法上に保障せられたる財産不可侵の條に反する——東京都市計畫、土地區劃整理制度改善期成同盟會を自ら發企して之を設立せしめ、其牛耳を執りて大いに天下に制度改善を呼號し、續々共鳴者を得て今や、一大勢力を示してゐる。斯の如く、事に處して大義に通ずる君の土地區劃整理事業に於ける活動は目覺しきものあり、措置妥當公平、帝都百年の爲に寄與する事甚大である。

君家庭には廣島市流川町加藤政太郎氏の三女たるよし子夫人あり、君に事へて内助の功厚い。

長野縣小縣郡縣村小野利右衛門君の六女壽惠子嬢を迎へて養女と爲し、之を愛育して一家極めて和氣に滿ち、藹々たる春風裡の團欒を祭む。

第九地區　東京市施行

大正十二年八月二十二日東京土地區劃整理委員並ニ同補闕委員ノ選擧ヲ行ヒタリ

土地區劃整理委員

十七番　議長　堀内伊太郎(地)
一番　梅岡正吉(地)
三番　小林巳之助(權)
五番　長島辰五郎(權)
八番　濱田鶴(地)
十番　中村桂太郎(地)
十二番　大澤圭五郎(權)
十四番　中川重政(地)
十六番　伊藤小四郎(權)
十九番　鈴木喜兵衛(地)
六番　副議長　鈴木彌吉(權)
二番　福田勝太郎(權)
四番　黑崎直次郎(地)
七番　北原常次郎(權)
九番　中山爲三郎(權)
十一番　大見幸三郎(權)
十三番　吉田廣見(地)
十五番　宮田幸作(地)
十八番　稻茂登三郎(地)
二〇番　高橋章蔵(權)

土地區劃整理委員補闕委員

土地所有者
田島愛次郎　金子誓右衛門　古屋合名會社
宮坂留吉　小松市松　松屋呉服店　泉勇助　稻葉倉治　株式會社武神商店　奥村助五郎　島村友三郎

借地權者
松原宗五郎　野村庫造　足利晴之助　早川藤太郎　江口芳兵衛
秋庭喜兵次　成塚良治　田中吉太郎　吉川增次郎　櫻井忠吾

地區々域

神田區　元柳原町、東松下町、岩本町、松田町、下白壁町、塗師町、南乘物町、美倉町、西福田町、紺屋町、北乘物町、富山町、東紺屋町、東今川町、材木町、東福田町、元岩井町、松枝町、大和町、東龍閑町、柳原河岸ノ一部、岩井河岸、千代田町ノ一部、西今川町ノ一部、新石町ノ一部、鍛冶町ノ一部、柳町ノ一部、平永町ノ一部、上白壁町ノ一部、黑門町ノ一部

日本橋區　亀井町ノ一部、

整理前後地宅道路面積比較表

總面積		整理前	整理後	減少率
一一四、五七五	宅地	八九、三五五	七〇、六八〇	五二、八九五
	公共用地	三五、二二〇	四〇、二〇九	

委員會經過ノ概要

一大正十三年九月五日　第一回委員會開會、議長副議長ノ選擧ヲ行ヒ、委員ノ席次ヲ定メ、議事規則議定ノ件ヲ審議ス修正ノ上可決ス

一同十四年五月二十八日　第一號整理前土地面積決定期日ニ關スル件、第二號換地位置決定ノ件ノ諮問アリ、審議ノ上第一號案ハ豪根面積ヲ九月十日現在トシ訂正出願ヲ六月三十日ト修正可決ス、第二號案ハ決定ニ至ラス

一同年十二月十六日　第三號整理前路線價指數並ニ各筆坪當リ指數ニ關スル件ノ諮問アリ、審議ノ上保留ス

一大正十五年四月十五日　第二號案ニ付キ審議シ、路線全部ノ內一部ヲ保留シテ他ヲ決定可決ス

一同年六月二十九日　第二號案ヲ審議シ、鍛冶町白壁町紺屋町ノ各一部ノ位置ヲ決定シ、第四號案ナル一部換地面積決定ノ件ハ前記町ノ面積ヲ決定可決ス

至神通・聖藥通・靈、遠寄衰翁濟之病身、我亦有丹君信否、用時還解蒋斯民（程伊川）

「淺田飴」の名、既に我が堀内君傳家の秘藥として其名四海に布く。君其靈藥と其丹心と相たづさへ有し以て世を濟し民を救ふ。程先生の詩句、當に君に向つて呈せられたるものと云ふべきである。

君は其祖先を長野縣上伊那郡に出し、先代伊太郎氏の代に至り現在の地に店舗を設く。

本邦に於ける漢法醫學の權威淺田宗伯先生の創意に係る淺田飴を家傳して其製造販賣を業とし、盛名大いに揚り、販路は遠く海外に及ぶに至る。

君は先代の長子として生れ、一橋學舍を經て法政大學法學科に學ぶ。家を繼ぐや、庶女の後を承けて家運益々榮え、我血を傳へて公益濟世の事業に厚く、從つて衆の尊信する所となり、君をして多くの名譽職に居らしめる。東京府參事會員、東京市會議員、神田區會議長、即ちそれである。

今や、帝都復興の事業興され、東京市百年の計を爲さんとするの秋、君は推されて第九地區整理委員に議長たるの大任を帶びたのである。固より、其閥歴と其手腕と其熱誠とは、大いに期待して可なりと云ふべきである。

幸ひに此世界的事業たる世界的大都市の建設の爲に自重加餐、以て其完成に努められん事を。

君令閨えん子夫人との間に四男三女を擧げ、長男堅太郎君は既に東京帝國大學法學部を出で、二男正君は分家し、四男重朝君は大阪高槻家に養嗣子となり、二女淑子孃は書家細谷秀發君に嫁ぎ目下京都にあり、三女董子孃は猶ほ女學校に在る。

產既に成り、名既に遂げられ、後顧して憂ひとなす處もなき君の一家は、前途益々洋々たりと云ふべきである。

君が神々として一身を國家の事に勁し得る所以は蓋し此處に生ずる餘裕ではなからうか。

其、餘裕に相違なきのみ、世を從容として送ることを得るは、今後を期待すべきものがある。

鈴木彌吉君

出生地　東京市

生年月　慶應三年七月五日

現住所　神田區元岩井町十六番地

職業　水飴問屋

君は慶應三年七月二日神田元岩井町十六鈴木巳之助氏の長男に生る。

君は東京の活動の中心神田に生れ、夙に健闘家として知られ、君の生活戰線に、一進一退、起伏重疊の波瀾を經、今や土地つ兒として、牢たる地盤と、進隨を許さぬ製品を有し、忽にして、斯界の覇王として生產市場に光彩陸離として、闊步す。

君の水飴は斯界の覇王として生產市場に光彩陸離として、闊步す。

偉なる哉君の指導宜敷きを得たのである、こゝに努力三十年その結晶は今や成功の美果を結んでゐるではないか。

君は所謂苦勞人にして、他人の苦樂を頒つ底の情熱の人にして、義俠に鳴る。

需要當時家を忘れ、區民の爲に奔走しとれが救濟に盡力したるは記憶に新なるところ、今や區民の信望、翕然として集り、押しも押されもせぬ一流人士である。

一方商況益々振盛を極め、鈴木合名會社として優秀獨自の製法を發明し、廣く都下近郊或は地方縣へ移出す。

また獨自の境地を開拓したるものである。

君は前市會議員として、東京市並に、神田區の議政壇上に、その抱負、透徹せる識見、高邁なる評議を試み、俊英として、大に帝都市政の刷新、食糧問題、教育及自由勞働者問題に就て、或は復興問題に就て麟子吼し、一世を凝倒せしめたものである。家庭には長男鶴太郎君夫妻在つて、孝養到らざるなく、家業益々旺盛なる所以である。長女ひで子孃は同區豐島町三番地田口英衛君に、また、二女とし子孃は日本橋區本小田原町青木陸之助君に夫々嫁し、四女きみ子孃も府下豐多摩郡中野町三崎善次郎氏に嫁し、柔く閑滿な美しき營みを續けてゐる。三男三郎君、四男久夫君は尙ほ修養中にて、五男滿之助君は愛望されて他家に在る。一門皆榮え君は家庭的にも惠まれてゐる。とら子夫人既になく、一抹の寂さありと雖も、君は失望せず、愛孫に圍繞されて、元氣旺盛である事は欣ばしい。

君は神田區名譽職待遇者で、その光老格として、畏敬されてゐる。

君は多少酒を好み、性豪放、廉直、恬淡にして近代人の徒らに神經衰弱的なる所さらに無く、悠々たる風貌を有してゐる。

君は推されて帝都復興の中樞區劃整理委員として、第九地區を擔當す。

天下の曠業に參畫して、今や君の抱負、經綸を實行しつゝあるは、得意なるべく、君の活動は日に燈烈を加え、帝都復興の完成は着々君の前面に展開し來る、また男兒として本懷と云はなければならぬ。

梅岡正吉君

出生地　埼　玉　縣
生年月　安政元年四月七日
現住所　神田區材木町二十八番地
職業　銅鐵問屋

行き詰つた二十世紀の文明、爛熟した近代文化は、一日も早く局面展開の文化を開拓しなければならぬ、これが、文化の打開は一に、これが源泉たる石油、鐵、石炭の資源、消費、需給關係の圓滑にある。

君は安政元年四月七日埼玉縣南埼玉郡昌福町牛塚文藏氏の二男に生れた。

君は若くして、郷土を出で、上京、大望を抱くこと多年、君は早くも文化の趨勢を察知し、銅鐵事業に沒頭し起伏三十年、其に幾々の辛苦を嘗め、今日に到つた。君を若し、在る所に居らしめば、君の識見抱負は如何に社會に貢獻することと至大であつたか、少しく遺憾なしとせず。されど不遇に在つた君の前半生は問はず。君は今や堂々たる地盤と信望を一身に集め、銅鐵問屋として一廛所界の重鎮である。

君は熱望されて、梅岡平七家に入り、令嬢きん子を夫人として圓滿な家庭を營んだ。長男源太郎、二男義三郎二君は日本橋元濱町へ分家し、夫々堂々たる門戸を開いてゐる。

長女義子嬢は本所區向島小梅町山田保太郎君に嫁す、二女菊子嬢は神田區松住町堂田牛之助君に嫁す、三男忠兵衛君は日本橋へ分家し、三女英子嬢は神田區旅籠町田井吾一君と結婚す、四男謙三君、五女芳香嬢は家に在つて、勉學中、一門皆榮え、君は實に家庭的にも恵まれた圓滿な家庭の主人公である。

君は敢て表面に出ず、謙讓家で、人後に在つて、能く善導し、眞の問題に對しても能く苦慮し信賴益々深し。

君は專ら青英の事業に盡瘁、奔走し、現に神田區學務委員として普通教育の第一線に起つて、良く、理解ある施設をなしてゐる。

二十世紀の文明が物質的にも精神的にもその頂上を極めんとする秋、新興大東京は、二十世紀の文化を吸收し、これを階梯とし、東西文明の融合、調和をなし、三千年の光輝ある國史の傳統の上に新日本文化を建設せんとする重大なる使命にある。帝都復興はこれが具象化にして、世界文化史の一頁に光彩ならしめんとしてゐる、東京市民の熱は實に、大和民族の生命ある所以である。

君は帝都復興の職業に參畫しこれが第一線、復興區劃整理委員として、九地區を擔任す、今や君の手腕、京越せる負は益々復興途上に光輝を現はしてゐる。また偉大なる或、區民皆湯陣して君の今日ある主張したのは實なる哉。君、男子平均として三十世紀に達すれば十分ならん。

福田藤太郎君

出生地　東　京　市
生年月　明治七年十二月十六日
現住所　神田區西神田町一番地
職業　藥種商

藥種商の老舗として神田區内は勿論都下の斯業者間に知られてゐる福田藥種店主たる君は、同業者の發展向上に發意力を盡し、殊の醫藥分業問題等に就ては藥種業者の現位保全を期すと共に其の發展を圖るのみならず、國民經濟上より觀ても常然斷行の樂に出で是が解決を爲すべしであると陣頭に起つて絶叫してゐる斯業界の偉傑である。

君が今日の大成を為したのは實に君努力の賜であり、君が貴い汗と脊との結晶である、君は福田興夫氏の長男として深川に生れ學業成るや斯業の經營に就て苦心研究を爲すこと數年に及び新く光榮の實績を擧ゲ明治二十六年日本橋區本石町に藥種商を開業し茲に約二ヶ年、次いで同二十八年現在地に移轉し關東各種藥品、諸資藥、化粧品の小賣に驀進努力以て業の發展を計つたとのことである、人格高潔にして資性溫良なる君の誠實、親切は次第に認められて同業者及顧客より絶大の信用を博し店務の繁忙日に月に加はるに及び遂に今日の隆盛を爲したのである。

現在君は東京藥業同業組合代議員、今川小學校學事奬勵會評議員、神田藥業懇話會幹事等に就任してゐるが醫藥分業の擁護運動に到來し近く其の實現を見んとするの際博學多識の能辯家たる君の力に期待する處は蓋し少くあるまい。

社會公共に對し奉ずる念慮厚き君は帝都復興の爲め區劃整理事業の樂あるや、衆意一致の推擧に依り第九地區の區劃整理委員となり、獻身的の努力を以て本事業の目的達成に努め其の實績顯る大なるものがある、尚は西神田町會の發展向上に盡す處が尠くない。

令閨たけ子は川越町春木氏の二女にして、良妻賢母の譽れ高く二女あり、一家圓滿、和氣藹々たるの感がある。

趣味として圍碁及び將棋を好み徒然の慰めとしてゐるが閨碁は段格を有すと　評がある、信仰の念厚い君は法華宗の信者として佛法に歸依してゐる。

小林巳之助君

出生地　東京市
生年月　明治十二年五月二十一日
現住所　神田區十八本銀屋町
職業　電氣器具商

滔々たる二十世紀の文化を吸收して、帝都復興は、近代科學を基調とし階梯として、今や實業建築史、市街建築史に光榮を放たんとしてゐる、日夜孜々として復興の途上にあり、雖も人事自然渾然一致せず、これが收攬一致は、まだ難局と云ふべし。されど、東京人は世界的日本帝都の建設に當面し、交も熱と犠牲的精神に燃え、一日も早きこの完成を期待し、朝野一致克く、これが驀進の促進に懸命の努力を集注し、その復興の意氣は外人を感歎せしめてゐる。活動の街、東京市は今や新興の熱に燃えて、日まぐるしい許りの活動である。

君は明治十二年活動の中心、日本橋龜井町六番地に生れ、幼少より賢明、君は獨學にて今日の常識と抱負を有し、實に愛々たる識見家である。若くして二十世紀の文明が電氣萬能の時代を實現するを洞察し、獨力電氣の智識、研究に沒頭し他事なし。壯年にして、電氣事業を經營し、一躍その中堅となつたが、君は世路、人事を痛感し、感宇る所あり、斷然、俗事を去つて今や子弟の教養方面にその晩年を送つてゐる。

君は前神田區會議員として、區政壇上の闘將として、その抱負經綸を述べ去り述べ來たり、區會の大勢を左右し、自治體の中堅人物として、華々しい生活をなし、公共團體の爲に大半を終始した。今や、その自治壇上より去つて、橋本小學校名譽顧問等に在任、專心教育事業に貢献しつゝある。君は日蓮宗の信徒にして、君の人格陶冶は專らこゝに負ふ所鈞からず。

君は哲學的に深遠な人生觀を有し、今や俗事を避けて悠々達觀してゐる、見に角、現代離れのした人士にして、深刻寡りなし。頭腦明晰、冷靜水の如く、玲瓏玉の如し。然れども內部に火の如く熱焔せる情熱あり、話せる快男兒である。人生のあらゆることを知つたと云ふが如き大悟した人傑である。君は德川末世の英傑、佐久間象山を崇拜することと切にして、私淑してゐる。また遊藝將棋等の趣味がある。夫人東京人にして、また賢夫人の嘗高く、一男二女あり、悉く賢明、家庭圓滿にして、和氣藹々、春風駘蕩の觀がある。

君は帝都復興の中堅、區劃整理委員として、九地區を擔任す。君の悠々迫らざる公平無私の人格は、やがて區民に絶對と滿足を與えて一日も早く復興を完成せしめるであらうことは區民の期待疑はざる所で、今や君が一般に絶讃してゐる男らしい姿に隨喜の涙を流してゐる。

黑崎直次郎君

出生地　東京市
生年月　明治三年九月十日
現住所　神田區南乘物町五番地
職業　地主、家主

明治三年九月十日、現住地に於て黑崎仙太郎氏の次男として君は呱々の聲を揚げたり。君の家は土地の舊家にして天保初年より現地に住し、聚壁風に町內に著れたり。父君仙太郎氏の代より土木建築請負業を營み、漸く斯界に重を致し、現在にては既に押しも押されもせぬ地位を獲得し、家運堅固不拔にして聲名益々高し。

君資性豪宕卓落にして、且つ細心周匝なり。君の請負ひし幾多の官署太郎より、賞狀及感謝狀を受け、工事堅實にして、能く細心の注意と不屈不撓獻身的精神を以て遂行成就し、土木建築界に於ける異彩として稱揚されたり。而も君は己の徒弟を愛すること深く、幾多の人材を養成し、麾下に錚々たる建築請負界の人士を排出し、現今君自身はその業を廢して專ら地主、家主として生活せるも、今猶門下の請負に顧問として指導督勵を被け居れり、されば門下の人々君を慕仰する事篤く慈父の如く信賴す。

君は夙に同業界に重を爲し、斯業の向上發展に劃策盡瘁して功績著大なり、父君を扶け始めて東京府大工組合を創立し多年舉げられて組合の頭取となりし以來君は其後を繼ぎ一般同業の親睦を圖り、團結一致して斯業の興隆に力めたり。その間君の努力の如何に獻身的にして其公共精神の如何に鞏率なりしかは一般同業界の稱讃仰望する所なり。君の豪宕の性格にして而も周密、敢爲剛毅の奮鬪家なる所以なり。君にして始めて能く爲し得たりと云ふべし。

而して君は唯に同業の世界に獻身するのみに非ずして一般町治に盡力して一身を忘れ專ら社會公共の親睦と發展とを圖るに孜々たり。殊に南乘親和會の副會長として勵き、篤厚の人格と圓滿の精神とを以つて人々の信望を得つゝあり。又今川小學校事蹟協會常務幹事の任にあり、教育施設の完成を謀り、教育精神の興隆を奬め、大にその功勞を擧げつゝあり。又敬神の念篤く爲めに神田神社御防講第一の後援者として名聲あり、斯の如く君は公共に獻身して寧日なし、而も又第九地區の整理委員として參謀する等、誠忠奮闘して息まざるなり。

家庭には一息あり今尚通學中なればとが教育に勉めつつあり。

第九地區委員

長島辰五郎君

出生地　東　京　市
生年月　明治六年五月十八日
現住所　神田區柳町三番地
職　業　洋　服　商

青年期に充分の修養を積むと共に一家の基礎を固め壯年期に入りて青年期に切磋琢磨する手腕を揮つて家運の興隆を計ると共に相當の財を蓄へ一人生の幸利者となり、功成の名遂ぐるに及んで餘力を社會公共の爲めに貢獻し多大の榮譽榮譽を受けつゝある、理想的生活を爲した者は我が長島辰五郎君であらう。

君は下谷區池の端に瓜々の聲を擧げ學業成るや歐米の文物が我國に奔流の勢を以て輸入され來る當時、夙くも洋服商の前途頗る有望なる事を看取し、經營に就て數年間の修養を爲し、茲に至つて斯業を開業したのである。

爾來誠實迅速廉價をモットーとし、一方絕へず流行の新型に苦心研究し顧客の需要注文に應ずるは固より流行の先驅ともなり、又自家榮榮の業ともなし、君は專心業の發展を計つて常に繁新の品を以て店舗を飾し、其結果多大の信用を博すと共に店務の發展を來し數萬の財を蓄へ遂に今日の隆盛を致すに至つたのである。

家業は日に月に發展を加へ財を積むに至ると雖ども、君は全く其の調を異にするのみならず崇高なる宗教的意識の強い君は社會公共に對し奉ずるを以て人生最大の德と爲し、各種の公共事業に盡す處多大なるも數ふるに遑がない。

帝都復興の爲、區劃整理事業の擧あるや衆意一致の推擧に依り第九地區の區劃整理委員となり、獻身的の努力を以て本事業の目的達成に盡瘁してゐるが其の實績頗る大なるものがある。又神田區會議員として三期に渉り區政の爲めに貢獻する處極めて多い。又町內有志と相計り消費組合の創立に奔走し御町納稅組合を設け其の組合長となつて約十ケ年の間納稅の遂行に努め模範的の成績を擧げて居る、其他御町々會長、所得稅調査委員、御茶神社氏子總代、洋服同業組合役員等に歷任し貢獻する處が頗る多い。

貴夫人の夙に高い上せ手との間に一男一女あり、幸福相和し極めて幸福な家庭を營んでゐる。

第九地區委員

北原常次郎君

出生地　愛　知　縣
生年月　慶應三年五月十日
現住所　神田區岩本町九番地
職　業　金物商、機械工務所

北原家は代々祖先尊崇の念厚く當主迄四代に及ぶ北原常次郎を襲名してゐる有名な家柄である。勤もすれば所謂新思想に捉はれて敬神の念は固より父祖に對する親愛の念さへも捨て去らんとする者のある現代に於て北原家の如きあるは寔に人意を强くするものである。

四代目北原常次郎を襲名せる當主は金物商を盛大に營み帝都に於ける有力な金物商として斯業界に名を謳はれてゐるものであるが金物商を營むと同時に北原機械工務所を經營し只管斯業方面に進展する事に依り家業の隆昌を計り以て家産の增殖に努めつゝあるのである。尙ほ合名會社北原保善會なるものを創立し土地建物の保存に努め以て家礎の安固を計つてゐる。故に君は金方面に於ても多大の信認を博し益々發展を見つゝあるのは寔に慶賀の至りである。

君は慶應三年五月愛知縣南設樂郡作手村に生れ學業を卒るや進取氣性の燃ゆるが如く若年にして實業の大志を抱き上京後多少の艱難ありと雖も大いに刻苦勉勵した結果金物商を開業、以來殆んどトン〳〵拍子の成功を收め遂に今日の榮々たる地位を獲得するに至つたのである。君は信仰の念厚く日蓮宗の熱心なる信者であるが君今日の大成功を收めたるは一面金剛努力の賜であると雖も他面信念の人であるに因ることも與つて力あるであらう。

社會公共に對し奉ずるの念厚き君は帝都復興の爲め區劃整理事業の擧あるや直ちに第九地區民一致の推薦に依り區劃整理委員に擧げられ其管本事業の目的を達成する爲め飯身的の努力を傾倒してゐるが今日迄に於ける其の業績枚挙すれども枚擧に遑ない樣である。此の外岩本町の町會長として多年に亙り町會の發展向上に或は和泉小學校同志懇學會々計として約二年半の永き歲月に亙つて面倒なる會計事務の處理に或は教育方面の理事、幹事として教育の普及發達に夫々盡力する處が尠くないのである。

令閨子は茨城縣下新町水戸藩勇吉氏の三女に上て良妻賢母の稱あり一男一女あり家庭は頗る圓滿である。

第九地區委員

中山爲三郎君

出生地　千葉縣
生年月　慶應三年九月十五日
現住所　神田區東龍閣町一番地
職業會社重役

君は慶應三年九月十五日、千葉縣君津郡水東津町に於て嘆々の聲をあげたり。

父君は千葉縣元望陵郡貝淵村の人にして安田平八氏といひ君はその三男なり。後中山サタ氏の養子となりて今日に及ぶ。

君は奇性篤實にして勉勵努力の人なり。明治十三年商業見習として上京し、顧客營々實業のことに從ひて具さに辛酸を嘗め、而も志を屈するなく努力と奮闘とを以つて適進をつゞけ遂に今日の地位を獲得するに至れり。從に或は運を言ひ命を說くものあり。而して運命の善と不善とは又少しくは言定す可きものと雖も、要は己の本心を以つて一貫する意氣と志福とにあり。伽ち此處に成功と失脚の運命を生ずるに外ならず。

君が幼ルにして志を立て、一貫以つて邁進せるの强靱なる熱烈なる意志は實に稱揚に值するものたるを問もなく君は今日益々奔騰怠ら ず各種の事業に活躍す。その精神意氣の旺盛にして進取的なるは今日往々普聞に見る所の若齡不勉の徒をして慚惶たらしむるものあり。

東京市場建物株式會社取締役、東京市場智合理事長、相龍炭鑛株式會社取締役、北海道相龍鐵道株式會社監査役、東海水産株式會社取締役等各種會社に重役たり此如く今日に於て君は最も名譽ある實業家にして君が知何に多方面にその才能を發揮し信望を有するかを知るを得べし。而して君は終始一貫、誠實を以つて社會の、延いては我實業界の振興を圖りて息まざるなり。年と共に益々意氣旺んなるものありて健闘やまざる君は衆の畏敬仰措かざる所なり。

然して君の他面公共的精神に富み各種の公共的事業並に事務に對し熱心なるは夙に業界の覇まる所以にして以前推されて區會議員の議席にあり鋭意區政に貢献し、今回また第九地區割整理委員に擧げられ奔走斡旋せる功績多大なるものあり。

君の夫人ふゝ子は京橋區柳橋町一番地下山ヨシ氏の長女なり。大正十一年結婚せり。

我邦甚建國下に於ける最後の光榮、帝國新興の氣運の生誕せる慶應三年一月二十三日は我が中村桂太郎君の嘆々の聲を擧げた時であつた。從つて君は新日本の成長と其歷史を共にし來つた祖國の人であると云ふべきである。

宜なる哉、君は外に於ては衆人の尊敬を得て名譽ある公共事業の主宰者と爲り、内に在ては多數の兄弟に囲繞せられて惠まれたる家庭を有してゐる。

君の嚴君は故中村金太郎氏、母堂は故しげ子刀自、君その長男である。手拭染物業を營んで家業甚だ盛大、我が國粹たる斯業に當つて特に意匠の卓越と染色の粹を以て稱せられてゐる。

暫の如く、一方内を修め、他方推されて現住地神田區松枝町々會に會長の地位にあり、隣隣の交り甚だ厚く、且つ町の平和發展に資して自治制度の補助機關たる町會の機能を活用するに萬全を期して努力しつゝある。

此度はまた帝都復興の大業興るに及んで、推されて第九地區土地區割整理委員の任に就き、帝都百年の爲に貢献して至公至平、事業の進捗を助けて多大の力がある。

既に述べた如く、君はまた家庭に於ても幸福なる人である。「白銀も黄金も玉も何かせむ、まされる寶子に如かめやも」と云ふ古歌があるが、子寶の點に於ては、君は最も惠まれ、夫々に一家を成して既に令孫の愛をも得て居る人である。百萬千萬の富を有しても、子がなくては餘の長著と云ふ事は出來ないのである。

夫人うら子は埼玉縣岩槻町河本清兵衛氏の三女であつたが大正八年逝去し、その間に儲けられた長男金藏君は深川六間堀町の山本平次君令妹くら子と婚して家業に從ひ、二男熊太郎君は逗所に分家して雜貨店を開き、四男千吉君は日本橋區浪花町須田友吉氏長女栄子の婚養子となり、六男六郎君は同じく近所に分家し、七男正吉君も芝區濱松町赤塚平左衛門の養子となり近所に金物店を開く。

其他、長女ふく子、二女喜代子、三女榮子、の諸嬢は既に嫁ぎ、五女時子、六女つる子の二嬢は家庭に在る。

君は既に後輩の憂ひなきを以て府下入谷井町千入千二百二十番地に別居して悠々たる餘生を送る樂天的人である。

第九地區委員

中村桂太郎君

出生地　東京市
生年月　慶應三年一月二十三日
現住所　神田區松枝町二番地
職業　手拭染物商

大見幸三郎君

出生地　東京市
生年月　明治十五年六月二日
現住所　神田區紺屋町二番地
職業　織物商

織物商の經營者大見幸三郎君は斯業界稀に見る人情高潔にして、資性温厚篤實の士と知らるゝと共に博學多識の英才として、斯業經營には一家言を有する實際的手腕に長じたる事業家として令名を謳はれてゐる傑傑であり又斯業界に於ける重鎮である。

大見商店をして今日の盛業を爲さしめたのは明治九年の春、先代幸三郎氏が是れを創業し其の發展擴張に努め相當の基礎を成した事にもよるが、多年本業の經營に當り非凡なる手腕家として同業者間に多大の信認を博する迄に至つたのは又君の刻苦勉勵に成るものも多いのである、即ち君が今日の大成は尋常一樣の業でなく五倍不屈以て業務の繁榮を計り奮鬪努力した賜であつて一朝一夕の業ではなかつた。

君は先代幸三郎氏の長男として現住地たる神田區紺屋町に呱々の聲を擧ぐ、學業を終るや嚴父を扶けつゝ家業に從事してゐたが後ちに至り、二代目幸三郎を襲名し嚴父の業を繼ぎ今日の隆昌繁榮を見る實業家として東都の知名の士として實業界に認められるに至つたのである。

社會公共に對し奉ずる念の頗る厚い君が斯の方面に盡す處又尠からず、帝都復興の爲め區劃整理事業の來あるや第九地區より衆望を負ふて區劃整理委員に選まれ獻身的の努力を以て、本事業の達成に盡し多大の實績を擧げてゐるが尚は現任神田區會議員として區政に盡す處頗る大なるものあり、更に義學會の會長たる主二年間、第一回國勢調査委員、又市勢調査委員等に歷任し夫々公共の爲めに貢獻する處頗る多い。

織物商夙に盛大に經營し非常なる多忙の中にも貴下の如き各種の諸公職に就き社會公共の爲めに貢獻盡力する處多き篤志家であり、德望家である君は町民衆崇の的となり、其の崇高なる人格を讃へられてゐるが蓋に床しい事であつて君終來の爲に祝福すべきである。

令閨孝子は埼玉縣南埼玉郡菖蒲町鳥田小四郎氏の三女にして淑逸の擧高い賢夫人である。君は趣味の人、特に園藝方面を好む趣味豊かな人である。

大澤圭五郎君

出生地　茨城縣
生年月　明治九年六月二日
現住所　神田區北乘物町二番地
職業　呉服織物卸商（内田屋）

君は明治九年六月二日茨城縣北相馬郡高須村に於て桃井次郎氏の五男として呱々の聲を揚げたり。

君は資性誠篤にして事に處して熱心なり、郷里にて小學校を卒へ、明治二十年商業見習として上京し、其さに幸酸を嘗め商業の實際に就きて研究修得す。電鳥として勵むこと十有餘年に及び漸くその實情を知り手腕を磨き明治三十四年より現業なる呉服物商を以つて獨立營業を始めるに至れり。

その間誠篤忍耐なる君はあらゆる難苦と戰ひて遂に目的を達成す。その不屈不撓の精神は爾來君が終始一貫する所にして今日の大を致せるは偶然と言ふべからざるなり。

君はまた共同的組合的組織を以つて同業一般の進歩發展を圖るの志に篤し、君の人格氣宇の潤大なるは即ち此の團體的精神の横溢せる所以なり。この精神こそ實に世の大なる進歩を招致するものに外なら寸して、往々にして先奔走して組合の設立に力め、物質的のみなら寸精神的にも良好なる社會的成果を收めつゝあり。業の君を推望する所以はまた此處にあると言ふべし。即ち呉服織物卸商たる君は數年前より織物商内の新物商組合を發企設置し幹事長に推され、また衣類市場組合の理事として大正十四年來擧げられ、組合の爲め貢獻す。

而して近時君はまた養魚の飼育（主に鯉）に熱し、今年自ら東海水産株式會社を組織しその監査役たり。また君の着眼する所ある所を知る。その他町治上に盡力し、現に町會副會長に推さる。

君は觀音を信仰すること深く他人を救濟せる事屢々ありと云ふ。趣味として義太夫に凝れることあり日下は保健上中止すると言ふ。

家庭には賢夫人まつ子あり、大澤太助氏の長女なり。長男豐雄君、二男英君あり、女子を扶けて精勉怠々たり。四女千代子嬢は女子商業學校に通學中なり、豐雄君の夫人は日本橋區須町高橋虎吉氏の女なり。豐雄君の長男は當年三歳、家庭の團欒榮榮益々盛なり。

第九地區委員

吉田廣見君

出生地　山形縣
生年月　明治六年三月二十八日
現住所　神田區東紺屋町四十番地
職業　醫師

君は明治十六年三月二十八日星坂家の兒として、山形縣東田川郡手向村に生る。

幼にして、醫師たらんと欲し、祖先の風を享け、旺盛公共の福祉の爲に、醫は仁術の道を通調せんと、その熱烈なる願望は遂に明治三十四年十月笈を負ふて上京、同三十八年慈恵醫學專門學校を卒業し、聖望されて吉田家を繼ぐ、爾來君の熱誠貫徹なる醫業は、所志を貫徹せるのみならず、社會人として夫に、獻身的に奉仕することを、十五年、恩家の信望益々加はり、今日の盛大をなす。

吉田家の祖先左馬頭貞廣は人皇第十二代景行天皇第四皇子五百城八咫尊の後裔にして、里代由城國吉田に住し、寛平年間九州筑紫に移り九州の諸侯に任じ恩威兼び行はれた。保元の戰利ある手柄を以て、大明及び南蠻の醫術を究め、日東流と稱し、長崎の施術に伝つてこの右に出ずるものなし、醫書數十卷を著はし世人に健康長壽の秘法を教ゆ。慶長三年吉田自庵君全法印は大明高官の重症を治癒せしめ、乾隆帝より大國手の稱號並に珍寶若干を贈らる。同八年征夷大將軍德川家康公の侍醫となる。其後養子は元禄十四年淺野内匠頭、吉良上野介刃傷の際、上野介の傷を治療し、賞を受く。嘉永元年和蘭の醫官門屋幾、長崎に來朝し、種痘を傳ふ、即ち、吉田宗永長崎に在りこの教を受け、歸東業此の爲種痘の始祖とす。江戸の兇災惡疫に際し、身命を賭して盡瘁大に務む。第三十五世宗全翁は相模國世内に生れ慶應二年吉田家に入る。

受け施療授藥をなし、身命を賭して盡瘁大に務む。第三十五世宗全翁は相模國世内に生れ慶應二年吉田家に入る。

風に長崎に遊び醫術を修め後東京大學東校に學ぶ、明治初年居を神田於玉ケ池に卜し、患者を治療す、同二十五年痘毒侍疾專門病院を設立す、本邦開業醫皮膚科專門の魁矣とす、二百年來の傳統の醫學と泰西醫學を以て幾多の難病者を治療し、大病れ刀圭界の重鎮を以て任ず。翁資性温厚篤實にして見る者をして敬慕措く能はざらしむ。

晩年絵を愛賞として、七十有餘の高齢を以つて、明治十四年十月長逝す、

君はこの名家の後を繼ぎ、愛國の血に燃え、公共團體の爲に日夜奔走し、犧牲的精神を以て終始し、患者門前市を爲すの盛況である。君は現資に即した國家主義者にして、常に愛國の志士を望拜措かず、國粹保存、國家主義を發揚せんと、帝國精華會を組織しその牛耳を執る。また東京聯合青年團創立委員として神田區より選出される。

現に同區青年立志分團長の職にあり君の手腕信望さたるべきもの多し。君は神道に宗旨を變へ、敬く元愛國者としての若き日本の青年である。區制整理委員として君の霸氣と熱と公共心とはこの種團を容易に敢行し、公平無私、これ信望成は君の大團に期待せられつゝある所、家庭には一男一女あり、神子夫人賢夫人の誉高く、君の家庭でもある。

中川重政君

出生地　埼玉縣
生年月　明治十四年三月八日
現住所　神田區元柳原町八番地
職業　地主

君は明治十四年三月八日埼玉縣北足立郡蕨町奥田十兵衛氏の三男に生る。

君は幼にして、聰明、浦和中學第一回卒業在學中常に特待生として名あり負笈恋學を出で、東京專門學校時代の早稲田大學に入り明治三十七年卒業するや曾時同中學に教鞭を執りしも逆く實業の登重すべき所以を悟り。隱忍自重、今日の財と地盤を築たが、君の生活戰線には多少の起伏重疊の波瀾あり、君は不屈不撓、不撓の勇猛心に富み忍ち帝都實業界の寵兒として一世に鳴る。君は墾望されて、中川幸三郎氏の家を相續、益々信望を高くした。

君は、自治の爲め三十三歳の時最年少者にして區會議員に選られて十二年間神田區政壇上に躍々唱し大に、神田區の向上、發展を誘き、資獻せること多大である。君はまた東京市會議員として、帝都復興の市政と、冬年市政の樹立を期して、これが中堅人物として多岐な市政壇上に君の抱負經綸を述べ、市會を如鑑せしめてゐる。

神田區所得調査委員、神田名譽驛待週者として銘々たる人物である。

君は先榮者として多大の尊敬を拂はれ、區、公共團の爲、率先これが先頭に起つて活動せるが如き觀がある。

君は先榮者として多大の尊敬を拂はれ、區、公共團の爲、率先これが先頭に起つて活動せるが如き觀がある。

家庭には先夫人やそ子氏既にたく、その遺子二女喜久子、四女せい子、五女道子謹嬢あり、不幸にして、長男安正君、夭折し一抵の哀慈ありしも、せいの子嬢は現に三輪田女學校に在學中なり。後妻とき子夫人賢夫人として名あり、夫君を扶けまた、子女教養怠らず優しき慈母にして、家庭圓滿、とき子夫人との間に七女あい子、八女君子嬢あり和氣藹々たるものがある。凡に日蓮宗の信仰に篤し。

今や東京市は震災直後の廢墟の中より、二十世紀の科學を基調として、面目一新、世界的帝都を實現しつゝある。前途無限多しと雖も、上下一致、これ宗帝都建設は江戸つ兒の意氣より外ないこれ宗完成は世界的都市建設史上に燦彩を放つであらう。

君は、市議として、或は、復興區劃整理委員として、これが促進、完成に資では、日夜奔走し、活動し、堂々の論陣を張つて、當局を驚嘆してゐる。

君の穏望と、熱と、力、仁俠の精神は一丸となつてこの復興に如何許り貢獻しつゝあるかに、事實の證明するところで、區民仰いで君の活動に、感涙の涙を垂れてゐるさまである。君また天下の驚嘆に値する人物は光榮と云ふべし。

第九地區委員

宮田幸作君

出生地　埼玉縣
生年月　明治五年八月十六日
現住所　神田區東竜閑町十四番地
職業　菓子問屋

光の街、活動の都會、大東京は政治、文化、流行の巷として、老大なる近代都市の持つ微妙にして、複雜な雰圍氣の中に、大震火災の禍を繰返さゝらんとして、一路、復興への精進を以て、更に大たらんとして郊外へ〳〵と膨張に膨張を加えて行く。盛んなる帝都復興は正に決河の勢に流されつゝある。

斯て近き將來に完成される帝都の輪奐は必ずや世界都市建設史上の一頁に金文字を以つて記さるべく、世界の驚異であらう。

君は明治五年八月十六日、埼玉縣北足立郡に呱々の聲を揚げた。

君は富性賢明、幼少より、獨學を以つて修始した苦學力行の人士である。

君の前半生は、起伏重疊、生活幾經の上に奮闘努力、不屈不撓の精神を以つて、菓子銀品の需給關係、將來の農勢を察知し、遺憾なき成算のもとに、菓子問屋を開業し、一世にして、今日の地盤と、信用を築いた。

一躍、斯業の寵兒となつた君また、天晴立志傳の人である。

君は洗練されたる近代人で、煙草酒はその嗜好物として、多少をやる。

君は任侠の傑士にして、正義の前には火をも辭せざるの熱血男兒である。清廉潔白の人士にして、現に神田區會議員、同學務委員、東龍閑町會長、東京地方裁判所所屬借地借家調停委員、菓子組合頭取の要職にあつて、區政及同業界の重鎮にして、その高邁な卓見、透徹せる識見は當代稀有の頭腦の持ち主である。

或は町會長或は同業組合長として、又全國菓子業組合聯合會理事として自治の發展、同業者の向上に粉骨碎身の努力をなし幾多の貢獻をなしてゐる君は自治の一線に超つて活動せる闘士である。家庭にはその子夫人賢婦人として聞え、長男恒貫君あり、家業を扶け、新進氣鋭の士で、家運を益々多幸ならしめてゐる、家庭圓滿、春風論陶の觀あり、羨望される所である。

君の識見抱負、公平の精神は推されて、帝都復興の事業に參畫し、九地區區劃整理委員として、その出現するところ、事成らざるはなく、その識見の在るところ復興を助成し、その貢献偉大なるものがあつて區民の福祉措置ざるところである。

第九地區委員

伊藤小四郎君

出生地　東京市
生年月　明治二十八年五月四日
現住所　神田區鍛冶町四番地
職業　書籍出版業

日本に於ては、藝術に走る事は一つの大きな非難の主人公となる事である。現在、日本の有する文化と云ふものが、悉く民族それ自身のものを持たない事は、日本人が、藝術に對する理解を有せず、從つて藝術家は書のやうに書間を費ねぬ限り、生活の保證を有しないからでもあり、社會的に顧はるゝ事がないからでもある。これは世界の最望國と謳る日本の根本的な缺陷である。

我が伊藤小四郎君は、天賦の才能を藝術的方面に惠まれた。殊に、劇藝術に就ては多大の才能を持つてゐたが、父の子として、君は家業を繼ぐべき運命の下に在つたのである。孝子である君は溫順に慶大に學んで經濟學を研究した。が途中慶君の逝去に逢ふて止むを得ず學を廢せねばならなかつたのである。

君は學校を退いた後、商工起業株式會社專務取締役に選ばれ、株式會社大高印刷所常任監査役、有限責任武藏信用組合常務理事、等に選擧せられて財界に手腕を伸し、實業界に驍足を張らんともした。しかし、君の最も欲する所は依然として文化事業の上に在つたのである。元來、君の一族には多分に藝術的天分を有した人がある。

音樂界の青宿で、現在蓄音樂方面に力を注ぎつゝある本居長世君の如きは君の親族の一人である。君は故に於て遂に出版界に志を立て、形こそ異へ、道は一つなる文明的事業に邁進しつゝある。

君は年未だ若き前途多望の紳士である。第九地區より推されて、帝都復興中の最も難事業たる區劃整理に委員となつてゐるが、其多方面の手腕は是にも遺憾なく發揮せられつゝある。君は富活明瞭、活氣ある青年で、菅原道實を崇拜し、皇室中心主義を奉じてゐる。

趣味としては文學、特に劇文學に今も渝ら四愛音を持ち、音樂をも理解する。また非常に煙草を好んで、絶始之を手から離さぬ人である。其祖先は公家に仕へた武士で、家庭には名古屋中區橋町和紙問屋の令嬢テイ子夫人との間に一男一女を擧げてゐる。

稲茂登三郎君

出生地　群馬縣
生年月　慶應二年二月九日
現住所　神田區岩本町十二番地
職業　會社員

徳名由能の邑伊香保は溫泉に名高く、また、自然の恩能を得て風光明媚の調度をなす。君は慶應二年二月九日群馬縣西群馬郡伊香保町木暮武祐氏の二男に生る。所謂不如歸旅館「ちぎりこ」は其生家である。

君は幼にして頗る知腦明晰、神童の名あり、長ずるに及び益々才氣橫溢、加ふるに自然美の感化を受け、情熱家にして、任俠一世に鳴る。君は若くして、地方に埋もるゝを惜しみ、單身笈を負ふて上京、現實社會へ直進し、世路の苦業を嘗め、一進一退、起伏二十年、營々役々として、今日の巨富と信望とを得た。

君は所謂苦勞人にして、他人の勞苦を知り、これ迄後輩、鄕土人の世話をなしたものである。震災當時、あの混亂時代に、家を忘れ、種々奔走救濟したのは人々の記憶に新なるところである。

君はまた慈善に在つて、神田區の自治の刷新發展に浸瀝し、教育、土木、水道、建築等に指導の任に當り、貢獻寄與するところ其大である。神田區は君に酬みんが爲、名譽職待遇を以てす、君の當然享くべき光榮である。また君は東京商業會議所議員としても東都實業界に貢獻多大である。

家庭に在るかゞ子夫人は稲茂登彌一郎氏長女で君は稲茂登家を繼承して今日に到る。長女千嘉子嬢は群馬縣多野郡美土里村の佐藤恒次君を養子として婚姻し、二女三重子は三重鄕珂郡一身田町の岡崎正茂君と結婚す。三女英子、孫興一君（千嘉子嬢の令息）あり家庭團欒、笑聲に溢るゝ惠まれたる家庭の主人公である。

籍は神田岩本町一二番地にあるが、家庭は淺谷町中淺谷字神山七七〇番地に營まれてある。

君が獨立獨歩して今日の地歩を占め、德望を一身に集めたのは、如何に傑出せる人物なるかを推測し得る。

今や帝都は灰燼の中より復興の一路に向つて精進しつゝある。その勇敢なる相を思はしたければならぬ。東京市は二十世紀のあらゆる文化を吸收し、密中地下に向つて、立體的に、近代科學を基調とし階梯として、その壯觀の完成に突進してゐる、その前途遙遠にして、難局多しと聞く。しかしやがて成る近代大東京市は微妙にして複雜な大近世都市を實現せしめ、世界建築史上の一頁を光彩陸離たらしめるであらう。

大東京の出現は近代の驚異であるねばならぬ、君はこの天下の職業、帝都復興の中堅たる區劃整理委員として九地區を擔任す、君の使命は重大にして、市民の福祉を荷ふ、君の任俠の血は今や高鳴を排して、これが完成を期して活動してゐる。君の活動の素晴しいのは單に區の爲のみならず大東京復興の爲に一旗の生氣を投じたものであるであらう。

鈴木喜兵衛君

出生地　東京市
生年月　明治三年三月一日
現住所　神田區松田町四番地
職業　白金、金、銀、地金商

人間の文化は原始時代の土、木、石、金、の時代を經て徐々々氣、電氣の近代文化を展開し來つたが見よ、文明は科學の上に、神の領域迄侵略するの豪壯振りで、その停止する所を知らない、金物、貴金屬の加工は發達途にあつて、これが滑給關係は益々濃密さを加はえ、文化と共に不離の立場にある、

鈴木喜兵衛君は明治三年三月一日松田町四番地に生粹の神田つ兒として、孤々の聲を揚げた。

君の店舗は遠く元祿時代からの老舗で、金、白金、銀の地金商で、德力本店の屋號を以て、全國及海外にも響く舊家である。

君多端消後著にして兄弟も同一商店を經營しその勞力信望並びない、君は資性溫良、謙讓の美德あり、區民の信賴厚き所以である。君はまた謹れた義人で、義のある所火を踏右辰の江戸つ兒で、從來その公共團體、區民の險にあつて、遺憾せる事業多し、人々の敬仰措かざる所である、君は資性活潑、商人にして熱も金錢に熱のたいと暮しい、然して、常に大所高所より着眼して商資をたし、小事に顧踏しない、太つ腹な快男兒である。君の氣風は俠商の隨一でもある、故に態度正々堂々餘裕綽々たるは天晴大商店主及大老舗の主人として畏敬されてある所である。今や復興途上にある大帝都東京は東洋の覇者として、その規模理想構想もすべて科學的文化的、民族的、衛生的、國防的の見地から、二十世紀の日本文化を建設しつゝある。立體的に、科學的に、また淸らしき敬帝都の建設、これを萬年の後に傳えて、歷史の一頁に錄し、日本文化史を金文字を以つて光彩陸離たらしむべきは實に今日にある。君が推されて、その光榮ある重責を負つて起ち期待せらるゝ所以は、君の德望、手腕と智識その勇氣とその公共精神と、その深い同腦とを以つて、一路復興の大業に參畫せんとする意氣である。君の雄志また敬仰措く能はざる所その眞劍な態度は衆人の均しく讃歎措かざる所である。

此外區內學務委員として、神聖な學校生活の親切な指導者として、好評ありし人、その責職、偉大なるものがある。君は淨土眞宗を信仰し、智德兼備の人である。また骨董に趣味を有し、悠々たる雅風を多分に持つ。君は不幸にして、大正十年愛妻（伊藤茂右衛門氏の長女）を喪ひ、家庭一脈の寂しさありと雖も、君は世間を超越し、專ら公共事業に一身を捧げ、內にあつては二男三女の愛兒の平和な主人公として、平安な家庭の主である。

近世に於ける鐵の需要は其多少に於て文明の進度を計るが如き觀あり、從つて機械及建築材料としての君が發業品の如きは多々益々其利用盛んなるべく、殊に復興事業燦然なる帝都に於て其觀深し。

君は明治十六年七月二日本郷區森川町七高橋章七氏の長男に生る。

君は若くして一家を支え、入世行路の苦難を味はひ不屈不撓、不退轉の意氣を以つて終始し、獨學を以て、苦學力行、また業務に精勵し、宜に青春時代を餘閒して來日なく、奮闘裡に送つた。君は資性豪宕、任俠に富み、慈父の如き風貌あり、君は夙に商工戰に潮を唱へんとし、リベット、ボールド、ナット等の販賣を業務として今やその得意時代を現出して悠々市場に覇を稱し、斯界の重鎮となる。

君は、神田區會議員として、終始、區議政壇上に、その透徹せる卓見、高邁なる論評を發表し、常に區會の大勢を左右し、教育、土木、勧業方面に貢獻せること多大にして、その言論は鏗々として、他の追隨を許さぬ。

君は明治三十九年本郷より、神田へ轉居したるものにして、家庭には牛込區神樂町辻正直氏の長女ノブ子夫人あり、賢夫人として名あり、長女とみ子嬢は赤坂區溜池町高橋純一君と結婚す。長男章一君、二男信次郎君、二女はた子三女はる子、四女きよ子諸嬢あり孫く聰明たりと云ふ。

家庭圓滿にして、和氣藹々、春風駘蕩の觀がある。

今や大震災後の帝都は、尤大な近代都市の持つ雰圍氣の中に二十世紀の文化を吸收して唯復興の光に燃焼せらるるところ、近き將來に帝都の輪奐は必ずや壯觀の極みを成すであらう。

君は復興區劃整理委員として、九地區を擔當し、天下の職業に參畫し、宜に、復興區劃整理の中堅として、日夜活動し、その經綸を實行しつゝあるは君の本領とする所であらう。

君が、その一身に起つて熱烈活動せる風貌たる姿はまことに家庭に慈愛に慈愛せられる。

第九地區委員

高橋章藏君

出生地　東京市
生年月　明治十六年七月二日
現住所　神田區富山町十二番地
職業　リベット、ボールト、ナット、ワッシャ商

第十地區　國施行

大正十三年六月十四日東京土地區劃整理委員並ニ同補闕委員ノ選擧ヲ行ヒタリ

土地區劃整理委員

三番	議長 菊地長四郎(地)	十七番	副議長 岡本宏(權)
一番	藤井得三郎(地)	二番	前田豪七(地)
四番	西澤善七(地)	五番	合資會社スタームタル 秋田直吉商店(地)
六番	澤井藤助(地)	七番	伊藤彌三郎(地)
八番	白石英兵衛(地)	九番	小川專助(地)
十番	小菅忠太郎(地)	十一番	小諸久兵衛(地)
十二番	中村喜平次(地)	十三番	坂本善三郎(權)
十四番	淡島嘉兵衛(權)	十五番	末田憲義(權)
十六番	小林安右衛門(權)	十八番	宮入正則(權)
十九番	宮崎新三郎(權)	二〇番	小川專之助(權)
二一番	秋庭伊兵衛(權)	二二番	久保田松之助(權)
二三番	瀬部多藏(權)	二四番	法木德兵衛(權)

委員ノ移動シタルモノ

八番　高木與八郎　死亡シタルニヨリ白石英兵衛補充ス

土地區劃整理委員補闕委員

土地所有者
鈴木房吉　芳賀吉之助　桑原七兵衛　吉井安吉
米津松造　松本七五郎　上野繁次郎　木原傳兵衛
樋口春吉　石野力太郎　内山清七

借地權者
林松治郎　坪内廣治郎　藤木清太郎　伊澤榮太郎
橋本文次郎　島崎庄太郎　牧田源太郎　小島百藏
秋山善藏　伊藤淺吉　三橋長吉　高坂與太郎

地區々域

日本橋區　馬喰町一丁目二丁目、三丁目、四丁目、元柳町、新柳町、吉川町、横山町一丁目、二丁目、三丁目
通鑑町、盛町一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、藥研堀町、米澤町一丁目、二丁目、三丁目、若松
町、村松町、矢ノ倉町、濱町一丁目ノ一部、久松町ノ一部、東緣河岸、元柳河岸、亀井町ノ一部、

小傳馬上町、小傳馬町一丁目、二丁目、三丁目、通油町、通塩町、大傳馬町二丁目、堀江町二丁目、三丁目、新材木町、新乗物町、岩代町、隼屋町、堺町、芳町ノ一部、田所町、長谷川町、長谷川町、泉町、新大坂町、元浜町、彌生町、宮津町、高砂町、住吉町ノ一部、浪花町ノ一部、新酒町ノ一部、東萬河岸ノ一部、西緑河岸ノ一部

神田區　橋本町一丁目、二丁目、三丁目、久右衛門町、富松町、江川町、豊島町、御原河岸ノ一部

整理前後宅地道路面積比較表

總面積	整理前 宅地	整理前 公共用地	整理後 宅地	整理後 公共用地	減少率
二六〇、九四三	一七九、一一一	八一、八三二	一五二、九四三	一〇八、〇四〇	〇・一四六

委員會經過ノ概要

一大正十三年六月二十九日　第一回委員會開會、委員會ノ席次ヲ定メ、議長副議長ノ選擧ヲ行ヒ、委員會組織要項ヲ審議シ議事規則ヲ決議ス

一同年十一月一日　第一號整理前土地面積決定期日ニ關スル件、第三號區劃整理前路線價指數ニ關スル件ノ諮問案提出アリ、審議ノ結果第一號議案ヲ可決ス

一大正十四年二月六日　第二號換地位置並ニ區劃整理街路ニ關スル件ノ諮問案提出アリ、第三號議案ト共ニ審議シタルモ決定セス

一同年二月十日　第二號、第三號議案ニ付キ委員協議會ヲ開ク

一同年三月十七日　第二號、第三號議案ヲ審議ス

一同年五月十九日　第二號、第三號議案ヲ審議ス

一同年六月八日　第二號、第三號議案ヲ審議ス

一同年七月九日　第二號、第三號議案ヲ審議ス

一同年十二月十九日　第二號、第三號、第三號議案ヲ審議シ、第四號市内商店本建築出願ニ對スル換地決定ニ關スル件ノ諮問案提出アリ、審議ノ結果之レヲ決定決可ス

一大正十五年二月十九日　第二號議案ニ付キ決定決可ス

一同年三月六日　第二號議案ニ付キ委員協議會ヲ開ク

一同年三月十日　第二號議案ヲ審議シ、第五號古河鉱行本建築出願ニ對スル換地決定ニ關スル件ノ諮問案提出アリ、審議ノ結果之レヲ可決ス

一同年三月三十日　第六號換地面積一部決定ノ件ノ諮問案提出アリ審議ノ結果之レヲ可決ス

一同年六月十五日　第七號換地面積一部決定ノ件（同五、同七、同八、同九、五〇、五一、五六、五七、五八ブロック）ノ諮問案提出アリ審議ノ結果之レヲ可決ス

菊地長四郎君

出生地　東京市
生年月　慶應三年七月十七日
現住所　日本橋區元濱町八番地
職業　呉服織物問屋（佐野屋）

人間の榮枯が、墓華が、變遷極りないとしても隅田河畔に銀波金波を湛へし、荒んだ人間生活に深い思索と觀想を喚び醒して果れる月の神秘には變りはない。多忙な人間生活の一時を割いて、先づ長堤隅田河畔の靜寂な河添に懐古し追憶し、永遠悠久な宇宙を恆ふのは近代人の憧憬であらねばならぬ。その隅田の憧憬から生れた人に翁地長四郎君がある。君は慶應三年七月十七日出生し明治十三年日本橋元濱町八番地、繊商呉服織物問屋佐野屋の養子となる。

翁は憧憬の隅田河畔の地に多年の生活を享け深遠なる哲學を有してゐる。養家は四代目の舊家で養父長四郎氏は學者として實業界並に學界に相當知名な人である。君もまた能文に劣らぬ學者肌の士である、支那方面の情勢に就ては特種の識見と、直善と併せて偉大なる抱負とを持つてゐる。君は温厚にして、而も頭腦明晰、極めて慈悲深い、人情の所有者で知人の爲に身を忘れて奔走するだけの熱血兒であるが、冷靜そのもの、如き理智の所有者でもある。兎に角傑物たることは爭はれない事實である。斯るが故に區民の信頼は絶大で、自治團を半耳つて、各方面に牢たる地盤を有してゐる、大正八年より日本橋區會議員として今日に至り、現に區會議長の顯職にある。第十四地區區劃整理委員並に土地區議長であつて、元濱町、新堀町、彌生町三ヶ町聯合町會長の要職にある所以である。

實業方面においては、東海銀行創立以來、今日に到る迄取締役頭取を歷任し、凸版印刷株式會社監査役、菊地々所部合資會社の代表社員、共立生命保險會社取締役の重職にあつて、君の手腕、抱望は到る所可ならざるはない。

君は區劃整理委員として地區民の期待、信頼は頗る多大であつて、何人も絶對信任を爲すの狀態である。君は今陳々たる人氣を一身に集めて、この大業にその所信、所懐を貫行せんとする。君の抱負また、思ふべきである。君は多忙な業務の傍、畫、文章を良くし、玄人をして驚若たらしむるの文學趣味を持つ風流人である。實父は竹島小梅町大橋側見氏君はその二男にして當主の幼名は晋二、令閨いと子氏との間に三男、四女あり。長男惠一郎君は京都帝大の講師で、二男介次郎君は慶應大學理財科を卒業、店に於て極めてゐる。三男豐君は東京高等師範附屬中學に在學中である。令息令女とも聰明にして、恭謙、家庭圓滿にして、模範的家庭生活をなす。

第十地區委員（調査長）

岡本宏君

出生地　京都府
生年月　明治二年三月六日
現住所　日本橋區藥研堀町十番地
職業　辯護士

岡本家は德川五代將軍の頃より幕臣に仕へて重きを成し、遠祖今日に至れる名門にして、君は先代庄助氏の長男に生る。明治二十四年明治大學の前身たる明治法律學校を卒業し、直に辯護士試驗に合格、以來開業して今日に至る。辯護士と云へば、所謂煮ても燒いても食へぬ厚顏の人物の如く、權道を行くを以てその常套手段の如く心得るもの多き中に、君の如き決して然らず、始終一貫民衆の味方となり、正義人道に立脚して時に官憲著者をも敵として下らず、淡々たる氣骨と、熱血鐵腸の仁俠の氣風を發揮して常に異彩を放つ。

性磊落にして淡然泊如、高義正論を尚びて榕々獨り高處を往くの清廉なる人格あり。平常寡言にして一度口を開けば論理堂々として滔々天馬空を往くの觀あり。而も一諾よく千金の重みあり。風に法曹界の革新向上に意を致し、東京辯護士會副會長及常議員の要位にありて飛躍し、雜多なる事件を處理して故斷水の流るゝが如く、今や斯界の巨頭として盛名隆々たるものあり、又公業の福利增進の爲に奮闘し、日本橋區々會議員として區政壇上に獅吼すること實に十有六年の久しきに及び、區政の重鎮として區民崇敬の中心たり。

又藥研堀町々會最高顧問として町民相互の發展に努力してその樞軸を握る。學務委員としては八年、育英事に於ける功績顯著なるものあり。且ては礎部、岸本兩博士と共に日本刑法調査委員として盡力し、日本刑法上不朽の貢獻をなす。

今回帝都復興の大事業に際し、區創整理委員として十地區副議長として、君の如き人傑を得たるは、獨り十地區住民の幸福たるのみならず、帝都市民の慶賀すべき事たり。而も十地區中に於ても君の擔任するブロックは他一般地區に比し類る難關なるに係らず公平無私なる君の裁斷は克く町民の了解を促し極めて順調に進捗しつゝあり。希くば更に一層の奮闘を以て、復興の完成に資せられん事を――合掌タカ子は淑德の譽れ高き賢夫人、四女あり、長女三四子嬢は日本橋高等女學校を卒業し、二女芳枝子嬢は小田原なる令室の實家を相續す。三女文子、四女幾代子兩嬢共に學習にあり、何れも學力操行優秀の名あり。家内笑聲常に斷たず、和氣藹々たる良家庭を營む。

第十地區委員

藤井得三郎君

出生地　東京市
生年月　安政五年六月十八日
現住所　神田區豐島町二十一番地
職業　藥種商（輸出入）

學世保守退嬰を事とする中に在つて、獨り時勢の赴く處を洞察して、敢然種を蒔ぶは、定に傑出せる士にして始めて成し能ふもので、先覺の名譽は斯て其頭上高く輝くのである。

我が藤井得三郎君の先代は秋田藩の俊材にして早く藩より選ばれて長崎に遊學せる英俊として、鋒々たる名ありし人、明治初年既に醫藥分業を唱へて先覺の名を恣にした人である。其名を正亨氏と云ひ、君は其長男に生れ、幼より慈父の薫陶を受けて東京帝國大學の前身たる東京大學醫學部藥學科に學んだ。

斯て研學多年、校門を出でゝよりは斯道の研究に參ずる事益々深く、遂に龍角散を初め多種の名藥を創製し、就中龍角散の名聲は廣く海外に迄喧傳せられ、日下盛んに輸出せられつゝあるは本邦藥業界の爲に萬丈の氣を吐くものと云ふべきである。現在君が經營する處の店舗の堂々たる、營業の活潑なる、誠に先驅の勞の報ひられたる觀がある。故に同業者間に雄視して其聲譽を受くる事厚く、大正十二年震災迄東京藥商組合副組長の任に在り、現在社團法人全國藥事會理事の重任に就いてゐる。

君はまた社會公共の爲に救世濟民の業を成せることは啻に其職業に依るのみならず、明治二十八年豐島町々會の前身陸會創設の當初より、町會に改制せられたる現在に至る迄、引續き會長の要職に在て町治に盡瘁し、國勢調査員として二回、市勢調査員として、熱心に替表し、また極本小學校兒童保護者會副會長としても現在多大の寄與を爲しつゝある。

今や帝都復興の大業興るに及んで、君は第十地區より推されて區劃整理委員の任に就き公正の態度を以て進退しつゝある事は、地區民の推服する處である。

夫人は不幸夭逝せられたが、長男正太郎君は東大醫科大學を出でゝ日下兵庫縣御影町に開業し、長女千代子嬢には養子米次郎君を迎へて君の業を繼がしめてゐる。

前田兼七君

出生地　東京市
生年月　慶應三年九月九日
現住所　日本橋區富澤町二十八番地
職業　太物商（大野屋）

守成の業は創業に比すれば遙に守成を以て難しと爲す。故に創業者は常に守成者に其人を得るか得ざるかを最も顧念せり。本邦に於ける歴史に見ても、また世界に於ける歴史に見ても這は動かすべからざる事實なりとす。

我が前田兼七君の如きは守成者として遺憾なく完成せる人物なるのみならず、更に先考の業を傳へて隆昌ならしめたる材幹なり。

君は慶應三年九月九日、東陽の佳節を以て呱々の聲を揚ぐ、初代兼七氏の二男にして幼時より嚴君の膝下に在つて嚴格なる薫陶を經來れり。長するに及んで二代を襲ひ、太物商大野屋をして信義の盛業に資ける他、博く實業界に雄飛して一方の驍將たり。

曾ては推擧せられて東京製鋼株式會社を始め、万島製鋼株式會社、東洋モスリン株式會社、株式會社有恒社、帝國鐵泉株式會社、等に入つて獨自の才腕を揮ひ、大いに令名を馳せ、彼の中野武營氏が商業會議所會頭たりし頃に於ては、會議所常議員として大に活躍し天下に君の名聲を顯揚せり。君の公共的奉仕は之のみに止まらず、明治三十二年市の瀆職事件起りたる當時、區民より擁立せられて區會議員に推され一期間を在任せるを始めに、大正八年には市會議員候補に一級より擁立せられて市政に盡したり。また所得稅調査委員に推されては克幹振傾倒せり。

斯の如く、公共的奉仕の厚きを以て度々衆議院議員に立候補すべく上下より勸誘せられたるも、君は後進を之に推して自らは町の長老、區の元老たる地位に在つて益々自治の爲に隱然たる後援をなしつゝあり。

今次、帝都復興の大業興るや、君は推されて第十地區區劃整理委員の大任に就き、帝都百年の爲に眷々の至誠を捧げつゝあるは地區民の推服推かざる所以なり。

君、家庭には齊久子夫人との間八人の兒女を擧ぐ。長男道太郎君は慶大理財科を卒へて店に在り、次男三郎君は帝大法科を卒へて名古屋に在り、三男四郎君は慶大出身、四男晋一君は早大政經科を出でゝ東洋モスリンに勤務、五男平八郎君は帝大經濟學部に在り、長女久子、次女榮子、三女千代子の諸嬢も亦それ〳〵學業を卒へて家庭にあり、精密の家餘慶に滿ち溢るゝの趣ありと云ふべし。

西澤善七君

出生地　東京市
生年月　安政五年七月二十八日
現住所　日本橋區新材木町一番地
職業　太物問屋（近江屋）

安政五年、此年は天下大いに多事であつた。正月外國と假條約締結の約を結び、四月井伊直弼大老と爲り、七月家定薨じ、九月所謂戊午の大獄なる志士の究捕あり、十二月家茂十三代の將軍と爲る。而して之より後天下騷然十年を經ずして王政古へに復る。

我が西澤善七君は此年舊き權威の壞崩による新生の氣運と共に此世に呱々の聲を揚げた。今や兼穀の下に活動せらるゝ異材として其盛名を馳するは豫め定められたる運命であつたのかも知れぬ。その一生は、公共の爲に捧げたる尊き一生である。

君は、西澤家には三代の當主で、先代善七氏の養嗣子である。實父は小林八十吉氏、その二男で江戸つ子である。明治十一年と云ふに夙くも陸軍教導團に入つて大隊下嗣官迄級して除隊し、明治二十年養家に入つた。養家の業たる太物問屋近江屋の爲にも多大なる發展を來さしむるに努力する一方、明治三十三年頃から本所區岡町に慈善共濟會を設立し、不良ル年感化事業に努めた事のある先覺者である。また自立會を組織して保險事業を開設し、今日なほ嗣會長として多年會長し、衞生組合嗣組長としても功績顯著である。

業界頗る重く、既に明治二十五年から大正十四年に亙り、三十七年の長きを本日橋區會議員に選ばれ來つて、同區の爲に多大の貢獻を遂げ、三十二年より大正三年迄十六年間東京市會議員に擧げられて職に在り、更に市會嗣議長たること明治四十三年より大正五年迄、明治二十九年より三十六年迄府會議員に推され、二期間を東京商業會議所議員として、實業界にも確乎たる地位を占め、市參事會員としても施設する處多大であつた。今次帝都復興の事業興るに及んで第十地區區劃整理委員に推され、老來益々頑健に活躍せられつゝあるは區民の推服尊敬する處である。幸ひに自重加餐、以て帝都百年の爲に施設せられたる事を祈る。

君、家庭には富士子夫人との間二男三女を擧げてゐる。嗣子善三郎君は東京高等商業出の俊材で目下家業に從ひ、二男逸之助君は京華中學に在り、長女きよ子嬢は日本橋高等女學校を卒へて他に嫁ぐ。二女の天逝したのは君の最も悲みと爲す處であらう。

鋼鐵金物問屋を盛大に營み斯業界の才人を以て知られてゐる我が秋田直吉君は斯業界に壓倒的勢力を有し、今や旭日昇天の勢を以て躍進的の活動を續け異常の發展を見つゝあるが、商才に秀ずる君は東部賣業界屈指の賣業家として推奬して餘りある。斯業界稀有の手腕家であつて東京電氣製造、伊藤照行機研究所、城東亞鉛鐵金の各株式會社取締役の重任にある。

君は秋田定吉氏二男に生れ學業を卒るゝや金物商竹内善三郎商店に入り十數年に亘つて刻苦勉強し管斯業の經營に關はる一切を研究し、明治四十年二十九歳の時、獨力單行、現業を開き爾來其の經營に携はり奮勵努力以て業の擴張發展を策した結果日に月に興隆の活況を呈し遂に今日を爲したのであるが是れ偏へに誠實にして熱ある君が不撓不屈の努力を傾倒した賜であると雖も、一方斯業經營の經驗深く且つ獨特個有の叡智才能を持つ君の敏腕に俟つもの亦頗る甚大なるを以て未だ四十有八年の壯年である。君の將來に期待する者は尠くないから更に一層の躍進的活動を翹望する次第である。

此の間君は兵役に服し日露戰爭には二等計手として從軍したが、資性豪放快活にして努力主義の君は只管君國の爲めに軍務を全うする事に務め戰線に立つて孜々として奮闘した勳功大なるものある爲め勳八等に叙せられた。

社會公共に對し奉ずるの念篤く常時物質的たるゝ精神的たるとを問はず、公共事業に盡瘁してゐる君は帝都復興の秋あるや第十並に第五十二の兩區より衆望一致を以て區劃整理委員に推薦せられ、本事業の目的達成に献身的の努力を爲し多大の實績を擧げてゐるが、尙は東京商業會議所議員、日本橋區會議員（前任）東京鋼鐵物問屋幹事長、東京金物問屋組合頭取、東京重鐵地鋼問屋組合相談役、大日本鉛錫工業組合理事等に歷任し貢献する處頗る多い。

令閨コノ子は淑德の擧高い賢夫人にして一男を擧ぐ、聖太郎君は大成中學卒業の秀才として知られ前途洋々嘱望されてゐる青年であつて一家は幸福に輝き和氣藹々たるものがある。

第十、五十二地區委員

勳八等　秋田直吉君

出生地　東京市

生年月　明治十二年一月二日

現住所　日本橋區小傳馬町十六番地

職業　鋼鐵金物問屋

封建の制破れて、王政古へに復り、之よりして克く興國の大業を遂げて世界の三大強國として成を四海に振ふ。

我が澤井藤助君は、慶應二年八月三十日、滋賀縣に於て呱々の聲を揚ぐ。實に王政維新に先立つ二年にして、我が國新興の氣運と共に生れ、其成長と共に大成せる祥瑞兒なり。君の家は累代近江に住し、君を以て四代を數ふ。嚴君名は藤助、君其長男たり。明治八年嚴君都帝都に出でゝ新大阪町に居を卜し、太物問屋を開く。明治十二年、君は嚴君に次で東京に出で、乃翁を輔けて家業に携り、拮据經營、大いに家運を昌んならしめ、二十餘年の後現在の地に移り、ますます事業を擴張し、大阪備後町に支店を開く。

君は斯の如く家運を盛大にせる一方、克く公共の事業に盡して傾倒大いに努む、同業の間に在つては東京織物同業組合評議員議長の重任に在つて斯界の發展向上に資する所厚く、また同組合第二部々長として重望を負ふ。

また田所町々會の元老として、後進を誘導啓發し、町治に貢献して功績多大なるものあり、更に青年の誘導を目的とする寄宿舍を設けて新時代に理解ある先輩として青年の尊敬頗る厚し。なほ、君に於て特筆すべきは愛鄉の念熾烈なること之にして、鄉里に共濟會を創設して商工業の開發、青年の指導に盡心し、施設する處極めて多し。寔に其及ぼす所の惠澤、廣大なりと云ふべし。

今次、帝都復興の大業興るに及び、君は第十地區より推されて土地區劃整理委員に任じ、帝都百年の爲に、措置する處公平無私、克く事業の進捗を資けて功績甚だ多く、地區民の信頼頗る厚し。

君、家庭には故夫人との間二男二女を儲く。長男榮次郎君は東洋商業學校卒業後、店務に當り、二男拾三郎君は早稲田大學商學部在學中の俊材にして、長女ふじ子嬢は養子一太郎君を迎へて大阪支店に在り、二女つね子嬢は三田高女卒業後他に嫁し、一門の榮榮日を追ふて昌んなり。

第十地區委員

澤井藤助君

出生地　滋賀縣

生年月　慶應二年八月三十日

現住所　日本橋區田所町七番地

職業　太物問屋

伊藤彌三郎君

出生地　東　京　市
生年月　明治八年二月二十四日
現住所　日本橋區馬喰町二丁目八番地
職業　釦及洋裝附屬品商

君は明治八年二月二十四日を以て日本橋區馬喰町二丁目一番地に呱々の聲を揚ぐ。尾君は伊藤定七氏、君はその二男たり。

同家は明治初年より現在の地に於てクジラ帽、簾、甲鉛等の販賣を業とし來りしも、明治二十一年現業に移り其後屢々たる業務の發展と共に組織を改めて合名會社伊藤釦店を設立し、君自ら代表社員に就任して益々努め、以て今日の大を爲す。

君は同地の高等小學校を卒へ、國民英學會成立學會、商業學校等に學んで殆んど正則の學を成さずと雖も、天稟俊敏にして頭腦明晰、また頗る孝心に篤し。

嚴君定七翁は大正八年君の孝養も空しく黄泉の客となり其の後實兄定次郎君又公共のために逝す事厚く爲に曾ては馬喰町二丁目町會々長に推されたりと雖も、町内の意志は必ずや君の代行せん事を期待樂何もなくして君當町會長に推選せられ自治町政に貢獻する事極めて多く、町の和親發展に盡す。町民としては會心の計なりと云はんも君に於ては私かに苦笑を禁ずる能はざるものあるべし。また君は國勢調査及市勢調査に際しては實兄定次郎君に代り詳密なる資料を提供し、善處する所多大なりき。

今次、帝都復興の大業起るに及び、推されて第十地區區劃整理委員の任に就き、煩倒する處甚だ厚し。當地は帝都屈指の商業の中心地にして良貨の集散地たり。其復興事業に於ける地位の重大なるは固より論を俟たざるなり。幸ひにして君の如き人格者を得たるは帝都百年の爲に大いなる幸慶事と云はざるべからず。

君は資性溫雅にして趣味亦其性を彰はす。即ち書畫及び盆園建築を好んで造詣頗る深く、殊に書畫の鑑識に於ては一隻眼を有すと云ふ。また淨土宗に歸依して信仰厚し。

家庭には梅子夫人との間一男二女を擧げ、長男文平君は府立第三中學に學ぶ秀才にして、長女つね子嬢は養子智男君を迎へて家業を傳く。二女はる子嬢は東京修英和高女に學ぶ才媛なり。

白石甚兵衛君

出生地　東　京　市
生年月　元治元年十二月二十七日
現住所　日本橋區新乘物町十五番地
職業　會社重役

君は元治元年十二月二十七日を以て江戸に生れた。父君は白石甚兵衛氏、君はその長男である。元治元年と云へば、水戸浪士が筑波山に義兵を擧げた年であり、諸國に新關を設けた年であり、將軍の上洛中の年であつた。翌年はもう慶應と改元した樣な有樣で、世の中は非常に騷がしかつた。そして間もなく王政は復古し、封建の制は廢せられたのである。君は此の新しい氣運の中に成長し、將軍の騎下が、至尊親政の地と變つたさまを見て來たのである。先代甚兵衛氏は織物商を神田須田町に開いた。更に横山町に移り、明治八年には現在の地に移つたのである。君は十二歳の年から二十三になる迄、十何年かを日本橋の茉織物商に商業見習として勤務し、後、家に歸つて嚴父の業を繼ぎ、奮鬪努力して今日の大成を爲した。

君は公共の事業に盡す事非常に厚く、大正十年迄日本橋區區會議員の職に在つて一期間區政の爲に貢獻した。また區參務委員として育英の事業に盡瘁し、善隣の誼に厚く、新乘物町々會長として現に町會を統率して町の和親及發展に寄與し、功績多大なるものがある。曾ては國勢調査員としても特筆多大であり、所得稅調査委員としても盡瘁する事深甚であつた。

同業者の間に於ても重望館る大であつて、東京織物同業組合評議員の任に在り、斯界の向上發展に寄與し、其親睦に資する事多大であつて甚だ敬仰せられてゐる。

此度帝都復興の大事業興るに至り、君は衆望を負ふて第十地區に區劃整理委員となり、措置する所公平無私、以て帝都百年の爲に傾倒獻身して事業の進捗を資けてゐる。

家庭にはます子夫人との間二男二女を擧げ、長男萬吉君は府立第二中學出身の秀才で、現在君の事業を扶けて重役の地位に在り、次男稔三郎君は東京高等商業學校出身の俊材でやはり君の業務に從ひ、長女信子嬢は名古屋に分家し、二女錦子嬢は養女となつてゐる。一家極めて和氣に滿ち、幸福な榮みを爲しつゝある。

第十及十三地區委員

小川專助君

出生地　東京市
生年月　明治二十二年二月十四日
現住所　日本橋區背屋町八番地
職業　小間物問屋（小川屋）

近代文明が洋化主義をもたらしても依然傳統的に傳來の鼈甲珊瑚珠は、日本獨特の高貴裝飾品として愛の附屬品などに用ひて珍重せられ、今日尚その國内を侵されない、雅趣と、高尚さとを兼ねた、實質的貴重品である。

君は明治二十二年二月日本橋背屋町に孤々の聲を上げた生粋の江兒戸つ兒である。叔父專助氏の養子として襲名、今日に到つた。君の家は德川時代よりの鼈甲珊瑚珠商として、日本橋界隈切つての堂々たる店舗で、老舗である。

その販路は内地は勿論、海外支那米國等へ輸出し、その盛大驚嘆、多大なるものがある、小川屋と號して、愛ねて小間物及雜品雜貨問屋を營み、顧客殺倒するの狀況である。君は餘り多くを語らぬ方で、胸中成算あつても大言壯語しない、無言實行主義の人である。その態度や壯重、自ら威容十分である。君は問屋の主人公として顧客に對して、十分の信頼と好感を持たれてゐる。製品誠は、商品に懸値ある言質を弄しない、敢て客に商品を强ひ樣としない、この點が如何に絶大な信頼を得てゐるか、窺知するに十分である。

君は公共的精神に富み、自治の爲貢獻すること多大にして、現に背屋町々會長、衛生組合長、日本橋教育會幹事として、自治教育の刷新、改造に專心し、これが縝祉、發展に專念し、その努力は多い。また國勢調査員として成績を揭げた。君は淨土眞宗の敬虔な信仰家で、その人格はこゝに因するところがある。君は旅行、茶の湯、謠曲、書畫の鑑賞等に趣味を有し、多種多樣な鑑識眼を有し、一家言を有する。

家庭にはとき子（柿沼善藏氏の妹）夫人あり、賢夫人として、夫君を扶け、琴瑟相和し、春風滿堂、眞に和氣藹々、平和な家庭である。大東京建設今やその緒に就き、その成果は市民の意氣の燃焼によつて成らんとする。君は區劃整理委員として、これが中堅人物となり、君の信望、識見、抱負經綸はこれが完成に貢献する所甚大にして、この奔走努力は區民の均しく感謝するところである。

小管基太郎君

出生地　大阪市
生年月　明治六年四月九日
現住所　日本橋區横山町三丁目十二番地
職業　藤細工商

大丈夫の志たるや、常に天下國家の事に存す。區々たる眼前の利害の如きは之を眼中に置かざる底の勇猛心と、磊々たる精神を把持すべし。

君は大阪の人、明治六年四月加藤市藏氏長男に生れ、後小管たかゑ刀自の家を繼ぐ。

後東京に出でゝ現在の地に大阪屋と號して藤細工商を營み、家業甚だ振ふ。

また社會公共の爲に盡して功勞甚だ厚く、實業界に雄飛して餘々の名あり、現に東京商業會議所議員に推されて本邦殖産興業の爲に努力す。

また日本橋區に擁立せられて區會議員となり、區政に貢獻して施設多大なるものありとす。

善隣の誼に厚く、横山町三丁目町會長の任に在ては町の發展及和親に傾倒し、寄與貢獻する處多大なり。

今次帝都復興の大業興るに及び、推されて第十地區に土地區劃整理委員となる。

本地區は帝都良貨の集散地にして、復興の成否は他地區の範となるべきもの、從つて委員諸氏の任務甚だ重し。

此地に君の如き有力者を得たるは地區の爲のみにあらず、帝都の爲多大の幸慶なりと稱すべし。

家庭には内助の功厚きとする夫人あり、夫人は大阪府人白井知海氏の令妹、君との間に令息一郎君を擧げ、一家和氣の裡に多幸なる生活を營む。

小諸久兵衛君

出生地　長野縣
生年月　明治六年十二月八日
現住所　日本橋區元柳町二十九番地
職業　新炭商（大黒屋）

信濃の地は本邦有數の高原にして、四時白雪を戴たる搖峯高嶽に圍まれ、烟霞常に棲む神秘境である。郷人之に化せられてか、其資性概ね剛毅にして沈着、情念また純朴である。

我が小諸久兵衛君は長野縣の人にして駒村多兵衛氏の三男に生れた。明治二十五年十月若冠にして東京に出でゝ小諸家に養はれ嗣子となつた。君は二代目の當主となるや、養家大黒屋の家運を隆昌ならしめん事に努め刻苦精勵して倦む事なく、風に起き夜半に寢ね、其營業とする所の薪炭商をして次第に繁榮に赴かしめたのである。

先代久兵衛氏は君を見込み、君はこの期待を空しうせずして遂に今日の大を爲すに至つたのは、知己の恩愛に報ゐんとする君が孝心の發露に依ること勿論であるが、剛毅不屈の魂にあらざれば爲し能はざる事も勿論であるこゝとに信じ信ぜらるゝ事は人生に於ける最大の快心事であり、人を動かす大原動力であるとも云へる。

君は斯の如く、養家の業を守つて之を盛大にしたが、一方社會公共の爲に計ること極めて厚く、日本橋區元柳町々會長として多年町治の上に盡瘁し、功績極めて著大であつたが、現在は町會顧問として後進誘導の任に當り、町内の尊敬を鍾めてゐる。また曾ては國勢調査、市勢調査に其員として勤続し、在郷軍人會日本橋分會四ノ部第六班々長としても克く、銃後の任を完ふし、寒公の誠を捧げつゝある。

なほ同業間に重視して質實温健なる資質は其尊敬を受け、約十ヶ年に亘つて東京薪炭商組合四ノ部々長の任に在る。

帝都復興の大業興るに當つては第十地區區劃整理委員として熱誠其任を盡しつゝあるは地區民の感銘する處であるばかりでない、實に帝都再建の爲市民等しく君の德を賞するのである。

君、家庭にはこと子夫人との間に三男三女を儲け、長男久三君次男廣太君は共に家業に從ひ、長女宮志子嬢は目下第一高等女學校在學中である。

中村喜平治君

出生地　東京市
生年月　明治二十五年十月二十四日
現住所　日本橋區元柳町四十七番地
職業　鶴の丸足袋製造卸商（伊勢喜）

君は明治二十五年十月二十四日、現住地なる日本橋區元柳町に於て先代中村喜平治氏の四男に生る。家系は君を以つて第三代とす。

君資性温篤にして公共心に富み、多方面の公職に推されて克く誠實その任を盡し人望從つて集ること篤し。

明治四十三年開成中學を卒業し、爾來專ら父母を扶けて家業に努むること孜々たり。且つ明治十一年先代喜平治氏の時より橋町に三等郵便局を營み居たるが、大正五年君の跡を繼ぎて君三等郵便局長となる。以來君がこれに盡瘁せるところ多大なり。

君は長兄次三郎の死沒を以て父君のあとを繼ぎ、鶴の丸足袋製造の家業に從事精勵す。鶴の丸足袋は主に東北方面にその販路を廣く有し、年額實に五六十萬足以上に上るといふ。以て盛昌を知るを得べし。「伊勢喜」の名は即ち鶴の丸足袋と共に年々高く、工場は本所區若宮町に在り數多の使傭人を有して日夜製造に多忙を極む。

而して此の如き盛運を致せるものは父祖以來の業固たる地盤あるが故と雖もまた君の堅實なる意志と抵取的精神とを以つて銳意努力よく今日の盛大なる家運を招徠せるものと謂せざるべからざるなり。

公共心に篤き君は橋町郵便局長たるの外に、橋町四丁目町會の爲め盡力せるところまた尠少ならざるなり而に町會副會長として擧げられ誠意公平專ら町治の最善の爲め力を致し大に畏服されたり、目下は即ち町會長に推され一層厭身して奔走す。實にその町會の爲に功績を致せるは多大にして衆の等しく君を德として仰ぐは偶然と言ふべからざるなり。その他國勢調査委員として或は市勢調査委員として公共に盡せるところ枚挙に遑あらざるなり。這回第十區區劃整理委員に推されたる即ち衆望の歸するところに外ならず。

家庭には夫人まん子あり、夫人は日本橋區横山町一丁目藤懋文平氏の令妹なり。一男二女あり、長男喜作君、二男豐治君は共に幼少、長女結喜子嬢は目下女學院在學中なり。

坂本喜三郎君

出生地　愛知縣
生年月　元治元年八月十五日
現住所　神田區豐島町二十八番地
職業　米穀商（坂本精米店）

君は愛知縣の人、幼少の折最父鎮兵衛氏と共に上京す。間もなく父君病を得て臥し、百方手を盡せども未復せず、遂に鬼籍の人となる。世路程難多しと雖も幼にして想を失ひ、人生の行路に迷ふに惟る悲惨不幸にあらざるべし。君は實に少くして人生の辛酸を嘗め、而も剛毅不屈の精神と、非凡の才幹を有する君は、文字通りの刻苦を積み血涙的奮闘をなしつゝひそかに將來の計を樹つ。功成りあらず、明治十六年頃麻布狸橋に米店を、牛込區神樂坂上に支店を設置して穀殼商を開業す。業務益々として發展し、遂に擴張を餘儀なくせられ、現地に移轉して途に今日の大成を成すに至る。その今日に至るの經路叙し來れば實にこれ一篇の小說の如く、その奮闘苦闘の跡を辿ね來れば好ケの人生苦闘史たり。一行よく衆人の範、一言よく人生の鑑戒、當に模を正して倒くべきものなり。而も斯く荊棘の道を歩みつゝも常に公共の方面に留意し、町民相互の親睦向上に努力する遂り、殿として一ケ崇高なる仁俠の人たり。現に神田區豐島町々會聯會長の要位にあり、献身的努力を續け功績顯著なるものあり。信望を一身に集め、東京白米商同業組合神田部評議員及び神田三の部々長並に神田部々長等の重職に推され、同業者の進歩の上に寄與する頗る莫大なるものあり。又神田區稲本小學校兒童保護會幹事として有英の方面に盡し、國勢調査及び市勢調査委員に囑託となりてはよく詳密なる資料を提供して範となる。今回帝都復興の大業に際し、區劃整理委員として君の知き果敢實行、進取的の士の選出を見たるは誠に喜びに堪えず、果して君の區は着々として整理の實擧り、之が魁をなす。希くば更に一層の努力以て之が大業の完成を期せられん事を帝都の爲め祈念に堪えず。令室ツネ子は君が苦闘の時代に處して内助の功高き賢夫人、三男三女あり。何れも高等の學府に學び、秀才の名を地に宇、家庭常に和楽藹々、春の如き良家を樂ぶ。

溪島嘉兵衛君

出生地　茨城縣
生年月　明治二年六月二十六日
現住所　日本橋區馬喰町四丁目十三番地
職業　食料品商

君は茨城縣の人柴徳右衛門氏の三男、帝國新興の明治二年六月二十六日を以て風雲の發を揭ぐ。君、長じて先代溪島嘉兵衛氏の養嗣子と爲り、其令嬢こう子を迎へて夫人となす。先代は質商を營んで當地に於ける老舗たり、君之を承けて斯業に從ひ、拮据經營して大いに家運を一層進展せしめしも、大正十二年九月一日、未曾有の大震火災は其經營を擧げて一炬の灰燼と化せしめしを以て後は食料品店を開き、今日に至る。而して各方面に土地家屋を所有して之を管理し理解あり温情に富む人として令名大いに高し君はまた箱根仙石原村字宮城野に約五十萬坪の地所を友人三名と共同所有して、同地方の開拓に志しつゝあり。君、常に社會公共の爲に志を致し、實業界の一大に、名望從つて厚し。現に馬喰町四丁目町會長に推されては町の發展町民の和親を圖り、また有英の事業に傾倒して千代田、久松、濱町三小學校聯合兒童保護者會々長に推され、設備の充實、理想の實現に努力して之を成功せしめ、市内有數の會合たらしむるに至れり。

また、曾ては國勢調査及市勢調査に調査員として幹旋多大なるものあり。今次帝都復興の大業興るに及んでは推されて第十地區に土地區劃整理委員となり、帝都百年の計に參畫して貢献深甚、至公至平の措置を誤まらず事業の進捗を資く。

君は敢爲實行の士、而も温厚にして沈着、事業の爲には敢て欣幸とすべき人材を迎へ得たるなり。君また信仰の念篤く、親鸞上人に歸依して東本願寺を尚び、また不動明王を尊信して成田山を迎ぐ。趣味としては萬だ旅行を好み、閑暇あれば探勝訪史の筆を曳くを樂みとす。

夫人との間令嬢千代野嬢を擧げ、之に農學士敬助君を迎へて養嗣子と爲す。敬助君は目下大蔵省專賣局に勤務中の秀才なり。

第十地區委員

末田憲義君

出生地　大分縣
生年月　明治元年七月十九日
現住所　日本橋區久松町三十四番地
職業　藍墨堂藥局（藥劑士）

神農氏樣氏から此方、醫藥の業は濟世利民の大秘鍵として、本朝に於ても既に飛鳥朝以來王者の必手廉右にせらるべき政道上の一大機關と爲されたものである。智治は醫學の奬勵に依つて、勇治は武道の常備に依つて各々必須の機關と爲したと同じく、仁治は醫藥の施療に依つて同樣に重大であつた。經いては之を以て國の患ひと爲す處をも愈せんと志したのである。國手の名の醫藥の士に冠せらるゝ敬語なる事は其理由を茲に生じてゐる。

我が米田憲義君の家は大分藩に於て累代醫術を以て立つてゐた。君に至つて始めて藥業に轉じたのである。君房太郎氏は醫家を職いで三代目の人である。君はその三男に生れた。明治元年、帝國維新の創業と生を共にし二十四年笈を負ふて東京に出で、明治二十九年東京藥學校を出でた。頴敏の才は卒業に先だつ事一年にして藥劑士試驗に合格したのである。三十一年現在の地に開業し、以て今日に至る。君は今より約二十年前、知己四人と間つて帝國製劑所を興し、內外藥局方諸製劑、丸劑、錠劑、處方製劑を發業種目として大いに發展したが、後推々なる事情生じて一個人にて今日まで經營を續けてゐる。

君は斯の如く、自己の業務に携つて家運を興し、更に一方に於て公共の事業に盡して功績多大である。現に久松町々會長、久松町衛生組合長として自治の發展に寄與し、また同町在鄉軍人團顧問の任に在る。曾つては兩國國勢調査員を拜命し、市勢調査員に推されて幹旋した事もある。同業の間でも重視されて東京藥同業組合日本橋支部長、東京藥局會久松署管內藥劑士支部長に任じ日本橋藥學會創立に就ても幹旋多大であつた。また星製藥株式會社自助會日本橋支部長の任にもある。

今次、帝都復興の大業興るに及んで第十地區區劃整理委員として帝都百年の爲に奔倒し事業の進捗を資くる事頗る有力である。

君家庭には愛子夫人との間三男一女を儲けたが、長子は夭逝し、二男憲一君は東京藥學專門學校卒業後君を扶けて家業に從事し、三男憲吉君は郁文中學在學中である。

第十地區委員

小林安右衛門君

出生地　千葉縣
生年月　明治七年十月十日
現住所　日本橋區米澤町二丁目五番地
職業　和洋菓子製造販賣

君は明治七年十月十日を以て千葉縣下に生れ、後小林家の養嗣子となつた人である。小林家は菓子舗としての舊家で、既に其創業は遠く享保年間にあつて、君を以て八代を數へる。累代の主安右衛門と稱し、事業盛大であつた。

君は十六歲の時、實家を離れて東京に出で、小林家に業務見習の爲奉公したのである。幼名を芳松と稱し、二十三歲の年起刻苦精勵して主家の爲に奮闘した。先代安右衛門氏は君の人と爲りを見て私かに其前途を囑望しつゝあつたので、其臨終に際し、君を養嗣子とすべき希望を遺したのである。

君その知己に感じて師來益々養家の家運を隆昌ならしめ、更に他方面に其手腕を伸展して大正七年資本金貳拾萬圓を以て東洋自動車株式會社を創立し、現に社長の地位に在る。

君はまた社會公共の事業に盡瘁する事厚く、町治に盡しては日本橋區米澤町々會創立以來副會長を經て會長の重任に推され、昨年起共地位に在つて町の和親發展に寄與する處多大なるものがあつた。また兩度の國勢調査員及市勢調査員を勤めて幹旋する所多く、神田明神氏子總代としては敬神の念厚きものがある。同業の間に於ても重望があつて、東京菓子製造同業者組合常務理事、東京菓子切手組合長、東京自動車組合日本橋第三部々長等の重任に在り、同業界の爲に貢獻厚い。

今次帝都復興の事業興るに及び、君は第十地區から推されて區劃整理委員の任に就いてゐる。帝都百年の爲に努めて餘す所がない。

君は敎厚なる信仰の人である。禪宗妙心寺に歸依し、信仰に依つて今日の人格を作してゐる人である。日常の生活も亦敬虔篤厚、時に閑暇あれば書の研究に沒頭してゐる。

家庭にはいし子夫人との間五男三女を擧げ長男藤一君は中學卒業後店務に從ひ、二男榮二郎君は陸大理財科在學中、三男道之助君は日本商科醫專在學中、四男德之助君は店に在り、五男正雄君は小學校に在る。長女清子嬢は東京女子高等師範附屬高女を卒へて他家に嫁し、二女靜子嬢は東京女學館に在り、三女博子嬢は小學校通學中である、一門の繁榮さすがに詳々たるものがあるのは欣慶の至りである。

悠々煙霞の地に在つて自然を伴とし、天を樂しめる人の、恕ち大都會生存競爭の渦中に捲上て之に伍し、而も經驗なき事業に依て克く盛大を致せるもの、天祿の手腕と才略あるにあらざれば爲し能はざる處なるべし。

我が宮入正則君は長野縣の農宮入專右衛門氏の五男にして、明治二十二年九月十三日を以て孤々の聲を揚ぐ。稍々長じて篠井農學校に學び、卒業して家業に從ひしも、空しく邊鄙に老いん事を懼れて明治四十一年東京に出で、日本橋區大傳馬町に獨立メリヤス問屋を開く。拮据經營に力めて克く其手腕を伸べ、必ちにして家運の隆昌なるを得て大正三年横山町一丁目に移る。同九年現在の地に移ると共に横山町を以て支店と爲し、而して支店に於てはシヨールを、國旗、傘膠等を主要營業種目たらしめ、出來得る限り廣汎なる事業を營まんとす。君は經營に天祿の才を有すると共に、企劃する處また常に新機軸を出して常に業界の先驅を著く。本店の店内は總陳列と爲し、帝都唯一の陳列販賣問屋として一新紀元を劃し同業界注目の的となる。支那の所謂「良賣は深く藏して空しきが如し」と謂へる商法は竟に現代の潮流に反するものとして、斷然改革の歩を進んじたる果斷は他同に於て多年斯界に在るものゝ舊慣に押れて心着かざりし點たるべく、此點に於て斯界の宿弊を打破せるは君の新事業たるに得たる賜物なるべし。君は從つて同業界の飛將軍として重視せられ、同業組合代議員の職に在り、更に將來は南洋方面に迄發展すべき計畫中なりと云ふ。また通驛町々會幹事として町治に貢獻する處厚し。今次帝都復興の大業興るや倆に震災直後に於ける町内の最も風き復興開業者たりし君は、公益を念として再び區劃整理事業に起ち、第十地區委員として特殊公平無私、地區民をして推服せしむ。

君無妻にして男四人と女四人二男二女を儲ケ、恕て女子の愛を傳ふ。二家相撃、能く家業を繼ぐ

第十地區委員

宮入正則君

出生地　長野縣
生年月　明治二十二年九月十三日
現住所　日本橋區通鹽町十四番地
職業　メリヤス問屋

君は家運をして益々隆盛に向はしめ、遂に今日の大をなす。性温厚にして篤實、仁俠に富み、夙に同業者の發展向上に心を致し、東京絹物同業組合評議員として百方努力し、斯界の功勞者として人望あり。又公共方面に關係する頗る厚く、在郷軍人日本橋分會副會長の要位にありて盡力すること六ヶ年、現に相談役としてその樞軸を握る。又横山町二丁目町會幹事として町住民の福利增進に倚心し、拓拔なる手腕と、公平なる措置を講ず。

宮崎家は連綿五代を閲せる舊家にして、代々日本橋の住、君は先代新三郎氏の長男に生れ、十九歳の時一年志願兵として歩兵第三聯隊に入營、除隊後第一銀行に入り六ヶ年の間勤務し、青年手腕家の名を擅にす。偶々海外の商業狀態を視察し、以て將來飛躍の素地を作らん事を思ひ立ちて渡米す。その明晰なる頭腦を以て各地の狀況を觀察し、最新の知識を得て大正八年歸朝す。翌八年卒然として最愛の子を亡ひ、家督を嗣いで現業に從事す。

更に日本橋區少年團々長として青少年の訓練善導に努力し、久松小學校後援會幹事長の重職にありて有英事業の發達に資し、その功績は極めて顯著なるものなり。商國勞調査委員市勞調査委員を拜命しよく職責を完うす。今回の區劃整理なるものは、實に帝都復興の基本的大事業にして、之が進行遅々たらば、復興の實又擧らず、而も之が整理の圓滿なる進行は良き整理委員の手腕に俟たざるべからず。我が宮崎新三郎君の如き、終始一貫事に當りて赤誠を吐露し、而も自己を空しうして民業の福利を計るの點に至りては實に絶好の適材と稱するを得べく。果して十地區の整理着々として進行すると聞く。誠に慶賀に堪えざる所なり。君未だ齢不惑に達せず此の手腕あり、將來日本橋、更に大東京市の公共事業は君の活躍に俟ざるべからざるものゝあり。自重自愛を乞ふ。

今宮タツ子は淑德の譽高き人、二女を擁して家庭和樂に落ち、近隣羨望の的たり。

宮崎新三郎君

出生地　東京市
生年月　明治二十一年九月十一日
現住所　日本橋區横山町二丁目一番地
職業　袋物卸商（山登屋）

第十地區委員

小川專之助君

出生地　東京府
生年月　明治二十三年七月十五日
現住所　日本橋區堺町九番地
職業　呉服太物商（小川屋）

グレート東京に今や世界文化の一道過程となり、街の色、勤搖、日まぐるしい活動街であり、流行の中心地である。その都會心臓の血管の中には大震災の功火に廢墟となつた帝都の大地の中に不斷の燃焼せる江戸ッ兒の意氣が、勃々として、鬱々盛つてゐる。見よその活動の凄じきを、この意氣は何ものをも燒き盡す。

東京の中心、商業街の一角、日本橋は人形町に堂々たる店舗を開放し、都會屈指の呉服問屋として内外に信望厚き小川屋呉服商店である。毎日數萬の顧客を呑吐し、その繁盛振りは主人小川專之助氏の信望、手腕、近代的商法の嶄新たるを雄知するに十分である。君は明治三十三年七月十五日現住地壽之助氏の二男に生れ生粋の江戸ッ兒にして、年齢三十七歳、その堂々たる識見と抱負は斯界を凌駕してゐる。

君は京華中學、同商業學校を卒業し、同時に横濱市において、野澤卸部に勤務、外人係として敏腕を揮ふ。時に明治四十三年であつた、約一ケ年半、殺々の辛苦を嘗め、只管、商業經營法を學ぶ。時に父君壽之助氏の逝去に遭遇し、襲名直にその大屋號を襲ひ、今日の隆昌を置現せしめた。君の功績は著しいものがある。君の赴んなる業績に徒らに逸居する現代青年の刺戟劑である。君は熱愛深く、信にふ「世話好き」とは君のことである。熱情家であつて、任侠に富む現代稀有の好紳士である。終始一貫、不屈不撓、徹底的精神を以て經營し、前途洋々たるものがある。君は東京呉服太物商同業組合評議員兼日本橋區々部長の要職にあり、發奮はその組合長として奔走盡力せるは町民の深く敬仰するところである。また國勢調査、市勢調査、失業統計調査員として、卒先自治體の活動中心人物として活動せることは本記せられるところである。君は兎に角、資家昇進に自治體の大立物として前途に多大の嘱目と期待とを以つて遇せられてゐる。眞宗の信徒として篤行の人でもある。誠由（世俗）をやり、忙中閑ある、悠々たる餘裕を見せてゐるのは俗情のみならざるを示してゐる。君は十地區々割整理委員として、帝都復興の曙業に參畫し、その華々しい一線の人として、區民の賞絶大の努力を挽つてゐるのは敬仰に堪へぬ。

家庭はまた春風駘蕩、君子夫人は日本橋高女出身の才媛にして賢夫人の名高く、三男一女あり、曰く、長男廣之助君（九歳）二男孝三郎君（八歳）三男德君（二歳）長女京子様（五歳）にして附近の羨望の的となつてゐる。

第十地區委員

秋庭伊兵衛君

出生地　東京市
生年月　明治二十三年一月三十日
現住所　日本橋區小傳馬町十八番地
職業　金物問屋

世に守成の業を全ふするは、創業の功に勝る事萬々である。藤原氏、北條氏、足利氏、德川氏、は守成者に其人を得て基礎全きを得たが、平氏、源氏、織田氏、豐臣氏は守成者に其人を得ずして折角の功業も短期にして終焉を告げたのである。

創業者は自らの得意の方面を撰び得る。守成者は得意の領業なりと否とに係らず之を守らねばならぬ。苦しさは茲に在る。故に之を全ふし得れば先づ結構の事とせねばならぬ。更に、創業者よりも盛んにするならば、其人は尋常の人ではない。

我が、秋庭伊兵衛君は二代目である。先代伊兵衛氏の長男として生れ、京華中學四年に在學中嚴君を失ふて退學するの止むを得ざるに至り、爾來、若冠にして其後を承けて家業に從ひつゝある。君は意志の強い人である。君の意志の强さが、若くして父を失つたにも係らず、今日のより以上な盛況に迄家運を導いて來たのである。

また、非常に公共的精神に富んだ人で、まだ少壯にも係らず、小傳馬町々會副會長の重任に在つて良く町内の和親及發展に施設する處多く、其他、日本橋區所得稅調査委員に推され、在郷軍人會日本橋分會二ノ部第二班顧問に擧げられ、功績甚だ厚い。

今般、市會議員の改選に際しては擁立せられて立候補し、殆んど理想選擧の如き狀況の下に首尾よく當選の榮を荷ふたのは、君の德望の如何に厚きかを語るものである。

今次、帝都復興の大事業に第十地區區劃整理委員の任に就き、鋭旋多大、公平無私の措置を講じてゐる。復興途上の東京市に市會議員として、また整理委員として君の如き嶄鋭の力を得た事は帝都百年の爲に大なる欣びである。君人は滿腔の期待を君に持つものである。

君、家庭には晴子夫人との間三男一女を擧げてゐる。長男慎一君は保全商業學校に學び、二男俊二君、三男隆三君、長女仗美子嬢、共に小學校に學び、兩親の愛を鍾めて極めて美しい家庭を營む。

第十地區委員

勲七等
功七級 久保田松之助君

出生地　靜岡縣
生年月　明治十年十一月二十六日
現住所　日本橋區堀留町三丁目二番地
職業　牛鳥料理（長谷甚）

君は明治十年十一月二十六日、靜岡縣濱松市に於て市川正氏の三男として呱々の聲を揚げたり。

君は資性溫厚にして鄕里に於て幼少より茶道、挿花、禮儀作法等を習得せり。壯年に及び豐橋少年第十八聯隊に入營し、成績優良を以つて軍曹に昇進せしが、日曜、祭日等には各將校の家庭に招聘せられて禮儀作方、茶道等の教授をなせり。君の高雅なる人格は即ち青年時代より既に認められて上官に愛せられたるなり。

明治三十四年、二十四歲にして上京、日本橋區小傳馬町府川常吉商店（染物法器商）に入り三年間誠直に働きしが、時に日露の役起りて君は第二軍兵大將の軍に從ひ出征せり。南山、蓋平、大石橋、得利寺、首山堡、遼陽、沙河、奉天、鐵嶺、昌圖等の各地に轉戰し、健闘をつゞけたり。特に首山堡の激戰には中隊殆んど全滅の狀たりしといふ。君は勳七等功七級に叙せられて凱旋し、三十九年現久保田家に入りて今日に及ぶ。

溫厚篤實なる君は能く一身を社會公共の爲めに献じて盡瘁すること深し。明治六年先代以來長谷川町と總代として現在に至る。長谷川町々會長として君が町治のために身心を致せるは一般の認めて感謝する所深し。なほ現在城留三丁目町會副會長に推さる。その信望の篤きを知るべし。また神田明神氏子總代に推され、國勢調査、市勢調査の委員に擧げられる等、君は町治のために細倒を致して寧日なし。

而して君は同業者間に重望を負ひ、先に東京實肉同業組合副組合長に擧げられ現在その組合長なり。また帝國署管內飲食業組合組長に推さる。其他在鄕軍人日本橋分會に創設以來盡力し目下顧問として指導を盡らす。斯の如き各方面に信望あるは即ち君の人格精神の高雅にして誠實なるに外ならずと云ふべし。

家庭には令嗣くわ子氏あり、夫人は先代松之助氏の息女なり。夫人との間に男子數あり、目下東京帝國大學に在つて眞摯、茶道、挿花を學びつゝあり。

第十地區委員

瀨部多藏君

出生地　東京市
生年月　明治二十二年十月二十五日
現住所　神田區橋本町一丁目十六番地
職業　洋藍商

染織工業の術は我國傳統の精華にして、其本源たる染料の需要從つて多く、我國に於ける生産は到底之を充足し得ざるの現狀にあり。就中藍は我國染料の主潤たるものにして、從來之が供給は自然藍にのみ依つ狀態なりしも漸次この生産減退するに至り、染色上の一大危機を醸成するに至る。恰も好し、此時に及んで獨逸人造藍は急激なる進歩改良を遂げ殆が需要を滿すに至り、纖かに蘇生の思ひを爲す。各國亦競ふて人造藍の製出に力む。

我が瀨部多藏君は明治二十二年十月二十五日神田區橋本町一丁目十六番地、洋藍商瀨部多藏氏の長男を以て呱々の聲を揚ぐ。

幼にして俊敏、府立第三中學を卒へて直ちに米國に渡り、語學研究を兼ねて商業の視察を爲し、歸る事三年にして英國に渡り、一ヶ年半の後歸朝し、間もなく辰君の後を承けて斯業に携り、合資會社瀨部商店代表社員と爲りて洋藍商を營む。君は新たなる知識を傾倒して家業に力なる一方、また公共の事業に細倒して功績頗る厚し。

橋本町一丁目町會創立に盡瘁して町會長に推され、長く其職に在つて町治に盡し、目下は其顧問として諮詢に應じて警策其宜厚し。また曾ては國勢調査員及市勢調査員として幹旋多大なりき。育英の事業にも心を注ぎ、橋本小學校兒童保護者會幹事として施設する所多し。

今次帝都復興の事業興るに及び、君は第十地區より推されて區劃整理委員に任じ、幹旋貢献する處公平受當、帝都百年の爲に一意復興の大業を遂げんとして寶獻鎖る大なり。

君は溫厚篤實の人にして兼ねて信仰の人なり、佛教を信じて克く修養自省の資となす。趣味としては書畫を好んで其鑑識に於ては既に一要眼を有す。また旅行を好んで閑暇あれば探勝訪史の行を擧ぐ。

家庭にはよき子夫人との間三男子を擧げたるも長子は不幸之を喪ひ、二男多米藏、三男多喜雄の兩兒は小學校通學中にして共に兩親の寵を鍾め、美しき團欒を營む。

第十地區委員

法木德兵衛君

出生地　東京市
生年月　文久元年十一月二十八日
現住所　日本橋區住吉町二十番地
職業　出版業（漸新堂）

苟も演藝に携るの人にして法木書店の名を知らざるものなかるべし。實に同書店は長唄清元其他歌曲稽古本の版元として其名を東都に轟ろにするの資家たりとす。然も悉く現主の創業に係り、其以前も二代共に新聞雑誌賣捌業を全國に渉り手廣く營み、後明治四年より二十六年迄人形町角に於て石版及活版の印刷業を營み其後捌店として新時代の文化に貢献する所多かりき。

君は當家三代の主にして幼にして先代德兵衛氏に養はれ、幼名を牧之助と云へり。先代より現地に於て新聞雑誌の賣捌業を全國に渉り手廣く營み、後明治四年より二十六年迄人形町角に於て石版及活版の印刷業を營み其後三十三年より現地に於て俗曲稽古本の出版に從ひ、今日の盛名を擅にするに至れり。

斯の如く養家をして帝都一流の店舗たらしめたる一方、君は公共の事業に盡して施設する所亦甚だ多く、大正十一年には日本橋區區會議員の候補者に推立せられて美事當選の榮冠を戴き、三期間を再選三選せられ、區政壇上一大功績を樹立せり。また所得稅調査委員、營業稅調査委員、借地借家人調停委員等に推任せられては社會事業の遂行に盡瘁し、更に大正十四年には區學務委員として教育事業の改善進歩に資す所尠少にあらず。斯の如く多忙なる現職に在て猶ほ善隣の誼に厚くして町治に尽瘁し、既に明治三十七年以來住吉町町會長及衛生組合長として水利勤務し、業績甚だ大なりとす。

今次帝都復興の大業興るや、君は第十地區に區劃整理委員として、果斷沈着の資性を以て事業の公平なる遂行を期し、地區民に對しては常に徹底的なる事業に對する了解を過からしめつゝあり。

君は眞言宗を信ずる事厚く、また音曲を好み、探究の旅を愛す。君の人格の渾然玉の如きはこれらの信仰と、遷雅清高の趣味に培はれたるもの尠からざるに其本分の因を有すと云ふべきなり。

夫人やすゑは先代德兵衛氏の三女、君との間に一女を擧げしも中年にして逝去し、養子幸雄君は君を輔けて家業に從ひ事業界の外深く一家は常に陽春の感あり。

其に孫あり家には後繼ありと云ふべし。

第十一地區　東京市施行

大正十三年七月二十九日東京土地區劃整理委員並ニ同補闕委員ノ選擧ヲ行ヒタリ

土地區劃整理委員

一番	議長缺員		
二番	議長缺員		
三番	清水逸郎（樓）	十二番	株式會社高津商店
四番	金子貞治（地）	十三番	副議長高津
五番	佐久間鄰吉（樓）	十四番	株式會社伏見屋
六番	杉浦六右衛門（地）	十五番	大内兼兵衛（地）
七番	和田直兵衛（地）	十六番	平（地）
八番	黑田市之助（地）		
九番	淺見清太郎（樓）		
十番	大野角次郎（樓）		
十一番	星野與兵衛（地）		

委員ノ移動シタルモノ

四番	副議長山本德次郎辭任シタルニヨリ金子貞治補充ス	
十二番	原忠三郎死亡シタルニヨリ津田惣八補充ス	
十三番	津田惣八辭任シタルニヨリ塚本同族會社補充ス	
十二番	塚本同族會社辭任シタルニヨリ黑田市三郎補充ス	
二番	議長高木益太郎議長ヲ辭任ス	

土地區劃整理委員補闕委員

土地所有者	合資會社野村清藏商店	早川佳七	小西合名會社
藤井同族株式會社	星榮料店	林九兵衛	
借地權者			
小山岩次郎	鳥居清志	小林長三郎	角田庄太郎
太田儀之助	中村證三	森峯次郎	丸田雄藏
		後宮雄藏	宮崎常三郎

地區々域

日本橋區　本銀町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、本石町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、本町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、金吹町、十軒店町、岩附町、室町一丁目、同二丁目、同三丁目、本兩替町、北槇町、駿河町、本革屋町、品川町、品川町裏河岸、裏河岸、伊勢町、瀬戸

物町、木小田原町、長濱町、米河岸、安針町、本船町、魚河岸、大傳馬町、鐵砲町、大傳馬町一丁目、堀留町一丁目、小舟町一丁目、同三丁目、同三丁目、堀江町一丁目、同三丁目、同四丁目、西鳶河岸、小舟河岸、末廣河岸、常盤町

整理前後宅地道路面積比較表

總面積	整理前 宅地	整理前 公共用地	整理後 宅地	整理後 公共用地	減歩率
一五五、八二四	一一〇、三六二	五五、四六二	九四、二〇二	七一、六三二	〇・一四六

委員會經過ノ概要

一大正十二年八月十一日　第一回委員會開會、議長副議長ノ選擧ヲ行ヒ、委員ノ席次ヲ定メ、議事規則議定ノ件ヲ審議シ、之レヲ修正可決ス

一大正十四年六月二十一日　第一號整理前土地面積決定期日ニ關スル件、第二號換地位置決定ニ關スル件ノ諮問アリ審議シタルモ決定セス

一同年七月五日　一般事項ニ付キ開會、總括的ノ質問應答ノミニテ散會ス

一同年十月十二日　副議長辭任ニ付キ、其補闕選擧ヲ行ヒタルニ株式會社高津商店當選ス

同年十月二十三日　第一號案ヲ審議シ、宗宗堀面積ヲ二月十五日現在トシ、訂正出願ヲ一月末ト修正シテ可決ス、當日委員議席ノ變更ヲ爲ス

一同年十一月十一日　第二號案並ニ本建築出願ノ件ヲ審議シ、堀留警察署位置ノ決定シ、同署本建築ノ出願ヲ承認可決シ其他ヲ保留ス

一同年十二月四日　第二號案ヲ審議シタルモ決定セス

一大正十五年三月十四日　第四號一部換地面積決定ノ件諮問アリ、審議ノ上堀留警察署敷地面積ヲ決定可決ス

一同年三月二十九日　第二號案並ニ第四號案ニ付キ審議シ、第二號案ノ中東京電燈所敷地位置ヲ決定シ、第四號案モ同上分決定可決ス

一同年四月二十日　第二號案ヲ審議シ、同案ノ中本石町二丁目不動貯金銀行本建築承認ノ件自然消滅シ、三井銀行本建築ハ特別委員ニ附託ス

一同年五月二十四日　第二號案ヲ審議シ、不動貯金銀行本建築承認ノ件ハ特別委員ノ報告通リ承認可決シ、新ヨリ報告アリタルモ決定ニ至ラス

一同年五月二十九日　第二號案ヲ審議シ、同案中三井銀行本建築承認ノ件ハ特別委員ノ報告通リ承認可決シ、新潟銀行本建築承認ノ件ハ同行ノ取下ニヨリ消滅ス

一同年七月二十四日　第三號案並ニ第五號一部換地面積決定ノ件ヲ審議シ、第三號案ノ一部即常盤町ノ一部本石町ノ一部ヲ決定可決シ、第五號案モ亦第二號案ノ如ク可決ス

一同年八月四日　第二號案、第五號案ニ付キ審議シ、二號案ノ中路線ノミ決定可決シ、第五號案ノ内大傳馬鹽町消防署敷地ヲ附議シタルニ委員附託トナル、當日商木議長辭表提出ニ付キ議場ニ諮リタルニ之レヲ承認シタリ

君の家は既に代を累ぬる事十一代、經師問屋としてはニンベンの名に於て兒童走卒もなほ之を識るの名家なりとす。君は先代高津伊兵衛氏の令弟にして、明治三年六月一日を以て高津家に生れ、學制未だ確立せざる頃に於て共立學校（現開成中學の前身）を出でゝ以來令兒と共に先考伊兵衛氏を輔け、家運の隆昌を圖り、先考及令兒の歿後は株式會社高津商店社長に推されて令兒の遺兒伊兵衛君を扶けつゝ今日に及ぶ。伊兵衛君は慶應義塾大學法學部に在學中にして、君は店務一切を總攬する外、大日本炭坑株式會社監査役、高津株式會社々長、品川白煉瓦株式會社取締役、京城電車株式會社監査役、鶴見瓦斯株式會社監査役等の重職に在つて著々實業界に其腕足を伸展せしめつゝあり

君は斯の如く、令兒の遺兒を扶けて其家運を昌んにするに努むる一方、更に公共の事業に盡瘁して貢獻する處頗る厚し。同業の間に於ては東京經師同業組合頭取の重任に在つて斯界の向上發展に努力し、施設する處甚だ厚し。其業界に於ける傳統と盛名とは君の重望をして遺憾なからしめ、克く衆を悅服せしめて共團結に資する事尠少にあらず。

また東京府及市水産會理事として、貢獻する所多大、日本橋區よりは區會議員に選ばれて副議長の要職に坐し區自治に傾倒して施設する所厚きものあり。曾ては所得稅調査委員、國勢及市勢調査員としても鋭意調査する處頗る詳密なるものあり。

今次、帝都復興の業興るに及んで君は第十一地區より衆望を負ふて起ち、區劃整理の大業に參與して副議長の任に在り、眷々の努力を帝都百年の爲に効す。其間歷發望は地民地を悅服せしめ、公平無私の指揮は事業の進捗を資くるに甚だ功あり。

君家庭にはふく子夫人との間七男一女の多兒を擁し、長男良一君は慶應出身にして店務に携り、二男雄二君は早大專門部を出で、三男爵三君は明大商科に學ぶ。四男泰君は慶應普通部に在り、五男義三君は高等學校に、六男利定七男正七長女キク子の三君は未だ小學校にあり。家庭は頗る美しき團欒を營む。

第十一地區委員（副議長）

高津六平君

出生地　東京市

生年月　明治三年六月一日

現住所　日本橋區瀬戸物町三番地

職業　經師問屋

近代文明の粹は、一に科學の發達に在る。我等の日常生活は、科學的發明に依つて、ますます豐富にせられ、限りなき便益を享けつゝある。今日の我等の生活を顧みて半世紀前の我等の祖先の生活と比較する時、其處には驚異すべき隔庭を生じてゐる。大にしては一國興廢の懸る處は、科學の發達せると否とに在るのである。科學を尊重し、新しき發見を奬勵し、先覺を尚ぶことは、我等の當然爲さねばならぬことである。辯理士の職業は此意味に於いて最も神聖なものである。しかし、多くは法律の智識を持てるのみの辯護士がとを兼ね、專門的智識を持てる辯理士の如き萬全を兼ねる事は望み得ぬ事がある。

君は明治三十五年、帝國大學工科大學機械科を出でた英材である。學窓を出でゝ直ちに辯理士を開業したが、君は我國に於ける最初の工學士の辯理士であつた。新興日本が、次第に產業の發展を來すや、君の業務は次第に隆盛に赴き、今や斯界の權威として、天下に雄視してゐる。この事業に對する熱情は、辯理士會創立委員となつて之を創設したるに見ても知らるべきで、第一回理事に推された。現在は其常議員として重きを成し、また特許局主管法規調査會委員長の任に在る。

君は義侠の誼に厚く、また克く自治に盡して日本橋區堀留署管內聯合町會主務理事に推されてゐる。

今や帝都復興の大業興るに及び、君は十一地區より推されて區劃整理委員の任に就いた。其最高の學識と、練達の手腕とを以て處理する處必ずや見るべきものがあらう。

君は徒らに机上の空論に終始せざる實利主義を以て世に立つ人である。これは科學者として最も眞正なる立場を有するものと云ふべきで、君の思想の一面を窺ふに足る。常に讀書を趣味として修養、研學を怠らざる精進の人でもある。君はなほ町三丁目二十番地清水柳三郎氏を父とする江戸つ子で、令息辰夫君は目下第一高等學校に在学中の秀才である。

第十一地區委員

工學士　清水連郎君

出生地　東　京　市

生年月　明治二年三月二十六日

現住所　日本橋區本石町一丁目五番地

職業　辯理士

第十一地區委員

勳四等　衆議院議員　高木益太郎君

出生地　東　京　市

生年月　明治二年一月二十五日

現住所　日本橋區本銀町四丁目九番地

職業　辯護士

國會開設せられて以來、衆庶悉く興國の際に與るを得て國民協力の實益々擧り、爲に野に遺賢なく朝に庶恣の人を出さず、之を以て進展更に大ならんとしつゝあり。

衆議院議員、勳四等高木益太郎君は在野法曹界の雄にしてまた帝都自治會の息人、其多年中央政界に馳騁貢獻せる處は何人も熟知するものにして或は正義の爲に政府當路者を警啓し、或は法律新聞を刊行して斯界を啓導し更に實業界にも多方面の手腕を振ふて益世の業を樹つる等、君の盛名は、我が帝都の誇りとして、其業績の我が憲政の爲に自治の爲に偉大なるものあるは改めて吾人の敬々するを要せざるなり。

君は明治二年一月二十五日東京市高木益喜氏の長男を以て生を享け、明治十七年晨君の後を承く。

明治二十年和佛法律學校を卒へて辯護士事務所を開き、多年法治國日本の進展に與つて現時の盛世を顯出せしむるに力あり、常に正義の味方として侃々の論を吐く。

今次帝都復興の大業興るや第十一地區に土地區劃整理委員議長の重任に就き、犀利明撤の論を樹てしも後議長を辭任し、自由不羈の立場に在て渝らざる努力を市民の爲に捧げつゝあり。

家庭には岡崎正也氏の令妹てふ子夫人あり、公共の事に多忙なる君を助けて克く內を修め、家を齊へ、子女を教養せり。

君との間四男三女を儲けて一家和氣に滿つ。

君は公職の外、西尾鐵道株式會社々長、遠州電氣鐵道株式會社取締役、東華生命保險株式會社監査役としても快腕を揮ふ。